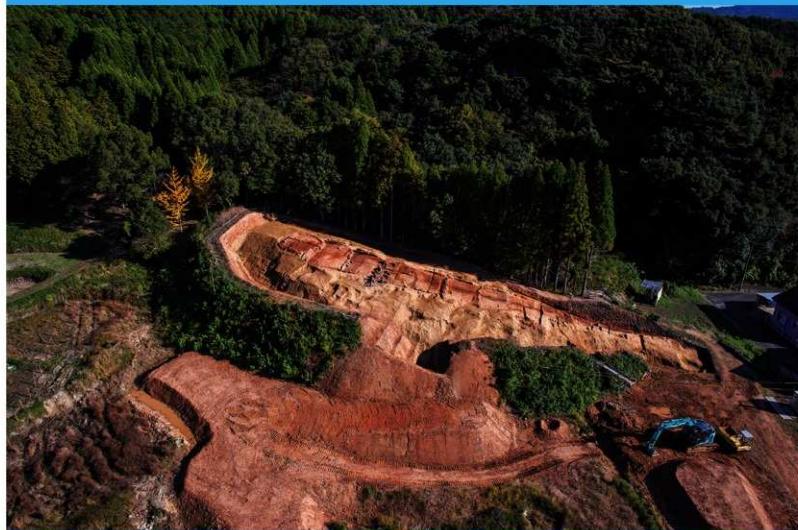


西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（20）

古瓶屋下窯跡



2022年2月

佐賀県

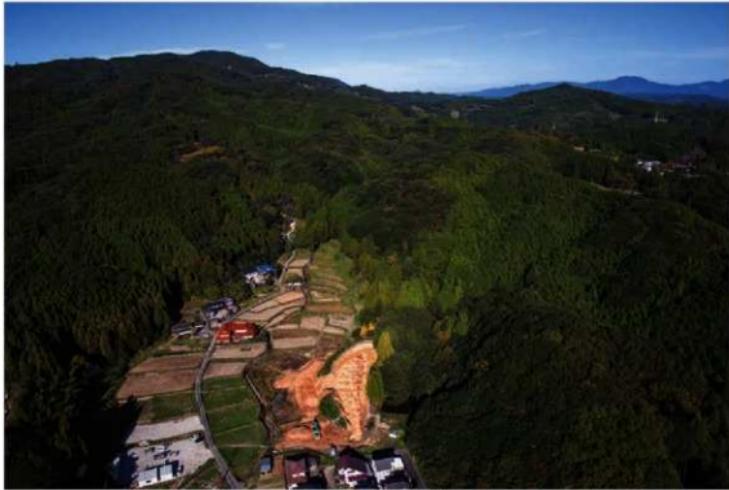


遺跡遠景空中写真 1



遺跡遠景空中写真 2

巻頭図版 2



窯跡の立地する谷部



窯跡全景空中写真 1



窯跡全景空中写真 2

巻頭図版 4



窯跡全景空中写真 3



窯跡全景空中写真 4



窯跡 1 室～4 室空中写真



窯跡 5 室～7 室遺物出土状況

巻頭図版 6



全体集合



壺集合



中壺集合

巻頭図版 8



擂鉢集合



高台付擂鉢集合



平底擂鉢集合



壺・徳利・瓶集合

卷頭図版 10



灰釉陶器集合



瓦・土管片集合



窯道具集合 1



窯道具集合 2 (円筒形焼台)

佐賀県文化財調査報告書第230集

西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（20）

古瓶屋下窯跡

2022年2月

佐賀県

序

この報告書は佐賀県が国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託をえて西九州自動車道伊万里道路建設に伴い、平成 30 年度に実施した伊万里市脇田町に所在する古瓶屋下窯跡の埋蔵文化財発掘調査の報告書です。西九州自動車道建設に係る文化財発掘調査報告書では『打越遺跡』につづく 20 冊目にあたります。

古瓶屋下窯跡は江戸時代後期に築窯された階段状連房式の登窯です。発掘調査で 13 室の焼成室を確認できましたが、さらに窯跡は調査区外にのびており、水平全長 54 m 以上であることがわかりました。焼成品は陶器の甕、擂鉢、三耳壺、瓶や碗や鉢、皿などの灰釉陶器のほか瓦や土管などの建築部材などでした。また、窯道具には円筒形焼台など類例のないものも出土しました。さらに窯跡は数回の改修がみられ、規模が縮小化することもわかりました。

本書が今後の学術・文化向上に少しでも役立てば幸いに存じます。発刊にあたり多難な調査作業に従事していただいた地元の皆様、整理作業に従事していただいた方々並びに埋蔵文化財の保護に御理解頂きました佐賀国道事務所に対し、心より厚くお礼申しあげます。

令和 4 年 2 月 17 日

佐賀県文化・スポーツ交流局

局長 田中 裕之

例言

1. 本書は西九州自動車道唐津伊万里道路建設に伴い平成30年度に実施した伊万里市脇田町所在の古瓶屋下窯跡の発掘調査報告書であり、西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書の第20冊である。
2. 発掘調査・資料整理・報告書作成は国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託を受け、佐賀県教育委員会（平成30年度）、佐賀県（令和元年度～3年度）が主体となって実施した。
3. 発掘調査は発掘調査支援委託業務によって実施し、㈱島田組に委託した。資料整理は資料整理委託業務によって実施し、株式会社島田組・株式会社とっぴんに委託した。
4. 発掘調査・資料整理・報告書作成に係る担当者は下記のとおりである。

発掘調査 調査員 監督員：小松 譲（主任監督員）・加藤 祐一・里見 博章（一般監督員）

発掘調査 現場管理者 調査補助員：三ツ股 正明（現場監理者）・杉原 宗久（調査補助員）【株式会社 島田組】

遺物復元・遺構製図・遺物実測・同製図・遺物写真撮影：角上 寿行（業務管理者）・萩原 美香（技術者）・木村 藍子（技術者補助）【株式会社島田組】

遺構図版作成・遺物図版作成・遺物集合写真撮影・編集：中尾 美保・高瀬 健太郎・草場 結貴・陣内 智崇・宮田 慶彦【株式会社とっぴん】

調査記録類整理：熊谷 吉朗・小出 信子

5. 発掘調査・資料整理に際して下記の方々から指導・助言・協力を得た。

東中川 忠美・大橋 康二・家田 淳一・徳永 貞紹・船井 向洋（順不同・敬称略）

6. 本書の執筆・編集は小松 譲が行った。II章は『打越遺跡』の同章をもとに加筆訂正した。

凡例

1. 遺跡の略号は下記のとおりである。
古瓶屋下窯跡（FKU）
2. 遺構種別記号は次のとおりである。
S Y : 窯跡、S J : 墓葬、S D : 溝状遺構、S K : 土坑、S P : 小穴
3. 各遺構番号は（遺構種別記号-番号）で連番とした。発掘調査時は S 01、S 02 … のように S の後に二桁の連番としたが、本書では遺構略号の後に二桁の連番をつけた。出土品や遺構図面は調査時の遺構名で注記されている。
4. 本書に掲載した遺物番号は挿図ごとに連番として本文中では挿図番号-遺物番号で表記した。写真図版遺物も同じである。
5. 本書に用いた方位はすべて国土座標第II系の座標北である。
6. 遺物および実測図の検索・照合のため、実測遺物全てに県遺物登録番号を付け表に付記した。
7. 遺構・遺物写真・遺構・遺物実測図は佐賀県文化財調査研究資料室に保管する。

目次

I. 調査の経過	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査組織	6
3. 調査の方法と経過	8
(1) 調査の方法	8
(2) 調査の経過	8
II. 遺跡の位置と環境	11
1. 地理的環境	11
2. 歴史的環境	12
III. 遺構	22
1. 遺跡の概要	22
2. 遺構	24
(1) 窯跡	24
(2) 埋甕	81
(3) 溝状遺構	81
(4) 土坑	81
(5) 作業段	82
(6) 物原	82
IV. 遺物	87
1. 窯跡出土遺物	87
2. 埋甕出土遺物	119
S J 0 2 埋甕	119
S J 0 7 埋甕	119
S J 0 8 埋甕	119
3. 溝状遺構出土遺物	124
S D 0 3	124
4. 物原・包含層出土遺物	124
包含層 A	124
包含層 B	134
包含層 C	144
包含層 D	151
その他出土遺物	155
V. 総括	210
1. 窯の変遷	210
(1) 窯跡変遷の概要	210
(2) 変遷の画期	210
(3) まとめ 一再び 1 室の追室時期について	212

2, 古瓶屋下窯跡出土品の器種分類	213
(1) 焼成品	213
(2) 窯道具	218
3, 豊、擂鉢の型式変化	223
(1) はじめに	223
(2) 大豊の型式変化	223
(3) 擂鉢の型式変化	227
4, 焼成品及び出土遺物からみた古瓶屋下窯跡の編年的位置づけ	233
VII. 付論	234
1, 脇田韓人墓の調査と周辺の近世墓石・石碑について	234
(1) はじめに	234
(2) 立地と周辺の遺跡	234
(3) 脇田韓人墓の確認調査	235
(4) 脇田韓人墓と周辺の近世墓石の考古学的調査	235

挿図目次

図 I -1	西九州道路線図 (1/25000)	3	図 III -24	6 室土層図 (1/40)	55
図 I -2	確認調査対象地 及びトレンチ配置図 (1/600)	5	図 III -25	7 室第 1 面 平面図・断面見通図 (1/50)	56
図 II -1	遺跡位置図	11	図 III -26	7 室第 2 面 平面図・断面見通図 (1/50)	57
図 II -2	伊万里市域遺跡分布図 (1/50000)	13	図 III -27	7 室土層図 (1/40)	58
図 III -1	周辺地形図 (1/2000)	23	図 III -28	8 室 1 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	60
図 III -2	『松浦郡伊万里郷脇田村図』 安政 2 年 (1855 年)	25	図 III -29	8 室 2 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	61
図 III -3	古瓶屋下窯跡地形図 (調査前) (1/300)	27	図 III -30	8 室土層図 (1/40)	62
図 III -4	古瓶屋下窯跡地形図 (完掘後) (1/300)	29	図 III -31	9 室 1 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	63
図 III -5	遺構配置図 (1/250)	31	図 III -32	9 室 2 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	64
図 III -6	窯跡平面図・断面図 (1/150)	33	図 III -33	9 室 3 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	65
図 III -7	窯跡縦断土層図 (1/60)	35	図 III -34	9 室土層図 (1/40)	66
図 III -8	調査区南壁土層図 (1/60)	37	図 III -35	9 室土層図 2 (1/40)	67
図 III -9	焼成室計測値凡例	39	図 III -36	10 室 1 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	69
図 III -10	1 室第 1 面平面図・断面見通図 (1/50)	40	図 III -37	10 室 2 段階第 1 面 平面図・断面見通図 (1/50)	70
図 III -11	1 室第 2 面平面図・断面見通図 (1/50)	41	図 III -38	10 室 2 段階第 2 面 平面図・断面見通図 (1/50)	71
図 III -12	1 室土層図 (1/40)	42	図 III -39	10 室 3 段階第 1 面 平面図・断面見通図 (1/50)	72
図 III -13	2 室平面図・断面見通図 (1/50)	43	図 III -40	10 室 3 段階第 2 面 平面図 (1/50)	73
図 III -14	2 室土層図 (1/40)	44	図 III -41	10 室土層図 (1/40)	74
図 III -15	3 室第 1 面 平面図・断面見通図 (1/50)	45	図 III -42	11 室 1 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	75
図 III -16	3 室第 2 面 平面図・断面見通図 (1/50)	46	図 III -43	11 室 2 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	76
図 III -17	3 室土層図 (1/40)	47	図 III -44	11 室土層図 (1/40)	77
図 III -18	4 室平面図・断面見通図 (1/50)	48	図 III -45	12 室・13 室 1 段階 平面図・断面見通図 (1/50)	78
図 III -19	4 室土層図 (1/40)	49			
図 III -20	5 室平面図・断面見通図 (1/50)	50			
図 III -21	5 室土層図 (1/40)	51			
図 III -22	6 室第 1 面 平面図・断面見通図 (1/50)	53			
図 III -23	6 室第 2 面 平面図・断面見通図 (1/50)	54			

図III -46	12室2段階		図IV -30	SJ07・SJ08埋甕出土遺物2 (1/6).....	123
	平面図・断面見通図(1/50).....	79			
図III -47	12・13室土層図(1/40).....	80	図IV -31	SD03溝状遺構出土遺物 (1/3,1/4,1/6).....	125
図III -48	SJ02・SJ07・SJ08埋甕		図IV -32	包含層A出土遺物1(1/6).....	126
	平面図・見通図(1/30 1/20).....	83	図IV -33	包含層A出土遺物2(1/4,1/6).....	127
図III -49	SD03・SK05		図IV -34	包含層A出土遺物3(1/4).....	128
	平面図・土層図(1/20 1/100).....	84	図IV -35	包含層A出土遺物4 (1/3,1/4,1/6).....	130
図III -50	物原調査区範囲図(1/300).....	85	図IV -36	包含層A出土遺物5(1/4).....	131
図III -51	物原土層図(1/60).....	86	図IV -37	包含層A出土遺物6(1/3,1/4).....	132
図IV -1	1室出土遺物1(1/3,1/6).....	88	図IV -38	包含層A出土遺物7(1/3,1/4).....	133
図IV -2	1室出土遺物2(1/3).....	90	図IV -39	包含層B出土遺物1(1/6).....	135
図IV -3	2室出土遺物1(1/3,1/4,1/6).....	91	図IV -40	包含層B出土遺物2(1/6).....	136
図IV -4	2室出土遺物2(1/3).....	92	図IV -41	包含層B出土遺物3(1/6).....	137
図IV -5	2室出土遺物3(1/3).....	93	図IV -42	包含層B出土遺物4(1/6).....	138
図IV -6	2室出土遺物4(1/3).....	94	図IV -43	包含層B出土遺物5(1/4).....	140
図IV -7	2室出土遺物5(1/3).....	96	図IV -44	包含層B出土遺物6(1/4).....	141
図IV -8	2室出土遺物6(1/3,1/6).....	97	図IV -45	包含層B出土遺物7(1/3,1/4).....	142
図IV -9	3室出土遺物1(1/4,1/6).....	98	図IV -46	包含層B出土遺物8(1/3).....	143
図IV -10	3室出土遺物2(1/4,1/6).....	99	図IV -47	包含層B出土遺物9(1/3).....	145
図IV -11	3室出土遺物3(1/3,1/4).....	100	図IV -48	包含層C出土遺物1(1/6).....	146
図IV -12	3室出土遺物4(1/3).....	102	図IV -49	包含層C出土遺物2(1/6).....	147
図IV -13	3室出土遺物5(1/3,1/4).....	103	図IV -50	包含層C出土遺物3(1/6).....	148
図IV -14	4室出土遺物(1/3,1/4,1/6).....	104	図IV -51	包含層C出土遺物4(1/6).....	149
図IV -15	5室出土遺物1(1/6).....	105	図IV -52	包含層C出土遺物5 (1/3,1/4,1/6).....	150
図IV -16	5室出土遺物2(1/6).....	107	図IV -53	包含層D出土遺物1(1/4,1/6).....	152
図IV -17	5室出土遺物3(1/4).....	108	図IV -54	包含層D出土遺物2(1/3,1/6).....	153
図IV -18	5室出土遺物4(1/3,1/4,1/6).....	109	図IV -55	包含層D出土遺物3(1/3,1/4).....	154
図IV -19	6室出土遺物1(1/4,1/6).....	110	図IV -56	その他出土遺物1(1/6).....	156
図IV -20	6室出土遺物2(1/4).....	111	図IV -57	その他出土遺物2(1/6).....	157
図IV -21	6室出土遺物3(1/3,1/4).....	112	図V -1	窯跡変遷図.....	211
図IV -22	7室出土遺物1(1/4,1/6).....	114	図V -2	甕の法量分布図.....	214
図IV -23	7室出土遺物2(1/3,1/4).....	115	図V -3	器種分類1.....	215
図IV -24	8室出土遺物(1/4,1/6).....	116	図V -4	器種分類2.....	216
図IV -25	9室出土遺物1(1/4,1/6).....	117	図V -5	器種分類3.....	217
図IV -26	9室出土遺物2(1/4).....	118	図V -6	楔形ハマ計測値凡例.....	218
図IV -27	9室出土遺物3(1/4,1/6).....	120	図V -7	楔形ハマの法量分布図.....	219
図IV -28	10～12室出土遺物 (1/3,1/4,1/6).....	121			
図IV -29	SJ02埋甕出土遺物1(1/6).....	122			

図V-8 器種分類4	220	図VI-3 第2トレンチ・第3トレンチ 状況写真	240
図V-9 器種分類5	221	図VI-4 第3トレンチ・第4トレンチ 状況写真	241
図V-10 大甕Aの変遷(1/10)	224	図VI-5 第4トレンチ・第5トレンチ ・第6トレンチ状況写真	242
図V-11 大甕Bの変遷(1/10)	225	図VI-6 古瓶屋中窓跡近くの板碑	243
図V-12 大甕Cの変遷(1/10)	226	図VI-7 近世墓石頭部形式1	244
図V-13 捣鉢の変遷1(1/5)	228	図VI-8 近世墓石頭部形式2	245
図V-14 捣鉢の変遷2(1/5)	229	図VI-9 近世墓石頭部形式3	246
図V-15 捣鉢の変遷3(1/5)	230	図VI-10 調査指導風景写真	247
図VI-1 脇田韓人墓 トレンチ配置図(1/200)	236		
図VI-2 遺跡遠景・第1トレンチ状況写真	239		

表目次

表I-1 唐津・伊万里道路確認調査一覧表	2	表IV-23 遺物一覧表(23)	180
表III-1 遺構一覧表	24	表IV-24 遺物一覧表(24)	181
表III-2 焼成室計測値一覧	39	表IV-25 遺物一覧表(25)	182
表IV-1 遺物一覧表(1)	158	表IV-26 遺物一覧表(26)	183
表IV-2 遺物一覧表(2)	159	表IV-27 遺物一覧表(27)	184
表IV-3 遺物一覧表(3)	160	表IV-28 遺物一覧表(28)	185
表IV-4 遺物一覧表(4)	161	表IV-29 遺物一覧表(29)	186
表IV-5 遺物一覧表(5)	162	表IV-30 遺物一覧表(30)	187
表IV-6 遺物一覧表(6)	163	表IV-31 遺物一覧表(31)	188
表IV-7 遺物一覧表(7)	164	表IV-32 遺物一覧表(32)	189
表IV-8 遺物一覧表(8)	165	表IV-33 遺物一覧表(33)	190
表IV-9 遺物一覧表(9)	166	表IV-34 遺物一覧表(34)	191
表IV-10 遺物一覧表(10)	167	表IV-35 遺物一覧表(35)	192
表IV-11 遺物一覧表(11)	168	表IV-36 遺物一覧表(36)	193
表IV-12 遺物一覧表(12)	169	表IV-37 遺物一覧表(37)	194
表IV-13 遺物一覧表(13)	170	表IV-38 遺物一覧表(38)	195
表IV-14 遺物一覧表(14)	171	表IV-39 遺物一覧表(39)	196
表IV-15 遺物一覧表(15)	172	表IV-40 遺物一覧表(40)	197
表IV-16 遺物一覧表(16)	173	表IV-41 遺物一覧表(41)	198
表IV-17 遺物一覧表(17)	174	表IV-42 遺物一覧表(42)	199
表IV-18 遺物一覧表(18)	175	表IV-43 遺物一覧表(43)	200
表IV-19 遺物一覧表(19)	176	表IV-44 遺物一覧表(44)	201
表IV-20 遺物一覧表(20)	177	表IV-45 遺物一覧表(45)	202
表IV-21 遺物一覧表(21)	178	表IV-46 遺物一覧表(46)	203
表IV-22 遺物一覧表(22)	179	表IV-47 遺物一覧表(47)	204

表IV -48 遺物一覧表 (48)	205	表IV -52 遺物一覧表 (52)	209
表IV -49 遺物一覧表 (49)	206	表VI -1 脇田韓人墓一覧表	237
表IV -50 遺物一覧表 (50)	207	表VI -2 脇田町所在近世墓・墓石分類、 計測一覧	237
表IV -51 遺物一覧表 (51)	208		

卷頭図版目次

1. 遺跡遠景空中写真 1	卷頭図版 1	7. 甕集合	卷頭図版 7
遺跡遠景空中写真 2	卷頭図版 1	中甕集合	卷頭図版 7
2. 窯跡の立地する谷部	卷頭図版 2	8. 捕鉢集合	卷頭図版 8
窯跡全景空中写真 1	卷頭図版 2	高台付捕鉢集合	卷頭図版 8
3. 窯跡全景空中写真 2	卷頭図版 3	9. 平底捕鉢集合	卷頭図版 9
4. 窯跡全景空中写真 3	卷頭図版 4	壺・徳利・瓶集合	卷頭図版 9
窯跡全景空中写真 4	卷頭図版 4	10. 灰釉陶器集合	卷頭図版 10
5. 窯跡 1 室～4 室空中写真	卷頭図版 5	瓦・土管片集合	卷頭図版 10
窯跡 5 室～7 室遺物出土状況	卷頭図版 5	11. 窯道具集合 1	卷頭図版 11
6. 全体集合	卷頭図版 6	窯道具集合 2	卷頭図版 11

図版目次

PL1	1 室 1 面検出状況 (西より)	248	(北より)	253	
	1 室 2 面検出状況 (西より)	248	3 室奥壁裏込め検出状況 (西より)	253	
PL2	1 室 1 面遺物出土状況 (北より)	249	PL7	4 室検出状況 (北西より)	254
	1 室遺物出土状況 (南より)	249		4 室土層観察状況 (北西より)	254
PL3	2 室検出状況 (西より)	250	PL8	5 室遺物出土状況 1 (西より)	255
	2 室長軸トレンチ内遺物出土状況 (西より)	250		5 室遺物出土状況 2 (北より)	255
	2 室奥壁裏込め検出状況 1 (北西より)	250	PL9	5 室土層観察状況 (南西より)	256
	2 室遺物出土状況 (北西より)	250		5 室円筒形焼台出土状況 1 (北西より)	256
	2 室奥壁裏込め検出状況 2 (北西より)	250		5 室円筒形焼台出土状況 2 (南より)	256
PL4	3 室 1 面検出状況 1 (西より)	251	PL10	6 室 1 面遺物出土状況 1 (西より)	257
	3 室 1 面検出状況 2 (北より)	251		6 室 1 面遺物出土状況 2 (北より)	257
PL5	3 室土層観察状況 (南西より)	252		6 室 1 面クサビ形ハマ出土状況 1 (南より)	257
	3 室 2 面検出状況 (西より)	252		6 室 1 面クサビ形ハマ出土状況 2 (西より)	257
PL6	3 室奥壁壁面支え石検出状況 1 (西より)	253		6 室土層観察状況 (南西より)	257
	3 室奥壁壁面支え石検出状況 2		PL11	6 室 2 面検出状況 (西より)	258

	6室2面奥壁検出状況（北西より）	258		10室3段階2面検出状況 (西より).....	266
	6室2面側壁検出状況（北より）	258		10室試掘トレンチ土層観察状況 (西より).....	266
PL12	7室1面遺物出土状況1（西より）	259		11室Aトレンチ土層観察状況 (西より).....	267
	7室1面遺物出土状況2（北より）	259	PL20	11室Aトレンチ土層観察状況 (西より).....	267
PL13	7室土層観察状況（南西より）.....	260		11室Aトレンチ土層観察状況 (西より).....	267
	7室2面検出状況（西より）.....	260	PL21	11室左側壁検出状況（西より）.....	268
PL14	8室1段階遺物出土状況1 (西より).....	261		12室左側壁検出状況（東より）.....	268
	8室1段階遺物出土状況2 (北より).....	261	PL22	調査区南壁1・10室付近（北より）	269
PL15	8室長軸トレンチ土層観察状況1 (西より).....	262		調査区南壁2・11室付近（北より）	269
	8室長軸トレンチ土層観察状況2 (西より).....	262	PL23	調査区南壁3・12室付近（北より）	269
	8室試掘第8トレンチ土層観察状況1 (西より).....	262		SJ02検出状況（東より）.....	270
	8室1段階小型甕出土状況 (西より).....	262	PL24	SJ02完掘状況（東より）.....	270
	8室2段階検出状況（西より）.....	262		SJ07完掘状況（北より）.....	271
PL16	9室1段階検出状況1（西より）	263	PL25	SJ08完掘状況（北西より）.....	271
	9室1段階側壁・遺物出土状況 (北より).....	263		SD06完掘状況（南西より）.....	272
	9室1段階小型甕出土状況 (西より).....	263		SD06土層観察状況（南東より）.....	272
	9室1段階焚口立石検出状況1 (西より).....	263		SP04土層観察状況（南西より）	272
	9室1段階焚口立石検出状況2 (南より).....	263		包含層B地点西壁土層観察状況 (南東より).....	272
PL17	9室2段階遺物出土状況（西より）	264		包含層C地点第1トレンチ 北壁土層観察状況（西より).....	272
	9室2段階クサビ形ハマ出土状況 (南より).....	264	PL26	南壁土層観察状況（東より).....	272
	9室3段階検出状況（西より）.....	264	PL27	1室出土遺物1.....	273
PL18	10室1段階検出状況（西より）	265	PL28	1室、2室出土遺物.....	275
	10室2段階1面検出状況 (西より).....	265	PL29	2室出土遺物1.....	276
	10室2段階2面検出状況 (西より).....	265	PL30	2室出土遺物2.....	277
PL19	10室3段階1面検出状況 (西より).....	266	PL31	2室出土遺物3.....	278
			PL32	2室出土遺物4.....	279
			PL33	2室出土遺物5.....	280
			PL34	2室、3室出土遺物.....	281
			PL35	3室出土遺物1.....	282
			PL36	3室出土遺物2.....	283
			PL37	3室、4室出土遺物.....	284
			PL38	4室、5室出土遺物.....	285

PL39	5室出土遺物 1	286	PL55	包含層 A、包含層 B 出土遺物	302
PL40	5室出土遺物 2	287	PL56	包含層 B 出土遺物 1	303
PL41	5室、6室出土遺物	288	PL57	包含層 B 出土遺物 2	304
PL42	6室出土遺物 1	289	PL58	包含層 B 出土遺物 3	305
PL43	6室出土遺物 2	290	PL59	包含層 B 出土遺物 4	306
PL44	6室、7室出土遺物	291	PL60	包含層 B 出土遺物 5	307
PL45	7室、8室出土遺物	292	PL61	包含層 B 出土遺物 6	308
PL46	8室、9室出土遺物	293	PL62	包含層 B 出土遺物 7	309
PL47	9室出土遺物	294	PL63	包含層 B、包含層 C 出土遺物	310
PL48	9室、10室、11室、12室、SJ02 出土遺物	295	PL64	包含層 C 出土遺物 1	311
PL49	SJ02、SJ08、SD03 出土遺物	296	PL65	包含層 C 出土遺物 2	312
PL50	SD03、包含層 A 出土遺物	297	PL66	包含層 C 出土遺物 3	313
PL51	包含層 A 出土遺物 1	298	PL67	包含層 C、包含層 D 出土遺物	314
PL52	包含層 A 出土遺物 2	299	PL68	包含層 D 出土遺物 1	315
PL53	包含層 A 出土遺物 3	300	PL69	包含層 D、その他出土遺物	316
PL54	包含層 A 出土遺物 4	301	PL70	その他出土遺物 1	317
			PL71	その他出土遺物 2	318

I . 調査の経過

1. 調査に至る経過

西九州自動車道は福岡県福岡市から前原市、佐賀県唐津市、伊万里市、長崎県松浦市、佐世保市を経由して佐賀県武雄市に至り、九州横断自動車道長崎大分線と合流する総延長約 150km の路線であり、国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の事業である。本埋蔵文化財発掘調査事業は、このうち唐津道路・唐津伊万里道路・伊万里道路・伊万里松浦道路区間の約 45.2km（佐賀県分）を対象としている。

佐賀県教育委員会文化課（平成 21 年度～23 年度社会教育・文化財課、平成 24 年度～文化財課）は佐賀国道事務所から道路建設事業の照会を受け、平成 6 年度から路線予定地の踏査および確認調査を実施した。文化財調査体制は開発事業が広域かつ大規模であることから、調査主体を佐賀県教育委員会文化課とし、調査対象地の当該教育委員会からの職員派遣を受けた。これまでの本調査は、唐津市堂の前遺跡・井ヶ田遺跡・未広遺跡・梅白遺跡・中原遺跡・汐井川古墳群・古園遺跡・寺ノ元遺跡・千々賀遺跡・千田島 II 遺跡・上平野遺跡・唐津市浜玉町赤野遺跡・岩根遺跡・袈裟丸城跡・目貫古墳群・大江前遺跡・仁田古墳群・矢作遺跡・下新田古墳群・大坂古墳群・伊万里市打越遺跡がある。このうち、刊行した発掘調査報告書は 2000 年 3 月に『堂の前遺跡・井ヶ田遺跡』、2003 年 3 月に『梅白遺跡』、2006 年 3 月に唐津市浜玉町『大江前遺跡・目貫古墳群・赤野遺跡・袈裟丸城跡・岩根遺跡』2007 年 3 月に『中原遺跡 I』、2008 年 3 月に『中原遺跡 II』、2009 年 3 月に『中原遺跡 III』、2010 年 3 月に『中原遺跡 IV』『仁田古墳群 I』、2011 年 3 月に『中原遺跡 V』『仁田古墳群 II』、2012 年 3 月に『中原遺跡 VI』『矢作遺跡』、2013 年 3 月に『中原遺跡 VII』『古園遺跡・千々賀遺跡・千田島 II 遺跡』、2014 年 3 月に『中原遺跡 VIII』、2015 年 3 月に『中原遺跡 IX』、2016 年 3 月に『寺ノ元遺跡・上平野遺跡』、2017 年 3 月に『汐井川古墳群』、2017 年 9 月に『打越遺跡』がある。

本書に掲載する古瓶屋下窯跡は、伊万里市脇田町に所在する。本窯跡に係る確認調査以前に、唐津伊万里道路及び伊万里道路区間の確認調査を実施した。図 I - 1 に、路線図と確認調査対象地を掲載し、表 I - 1 はその確認調査一覧表であり、一覧表と図中の番号は照合する。以下、一覧表の番号に沿って、確認調査概要を記す。

1 は、伊万里市南波多町重橋の末周知地区である。調査対象面積を 17,163m² とし、平成 23 年 10 月 12 日～17 日にかけて確認調査を実施した。対象地内の 7 箇所にトレンチを設定し、人力掘削を行った。その結果、遺構、遺物は発見されず、工事実施には支障なしとした。

2 は、同市南波多町重橋の末周知地区である。調査対象面積を 7,000m² とし、平成 22 年 9 月 24 日に確認調査を実施した。対象地内の 7 箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、遺構、遺物は発見されず、工事実施には支障なしとした。

3 は、同市南波多町高瀬の末周知地区である。調査対象面積を 1,800m² とし、平成 20 年 5 月 20 日に確認調査を実施した。対象地内の 5 箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、遺構、遺物は発見されず、工事実施には支障なしとした。

4 は、同市南波多町井手野であり、調査対象地の一部に下対遺跡がある。調査対象面積を 40,700m² とし、平成 20 年 1 月 28 ～ 2 月 5 日に確認調査を実施した。対象地内に 42 箇所のトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、黒曜石及び陶磁器片が数点出土したものの、遺構は発見されず、工事実施は支障なしとした。

表 I -1 唐津・伊万里道路確認調査一覧表

番号	調査対象地所在地	周知の包蔵地の有無	調査対象面積 (m ²)	調査年月	確認調査の結果
1	伊万里市南波多町重橋	未周知	17,163	平成 23 年 10 月	支障なし
2	伊万里市南波多町重橋	未周知	7,000	平成 22 年 9 月	支障なし
3	伊万里市南波多町高瀬	未周知	1,800	平成 20 年 5 月	支障なし
4	伊万里市南波多町井手野	下対遺跡の一部	40,700	平成 20 年 1 月～2 月	支障なし
5	伊万里市南波多町原屋敷	未周知	5,479	平成 23 年 11 月	支障なし
6	伊万里市南波多町府招下	未周知	6,500	平成 22 年 9 月	支障なし
7	伊万里市南波多町新屋敷	未周知	5,000	平成 21 年 6 月	支障なし
8	伊万里市南波多町府招下	未周知	9,000	平成 22 年 12 月	支障なし
9	伊万里市南波多町府招	未周知	12,026	平成 25 年 1 月	支障なし
10	伊万里市脇田町	古瓶屋下窯跡・脇田韓人墓	11,795	平成 26 年～29 年	古瓶屋下窯跡本調査

5は、同市南波多町原屋敷の未周知地区である。調査対象面積を5,479m²とし、平成23年11月7日～9日に確認調査を実施した。対象地内の5箇所にトレンチを設定し、人力掘削を行った。その結果、小穴6基を確認したものの遺物は発見されず、工事実施には支障なしとした。

6は、同市南波多町府招下の未周知地区である。調査対象面積を6,500m²とし、平成22年9月29日に確認調査を実施した。対象地内の6箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、黒曜石数点が出土したものの遺構は発見されず、工事実施には支障なしとした。

7は、同市南波多町新屋敷の未周知地区である。調査対象面積を5,000m²とし、平成21年6月11日～12日に確認調査を実施した。対象地内の6箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、遺構、遺物は発見されず、工事実施には支障なしとした。

8は、同市南波多町府招下の未周知地区である。調査対象面積を9,000m²とし、平成22年12月20日・22日に確認調査を実施した。対象地内の8箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、黒曜石片及び近世陶磁器片数点が出土したが、すべて造成土中であり、遺構は発見されなかつたため、工事実施には支障なしとした。

9は、同市南波多町府招の未周知地区である。調査対象面積を12,026m²とし、平成25年1月15日～17日に確認調査を実施した。対象地内の14箇所にトレンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、小溝や瓦片と近世以降の磁器片が出土しており、溝は近現代と考えられ、工事実施には支障なしとした。

10は、同市脇田町の脇田韓人墓及び古瓶屋下窯跡、その周辺の未周知地区にあたり、脇田韓人墓及び古瓶屋下窯跡は周知の埋蔵文化財包蔵地である。脇田韓人墓と古瓶屋下窯跡は幅約100mの谷部を挟んだ丘陵上に立地し、谷部には水田が営まれる。

脇田韓人墓は、調査対象面積を254m²として、平成26年10月6日～8日に確認調査を実施した。現状では近世の墓石4基からなる墓地であり、地元では韓人墓と呼ばれている。現存する4基の墓石下の主体部の有無及び周辺の近世墓の有無を目的にトレンチを設定し、人力で掘り下げたが、墓石下には主体部は確認できなかった。また、韓人墓周辺からも近世墓やその他の遺構は確認できなかつたため、

図 1-1 西九州道路図 (1:25000)

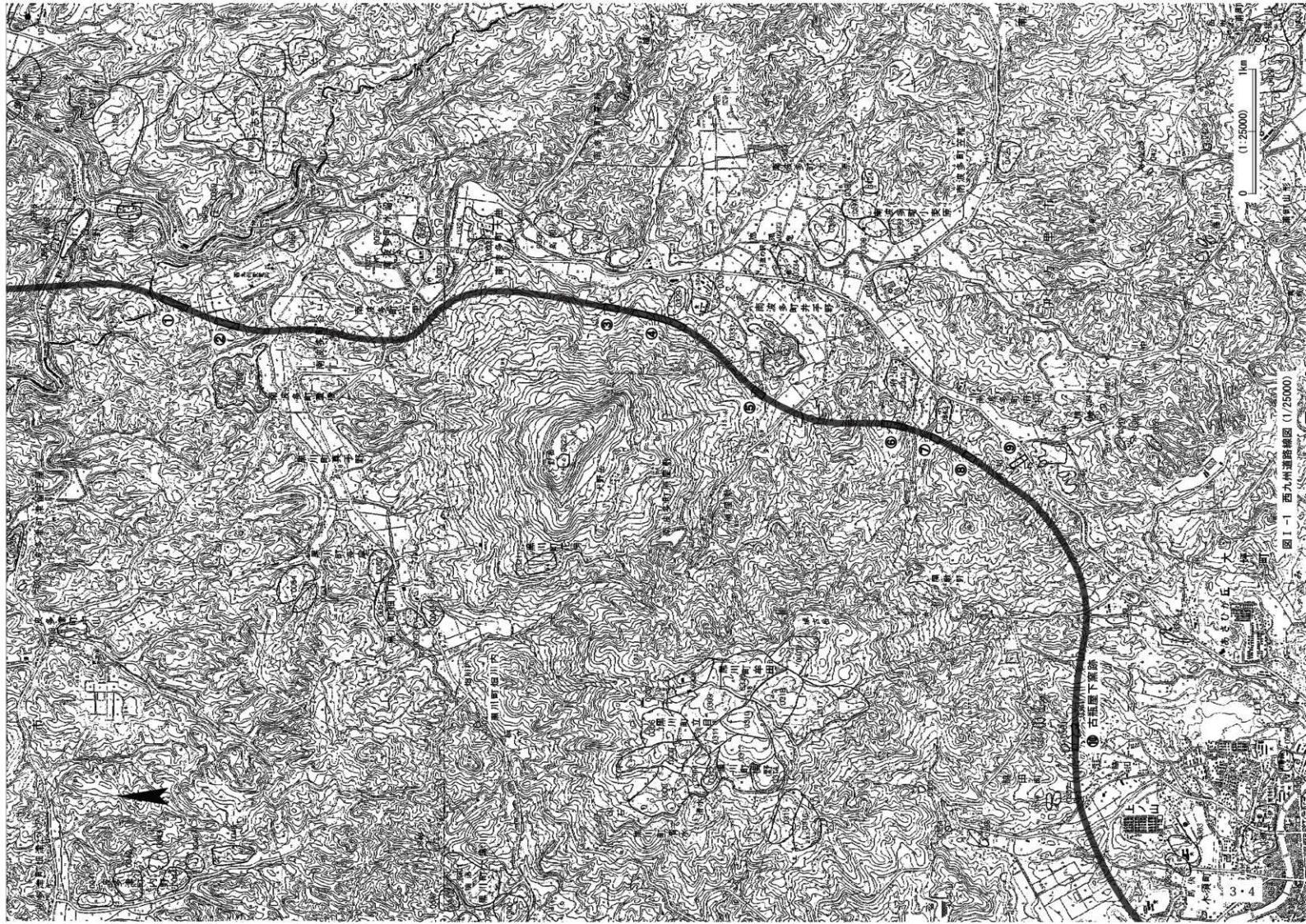


図1-2 建認調査対象地及びトレーン配置図 (1/600)



工事実施には支障なしとした。

古瓶屋下窯跡の現状は、窯跡西側の丘陵斜面に多量の甕、擂鉢などの陶器片が散在しており、地元でも窯跡と周知されていた。また、古瓶屋下窯跡の北西側にあたる水田部は未周知地区であるが、この水田部と古瓶屋下窯跡の確認調査を用地買収の進捗にあわせ、平成 27 年度から平成 29 年度に実施した。図 I -2 に、確認調査対象地とトレーンチ配置図を掲載する。

古瓶屋下窯跡の西側に隣接した未周知地区である水田部 1,303m²を対象地として、平成 27 年 11 月 27 日に確認調査を実施した。対象地内の 14 箇所にトレーンチを設定し、重機掘削を行った。No1 トレーンチで径約 25cm の小穴 6 基を検出し、遺構を掘り下げたが遺物は出土せず、近・現代と判断した。その他のトレーンチでは遺構・遺物は出土しなかった。

脇田韓人墓の東側に隣接した未周知地区である水田部 4,190m²を対象地として、平成 28 年 7 月 25 日・26 日に確認調査を実施した。対象地内に 10 箇所にトレーンチを設定し、重機掘削を行った。その結果、すべてのトレーンチで遺構・遺物は出土しなかった。

用地買収が終了した古瓶屋下窯跡の上半部、2,270m²を対象地として、平成 28 年 11 月 22 日に確認調査を実施した。対象地内に 3 箇所のトレーンチを設定し、重機により掘り下げを行い、人力で壁面、トレーンチ底面の精査を行った。その結果、丘陵の最上方に設定したトレーンチでは窯跡は確認できなかつたが、その下方の 2 箇所のトレーンチでは窯壁の一部や赤色の被熱痕跡、陶器片や窯道具が出土した土坑を検出した。

平成 29 年 5 月 16 日・17 日、同窯跡の下半部、1,186m²を対象地として、5 箇所のトレーンチを設定し、重機で掘り下げたのち、人力で精査した。その結果、すべてのトレーンチで窯跡基底部の被熱部や床面と思われる青灰色砂層及び窯壁の一部を確認した。

同窯跡の西側に隣接した未周知地区である水田部 1,423m²を対象地として、平成 29 年 6 月 19 日に確認調査を実施した。対象地内に 4 箇所のトレーンチを設定し、重機掘削をおこなった。その結果、すべてのトレーンチで遺構・遺物は出土しなかった。

当初、確認調査対象地の中の水田部は、窯に関連する工房跡などが想定されたが、水田部は水田耕作土の直下は厚さ 30 ~ 50cm の水田造成土であり、その下は人頭大の転石を混入する地山土であった。谷部の中央を流れる小川の上流には溜池があることから、溜池の築堤以前は、小川が氾濫し、転石が堆積する氾濫原であったと思われる。確認調査では、この転石を含む氾濫原の堆積物中から、窯跡の焼成品である陶器や窯道具などは出土しておらず、窯に関連する工房跡なども検出できなかった。

窯跡の周辺で、近世に集落が形成されたと思われる範囲は、旧地形から想像すると、路線外になるが、脇田韓人墓が立地する丘陵の東側にある現在数軒からなる集落域と思われる。この集落背後の丘陵上には、古瓶屋下窯跡や古瓶屋上窯跡が築造されることからも、そのことが判る。

以上の確認調査結果をうけて 佐賀国道路事務所と協議を実施し、古瓶屋下窯跡の本調査範囲を決定した。発掘調査主体は佐賀県教育委員会とし、発掘調査支援委託により実施することにし、受託業者は株式会社島田組佐賀営業所となった。発掘調査は平成 30 年 6 月に着手し、12 月に終了した。その後、伊万里市内で整理作業を実施し、平成 31 年 2 月末で委託業務は完了した。

2. 調査組織

調査主体 佐賀県教育委員会（平成 30 年度）

佐賀県（令和 1・2・3 年度）令和元年度から佐賀県教育委員会文化財課は地域交流部文化

課文化財保護室に移管
発掘調査（平成 30 年度）
整理作業・報告書作成（令和 1・2・3 年度）

平成 30 年度（2018 年度）

総括	佐賀県教育委員会	教育長	白水 敏光
	佐賀県教育委員会	文化財課長	江島 秀臣
	佐賀県教育委員会	文化財課副課長	山田 隆宏
	佐賀県教育委員会	文化財課副課長	白木原 宜
調査総括	佐賀県教育委員会	文化財課主幹	小松 譲
調査員	佐賀県教育委員会	文化財課主査	里見 博章
	佐賀県教育委員会	文化財課主査	加藤 裕一
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化財課主幹（吉野ヶ里遺跡担当）	今泉 和孝
	佐賀県教育委員会	文化財課主査（吉野ヶ里遺跡担当）	松井 美穂
	佐賀県教育委員会	文化財課主事（臨）（吉野ヶ里遺跡担当）	松尾 さつき

令和元年度（2019 年度）

総括	文化・スポーツ交流局	局長	田中 裕之
	文化・スポーツ交流局	文化課長	橋口 泰史
	” 文化財保護室	室長	川内野 修
	” 文化財保護室	参考	白木原 宜
	” 文化財保護室	副室長	山川 史
調査総括	” 文化財保護室	主幹	小松 譲
調査員	” 文化財保護室	主査	熊谷 吉朗
庶務会計	” 文化財保護室	主幹（吉野ヶ里遺跡担当）	今泉 和孝
	” 文化財保護室	主査（吉野ヶ里遺跡担当）	松井 美穂
	” 文化財保護室	主事（臨）（吉野ヶ里遺跡担当）	松尾 さつき

令和 2 年度（2020 年度）

総括	文化・スポーツ交流局	局長	田中 裕之
	文化・スポーツ交流局	文化課長	橋口 泰史
	” 文化財保護室	室長	白木原 宜
	” 文化財保護室	副室長	古川 直樹
	” 文化財保護室	副室長	山川 史
調査総括	” 文化財保護室	主幹	小松 譲
調査員	” 文化財保護室	主査	熊谷 吉朗
庶務会計	” 文化財保護室	主幹（吉野ヶ里遺跡担当）	今泉 和孝
	” 文化財保護室	主事（吉野ヶ里遺跡担当）	大塚 小百合

令和3年度（2021年度）

総括	文化・スポーツ交流局	局長	田中 裕之
	文化・スポーツ交流局	文化課長	水町 智子
	〃 文化財保護室	室長	白木原 宜
	〃 文化財保護室	副室長	右寺 直樹
調査総括	〃 文化財保護室	副室長	細川 金也
調査員	〃 文化財保護室	主任主査	村松 洋介
	〃 文化財保護室	主査	小松 謙
庶務会計	〃 文化財保護室	係長（吉野ヶ里遺跡担当）	北原 清子
	〃 文化財保護室	主事（吉野ヶ里遺跡担当）	大塚 小百合

会計年度任用職員

令和2年度（2020年度）

小出信子

3. 調査の方法と経過

（1）調査の方法

古瓶屋下窯跡の遺跡略号はF K Uとし、図面や写真、遺物の注記など記録類の表示に用いた。

調査区画は国土座標にあわせて X=32810、Y=103440 の交点を原点とする 10m × 10m の方眼区画を設定した。南北方向をアルファベット表記として北から南に A～G、東西方向を算用数字表記として東から西に 1～7 に設定し、グリッド（区画）名をアルファベット - 算用数字で表記した。（図III-5 参照）

遺構番号は発掘調査時には、S01、S02、S03 のように S の後に 2 桁の算用数字を付け、連番とした。窯跡は S01 とし、窯戸から焼成室名を S01-1、S01-2、S01-3 のように枝番号を付け、焼成室名とした。但し、本書では遺構種別記号を 2 つのアルファベットとし、そのあとに 2 桁の算用数字を連番で付け、遺構番号とした。遺構種別記号は凡例に記す。

遺物の取り上げはビニール袋ごとに連番の番号を付け、グリッド、層位、遺構名などの出土地点の情報を記した遺物台帳で管理した。なお、すべての遺物には遺跡略号 出土地点（遺構名）袋番号を注記した。

遺構等の写真是白黒、カラーリバーサルともプローニー、35mm を使用し、デジタルカメラも併用し撮影をおこなった。

調査にあたって、表土は重機により掘削し、遺構、物原（包含層）は人力で掘削した。

（2）調査の経過

古瓶屋下窯跡は平成 30 年度に発掘調査を実施し、終了した。発掘調査は株式会社島田組佐賀営業所と発掘調査支援委託業務の契約を締結し、県職員の管理のもとに実施した。発掘調査と並行して、現地のプレハブ事務所で、遺物の水洗、注記などの整理作業を実施した。以下に調査日誌を記す。

調査日誌

平成30年（2018年）

- 5月28日 周辺住民へ挨拶、チラシ配布
- 5月30日 重機搬入、仮囲い（丸太及び番線）取り外し
- 5月31日 基準点測量
- 6月1日 作業員説明会
- 6月2日 調査区内草刈り開始、仮設トイレ搬入
- 6月5日 機械除草用重機搬入
- 6月7日 プレハブ搬入、水準測量、地形測量、検測丁張り設定
- 6月8日 機械除草用重機搬出
- 6月11日 発掘器材・資材類搬入、電気工事
- 6月12日 現況地盤高検測、表土除去開始、水道工事
- 6月13日 調査区養生（土嚢・シート・安全ロープ設置）、遺物保管用コンテナ搬入
- 6月15日 表土除去後深度検測
- 6月18日 遺構検出開始
- 6月21日 遺構検出により、窯跡の上半全形が確認できた。
- 6月25日 調査区周辺仮設物設置（工事看板、仮設トイレ目隠し等）
- 6月27日 東中川氏来訪
- 7月2日 遺構掘削開始、台風対策養生
- 7月4日 遺構掘削、1室の砂床は2面あることが確認できた。
- 7月9日 2室縦断、横断トレンド設定、掘削
- 7月12日 伊万里市教育委員会 船井氏来訪、SJ02埋蔵平面図実測開始
- 7月18日 3室の遺構検出開始
- 7月19日 4室の遺構検出開始
- 7月23日 遺物洗浄開始
- 7月24日 3室内から窯道具（楔形ハマ）が規則的に並べられた状態で多数出土。
- 7月26日 4室縦断、横断トレンド設定、掘削。文化財課江島課長来訪
- 7月30日 東中川氏、伊万里市教育委員会 船井氏来訪
- 7月31日 4室～6室の縦断トレンド掘削、包含層B地点掘削開始
- 8月2日 5室の縦断トレンドから円筒形の焼台が出土。
- 8月9日 九州陶磁文化館 大橋康二氏ほか職員来訪
- 8月21日 6室の遺構掘削
- 8月23日 6室から高台付擂鉢や小型甕の底部外面に胎土目が付着した状態で出土。
- 8月24日 7室の遺構検出開始
- 8月28日 SD03遺構掘削開始、伊万里市教育委員会船井氏来訪
- 8月29日 3室奥壁の崩落を支える板材2枚を確認。
- 8月31日 8室の遺構検出開始
- 9月10日 包含層C地点掘削開始、伊万里市教育委員会船井氏来訪
- 9月2日 9室～12室掘削開始

- 9月 12日 9室の下面是胴木間に改築していることを確認
- 10月 2日 窯跡の各焼成室の北側は地山を段状に整形しており、作業場と考えられることが判明。
- 10月 15日 窯跡は複数回の改築が行われている状況を確認。
- 10月 17日 東中川氏、伊万里市教育委員会船井氏来訪
- 10月 24日 2室奥壁の裏込めの検出中に楔形ハマを検出。
- 10月 31日 SK05、SX06 検出、掘削
- 11月 1日 遺構掘削土量検測開始
- 11月 15日 空中写真撮影
- 11月 16日 現場仮設物等解体、撤去、資材、道具肩付け、人力掘削などの現場作業終了
- 11月 20日 境界杭の復元、仮設資材搬出、重機搬出
- 12月 10日 水道撤去工事
- 12月 13日 現地プレハブ電気工事（撤去）、新作業所移転に伴う現場プレハブ片付け
- 12月 17日 新作業所への遺物の搬出及び搬入
- 12月 18日 現場プレハブの解体及び搬出
- 12月 20日 現場プレハブ、駐車場用地侵入防止柵の復元
- 12月 21日 現場終了に係る現地立会（佐賀県、業者）

II. 遺跡の位置と環境

1. 地理的環境

古瓶屋下窯跡が立地する伊万里市は、佐賀県の西部に位置し、北は唐津市・唐津市北波多（旧北波多村）、東は唐津市相知町（旧相知町）・武雄市、南は武雄市山内町（旧山内町）・有田町（旧西有田町）、西は国見山の尾根筋を長崎県にそれぞれ接している。現在の伊万里市役所は北緯33度16分、東経129度53分に位置し、面積254.99km²である。

地形は有田川と伊万里湾を境にして、大まか二つに分かれる。有田川と伊万里湾の東側は主として堆積岩（以下第三紀層）の層が広がる丘陵性の地域で、標高の高い頂上付近は第三紀層を貫いて噴出した火山岩（玄武岩）が表面を覆い、山地を形成する。また、山々の間は浸食が進み小規模であるが谷や盆地が発達している。西側は玄武岩類に覆われた台地状の地域で、国見山（776.7m）を主峰として八天岳（707.0m）、隠居岳（670.2m）、烏帽子岳（595.9m）などの山々が台地の東の縁に線上に並び、南には黒曜石を産出する腰岳（487.7m）や青螺山（599.2m）がそびえる。また、黒髪山系や腰岳との間に急傾斜で深い谷間を形成している。その谷間の西側台地の裾野には幾つもの扇状地が発達している。また伊万里湾奥の西側に位置する山々は、玄武岩の台地が浸食を受けて谷ができたころに地盤沈降が起きたため海岸線の出入の多いアラス式地形を形成する。

河川は大きくわけて伊万里湾に注ぐ有田川、伊万里川と唐津湾に注ぐ松浦川があり、これらの河川沿いには旧石器～古墳時代の遺跡が点在する。有田川は黒髪山、牧ノ山、腰岳、それに国見山を主峰とする西岳溶岩台地の東側斜面が源流である。伊万里市域での有田川流域は二里町八谷と東山代町日尾を結ぶ地先で伊万里湾に注ぐ。伊万里川の源流は牧ノ山、青螺山、今岳、城古岳などが源流であり、観現川、牧川、杏子川、古賀川、白野川などの支流を合わせながら伊万里湾に注ぐ。松浦川の源流は青螺山、黒髪山、神六山、眉山、八幡岳などで、伊万里市の東部を経て下流の相知町を抜けて唐津湾の河口まで流れる。また、小河川は伊万里湾東岸に矢竹川、挿川、立川が、伊万里湾西岸に脇野川、楠久川、佐代川が流れ込む。

伊万里湾は東松浦半島と北松浦半島に挟まれ、湾の奥は深く入り込んでいる。湾は北西方向にV字型に広がり、湾内には福島、飛島、鷹島、青島など多くの島々が点在する。伊万里湾ができる時代は伊万里市域の山々ができる時代と同じころで、新生代第三紀の終わりから第四紀の初めと推測される。このころの伊万里市は海底にあった時代が過ぎ、隆起によって海底が陸地になり、伊万里湾も陸地化した後に地殻変動による断層や温暖期（間氷期）や寒冷期（氷河期）の影響を受けて海となり、陸地部での波打ちや風により浸食する一方で、海の進退を繰り返したことで現在の伊万里湾が形成されたと考えられる。このことは、周囲に見られる断層や海岸線がアラス式海岸となっていることからも伊万里湾の成

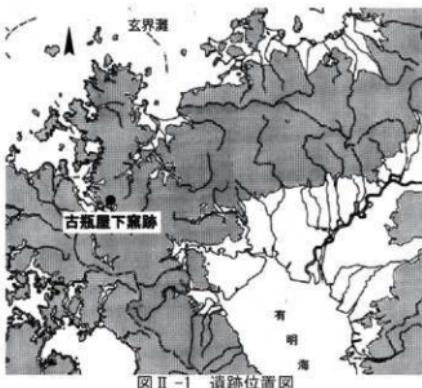


図 II-1 遺跡位置図

因であると推定できる。また伊万里湾の海岸線は自然影響による変化のほか、人為的な変化もある。江戸時代以降に進められた干拓地のほかに、七ヶ島工業団地や伊万里工業団地などの埋め立ての影響により海岸線が大きく変化している。現在、残っている自然海岸は瀬戸町釘島や波多津町平串、弁賀、山代町波瀬などでみられる程度である。

古瓶屋下窯跡が位置する伊万里市脇田町は、伊万里川河口の右岸に位置し、城古岳（標高 404.0m）から南西方向に派生する丘陵部にある。城古岳は第三紀層の堆積岩で、その丘陵の間を開拓する小川は伊万里川を経由して伊万里湾に注ぐ。脇田町内の丘陵端部には同様な谷地形が複数みられ、丘陵端部に窯跡が立地する。

【参考文献】

伊万里市史編纂委員会 2003『伊万里市史自然・地理編』

佐賀県土地対策課 1976『土地分類基本調査伊万里』

原口静雄 1980「伊万里市」『佐賀県の地名』平凡社

原口静雄ほか 1990「伊万里市の地質 山代町」『鳥ん枕 44 号』伊万里市郷土研究会

2. 歴史的環境

※文章中の()は図 II -2 の遺跡番号と遺跡文献を示す。

伊万里市域の旧石器時代の遺跡は、有田川や伊万里川などの河川沿いや国見山系に分布する。ナイフ形石器文化の遺跡としては小木原遺跡（1）や平沢良遺跡（2）がある。小木原遺跡は腰岳の北側中腹に位置し、ナイフ形石器や台形様石器などの製品は少なく、石器加工の際に生じるチップや石核などの石器が多く出土している。平沢良遺跡は朝鮮半島の大陸系石器群である剥片尖頭器が出土している。このことは、大陸との間が陸化や氷結の海峡により陸続きとなり、旧石器文化の交流が行われていたことがうかがわれる。ナイフ型石器文化から細石器文化の特徴をもつ大光寺遺跡（3）は松浦川左岸の標高 38m ほどの河岸段丘上に立地し、黒曜石の集石遺構が 2 ケ所、焼石の集石遺構が 6 ケ所確認されている。細石器文化の遺跡である白蛇山岩陰遺跡（4）は、烏帽子岳から伊万里湾に向かって北東に伸びる丘陵上の庇状の岩陰の遺跡であり、細石刃や細石核、尖頭状石器が出土した。市内の遺跡から出土する石器の多くは腰岳産の黒曜石が使用されていることから腰岳周囲での石器の原石採集による人々の活動がうかがわれる。

縄文時代になると、伊万里市域内で約 350 ケ所の遺跡が確認され、主に腰岳周囲を中心とした石器生産遺跡や狩猟・漁労を行っていた有田川流域や伊万里湾周囲、国見山系の丘陵部などにみられる。しかし、その多くは石器のみの包含層で詳細な時期が特定される遺跡は少ない。主な遺跡としては、縄文時代早期の貝殻押圧文土器や押型文土器が出土した白蛇山岩陰遺跡や樽浦遺跡（5）がある。白蛇山岩陰遺跡は後期旧石器から營まれ、縄文時代早期～晚期の土器を伴う遺跡である。樽浦遺跡は異形局部磨製石器が出土しており縄文時代の祭祀や交易が考えられる。前期では曾畠式土器が出土した金剛島遺跡（6）がある。金剛島遺跡は立川河口に浮かぶ離島に立地する海浜遺跡であり、海底まで広がる遺跡として注目された。出土した土器の中には表面に煤が付着しており、製塩などを行っていたと推測される。中期～後期にかけては並木式土器、坂の下式土器、摩消縄文土器などが出土している打越遺跡（7）や宮ノ前北遺跡（8）などがある。宮ノ前北遺跡は、伊万里湾東岸に注ぐ矢竹川の河口付近に立地し、縄文時代前期～後期にかけての土器が出土しており、土坑内からは人骨が 2 体出土している。宮ノ前北遺跡の土器には打越遺跡と同様の坂の下式土器が多く、これらは有田川の流域に点在する同時期の遺

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	小木原遺跡	25	飯盛城跡
2	平沢良遺跡	26	里館跡
3	大光寺遺跡	27	和田城跡
4	白蛇山岩陰遺跡	28	鹿山城跡 田尻氏館跡
5	櫛浦遺跡	29	伊万里城
6	金剛島遺跡	30	道祖瀬城
7	打越遺跡	31	今岳城
8	宮ノ前北遺跡	32	新久田城
9	鈴桶遺跡	33	日在城
10	牛戻遺跡	34	大川野構館
11	大国遺跡	35	大川野南氏館
12	岩戸山貝塚	36	御船屋跡
13	馬立場遺跡	37	焼山上窯跡
14	土井頭遺跡	38	焼山中窯跡
15	橋本遺跡	39	焼山下A窯跡
16	西尾遺跡	40	大山口窯跡
17	寺路寺古墳	41	古瓶屋下窯跡
18	夏崎古墳	42	上多々良窯跡
19	小島古墳	43	鍋島藩窯
20	銭龜古墳	44	椎現谷高麗神窯跡
21	浦川内東方遺跡	45	徒巣川内窯跡
22	木須崎遺跡	46	御経石窯跡
23	大野岳烽跡	47	清源下窯跡
24	天神掘遺跡	48	椎現谷窯跡

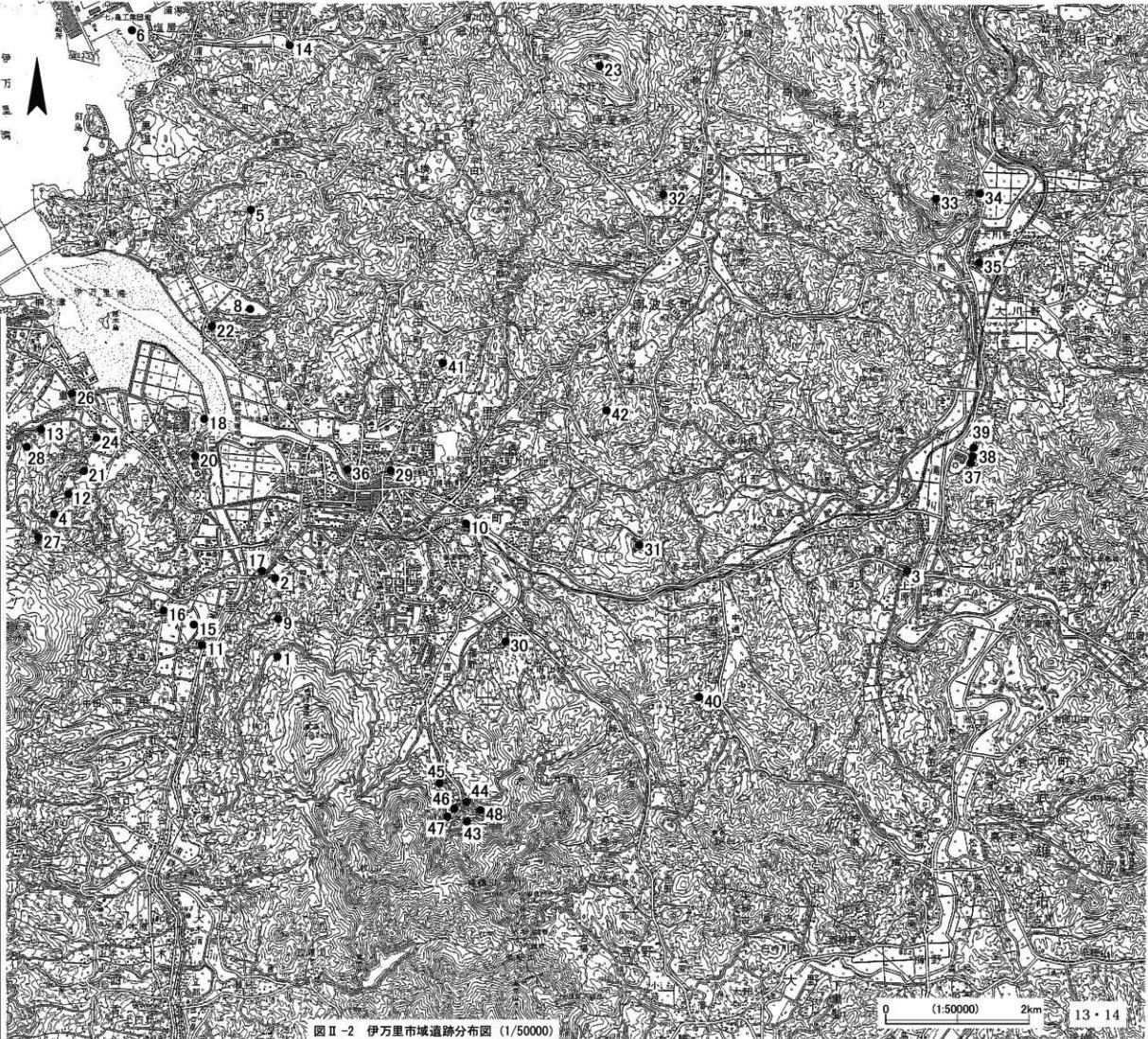


図 II-2 伊万里市域遺跡分布図 (1/50000)

跡出土の遺物と共に多くのものがある。後期以降では鉛桶遺跡（9）や午戻遺跡（10）がある。鉛桶遺跡は有田川右岸に鎮座する黒曜石原産地である腰岳の北麓に立地する。腰岳産の黒曜石のみを使用し石器製作を目的とした遺跡で、土器の出土は全く認められない。石器は大型のものが多く、出土遺物は刀器や石核がほとんどで二次加工が認められる石器は数が少ない。午戻遺跡は有田川左岸で、腰岳から北東に伸びる丘陵の末端部に立地する。集積遺構や炉跡などが検出され、北久根山式土器や黒川式土器など後期～晩期の土器が多く出土している。

弥生時代になると、大陸から水田稲作技術が伝わり水田稲作農耕を中心とした集団社会が発達していくが、伊万里市域の沿岸部は国見山系や上場台地が海岸まで迫ってきておりアース式状の地形であり、平野部が少なく、遺跡が少ない。伊万里市域の遺跡としては、国見山系の丘陵部や伊万里川、有田川、立川などの河川沿い、伊万里湾周囲などで包含層や貝塚、墳墓などが確認されていることから狩獵や農耕を基盤とした生活が続けられていた可能性がある。包含層の遺跡では、伊万里湾西岸の打越遺跡や有田川左岸の大国遺跡（11）などがあり、弥生時代中期～後期の土器が出土している。伊万里湾西岸に注ぐ脇野川流域では後期の岩戸山貝塚（12）や馬立場遺跡（13）があり、カキを主体とする貝類が多く確認されている。墳墓の遺跡では土井頭遺跡（14）、橋本遺跡（15）、午戻遺跡、西尾遺跡（16）などがある。伊万里湾東岸へ注ぐ立川流域の土井頭遺跡は19基の甕棺が出土し、石斧や石庖丁が確認されている。また周囲からは青銅器の銅戈や銅鉾が出土している。有田川左岸の橋本遺跡では甕棺墓20基と箱式石棺墓1基が確認された。

伊万里川左岸の午戻遺跡では甕棺墓内から凝灰岩の管玉などが確認され、石棺墓内では長宜子孫銘連弧文鏡や細線式獸帶鏡片などの鏡のほか鉄器類やガラス製品が出土している。石棺墓の時期は北部九州では弥生時代後期に甕棺墓から石棺墓へという墓制の変化が指摘されていることから後期初頭以降のものと考えられる。有田川左岸の西尾遺跡では、甕棺墓3基や箱式石棺墓1基が検出されている。墳墓以外には丹塗りの土器が伴う土器群がみられ、弥生時代前期～後期の包含層が確認されている。

古墳時代になると、伊万里市域の外海に位置する島嶼部や伊万里湾が外海と接する場所から湾内の範囲に遺跡が分布する。古墳時代前期では前方後円墳の塙路寺古墳（17）と同中期の円墳である夏崎古墳（18）がある。有田川右岸に立地する塙路寺古墳は墳形が三段築成の全長約80mの前方後円墳で、後円部中央に銅鏡が副葬された箱式石棺と墳裾で確認された4基の箱式石棺からなる。中心主体部からは仿製三角縁三神三獸鏡と鉄器類が出土している。また、墳丘部からは埴輪片が出土している。有田川河口部の左岸に立地する夏崎古墳は直径24mと大規模な円墳で、内部主体が単室の横穴石室である。遺物は鉄器類が出土し、その中には小札鉢留眉庇付冑や鉢留短甲がある。これらの短甲は明治25年に花島芳樹によって書かれた「伊万里歳時記花島芳樹隨筆抄写」にも記述が残る。後期では前方後円墳の小島古墳（19）と円墳の錢龟古墳（20）がある。伊万里湾西岸に浮かぶ、古墳時代当時の島に立地する小島古墳は全長約43mの前方後円墳で、主体部は横穴石室である。出土遺物は鉄器類、管玉、土師器などがある。有田川左岸に沿って北方に伸びる丘陵上に立地する錢龟古墳は直径約15mの円墳で、内部主体は横穴石室である。出土遺物は玉類のほか、須恵器がある。

また、伊万里湾西岸に注ぐ脇野川右岸の馬立場遺跡や浦川内東方遺跡（21）や伊万里湾東岸に注ぐ矢竹川河口に立地する宮ノ前北遺跡や木須崎遺跡（22）でも古墳時代の遺物が出土している。

古代の伊万里市域は肥前国松浦郡にあたる。松浦郡は現在の唐津市、伊万里市、平戸市、松浦市、佐世保市の一部などを範囲とし、肥前国で極めて広い面積を有する。松浦郡の古代行政組織は肥前國風土記によれば郷11所、里26所、駅5所、烽8所であり、この中の具体的な地名や駅名は肥前國風土記、

延喜式、和名抄などの史料によってわかる。郷名は肥前国風土記に値嘉郷、和名抄に庇羅、大沼、値嘉、生佐、久利の郷名が記される。里名は肥前国風土記に賀周里がみられるだけである。駅名は肥前国風土記に賀周駅、逢鹿駅、登望駅、延喜式に磐水、大村、賀周、逢鹿、登望の5駅名が記されている。烽は肥前国風土記に褶振烽、値嘉島3所となっている。その他の地名の由来で鏡渡、大家島がみえる。伊万里地域において肥前国風土記などの史料からは直接的なもの、間接的なものはほとんどみられない。その中、徳須恵川左岸に鎮座する大野岳（標高424m）は烽火の伝承があり、大野岳烽跡（23）として周知の埋蔵文化財包蔵地になる。さらに、大野岳の西側丘陵裾部にある黒川町花房にあった浅間神社は貞觀三年（861年）に甲斐国八代郡浅間神社の分靈を甲斐国から来た防人が勧進したとされ、その浅間神社は明治41年に八坂神社に合祀され、現在は扁額と倒れた鳥居だけが残存している。また、黒川町花房には防人坂の石碑や、防人が耕作した伝承がある水田もある。貞觀三年（861年）に甲斐国八代郡浅間神社の分靈を甲斐国から来た防人が勧進したという浅間神社についての真偽は定かでないものの、唐津市中原遺跡から出土した「甲斐国津戍人」の墨書がある木簡との関係が興味深い。その木簡には延暦八年（789年）の年代が記載されており、中原遺跡には、甲斐国出身者の防人が居住し、当遺跡にあったであろう港津施設を守っていたと考えられる。浅間神社の年代とは隔たりがあるものの、甲斐国出身の防人の伝承について想像を逞しくすれば、中原遺跡に居住していた防人の子孫が、大野岳の烽火の守りのため着任したとも推定できる。因みに、大野岳の北東約12.5kmに中原遺跡は位置する。大野岳は周辺では最も高い山であり、晴天時には壱岐島も見渡せる。烽火があったとされる鏡山も展望され、烽火をおくには、最適の地である。（佐賀県教育委員会2009『中原遺跡Ⅲ』佐賀県文化財調査報告書第179集 255頁）

伊万里市内の奈良時代の遺跡は少なく、包含層から同時代の須恵器や土師器が出土した浦川内東方遺跡や宮ノ前北遺跡があり、後者からは「□之」の墨書き土器が出土している。

平安時代後期（1089年）になると、伊万里市域で宇野御厨の名称が初めて宇野御厨別当藤原頼行下文案の史料にみられる。宇野御厨の成立とともに松浦久が揖津の渡辺から今福に来て居住し、宇野御厨の検校になる。松浦久は下松浦今福に下向し、梶谷城を築き本拠地として上松浦全域を配下に置き、その末裔らが松浦地方全域に繁榮し、松浦党を成立する。鎌倉時代になると、山代浦の山代源六團が源頼朝の御家人に列せられ、山代浦頭に補される。その後、文永・弘安の役における松浦党の活躍は「九州治乱記」などにも記され、また松浦山代家文書によると、北條時宗から山代氏の文永の役で活躍した勲章として「恵理」の地頭職をあてがわれている。松浦党の諸氏の所領では主に伊万里氏は「伊万里浦、福島、楠泊、屋武、田平内栗崎海夫・田綱片手」の所領を持ち、現在の伊万里市と長崎県の福島町、小佐々町、平戸市田平町に広がる。山代氏は「山代、多久島、青島、船木、荒古田、東島、五島惣追捕使・定使、伊万里浦」の所領を持ち、現在の伊万里市西部、五島列島に広がっている。中世末期には動乱において松浦党の諸氏は龍造寺氏に征服され、龍造寺氏の戦死後は各藩の所領となっている。

伊万里市域の中世遺跡では、集落遺跡として木須崎遺跡、天神塚遺跡（24）川内野遺跡、西尾遺跡、宮ノ前北遺跡などがある。天神塚遺跡は井戸跡や集石などが検出され生活遺跡と考えられる。井戸跡には灰層や青磁の二次的火熱の痕跡がみられ過去に火災があったことが推測される。また14世紀初頭～15世紀中ごろの輸入陶磁器が出土している。木須崎遺跡では、包含層から瓦器、輸入陶磁器などが出土している。川内野遺跡は多数の掘立柱建物跡や柱穴痕が検出された中世～近世にかけての集落遺跡である。西尾遺跡A地区からは、12世紀～14世紀の掘立柱建物跡や輸入陶磁器を検出している。宮ノ前北遺跡は12世紀ごろの掘立柱建物跡や貝塚を検出している。

城館遺跡は伊万里市域だけで約40ヶ所確認されており、単一の行政体での分布状況としては全国的見ても密集地域である。伊万里湾の西岸の丘陵部には飯盛城跡（25）や里館跡（26）、和田城跡（27）、鹿山城跡・田尻氏館城（28）などが立地する。

飯盛城跡は松浦氏族山代氏の居城である。飯盛城は宇野御厨執行職に補任された源直が「山ン寺」に居所を定めた際に、久安年間（1145～1150年）に築城したとされるが、平安時代末期に恒久的山城が創出された例がない。1192年に肥前国宇野御厨内山代浦住人である源六郎團が当地の地頭職に任せられて以来、その子孫の勢力の成長に応じて段階的に詰城としての体裁が整えられた山城の可能性が高い。また、『海東諸国記』（1471年）に「肥前州下松浦山城太守源吉」とあることから山代一族が室町時代中期まではこの地を拠点として領主権を維持していたことが推測される。1490年以降は松浦地方での攻防が起り飯盛城も本格的な拡張がされて16世紀後半に最終的な補強が施されている。里館跡は久安5年（1149年）に源直が「山ン寺」に居を構えた際の政庁跡と伝えられている。敷地の一部に水郷の痕跡が残っていることから当時は海の入江がこの付近まで来ていたと考えられ、国内や朝鮮、中国とも交流をしていた拠点の可能性があり輸入陶磁器等が出土している。

里館跡の脇に鎮座する青幡神社は、館の鬼門除けとして鎌倉時代八幡宮より勧進したものとされている。里館跡は安政4年（1857年）作成の『松浦郡山代郷図』に濠で囲まれた長方形区画の名残が鮮明に描かれている。

和田城跡は久安年間（1145～1150年）に築城されたとされるが、飯盛城跡と同様に平安時代末期に恒久的山城が創出された例がない。現存する遺構は戦国時代後半期の山城であり、山代氏もしくは田尻氏の所領域の南端に位置する。また宝積寺文書には和田城に纏わる7ヶ寺と書かれている。

鹿山城跡・田尻氏城館は龍造寺氏に屈服した筑後鷹尾城主田尻鑑種が、山代氏が芦原に移封されるのと交替する形で、1587年にに入部した。『西松浦郡誌』では当初は里館に入ったものの、その南西にある麓山に新館を構えたとされる。

この他寺院遺跡として山ン寺遺跡がある。山ン寺遺跡は久安年間（1145～1150年）に2代松浦党祖源四郎大夫直が館を築き総持寺を創建し、松浦党の太祖である初代源大夫久の靈を祀り上下松浦一族の宗廟としたと言われている。遺跡内では源久の遙拝墓、源直夫妻の埋葬墓のほか、中世末～近世の建物跡や土壘、塔群などが検出されている。また14世紀～16世紀にかけての輸入陶磁器が出土しており松浦諸家の交易活動と深い関係があることがうかがわれる。

伊万里湾東岸及び伊万里川東側の丘陵部に立地する城館として、伊万里城（29）、道祖瀬城（30）、今岳城（31）、新久田城（32）、日在城（33）、大川野横館（34）、大川野南氏館（35）がある。

伊万里城は、伊万里氏の居城である。伊万里川河口の北岸、城山公園にあたり、昭和33年の公園造成工事により遺構は失われている。建保6年（1218）8月の源披譲状案（「伊万里文書」）に「峯三郎源上」が「伊万里浦」等を相続したとあり、これをもって伊万里城の築城年代とされるが、確実な史料は残されていない。

道祖瀬城跡は福野氏の居城と伝えられるが、詳細は不明である。永徳4年（1384）の「下松浦住人一揆契諾状」（「山代文書」報I-156-1）には「ふくの因幡守」の名がみえるが、同地との関連は定かでない。

今岳城は地北祇園城の支城と伝わるが、築城の契機に関連する史料は確認できず、詳細は不明である。山頂部に主郭を設け、南斜面に石塁を伴う数段の帶曲輪を備える。

新久田城は『松浦家世伝』に源久の第四子「聞」が新久田に居住し、「新久田四郎」と称したと記すが、

同氏と当地との関連を示す確実な史料は確認されていない。戦国期には波多氏被官の井手野飛騨守の居城とされ、土塁や横掘などの遺構が残存する。

日在城は、『松浦家世伝』等によると、源直の第四子、遊が久寿年間(1154～56)に築城し、大河野姓を称したとされるが、築城の契機を示す一次史料は知られていない。大河野氏が途絶え、天文年間(1532～55)には波多氏庶流の鶴田氏が居城したと考えられる。

大川野構館は、鶴田氏被官の屋敷地区と伝承されており、矢房神祠の周辺の畠地は、峯五郎被官の屋敷地区と伝えられている。峯五郎被は、大河野氏の初代遊の弟とされ、平戸松浦氏の祖とされる人物である。

大川野南氏館は、『松浦昔船』にみえる「南源三郎重繁」の館と考えられ、『松浦記集成』には「大川野村 南ノ館」がみえるが、このほかに関連する史料は確認できない。

近世になると、伊万里市は佐賀藩領と唐津藩領にわかれる。佐賀藩領は佐賀本藩領と小城藩領から構成されていた。「肥前国佐嘉領村々目録」によると天明七年(1787)には佐賀本藩には伊万里村・脇田村・岩立村・喜須村・今嶽村・六仙寺村・大河内村・平尾村・立岩村・山方村・中野原村・中里村・大里村があり、小城藩領は山城郷が所領であり、里村・脇野村・大窪村・武河内村・河内野村・大成木村・久原村・楠久村・城村・立岩村が、また、「大小配分石高帳」では、瀧川内村・川内野村・大成木東分・同西分・立岩村・久原村・福川内村・楠久村・脇野村・運村・東大久保村・城峯村・南大久保村・西久保村の村名が小城藩領としている。唐津藩領のうち現在の伊万里市に所属するのは「松浦拾風土記」によると大川野組七村・井手野十二村・黒川組十一村一浦・畑河内組十村・板木組八村である。

佐賀藩領内において伊万里は陶磁器の窯業によって陶磁器の輸出地として重要な地域にあたり、伊万里湾には佐賀鍋島本藩により寛文13年に伊万里津と楠久津に御舟手役所が設けられ、伊万里津には御船屋跡(36)がある。御船屋跡は万延元年(1860)の「松浦郡伊万里郷絵図」によると櫛の歯形の船だまりが伊万里川河口に描かれ、建物群の中に御船屋と記されている。

窯跡について、『肥前古陶磁窯跡』によると、伊万里市内には81基の窯跡がある。町別では、大川内町23基、松浦町20基、大川町17基、南波多町9基、脇田町5基、立花町3基、東山代町2基、山代町1基、波多津町1基である。窯跡の大半は陶器窯で、磁器窯は大川内町に10基、立花町に3基でこの他、陶器と磁器を併用して焼成した窯跡が数基ある。

伊万里市内で操業時期が最も古いと考えられる窯跡として、大川町の焼山上窯跡(37)、焼山中窯跡(38)、焼山下A窯跡(39)、大川内町の大山口窯跡(40)がある。操業時期は1580年代～1600年代で、これらの窯構造は割竹式登窯と考えられている。

本書に掲載する古瓶屋下窯跡(41)は、脇田町内の他の4基とともに、脇田窯跡群を形成するが、肥前(佐賀県、長崎県)の窯跡群の分布では、周縁部に立地する。本窯跡群と最も至近にあるのは、西方約2.3km付近の南波多町大字府招に分布する上多々良窯跡(42)ほか5基の窯跡群である。上多々良窯跡は確認調査が実施されており、擂鉢、香炉、碗、簡茶碗、鉢、徳利(瓶)、小皿などが出土している。

大川内町の大川内山の集落には、鍋島藩窯跡(43)をはじめとして10基以上の窯跡が分布する。権現谷高麗神窯跡(44)と徒幾ノ川内窯跡(45)の操業時期は1590年代～1610年代と考えられる。権現谷高麗神窯跡は割竹式登窯で、胎土目の絵唐津皿や灰釉碗が主体であり、他に片口や叩きよる壺等を焼成している。徒幾ノ川内窯跡の製品は皿、鉢、片口、擂鉢等である。

御経石窯跡(46)と清源下窯跡(47)の操業時期は1660年代～1670年代と考えられている。御経石窯跡は磁器と陶器が焼成されており、陶器には京焼風や呉器手風のものがある。清源下窯跡の製品

の主体は染付磁器碗である。京焼風陶器椀は少ないが、露胎の高台裏に「清水」「定」などの押印をもつものがある。

日峰社下窯跡の操業年代は 1650 年代～ 1670 年代と考えられている。本窯跡の主製品は一般的な染付綱文碗や窓絵笛文碗、高台無釉の青磁碗であるが、「初期鍋島」が出土したことから注目を浴びた。権現谷窯跡（48）の操業年代は 1780 年代～ 1810 年代と考えられている。製品はすべて磁器であり、大半は染付小碗であり、少数ではあるが、広東碗も出土している。

大川内鍋島窯跡は、鍋島藩が將軍家への献上や大名・公家などへの贈答などのために採算度外視で特別挑えの磁器を作らせたもので、鍋島焼と呼ばれ日本の磁器で最も精巧なものである。磁器の皿や小鉢、香炉などが製造されている。操業時期は 1650 年前後～明治 4 年の廃藩置県までの長期に渡る。

二本柳新窯跡や精巧社窯跡は藩窯廃絶後の明治期に操業した。その他、清源上窯跡、不動尊上窯跡、三本柳新窯跡などが知られているが詳細は不明である。

【参考文献】

伊万里市教育委員会 2002『伊万里の文化財』

伊万里市史編纂委員会 2006『伊万里市史原始・古代・中世編』伊万里市

伊万里市史編纂委員会 2006『伊万里市史近世・近代編』伊万里市

伊万里市史編纂委員会 2006『伊万里市史資料編』伊万里市

原口静雄 1980『佐賀県の地名』平凡社

佐賀県教育委員会 2017『佐賀県の中近世城館第 4 集 各説編 3』佐賀県文化財調査報告書第 216 集

佐賀県教育委員会 1999『肥前古陶磁窯跡 基礎調査・基本方針策定報告書』第 1 分冊、第 2 分冊

【遺跡文献】 遺跡文献番号は遺跡番号と照合する

1. 島内浩輔 2002『小木原遺跡』伊万里市教育委員会

2. 盛峰雄 2006『平沢良遺跡』伊万里市史原始・古代編』伊万里市

3. 伊万里市教育委員会 1992『大光寺遺跡』伊万里市文化財調査報告書第 37 号

4. 森醇一郎 1976『白蛇山岩陰遺跡』佐賀県立博物館

5. 船井向洋 1998『樽浦遺跡』伊万里市教育委員会

佐賀県教育委員会 1999『樽浦遺跡』『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 17』

佐賀県教育委員会 1999『樽浦遺跡』『佐賀県文化財年報 4』

6. 佐賀県教育委員会 1973『金剛島遺跡・源平岩洞穴遺跡発掘調査概報』佐賀県教育委員会

7. 佐賀県教育委員会 2017『打越遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 217 集

8. 船井向洋 1996『宮ノ前北遺跡』伊万里市教育委員会

佐賀県教育委員会 1997『宮ノ前北遺跡』『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 15』

船井向洋 2008『宮ノ前北遺跡 D 地点』伊万里市教育委員会

9. 盛峰雄 1985『鈴桶遺跡』『天神掘遺跡・浦川内東方遺跡・鈴桶遺跡』伊万里市教育委員会

10. 佐賀県教育委員会 1999『午戻遺跡』『佐賀県文化財年報 4』

伊万里市教育委員会 2000『午戻遺跡』

11. 荒谷義樹 1998『大国遺跡』伊万里市教育委員会

佐賀県教育委員会 1999『大国遺跡』『佐賀県文化財年報 4』

12. 伊万里市郷土研究会 1976 「岩戸山貝塚」『いまりの歴史散歩』
13. 伊万里市教育委員会 1987 『馬立場遺跡』伊万里市文化財調査報告書第 21 集
14. 船井向洋 2006 「土井頭遺跡」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
15. 船井向洋 2006 「橋本遺跡」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
16. 船井向洋 1988 「西尾遺跡 A 地点」伊万里市教育委員会
船井向洋 1988 「西尾遺跡 B 地点」伊万里市教育委員会
船井向洋 1989 「西尾遺跡 C 地点」伊万里市教育委員会
佐賀県教育委員会 1989 「西尾遺跡」『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 7』
17. 船井向洋 2006 「塙路寺古墳」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
18. 船井向洋 2006 「夏崎古墳」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
19. 伊万里市教育委員会 1974 「小島古墳」伊万里市教育委員会
船井向洋 2006 「小島古墳」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
20. 船井向洋 2006 「錢龜古墳」『伊万里市史原始・古代編』伊万里市
21. 伊万里市教育委員会 1985 「天神掘遺跡・浦川内東方遺跡・鈴桶遺跡」伊万里市文化財調査報告書
第 17 集
22. 伊万里市教育委員会 1992 「木須崎遺跡」伊万里市文化財調査報告書第 36 集
23. 伊万里市郷土研究会 1976 「大野岳烽火場跡」『いまりの歴史散歩』
24. 盛峰雄 1985 「天神掘遺跡」「天神掘遺跡・浦川内東方遺跡・鈴桶遺跡」伊万里市教育委員会
佐賀県教育委員会 1985 「天神掘遺跡」『佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書 3』
25. 宮武正登 2006 「飯盛城跡」『伊万里市史中世編』伊万里市
26. 宮武正登 2006 「里館跡」『伊万里市史中世編』伊万里市
27. 宮武正登 2006 「和田城跡」『伊万里市史中世編』伊万里市
28. 宮武正登 2006 「鹿山城跡・田尻氏館城」『伊万里市史中世編』伊万里市
29. 宮武正登 2017 「伊万里城」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
30. 宮武正登 2017 「道祖瀬城跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
31. 宮武正登 2017 「今岳城跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
32. 宮武正登 2017 「新久田城跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
33. 宮武正登 2017 「日在城跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
34. 宮武正登 2017 「大川野構館跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
35. 宮武正登 2017 「大川野南氏館跡」『佐賀県の中近世城館第 4 集』佐賀県文化財調査報告書第 216 集
36. 原口静雄 1980 「御船屋跡」『佐賀の地名』平凡社
37. 伊万里市教育委員会 1988 「焼山上窯跡」『金石原窯辻窯跡・焼山上窯跡・焼山中窯跡・市の瀬高麗神上窯跡』伊万里市文化財調査報告書第 24 集
38. 伊万里市教育委員会 1988 「焼山中窯跡」『金石原窯辻窯跡・焼山上窯跡・焼山中窯跡・市の瀬高麗神上窯跡』伊万里市文化財調査報告書第 24 集
39. 伊万里市教育委員会 1984 「焼山下窯跡 A」『古窯跡分布調査報告書』伊万里市文化財調査報告書
第 16 集

40. 船井向洋 1998「大山口窯跡について」『江戸前期における九州・山口地方の陶器』第8回九州近世陶磁学会資料
41. 本書
42. 伊万里市教育委員会 1990「上多々良窯跡」『上多々良窯跡・権現谷高麗神窯跡・日峯社下窯跡』伊万里市文化財調査報告書第30集
43. 伊万里市教育委員会 1976『大川内山鍋島藩窯発掘調査概報（第三次調査）』
伊万里市教育委員会 1977『大川内山鍋島藩窯発掘調査概報（第四次調査）』
伊万里市教育委員会 1978『大川内山鍋島藩窯発掘調査概報（遺物編）』
44. 伊万里市教育委員会 1990「権現谷高麗神窯跡」『上多々良窯跡・権現谷高麗神窯跡・日峯社下窯跡』伊万里市文化財調査報告書第30集
45. 伊万里市教育委員会 1993「徒幾ノ川内窯跡」『古瓶屋中窯跡・徒幾ノ川内窯跡・鞍壺窯跡』伊万里市文化財調査報告書第40集
46. 伊万里市教育委員会 2004「御経石窯跡」『日峯社下窯跡』伊万里市文化財調査報告書第49集
47. 伊万里市教育委員会 2004「清源下窯跡」『日峯社下窯跡』伊万里市文化財調査報告書第49集
48. 伊万里市教育委員会 1986『権現谷窯跡』伊万里市文化財調査報告書第19集

III. 遺構

1. 遺跡の概要

古瓶屋下窯跡は伊万里市脇田町に所在する。

窯跡は伊万里市街地の北東部に位置する城古岳（標高404m）から南西に派生した丘陵裾部の谷筋に接して、南西にのびる狹小な丘陵尾根部の緩斜面（標高約27m～40m）に築かれる。窯跡が立地する丘陵の南西側は溜池が造られていることから、比較的急峻な谷地形であったと思われる。一方、丘陵東側の水田部の中央には、幅約2mの小川が流れ、その上流にも溜池があることから、溜池の築堤以前は、小川が氾濫し、転石が堆積する氾濫原であったと思われる。確認調査では、この転石を含む氾濫原の堆積物を確認し、その埋土中から、窯跡の焼成品である陶器や窯道具などは出土しておらず、窯に関する工房跡なども検出できなかった。2つの溜池や水田の造営時期は、不明確であるが、安政2年（1855年）の松浦郡伊万里郷脇田村図には、2つの溜池と小川が見える。さらに、窯跡の位置には「ハカ」との記載があり、この絵図の時期には、本窯跡は廃絶し、墓所になっていたことがわかる。図III-1の周辺地形図と図III-2の安政2年の絵図を見比べると、谷筋を流れる川や道は変わらず、絵図の道路の北側に散在する民家は現在もみられ、現在もなお、絵図当時の風景を残していることがわかる。

本窯跡の周辺の遺跡についてであるが、同じ谷筋には、古瓶屋下窯跡や、谷を挟んで向かい側の丘陵部には脇田韓人墓が立地する。古瓶屋下窯跡は、平成4年に伊万里市教育委員会が確認調査を実施した。その結果、複数のトレーンチで窯室の一部を確認し、甕、摺鉢、壺、徳利、大皿、窯道具などが出土した。古瓶屋下窯跡の東方の小さな谷を挟んで位置する南北の丘陵上に、古瓶屋上窯跡があるとされている。現状は、民家の北側のなだらかな丘陵斜面であるが、窯壁や陶磁器片は見られず、確認調査も実施されていないため詳細は不明である。

古瓶屋下窯跡の立地する西隣の谷筋には瓶屋窯跡とその工房跡と推定される瓶屋遺跡がある。瓶屋窯跡及び瓶屋遺跡は伊万里市教育委員会が昭和63年度に確認調査を実施した。その結果、窯跡は、全長約66m、窯室幅6.7m以上と推定された。磁器の染付椀、皿や甕、高台付擂鉢、窯道具などが出土した。瓶屋遺跡は、瓶屋窯跡に隣接した北側に立地しており、陶器の甕、摺鉢、壺、捏鉢、徳利、磁器の染付椀、皿、鉢などが出土し、瓶屋窯跡の生産に従事した工人の工房跡と考えられている。

この他、瓶屋窯跡の立地するさらに西隣の谷頭に、平山窯跡があるが、調査歴はなく、現状は、整地された階段状の水田となっており、遺物も散乱していないく、詳細は不明である。

【註】

- 佐賀県立図書館所蔵 佐賀藩作成の彩色手書の絵図。1855年（安政2年）作成 法量縦352cm、横228cm

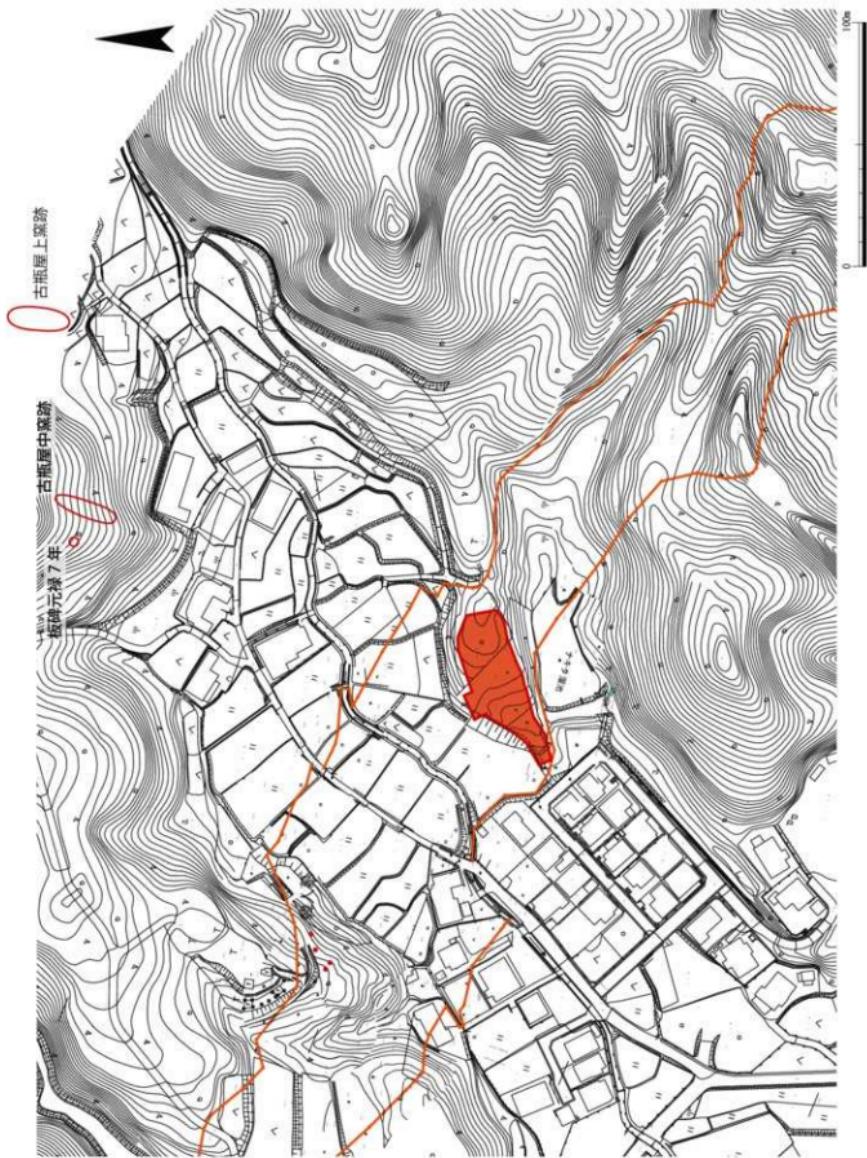
【参考文献】

伊万里市教育委員会 1984 「古窯跡分布調査報告書」伊万里市文化財調査報告書第16集

伊万里市教育委員会 1988 「瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡」伊万里市文化財調査報告書第27集

伊万里市教育委員会 1993 「古瓶屋下窯跡・徒幾ノ川内窯跡」伊万里市文化財調査報告書第40集

图 III - 1 周边地形图 (1/2000)



表III-1 遺構一覧表

遺構番号	遺構種別	規模(m)			概要	調査時遺構番号
		長さ(長軸)	幅(短軸)	高さ(深さ)		
S Y O 1	窯跡	遺存長 53.3			12室と13室は一部を確認	S O 1
S J O 2	埋甕				SYO1の1室の奥壁外壁沿いに7基の甕を正置。	S O 2
S D O 3	溝状遺構		最大幅 1.9	1	SYO1の5室～7室の右側壁の外側の溝状遺構。	S O 3
S P O 4	小穴	0.35	0.26		SYO1の1室の右側壁の外壁沿いの小穴	S O 4
S K O 5	土坑	0.75	0.41	0.28	SDO3と切合う土坑	S O 5
S D O 6	溝状遺構				SYO1の5室奥壁を囲む溝状遺構	S O 6
S J O 7	埋甕				SYO1の1室の西方に、3基の甕を正置。	S O 7
S J O 8	埋甕				SYO1の9室の西方に、3基の甕を正置。	S O 1～9作業段

2. 遺構

階段状連房式登窯1基と窯跡に付随する埋甕や溝などの遺構を確認した。表III-1に遺構一覧表、図III-5に遺構配置図を掲載する。

遺構の事実記載にあたっては、主な調査担当者である加藤裕一の調査所見を聞き取りし、協議のうえ執筆した。遺構略号について、調査時はS O 1、S O 2、S O 3・・のようにSの後に二桁の連番としていたが、本書では、遺構略号を付し、遺構略号の後に二桁の連番を付けた。従って、出土品には調査時の遺構名で注記されている。

(1) 窯跡

階段状連房式登窯である。図III-6に窯跡平面図・断面図、図III-7に窯跡縦断面土層図を掲載する。

焼成室の名称は窯戸から1、2、3・・と番号を付け焼成室の名称とした。遺構種別記号-遺構番号はS Y O 1であるが、本文中では、S Y O 1を略し、窯跡と記す。

胴木間およびその上位の焼成室は調査区外にのびており、調査したのは1室から13室の一部であり、調査できた焼成室も、9室以下は徐々に調査区から外れる。発掘調査で確認できた窯跡の遺存規模は、水平全長53.5mである。

焼成室の出入口は胴木間側からみて、左側に設けられる。焼成室出入口のさらに左側は、丘陵の地山を階段状に整形し、平坦な区画を作り出しており、製品の窯入れ、窯出し時の作業場と思われる空間を作り出す。

焼成室の砂床が複数面みられるものは、第1面(上面)、第2面(下面)と段階的に掘り下げ、それぞれ精査のうえ、写真撮影、平面実測を行った。但し、本書に掲載する平面図の第1面、第2面と土層図中の層序注記の第1面、第2面とは正確には対応しない。

1室から7室では側壁の改修はみられず、焼成室の砂床が複数面、確認できたため第1面、第2面と呼称した。また、8室から12室は両側壁を改修し、焼成室の幅を縮小しており、さらに9室と10室は焼成室から胴木間に改築することにより、窯の焼成室数も縮小させるなどの変遷がみられた。各焼成室の土層図は、窯主軸に設定した長軸トレントと、それに直交したAトレントで土層を精査し、本書

図III-2 『松浦郡伊万里郷船田村圖』安政2年（1855年）



に掲載している。

各焼成室の計測値は表III-2に、その凡例を図III-9に掲載する。計測値の中の床面傾斜角度は窯室の全体奥行と奥壁側と火床側の床面高低差により算出した。従って、焼成室の中で、床面傾斜角度が変わるもののは、反映されていない。また、焼成室内の各部位については、焚口から窯尻に向かって右側壁、左側壁と呼称する。以下、焼成室ごとに記す。

1室

窯尻にあたる1室の主軸は、2室～5室の主軸から北東へ約12度振れ、焼成室最大幅が2室より、2.4m狭い。奥壁の外側に、奥壁と並行した7基の埋甕からなるSJ02埋甕を検出した。また、右側壁の外側に、窯壁と接するようにSP04小穴が位置する。さらに、左側壁の外側に直線的に並んだ小穴5基を検出した。石材の抜き取り跡か。

焼成室は1面と2面を検出した。奥壁は、高さ約0.1mほど遺存するが、両側壁は削平され、床面には砂床が遺存する。焼成室外の被熱部により平面形がわかる。1面には幅約1mの火床らしき痕跡が残るが、砂床との境は不明瞭である。1面の砂床は床面のほぼ全域にみられ、2面は床面の中央付近で検出できた。

1面の全体奥行は4.5mで、最大幅は4.5m、床面傾斜角度は5.33°である。2面の全体奥行は4.5mで、最大幅は4.2m、床面傾斜角度は6.18°である。

埋土についてであるが、長軸トレンチの1層のにぶい褐色細礫層は2cm～8cmと薄く、その直下に3層の明緑灰色細礫～細粒砂である砂床を敷く。4層を挟み、7層は砂床であり、灰白色細礫～細粒砂を敷く。

遺物はトチン、ハマなどの窯道具が比較的多く、トチンは窯室の奥壁右隅部に壁面に沿って並べたような状態で出土した。その他、陶器の甕、椀、皿、鉢などが出土した。

2室

本窯の焼成室では規模が最も大きく、全体奥行は4.2mで、最大幅は6.9m、床面傾斜角度は7.37°である。床面は1面のみ検出した。奥壁は最大高0.8mが遺存する。また、右側壁の奥壁側が、長さ約1.4mほど遺存するが、左側壁は遺存しない。奥壁と並行して、幅約1.3m～1.5mの砂床を検出した。また、火床の残存部らしき痕跡を部分的に検出した。奥壁裏込めに火除けや楔形ハマなどを用いていた。

埋土の1層は、窯廃棄後の客土であるにぶい赤褐色シルトで、最大厚0.6m程堆積しており、埋土中に陶器片、窯壁片、焼土ブロックを多く含み、炭の小片を少量含む。1層の直下で、基盤層の直上に、2層のにぶい褐色細礫～細粒砂層である砂床が部分的に遺存する。

床面直上から窯の部材であるほぼ完形の火除け3石と楔形ハマが数個体出土した。出土遺物は比較的多く、陶器の甕、擂鉢、椀、皿、鉢、トチン、ハマなどの窯道具などが出土した。

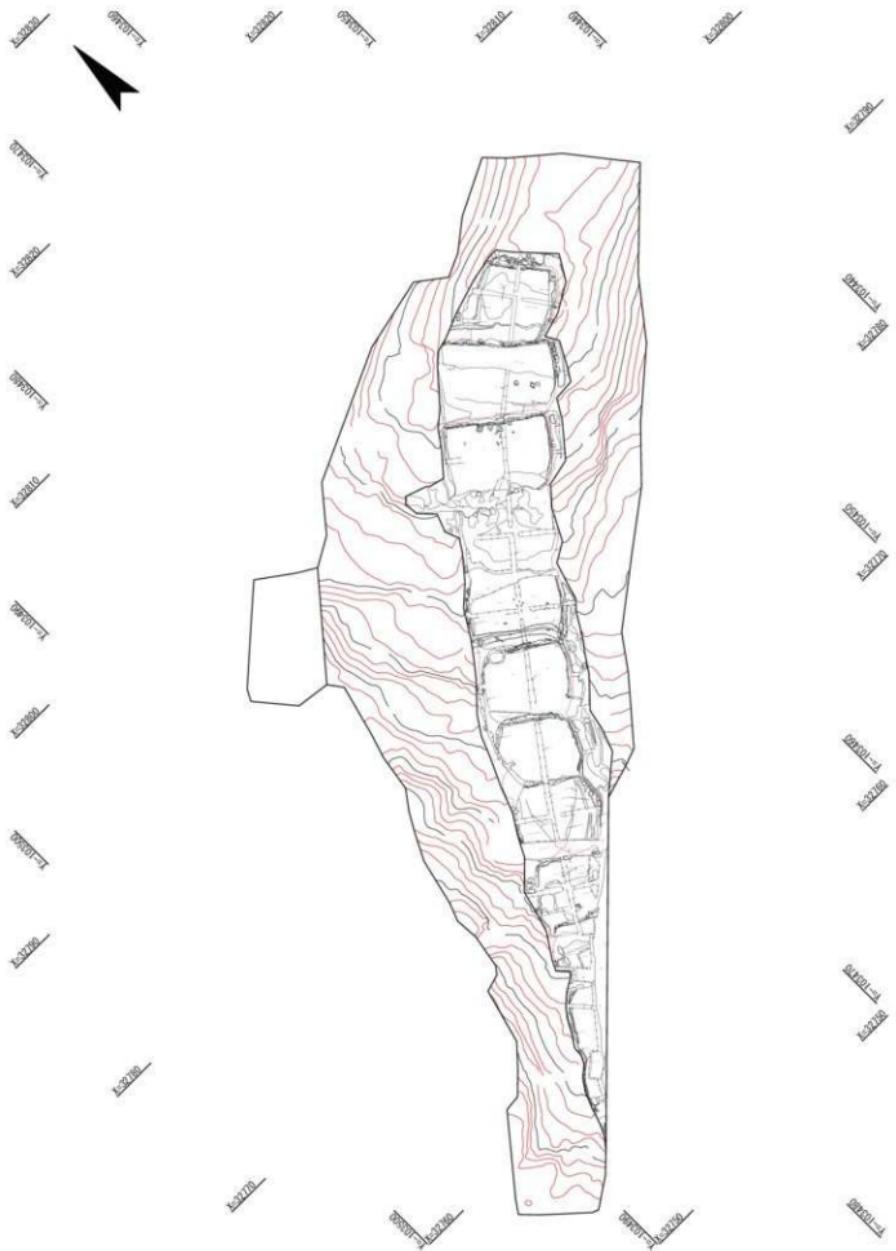
3室

平面形と規模は2室と類似する。

焼成室は1面と2面を検出した。1面の全体奥行は4.0mで、最大幅は6.3m、床面傾斜角度は10.66°である。奥壁は最大高0.2mが、右側壁は最大高0.3mが遺存する。左側壁は奥壁側が若干、遺存する。



図 III -3 古瓶屋下窯跡地形図(調査前) (1/300)



図III-4 古瓶屋下窯跡地形図（完掘後）(1/300)

床面の広範囲から多量の楔形ハマが規則的に並んで出土した。これは、同じ大きさのくさび形ハマ2対が向きを揃えて置かれたものである。

2面の全体奥行は4.2mで、最大幅は6.2m、床面傾斜角度は11.05°である。奥壁は最大高0.8mが、右側壁は最大高0.3mが、右側壁は奥壁側が高さ0.75mと最も遺存し、4室側に向かって低くなる。左側壁は奥壁側が最大高0.4mで、長さ1.8mほど遺存する。

奥壁は倒れ気味に内傾化しており、その倒壊を防ぎ養生するかのように支え材を2カ所に並べて、配置していた。2カ所の支え材の横には、床面に支え材1点が遺存しており、本来、支え材は3カ所に配置していたものと考えられる。

奥壁壁面を剥がし、裏込めの確認を行った。奥壁裏込めは、平面長方形の石材を重ね積みする中に、楔形ハマ数個を打ち込み、裏込めとしていた。

埋土について、長軸トレンチの1層は、窯廐棄後の客土であるにぶい赤褐色シルトで、埋土中に陶器片、窯壁片、焼土ブロックを含む。その直下に2層の灰褐色細礫～シルトの第1面砂床が部分的に遺存する。また、基盤層の直上に7層の灰黄色粗粒砂～シルトの第2面砂床を敷く。第1面床面はほぼ水平であるが、第2面床面は、奥壁側に3層、4層、5層、6層を断面三角形状に盛すことにより、第1面床面の傾斜をつける。従って、第1面床面は、火床から床面中央までは水平で、奥壁側は傾斜をもつ。

出土遺物は甕、擂鉢、碗、鉢、皿、楔形ハマなどの窯道具などがある。

4室

床面は複数の植林の根により攪乱を受け、さらに奥壁及び両側壁とも削平を受け、遺存状態が悪かった。1面のみの検出であり、被熱部の痕跡範囲で焼成室のプランが判る。全体奥行は4.6mで、最大幅は5.5m、床面傾斜角度は13.01°である。床面の中央に明緑灰色粗粒砂～細粒砂の砂床が遺存していた。

出土遺物は甕、擂鉢の破片などが少量出土した。

5室

焼成室は1面の検出である。奥行3.9m、最大幅5.5m、床面傾斜角度は9.1°である。奥壁、左側壁は削平され、左側壁の中央付近に壁面の基底石が数石と窯壁基部が残存する。右側壁は最大高0.3m、高さ約3.9m程遺存する。埋土の1層は、にぶい褐色シルトで焼土ブロックと窯壁片を多く含み、窯廐棄後の客土と思われる。この直下の2層は灰褐色細礫～細粒砂であり、砂床である。幅約0.3mの火床が検出できたが、火床境はみられなかった。

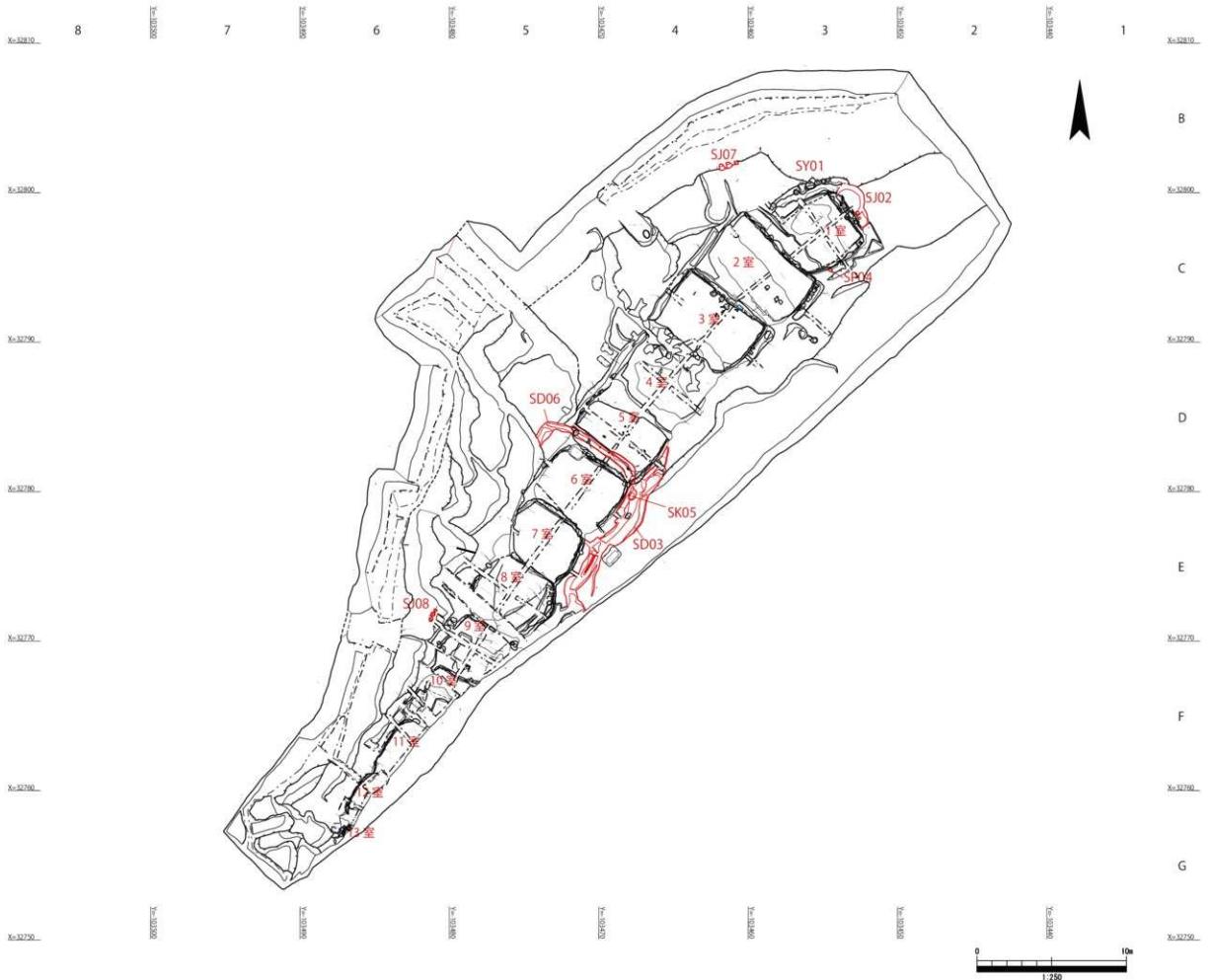
焼成室の中央から右側壁側にかけて、円筒形の焼台、約20個が直立あるいは倒れた状態で検出した。また楔形ハマも出土した。焼成室の左側には完形の甕やその破片が出土した。

出土遺物は甕、擂鉢、円筒形の焼台、楔形ハマなどがある。

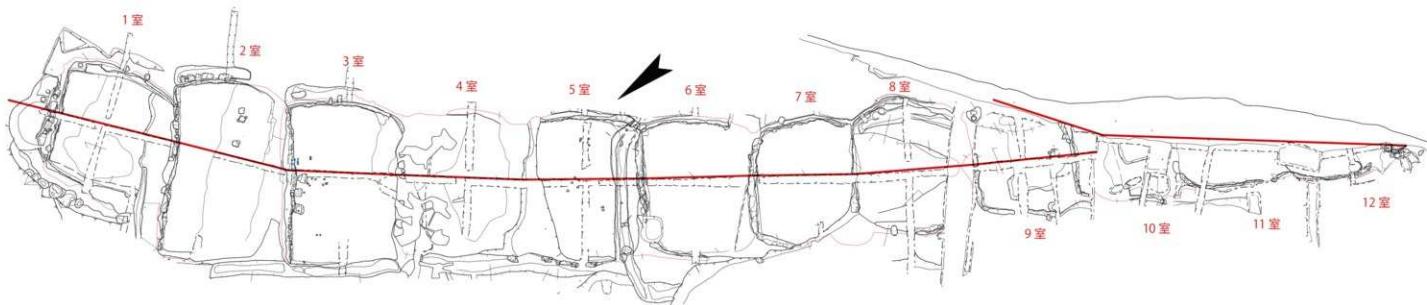
6室

焼成室は1面と2面を検出した。1面の全体奥行は4.0mで、最大幅は5.1m、床面傾斜角度は10.50°である。奥壁と左側壁が交わる隅部は長径約1.2mの隅丸長方形の土坑状に攪乱を受けていた。また、焼成室の火床側に確認調査のトレンチ跡が横断する。

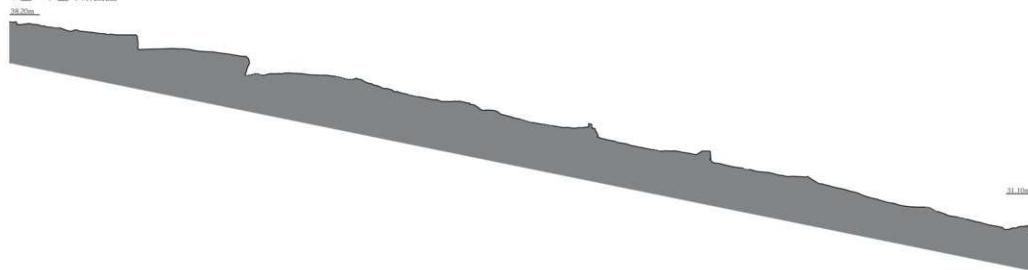
奥壁は中央から右側が最大高0.35m、右側壁は最大高0.4m遺存し、左側壁は中央部から奥壁側がわずかに遺存する。床面から小型甕や擂鉢片が出土しており、床面の中央から奥壁側にかけて、多量の楔



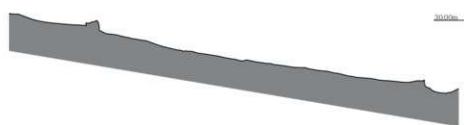
図III-5 遺構配置図 (1/250)



1室～9室の断面図

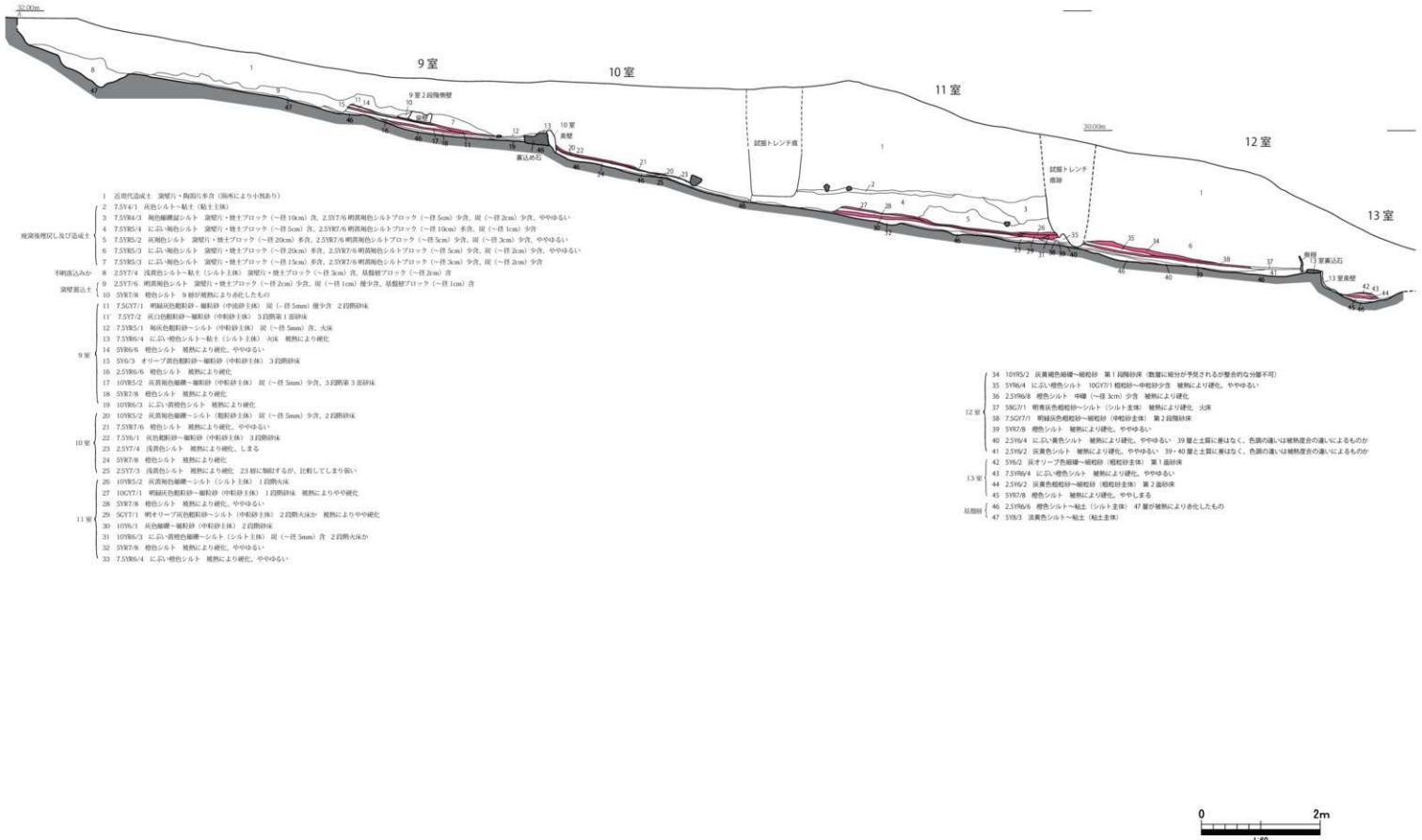


9室～12室(13室)の断面図

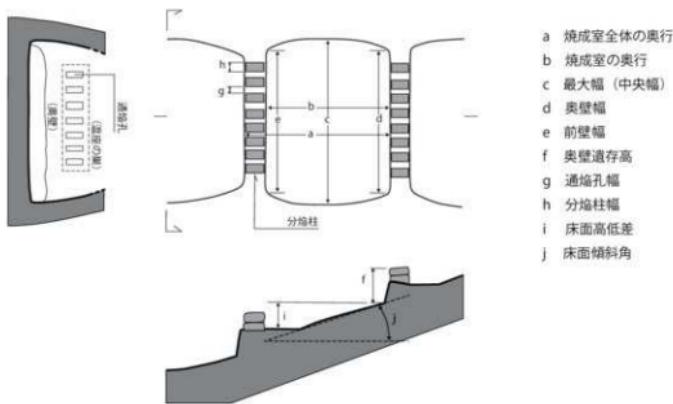


0 5m
1:150

図III-6 窯跡平面図・断面図 (1/150)



図III-8 調査区南壁土層図 (1/60)

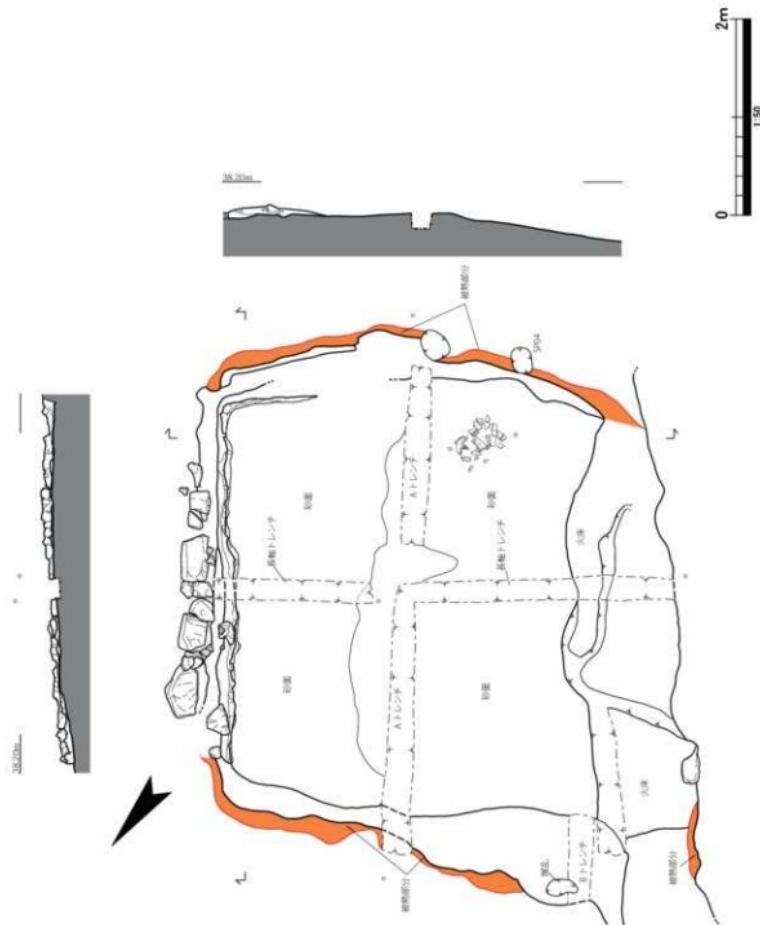


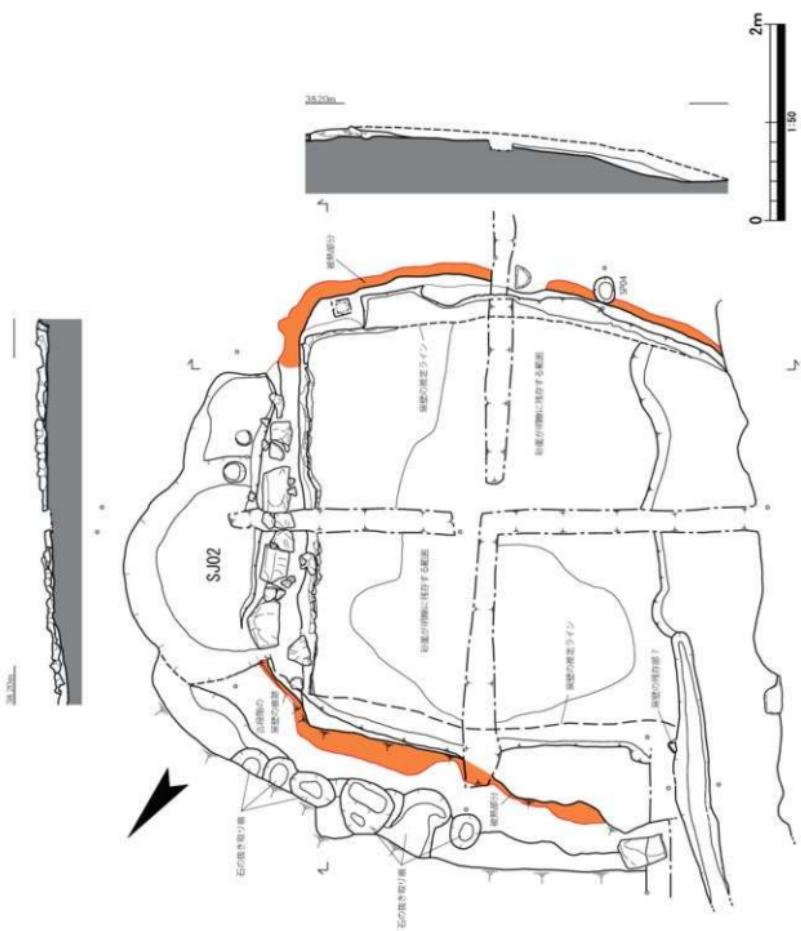
図III-9 焼成室計測値凡例

表III-2 焼成室計測値一覧 (m)

焼成室	a 全体奥行 (遺存長)	c 最大幅 (中央幅)	d 奥壁幅	e 前壁幅	f 奥壁遺存高	l 床面高低差	j 床面傾斜角度
1室 1面	4.5	4.5	3.7	4.1	0.1	0.42	5.33
1室 2面	4.5	4.2	3.6	3.9	0.1	0.487	6.18
2室	4.2	6.9	6.4	6.2	0.8	0.543	7.37
3室 1面	4.0	6.3	6.2	5.7	0.2	0.753	10.66
3室 2面	4.2	6.2	6.2	5.6	0.8	0.82	11.05
4室	4.6	5.5	5.5			1.063	13.01
5室	3.9	5.5				0.625	9.10
6室 1面	4.0	5.1			0.4	0.741	10.50
6室 2面	4.1	5.3		5.1	0.5	0.602	8.35
7室 1面	3.8		3.7		0.2	0.683	10.19
7室 2面	3.7	4.7	4.0	3.4	0.3	0.716	10.95
8室 1段階	4.0	4.3	3.9			0.525	7.48
8室 2段階	3.5	5.1	3.6		0.2	0.928	14.85
8室 2段階(胴木間)	4.3	2.6					-
9室 1段階(胴木間)	2.9	2.6	2.6			0.545	10.83
9室 2段階	3.5	3.8	3.5	3.2	0.3	0.705	11.39
9室 3段階	3.7				0.3	0.604	9.27
10室 1段階	3.0				0.3		-
11室 1段階	4.1						-
11室 2段階	4.0						-

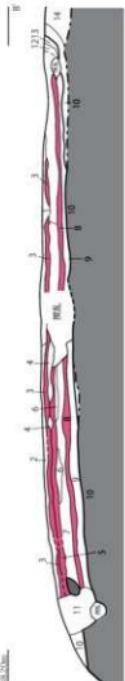
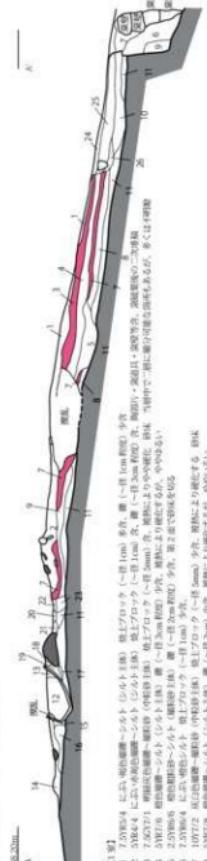
図III-10 1室第1面平面図・断面見通図 (1/50)





図III-11 1室第2面平面図・断面見通図(1/50)

長崎市立歴史博物館

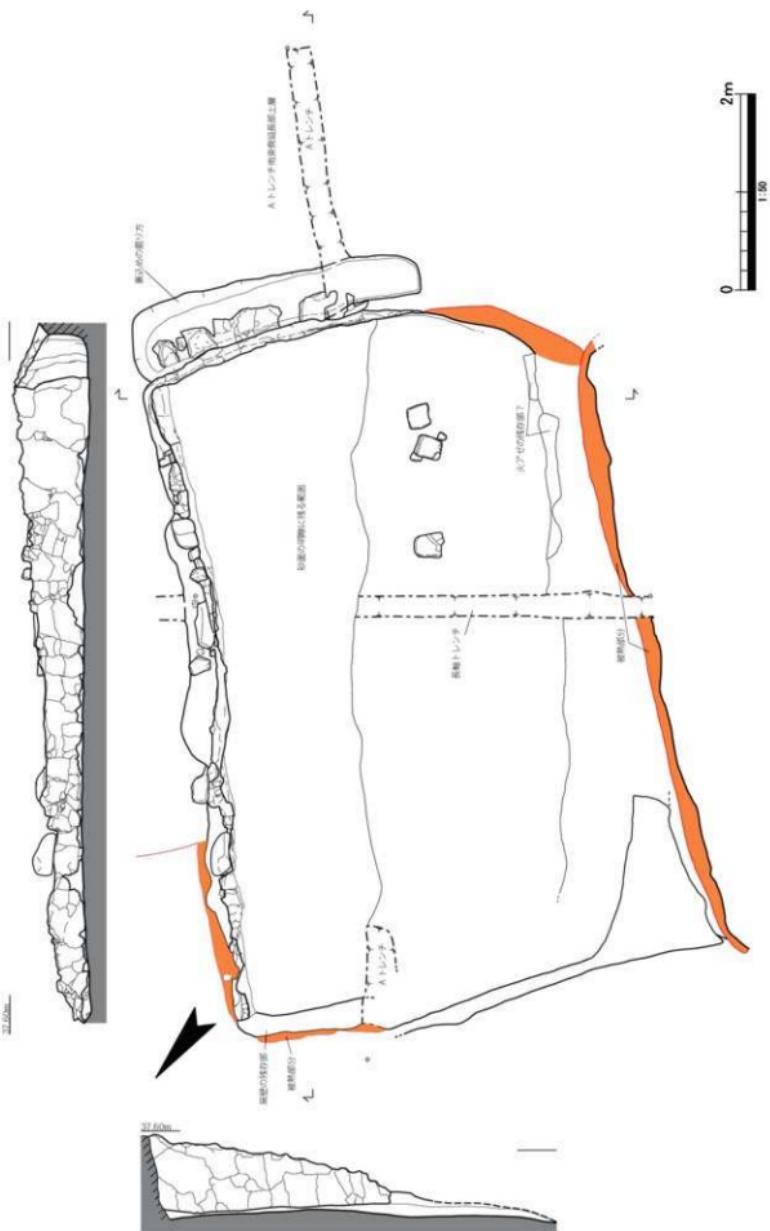


1. 2008.5. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。モルガウト（モルガウト）を採集。
2. 2008.5. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。モルガウト（モルガウト）を採集。
3. 2007.11. 新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
4. 2008.6. 新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
5. 2007.11. 新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
6. 2008.6. 新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
7. 2008.6. 新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
8. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
9. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
10. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
11. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
12. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。
13. 2007.6. に、新規開拓地（ウラジオストク）にて、モルガウト（モルガウト）を採集。

溝狀遺構土層斷面圖



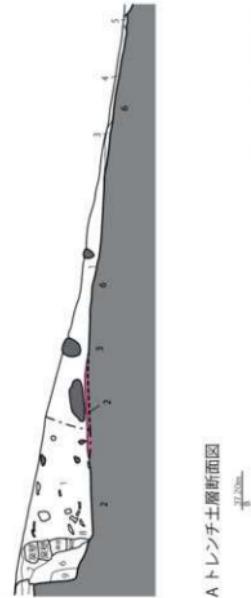
42



図III-13 2 基盤平面図・断面見通図 (1/50)

長軸トレンチ土層断面図

25m



12m

- 12m**
1. SYME4 に沿う小窓のシルト 地盤表面の底
 2. 1.5m に亘る地盤裏一層砂 (DFER 130) 砂質
 3. SYME8 暗色シルト
 4. SYME3 深色シルト (シルト・粘土・砂) 1.5m 厚 (DFER 130) 砂質・地盤裏一層砂 (DFER 130) 砂質
 5. 10mH4 に沿う小窓のシルト (DFER 130) 砂質
 6. 2.5mH4 に沿う小窓のシルト (シルト・粘土・砂) 1.5m 厚 (DFER 130) 砂質
 7. SYME4 暗色シルト (シルト・粘土・砂) 1.5m 厚 (DFER 130) 砂質
 8. SYME8 暗色シルト (シルト・粘土・砂) 2.0m 厚 (DFER 130) 砂質
 9. 7.5mH2 (底のシルト～粘土・砂) 1.5m 厚 (DFER 130) 砂質

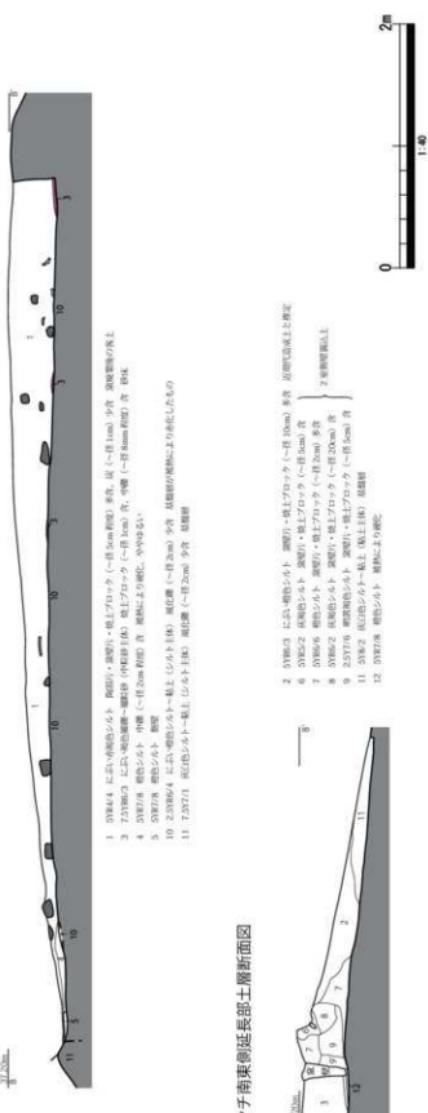
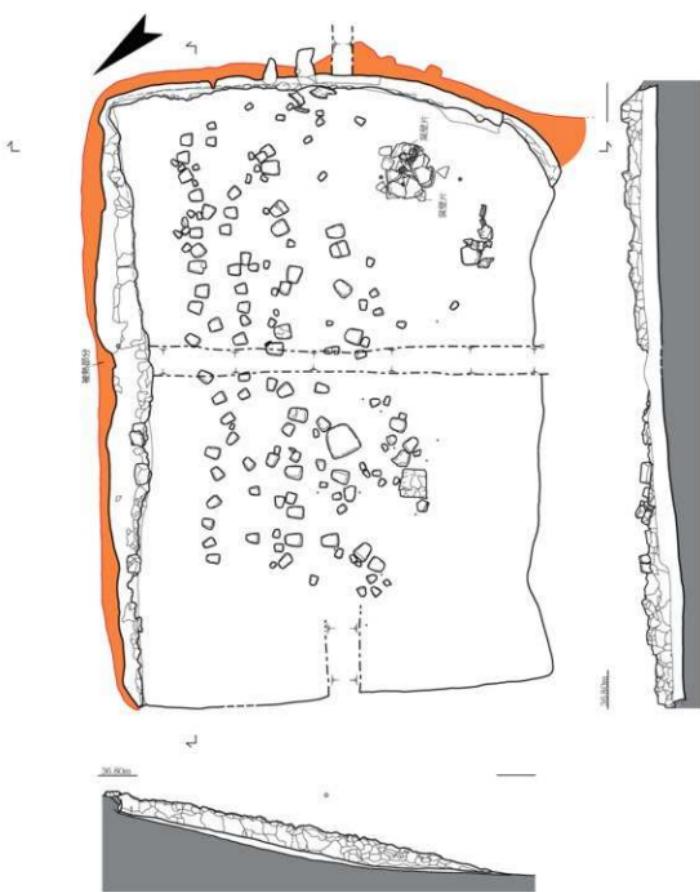
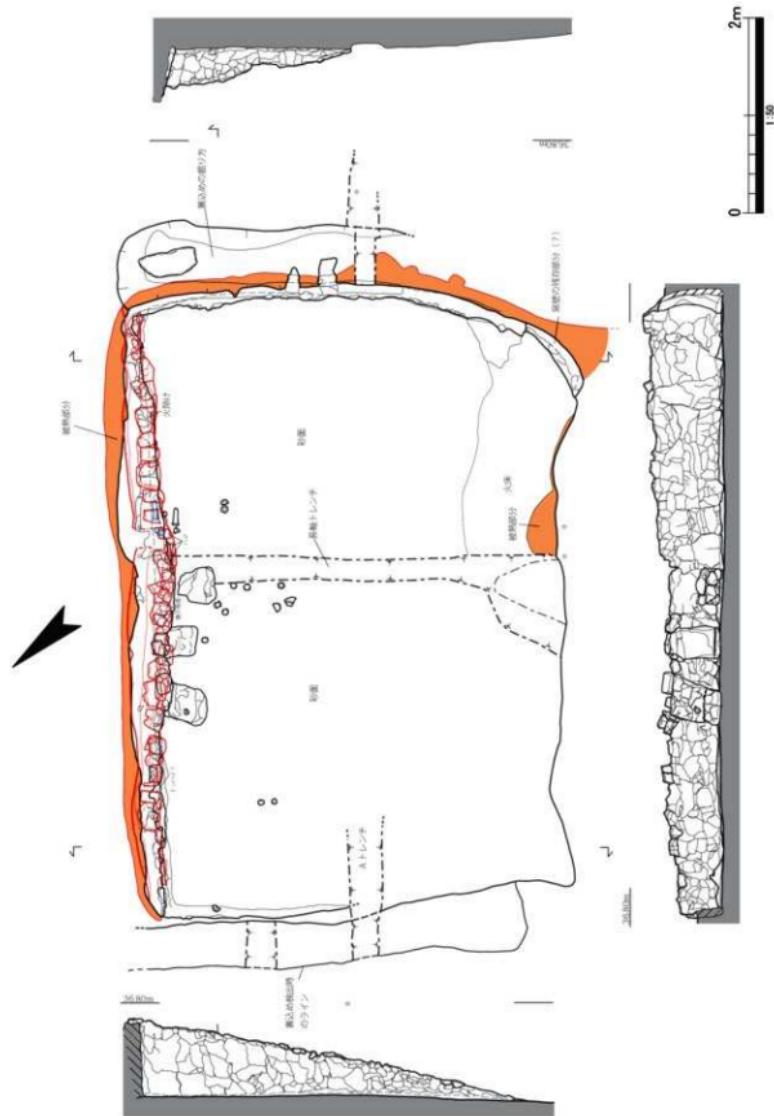


図 III - 14 2 堂土層図 (1/40)



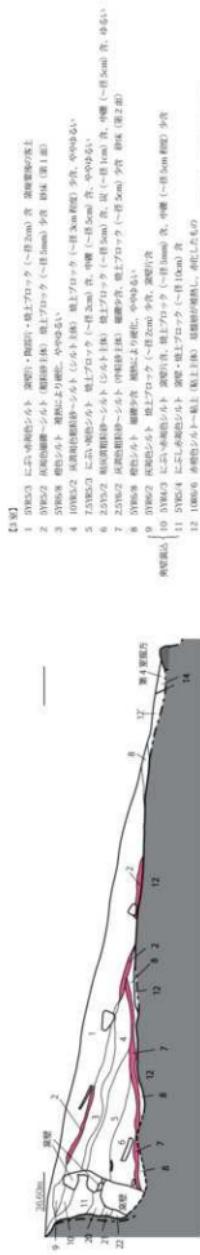
圖III-15 3室第1面 平面圖・断面見通図 (1/50)



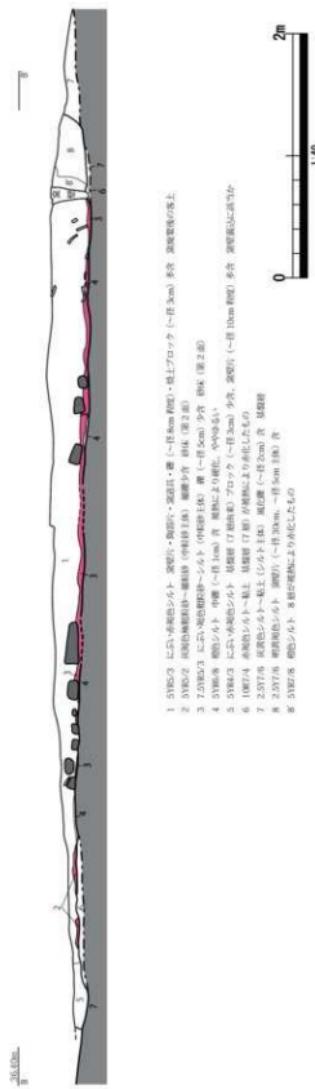


図III-16 3堂第2面平面図・断面見通図(1/50)

長袖トレーンチ土層断面図

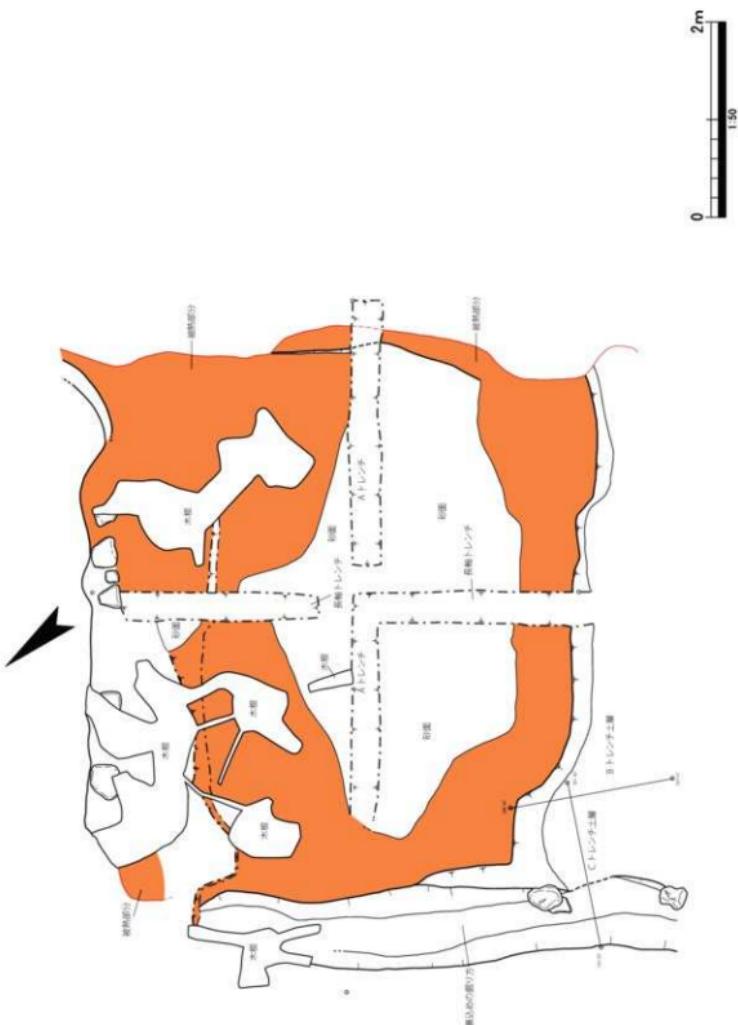


A トレーンチ土層断面図



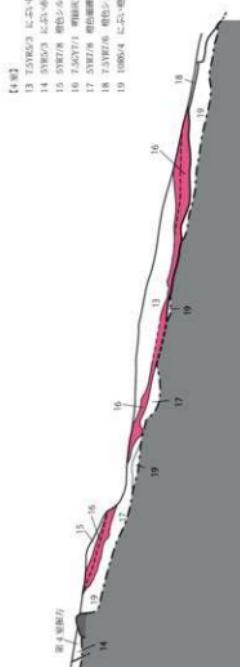
図III-17 3室土層図 (1/40)

図III-18 4室平面図・断面見通図 (1/50)



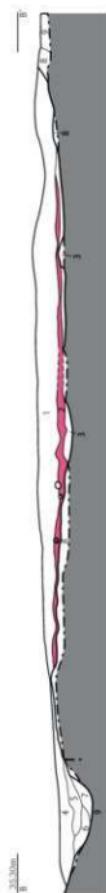
長輪トレンチ土層断面図

30 cm



A ドレンチ土層断面図

30 cm



B ドレンチ土層断面図

30 cm
0



C ドレンチ土層断面図

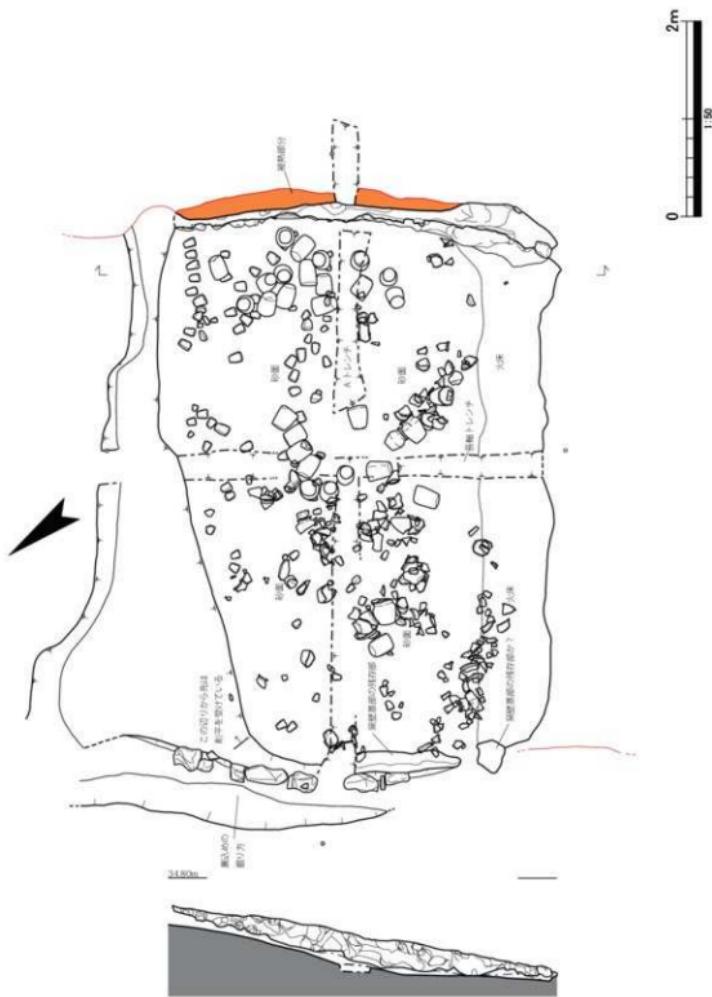
1. 7.5W63.4 にぶる褐色シルト 塗上砂質シルト 塗上砂質シルト (9.00m) 少許、塗膜質プロック (1~1.5m) 少許、塗膜少々、少許 (~1.5m) 少許、塗膜質の水土
2. 7.5G77.1 塗膜質砂質土一砂質土 (1.5m) 少許、塗上砂質シルト (~1.5m) 少許、少許 (~1.5m) 少許
3. 5W67.3 塗膜シルト 塗上砂質シルト (~1.5m) 少許、少許 (~1.5m) 少許、塗膜質プロック (~1.5m) 少許
4. 7.5W59.4 にぶる褐色シルト 塗上砂質シルト (~1.5m) 少許、塗膜質プロック (~1.5m) 少許、少許 (~1.5m) 少許
5. 7.5W43.2 塗膜シルト 塗上砂質シルト (~1.5m) 少許、塗膜質プロック (~1.5m) 少許

1. 7.5W63.2 にぶる褐色シルト 塗上砂質シルト 塗膜質プロック (~1.5m) 少許、塗膜少々、少許 (~1.5m) 少許
2. 7.5W63.3 にぶる褐色シルト 塗上砂質シルト 塗膜少々、少許 (~1.5m) 少許、塗膜質プロック (~1.5m) 少許
3. 7.5W63.4 塗膜シルト 塗膜質プロック (~1.5m) 少許、塗膜少々、少許 (~1.5m) 少許
4. 2.3W72.2 塗膜シルト 塗膜質プロック (~1.5m) 少許、塗膜質プロック (~1.5m) 少許
5. 2.3W72.3 塗膜シルト 壤土 (シルト土) 塗膜質が発達して赤化した土

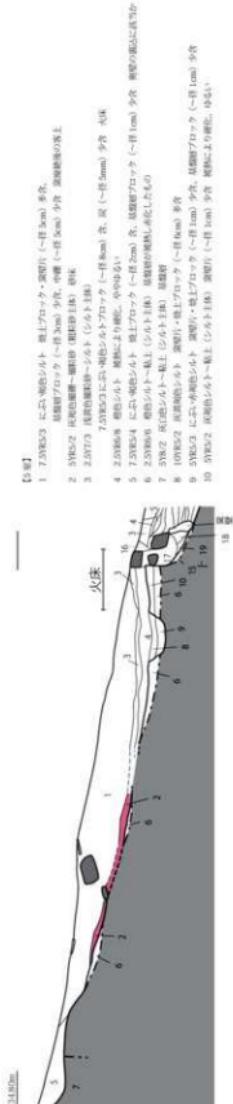


図 III-19 4 室土層図 (1/40)

図III-20 5室平面図・断面見通図(1/50)



長軸トレンチ土層断面図



A トレンチ土層断面図



1. 7SR0623 に於ける赤色シルト 地上プロック・深部（～H 5m）多孔、無機物質の隙間に
結晶質プロック（～H 2m）、少孔、中層（～H 5m）少孔、無機物質の隙間に
結晶質プロック（～H 1m）有る。
2. 5SR0622 無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔
3. 5SR0623 地下の無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）
4. 10SR0622 無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔、無機物質の隙間に
結晶質プロック（～H 1m）
5. 2.5SR0626 赤色シルト 無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔
6. 2.5SR0626 赤色シルト・結晶質プロック（～H 1m）少孔、無機物質の隙間に結晶質
7. 2.5SR0623 地下の無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔
8. 5SR0626 褐色シルト・結晶質プロック（～H 1m）少孔
9. 2.5SR0624 に於ける褐色シルト・結晶質プロック（～H 2m）少孔
10. 10SR0622 無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔、無機物質の隙間に結晶質プロック（～H 1m）少孔



図III-21 5室土層図(1/40)

形ハマを検出した。

2面の全体奥行は4.1mで、最大幅は5.3m、床面傾斜角度は8.35°である。奥壁の左隅部は攪乱により壊される。奥壁は高さ約0.4m、右側壁は最大高0.35m遺存し、左側壁は中央部から奥壁側にかけてわずかに遺存する。

焼成室の完掘後、奥壁から5室の火床側の床面下まで掘り下げた。その結果、奥壁裏込の基部で、長径0.15m～0.5mの方形及び長方形の石材を検出した。図III-23の赤線は裏込基底の石列である。さらに、5室の火床側の床面下から、6室の奥壁をとり囲むような溝跡を検出し、SD06とした。

埋土について、長軸トレンチの2層および、Aトレンチの1層は、にぶい褐色シルト層で窯壁片、焼土ブロック、基盤層のブロックを含む窯廃絶後の造成土である。この直下から砂床を検出した。奥壁側では4面の砂床を確認したが、焼成室の中央から奥壁側は砂床と間層を互層にして、床面をかさ上げしているが、最終段階の4層（第1面砂床）は、下層の砂床を切って、奥壁側は床面の傾斜角度をつける。

出土遺物は甕、擂鉢、四耳壺、瓶、磁器碗、楔形ハマなどがある。

7室

焼成室は1面と2面を検出した。1面の全体奥行は3.8mで、遺存幅は4.3m、床面傾斜角度は10.19°である。奥壁は最大高0.2mで、右側壁はわずかに遺存し、左側壁は削平される。床面直上から楔形ハマが散在して出土した。また、焼成室の南西隅から甕などの破片や30数個の胎土目を検出した。

2面の全体奥行は3.7mで、最大幅は4.7m、床面傾斜角度は10.95°である。奥壁は最大高0.35m、右側壁は最大高0.3m遺存する。左側壁は中央部から奥壁側が壁面基底部まで削平を受け、中央から火床側は後世の造成により、床面まで削平される。

焼成室の完掘後、奥壁裏込を掘り下げた。図III-26の赤線は裏込基底の石列である。

埋土について、長軸トレンチ及びAトレンチの1層は灰褐色シルト層で窯壁片、焼土ブロックを多く含む窯廃絶後の造成土である。Aトレンチでは1層の直下から砂床を検出した。Aトレンチ断面の1面及び2面の砂床の傾斜角度は、火床側から焼成室中央まではだらかで、奥壁側は傾斜が強くなる。

出土遺物は甕、擂鉢、瓦片、窯道具のほか棒状の鉄製品などがある。

8室

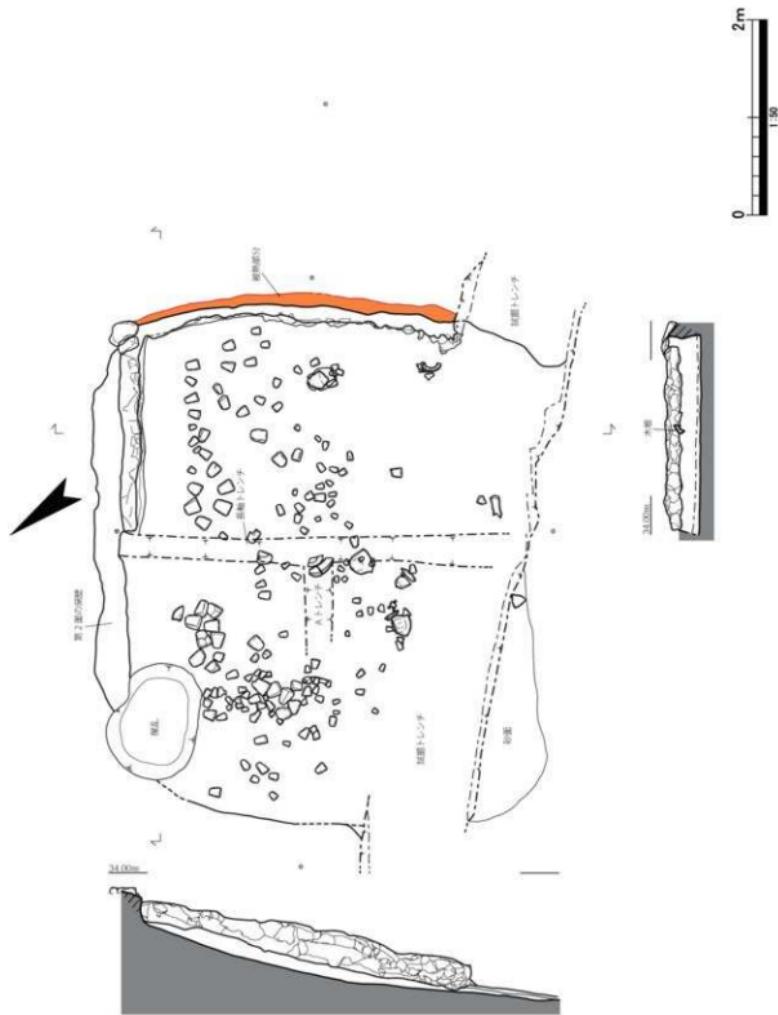
8室から11室は両側壁の改修がみられたため、その変遷を段階と呼称した。8室は1段階と2段階があり、2段階の床面下から胴木間らしき痕跡が確認できたため、2段階の平面図に図化する。各段階の新旧関係は胴木間→2段階平面→1段階平面である。

1段階の全体奥行は4.0m、最大幅は4.3m、床面傾斜角度は7.48°である。火床周辺の床面は確認調査時の第6トレンチにより、欠失する。奥壁は削平のため、ほぼ遺存せず、左側壁側の基底石が4石遺存する程度である。右側壁は最大高約0.3m程遺存し、左側壁は削平を受け、遺存しない。火床側の床面直上から楔形ハマや陶器片が出土した。

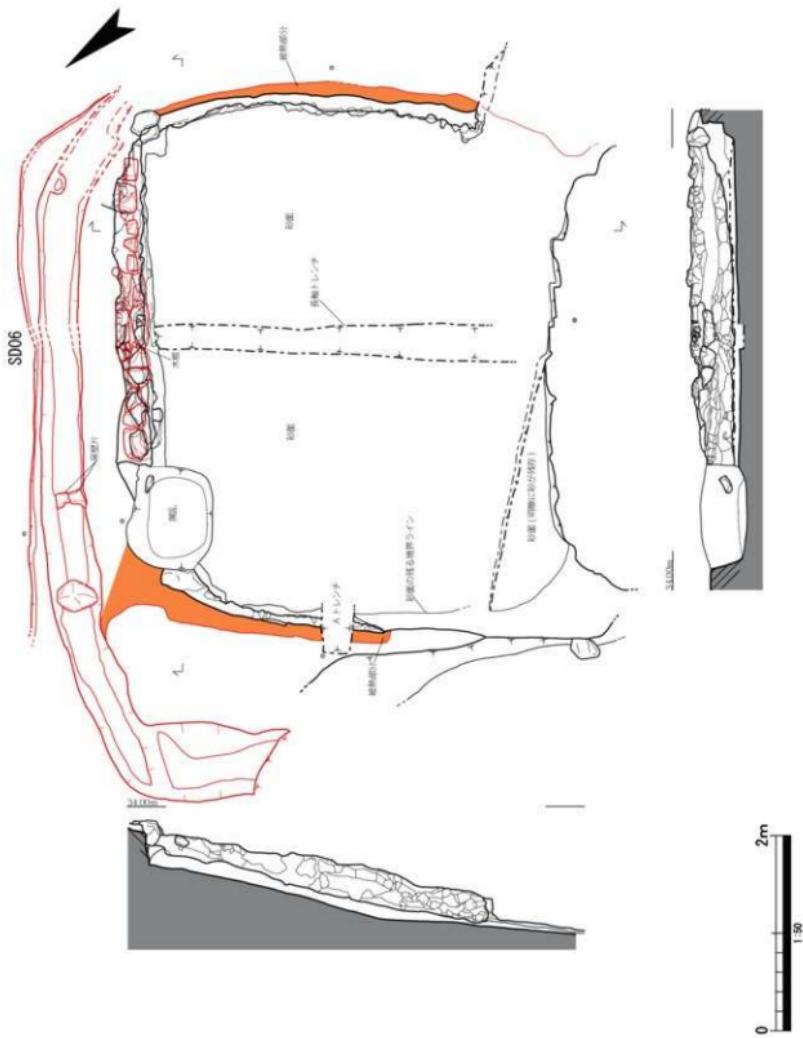
2段階の全体奥行は3.5m、最大幅は5.1m、床面傾斜角度は14.85°である。奥壁及び左側壁は1段階窯室の壁面のさらに外側で検出できたため、窯室は2段階から1段階にかけて、最大幅が0.8m縮小したことが判った。左側壁よりの奥壁は最大高0.15m、奥壁よりの右側壁は最大高0.1m、火床よりの左側壁は最大高0.15m遺存する。

2段階窯室床面のさらに下層で平面三角形の掘り込みと、火床よりに被熱部を検出した。明確な床面

図III-22 6室第1面平面図・断面見通図(1/50)

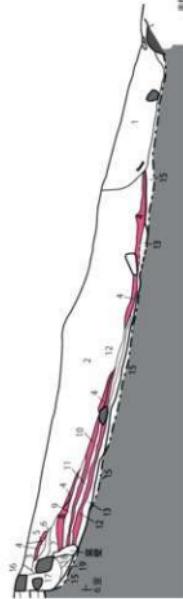


図III-23 6室第2面平面図・断面見通図 (1/50)



長軸トレンチ土層断面図

3.50m



A.トレンチ土層断面図

3.50m



1. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 10cm) 多量、基盤層ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

2. 57962 基盤層シルト・泥炭付 (中層付・土手付) 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

3. 57962 水分リザーブ層・泥炭付 (中層付・土手付) 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

4. 57963 褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

5. 57962 基盤層シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

6. 57963 褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

7. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

8. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

9. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 1cm) 稀少

10. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 1cm) 稀少

11. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

12. 57964 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

13. 57964 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

14. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

15. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

16. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

17. 57954 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 10cm) 少量

18. 57964 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 10cm) 少量

19. 57964 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 10cm) 少量

B.剖面

1. 57963 塗膜付・塊状ブロック (~厚 10cm) 多量、基盤層ブロック (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量、中層 (~厚 2cm) 少量

2. 57962 基盤層シルト・泥炭付 (中層付・土手付) 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

3. 57962 水分リザーブ層・泥炭付 (中層付・土手付) 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

4. 57963 褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

5. 57962 基盤層シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

6. 57963 褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

7. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

8. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

9. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 1cm) 稀少

10. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 1cm) 稀少

11. 57963 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

12. 57964 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

13. 57964 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

14. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

15. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

16. 57963 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

17. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

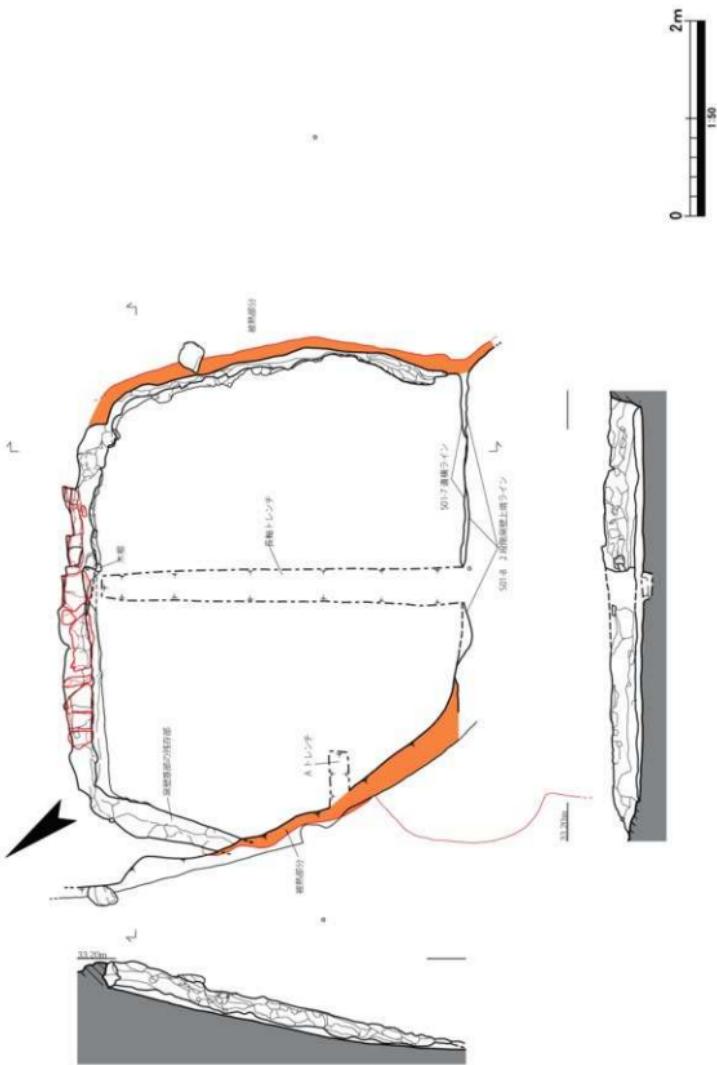
18. 57962 壓縮シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

19. 57964 にぶく褐色シルト 塗膜付・塊状ブロック (~厚 2cm) 多量、中層 (~厚 2cm) 多量

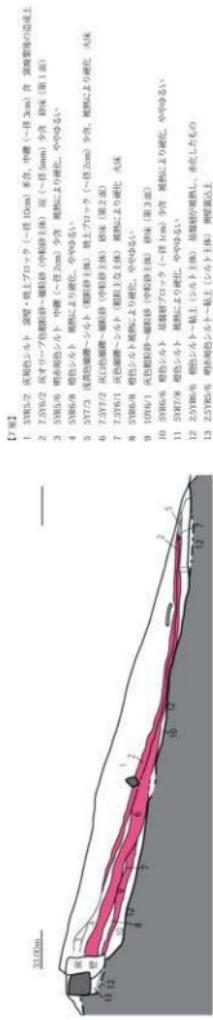


図 III-24 6 室土層図 (1/40)

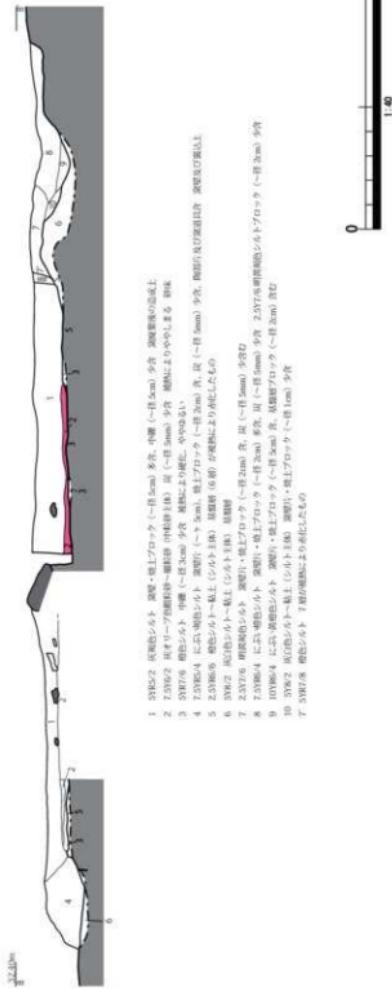
図III-26 7室第2面平面図・断面見通図 (1/50)



長軸トレンチ土層断面図



A トレンチ土層断面図



図III-27 7室土層図(1/40)

や壁面、焚口は確認できなかったが、胴木間の可能性が考えられる。胴木間の全体奥行は 4.3 m、最大幅は 2.6 m である。

埋土について、長軸トレンチの 1 層は、褐色シルト層で窯壁片、焼土ブロックを多く含む窯廃絶後の造成土である。その下層から 3 面の砂床を検出した。2 層は第 1 面砂床で、窯室中央から火床側に部分的にみられ、被熱によりやや硬化する。5 層は第 2 面砂床で、奥壁側にみられ、被熱によりやや硬化する。2 層及び 5 層は 1 層により削平を受け、部分的に遺存する。6 層を挟み 7 層は第 3 面砂床である。確認調査第 6 トレンチ土層の 18 層、19 層は胴木間の土層にある。

出土遺物は、甕、擂鉢などがある。

9 室

1 段階、2 段階、3 段階があり、1 段階は胴木間に改修される。各段階の新旧関係は 3 段階 → 2 段階 → 1 段階（胴木間）である。

1 段階は胴木間に改修されており、全体奥行は 2.9 m、最大幅は 2.6 m、床面傾斜角度は 10.83° であり、平面形は、側壁が胴張り状の逆三角形である。奥壁は確認調査時の第 6 トレンチにより、欠失する。右側壁は、最大高 0.45 m 程遺存する。左側壁は奥壁側が部分的に遺存するが、大半は削平を受け、遺存しない。焚口部の幅は 0.9m で、左右に立石を配する。焚口左側の立石は長さ 0.75m、厚さ 0.4m の平面不整形の石材を横置きする。焚口右側の立石は長さ 0.8m、幅 0.35m の石材を立て、3 石の石材を裏込め状に配する。

奥壁付近から、楔形ハマ 2 対の直上に、口縁部を下に置いた小型甕を検出した。焼成方法がわかる良好な出土例である。また、床面中央付近でも楔形ハマと小型甕などの陶器片が出土している。胴木間の中央付近から焚口までの床面は硬化した砂床であった。

2 段階の焼成室は、全体奥行は 3.5m、最大幅は 3.8m、床面傾斜角度は 11.39° である。奥壁は確認調査時の第 6 トレンチにより、大半を欠失し、左側壁側に最大高 0.25m の奥壁が部分的に遺存する。右側壁の火床側半分は、調査区外に伸びるため未調査である。左側壁は最大高 0.1m、奥壁側と火床側に部分的に遺存する。幅約 0.2m の火床が、右側壁側にみられるが、火床境はみられない。左側壁沿いに多量の楔形ハマの集積を検出したが、焼成後の片付けによるものか。

3 段階の焼成室は、全体奥行 3.7m、床面傾斜角度は 9.27° である。奥壁は確認調査時の第 6 トレンチにより、大半を欠失し、左側壁側に最大高 0.3m の奥壁が部分的に遺存する。右側壁は、調査区外に伸びるため未調査である。左側壁は最大高 0.1m が、中央から奥壁側に遺存し、裏込めの石材を数石検出した。

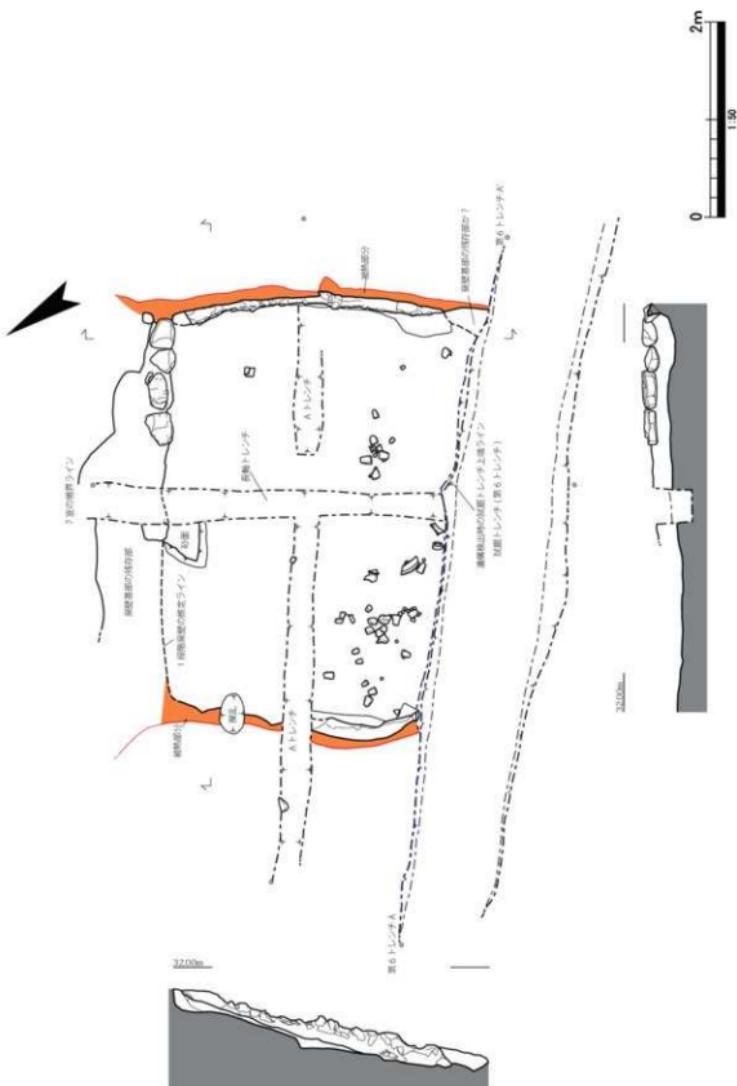
埋土について、長軸トレンチの 1 層は、にぶい褐色シルト層で窯壁片、焼土ブロックを多く含む窯廃絶後の造成土である。2 層、3 層を挟み、4 層は 1 段階（胴木間）の床面で被熱のためか硬化する。調査区南壁土層図の 11 層は 2 段階の砂床で、12 層は火床である。3 段階は、15 層と 17 層の 2 面の砂床を検出した。

出土遺物は、甕、擂鉢、窯道具、火除けが出土した。

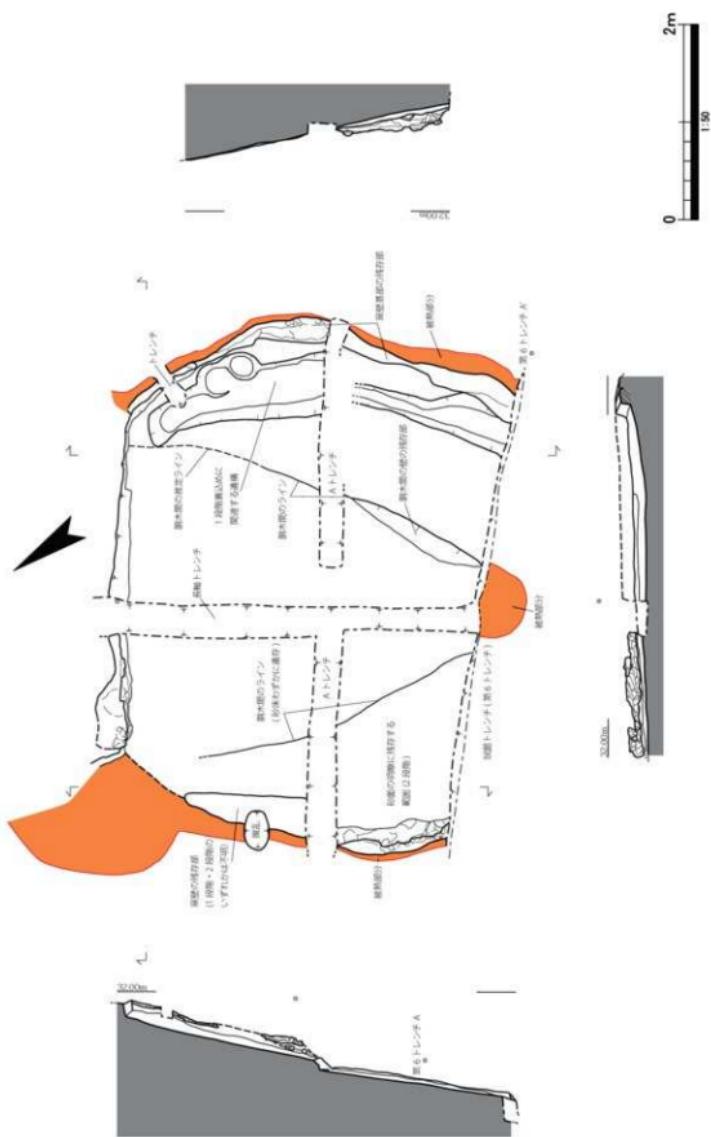
10 室

1 段階、2 段階、3 段階があり、2 段階と 3 段階は、それぞれ第 1 面と第 2 面がある。各段階の新旧関係は 3 段階 → 2 段階 → 1 段階であり、焼成室は順次、縮小化している。

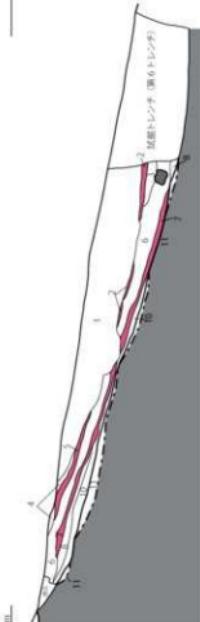
図III-28 8室1段階平面図・断面見通図 (1/50)



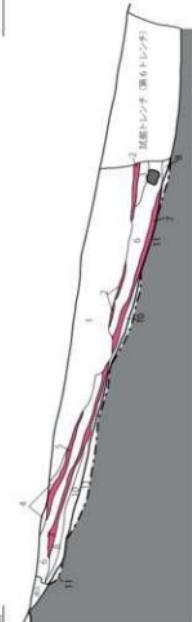
図III-29 8室2段階平面図・断面見通図 (1/50)



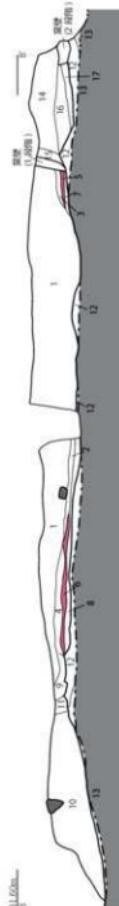
長軸トレンチ土層断面図



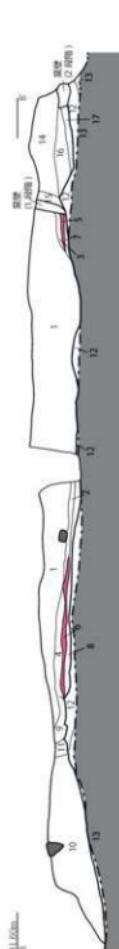
A テレンチ 土層断面図



- 1 7.5784/3 褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
2 10/0/1 黒色粘土・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 3 10/0/5 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 4 5/586/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 5 5/537/1 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 6 5/537/1 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 7 2/537/1 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 8 5/586/2 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 9 5/586/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 10 5/551 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)
- 11 2/537/6 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm)



B テレンチ 土層断面図 (第6トレンチ)



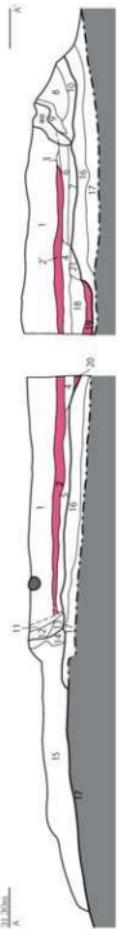
B テレンチ 土層断面図 (第6トレンチ)

B テレンチ 土層断面図 (第6トレンチ)

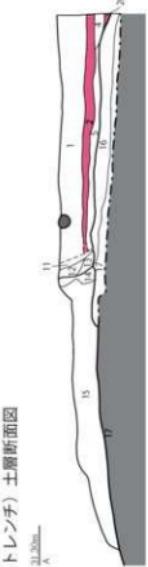
- 1 10/082/2 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 2 10/082/2 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 3 7.538/6 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 4 5/586/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 5 5/587/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 6 5/586/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 7 2/537/2 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 8 5/587/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 9 5/586/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔
- 10 10/083/0 黄褐色ジルト・褐色砂質粘土 (～10cm) 砂質・中層 (～25cm) 少孔

C テレンチ 土層断面図 (第6トレンチ)

C テレンチ 土層断面図 (第6トレンチ)



A

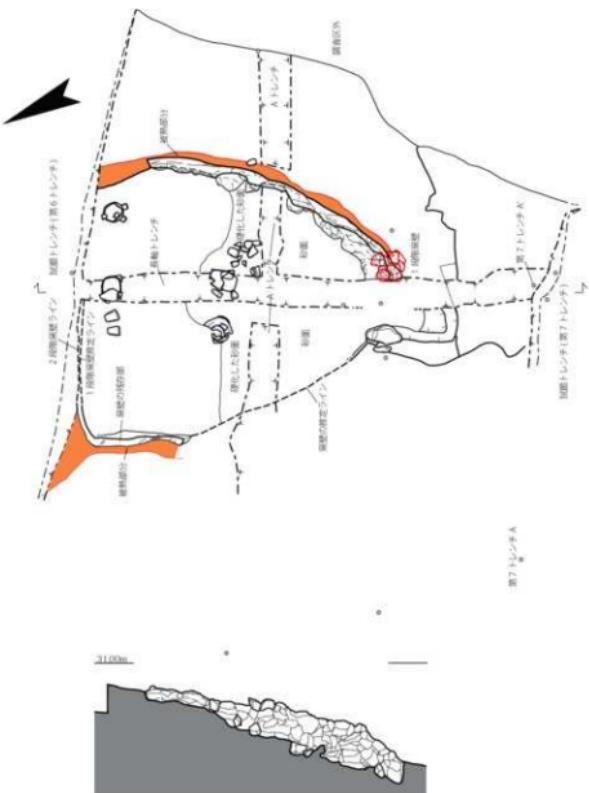


A

- 1 7.5784/3 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 2 10/71/2 黃褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 3 7.577/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 4 7.577/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 5 7.577/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 6 10/76/4 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 7 2/537/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 8 5/586/0 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 9 5/586/0 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 10 10/083/0 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 11 7.577/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 12 10/76/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 13 7.577/8 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 14 3/537/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 15 7.577/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 16 10/57/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 17 V.V. 2/537/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 18 10/57/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 19 10/537/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 20 7.537/6 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 21 3/537/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔
- 22 3/537/2 黄褐色ジルト・砂質・粘土 (～10cm) 多孔・中層 (～25cm) 少孔

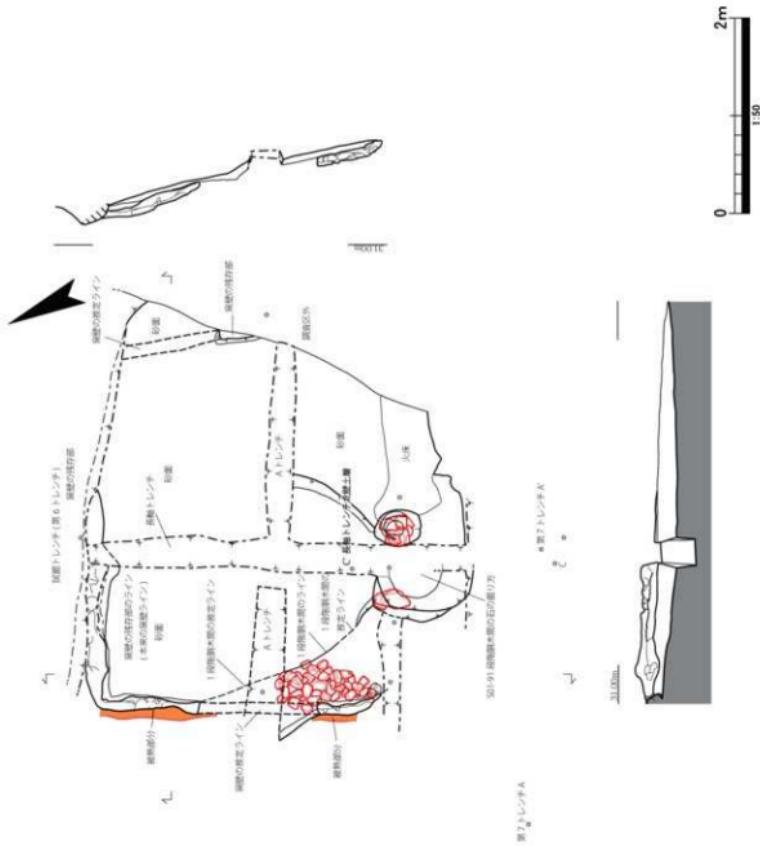


図III-30 8室土層図 (1/40)

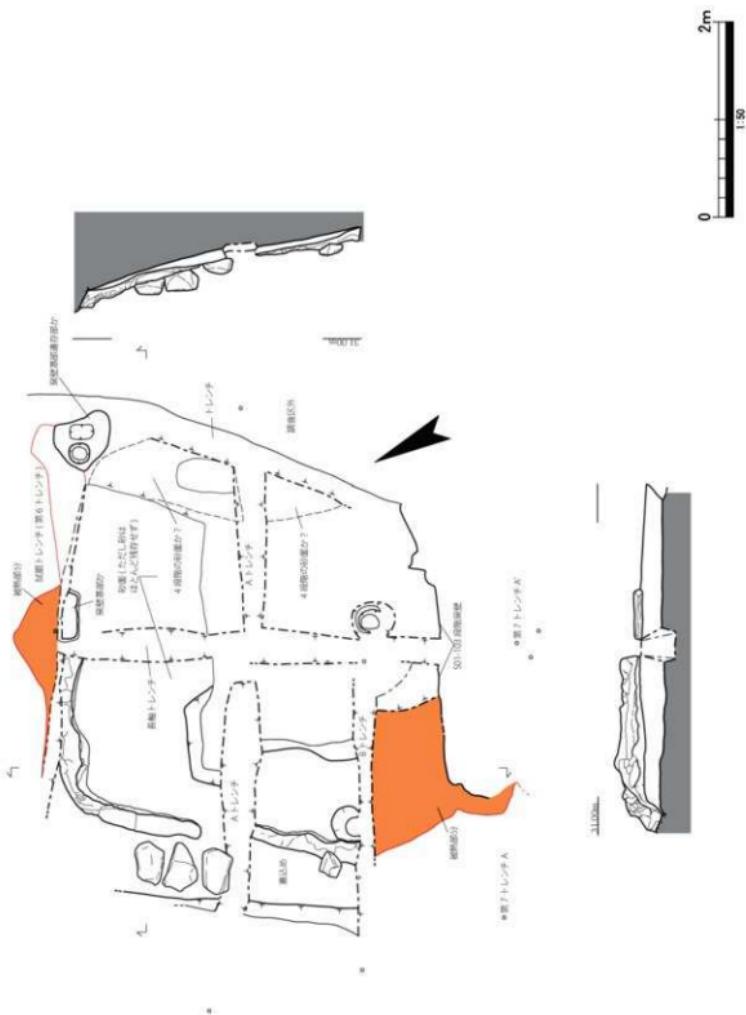


図III-31 9室1段階平面図・断面見通図(1/50)

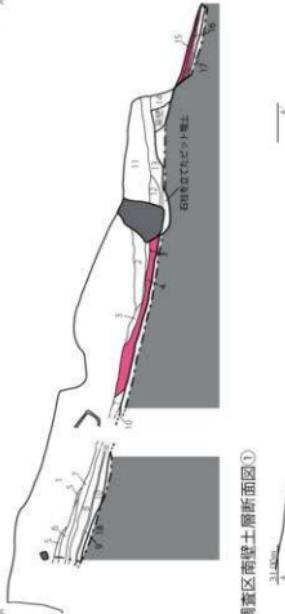
図III-32 9室2段階平面図・断面見通図 (1/50)



図III-33 9室3段階平面図・断面見通図 (1/50)



長軸トレンチ土層断面図

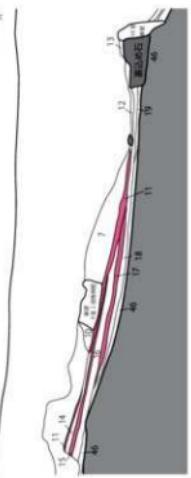


調査区南壁土層断面図(1)

19.9.2

1 7.39853 に近い褐色砂利ト 細粒漂浮・塊土プロトク (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
(1倍10cm) 2 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
3 7.39852 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
4 7.39853 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
5 10.91651 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
6 5.9886 褐色砂利ト 植被の発達上
7 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
8 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
9 10.91651 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
10 8.10391 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
11 7.39852 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
12 7.39854 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
13 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
14 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
15 10.91651 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
16 2.59786 褐色砂利ト 植被の発達上
17 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
18 3.98748 褐色砂利ト 植被の発達上
19 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂含 植被の発達上

1 7.39853 に近い褐色砂利ト 細粒漂浮・塊土プロトク (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
(1倍10cm) 2 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
3 7.39852 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
4 7.39853 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
5 10.91651 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
6 5.9886 褐色砂利ト 植被の発達上
7 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
8 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
9 10.91651 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上

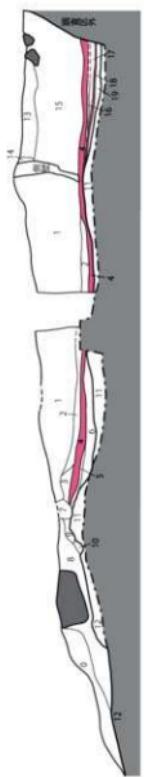


Aトレンチ土層断面図

11 7.50741 に近い褐色砂利ト 細粒漂浮・塊土プロトク (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
12 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
13 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
14 5.9886 褐色砂利ト 植被の発達上
15 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
16 2.59786 褐色砂利ト 植被の発達上
17 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
18 3.98748 褐色砂利ト 植被の発達上
19 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂含 植被の発達上

11 7.50741 に近い褐色砂利ト 細粒漂浮・塊土プロトク (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
12 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
13 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
14 5.9886 褐色砂利ト 植被の発達上
15 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
16 2.59786 褐色砂利ト 植被の発達上
17 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
18 3.98748 褐色砂利ト 植被の発達上
19 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂含 植被の発達上

11

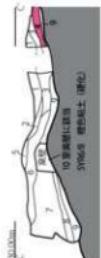


10 2.59786 褐色砂利ト 細粒漂浮・塊土プロトク (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
11 10.91653 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
12 5.9886 褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
13 2.59786 褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
14 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
15 10.91652 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
16 7.50741 に近い褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
17 2.59786 褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
18 3.98748 褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上
19 5.9886 褐色砂利ト 砂 (～1倍20cm程度) 砂含 植被の発達上

図III-34 9室土層図 (1/40)

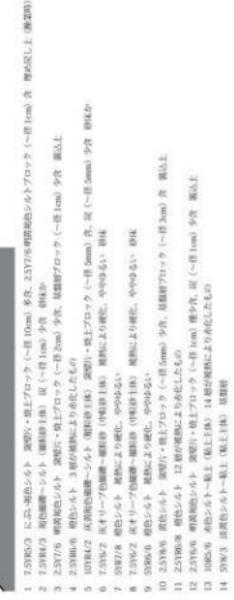


長軸トレーンチ北壁土層断面図



0 W 1400
9.1.6M
9.1.1M
10 W
BR ←
9 (188) 6 109863 11 109864 12 109865 13 109866 14 109867

1 1.53H(4.4) に近い地盤の砂シルト (シルト上位) 深部・壁上プロック (>15cm) 多分、風 (>15cm) 帆
2 1.53H(4.4) に近い砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
3 1.53H(4.4) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風
4 2.25H(6.8) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
5 2.25H(6.8) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
6 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
7 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
8 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
9 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
10 1.53H(4.4) に近い地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
11 1.53H(4.4) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
12 1.53H(4.4) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
13 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風 (>15cm)少々、風
14 1.095(2) 地盤の砂シルト (シルト上位) 風(>15cm)少々、風



A-A

試験トレーンチ (第7トレーンチ) 土層断面図



図III-35 9室土層図2 (1/40)

1段階の焼成室の奥行（遺存長）は3.0mである。火床側は確認調査時のトレンチで欠失し、右側壁側は調査区外に伸びるため未調査である。奥壁は最大高0.3m、左側壁は最大高0.3mが遺存する。1段階の床面の土層は、図III-41の調査区南壁土層図中の23層にある。浅黄色シルト層であり、被熱によりしまっており、9室1段階の胴木間の床面と類似しており、窯室平面形は、三角形に近いことからも、10室1段階を胴木間と判断した。また、図III-41のAトレンチ土層図中に胴木間の壁面の基部断面がみえる。

2段階は、奥壁側の床面と、2段階2面では左側壁構築のため掘り方らしき痕跡が部分的に検出でき、窯室平面形を推定できる。

3段階は、第2面にて、壁面基部が部分的に残存しており、窯室平面形を推定できる。

出土遺物は甕口縁部片などがある。

1.1室

1段階、2段階があり、新旧関係は、2段階→1段階である。焼成室の右半分は調査区外にのび、確認調査トレンチにより、火床付近の床面が削平される。

焼成室の1段階の奥行（遺存長）は4.1mであり、確認調査トレンチにより、火床側が削平される。奥壁は遺存せず、左側壁は、奥壁隅部から、長さ約2.5m、最大高0.2m遺存する。

焼成室の2段階の奥行（遺存長）は4.0mであり、確認調査トレンチにより、火床側が削平される。奥壁は遺存せず、奥壁と左側壁の隅部は湾曲する。奥壁隅部から、長さ約3.3m、最大高0.3m遺存する。

焼成室の埋土の1層は窯壁片や陶器片を多量に含む近現代の造成土である。2層～5層は、窯壁片、焼土ブロックを含む埋戻し及び造成土である。

1段階床面の砂床は、明緑灰色粗砂粒～細粒砂で、被熱によりやや硬化する。火床は灰黄褐色細粒～シルトである。間層を挟んで、2段階床面の砂床は、灰色細礫～細粒砂である。

出土遺物は磁器皿ほかである。

1.2室

1段階、2段階があり、新旧関係は、2段階→1段階であり、焼成室幅が順次、狭くなる。焼成室の大半は調査区外にのびる。奥壁から焼成室の一部にかけて、確認調査トレンチにより床面が削平される。

1段階の左側壁は長さ2m程遺存し、最大高0.4m遺存する。2段階の左側壁は、長さ3.1m程遺存し、最大高0.4m遺存する。焼成室平面形は、1段階、2段階とも、側壁は胴張り気味である。

焼成室の埋土の1層は、窯壁片や陶器片を多量に含む近現代の造成土である。1段階床面の砂床は、灰黄褐色細礫～細粒砂で、火床は明青灰色粗粒砂～シルトであり、被熱により硬化する。間層を挟んで、2段階床面の砂床は、明緑灰色粗粒砂～細粒砂である。

出土遺物は甕、擂鉢などである。

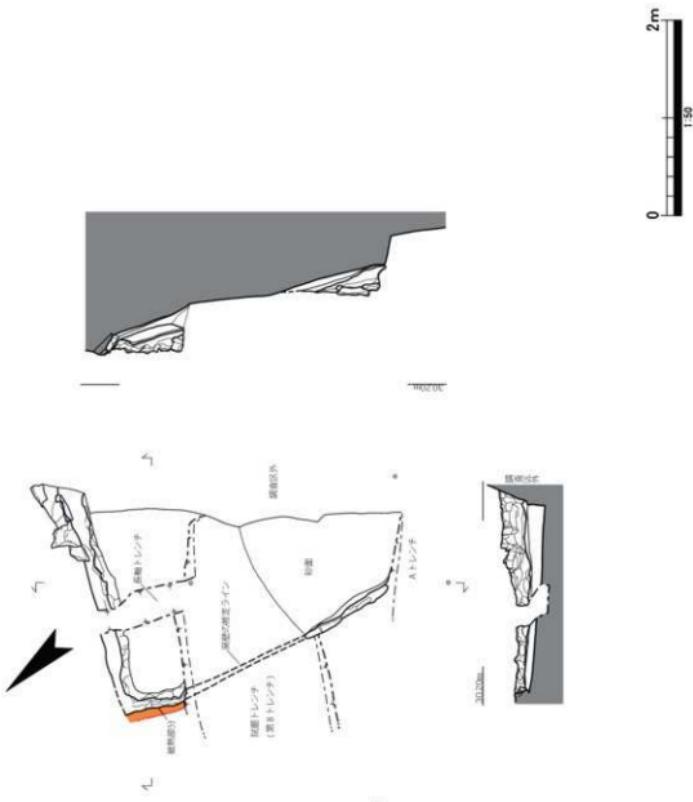
1.3室

左奥壁隅部の一部のみの検出で、焼成室の大半は、調査区外にのびる。平面図は図III-45、46に、土層図は図III-47に12室と併せて掲載する。

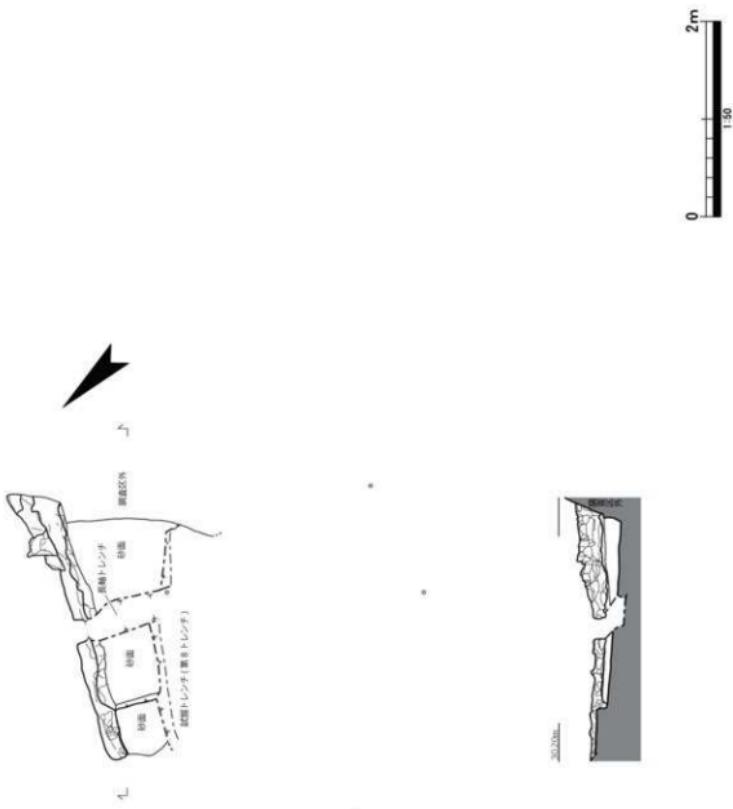
奥壁の高さは、土層断面図では、0.25mである。

第1面砂床は、灰オリーブ色細礫～細粒砂で、間層を挟んで、第2面床面の砂床は、灰黄色粗粒砂

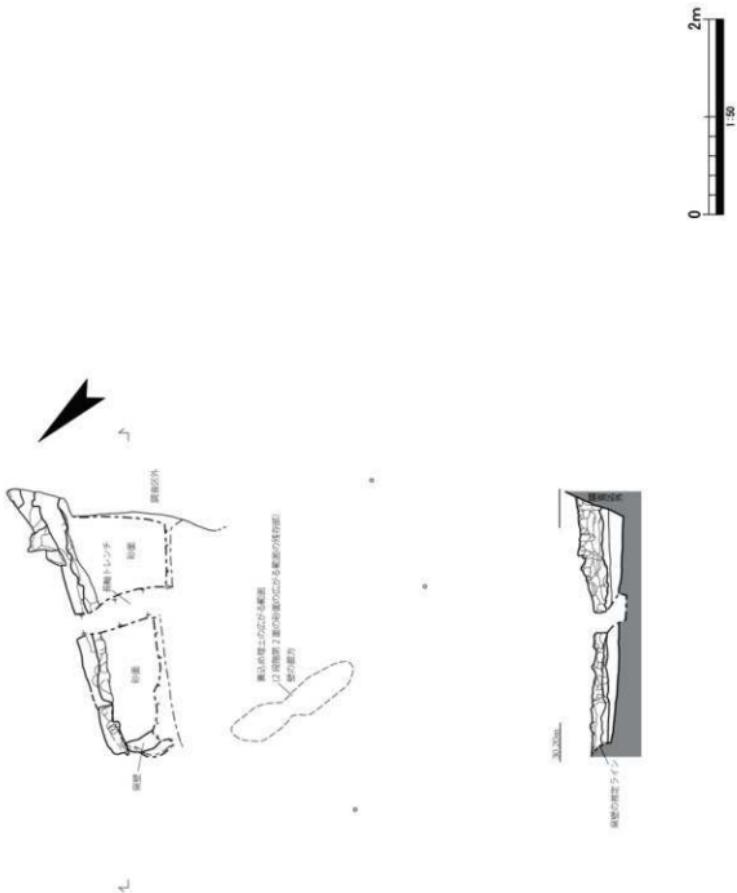
図III-36 10室1段階平面図・断面見通図 (1/50)

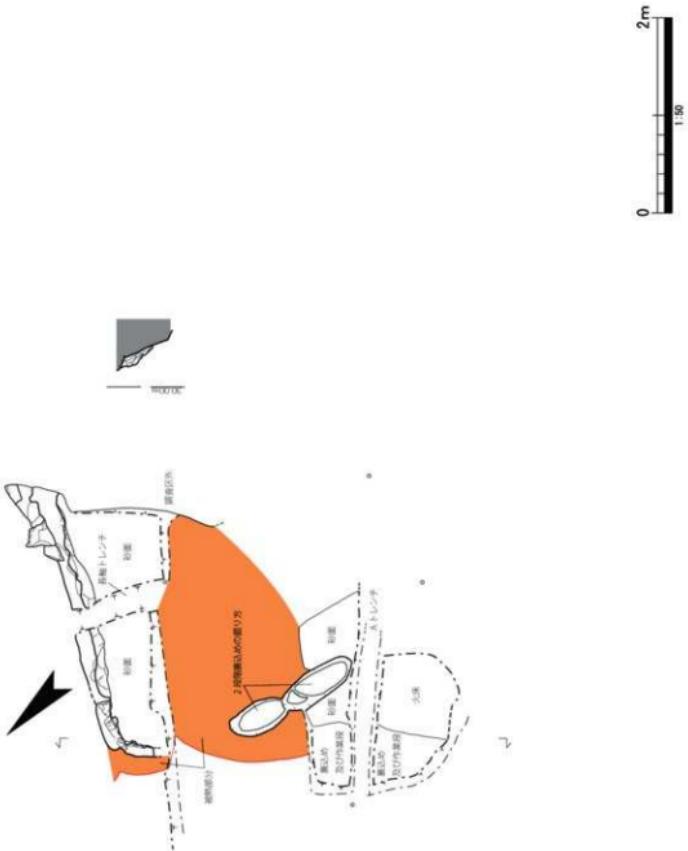


図III-37 10室2段階第1面 平面図・断面図・見通図 (1/50)



図III-38 10室2段階第2面 平面図・断面見通図 (1/50)

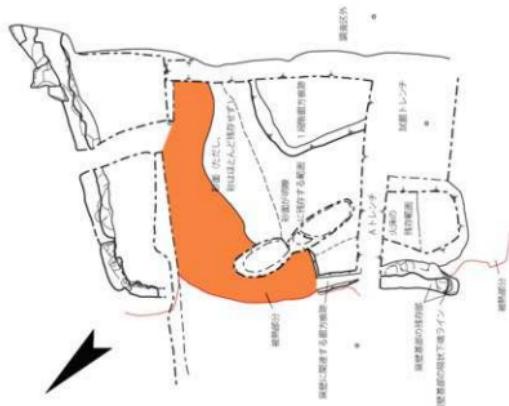


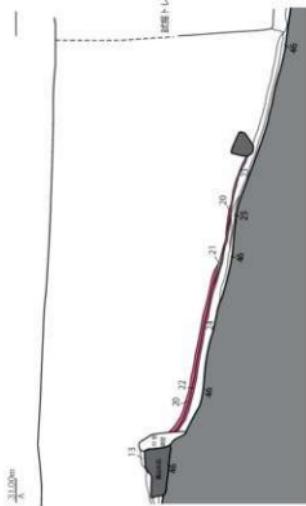


図III-39 10室3段階第1面 平面図・断面見通図 (1/50)

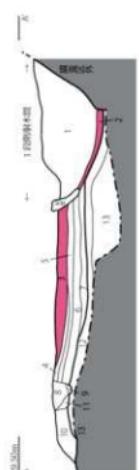


図III-40 10室3段階第2面 平面図(1/50)





A: レンチ土層断面図



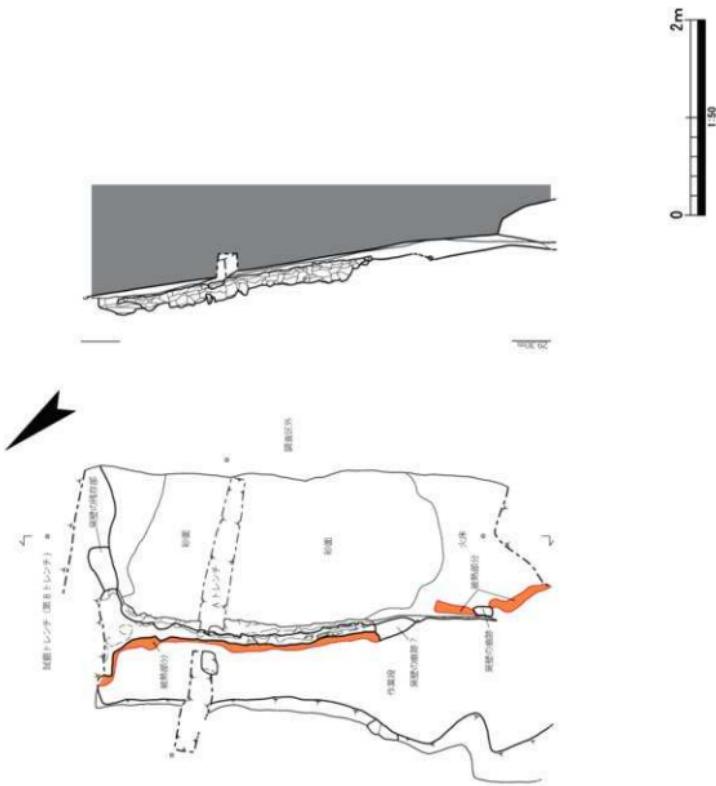
【10】
 20. 10705/2 流動化シート (漂礫含む) 岩 (一粒 5mm) 分厚 (0.2m)
 21. 7.576/6 漂石シート 岩間に 2.0mm の隙間、やや小さく
 22. 7.576/1 流動化シート (漂礫含む) 3.0cm 厚
 23. 2.371.4 流動化シート (漂礫含む) 1.3cm (1.0mm) 厚
 24. 3.577.8 流動シート
 25. 3.571.0 流動シート 岩間に 0.5cm、2.5cm 間隔で 0.5cm 厚してしまった
 10 室

14. 10705/2 流動化シート (漂石・地) プロトカ (一粒 1mm) 砂岩 (漂石含む) 岩 (0.5mm) 少量
 15. 10705/4 流動化シート (漂石) 岩 (1mm) 岩 (0.5mm)
 16. 10705/6 流動化シート (漂石) 岩 (1mm) 岩 (0.5mm)
 17. 5.987/8 漂石シート 漂石の2.5mm、やや小さく
 18. 10806 流動化シート (漂石) (0.5mm) 岩 (0.5mm)

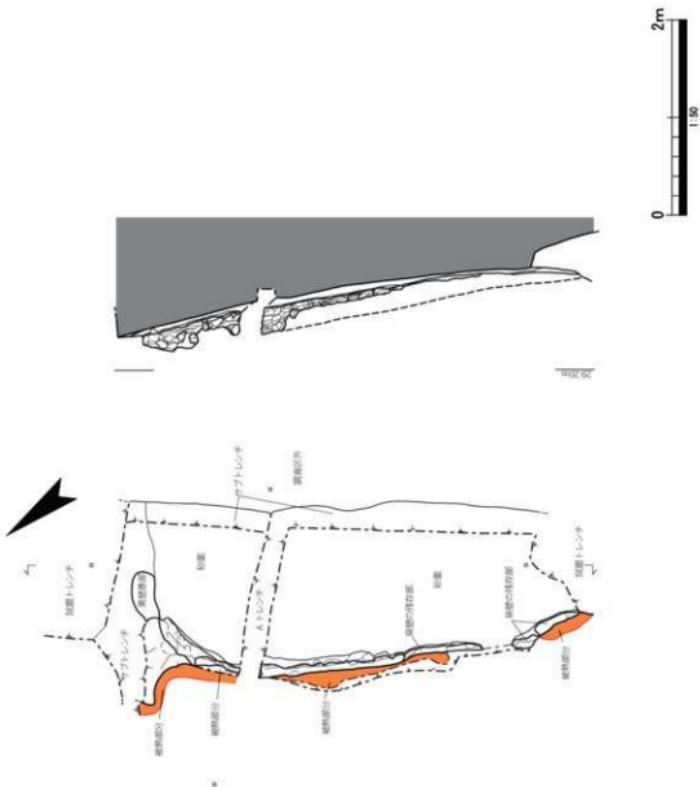


図 III -41 10室土層図 (1/40)

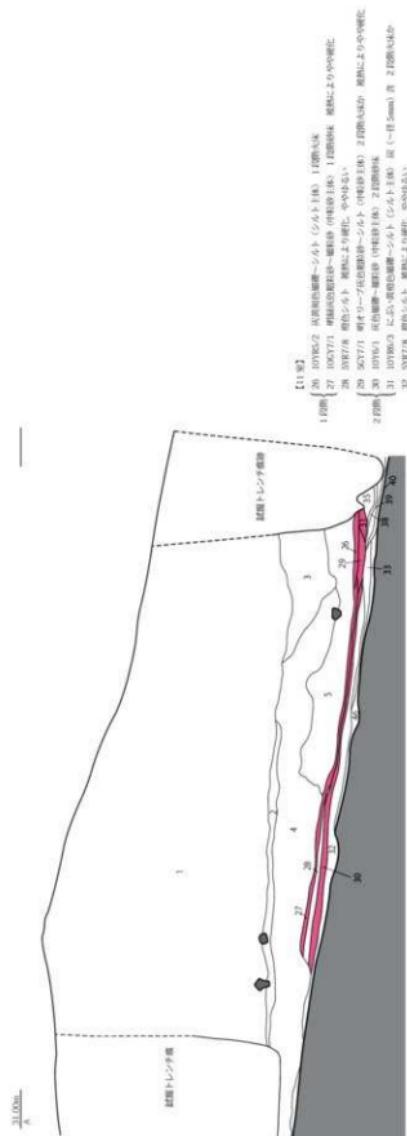
図III-42 11室1段階平面図・断面異通図 (1/50)



図III-43 11室2段階 平面図・断面見通図(1/50)



調査区南壁土層断面図(1)

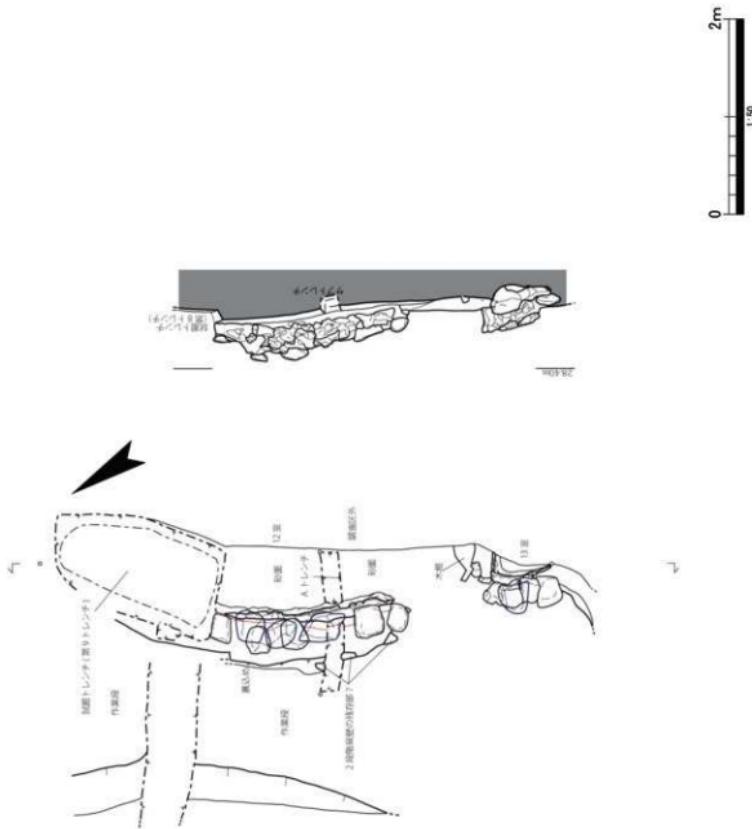


A テレンチ土層断面図

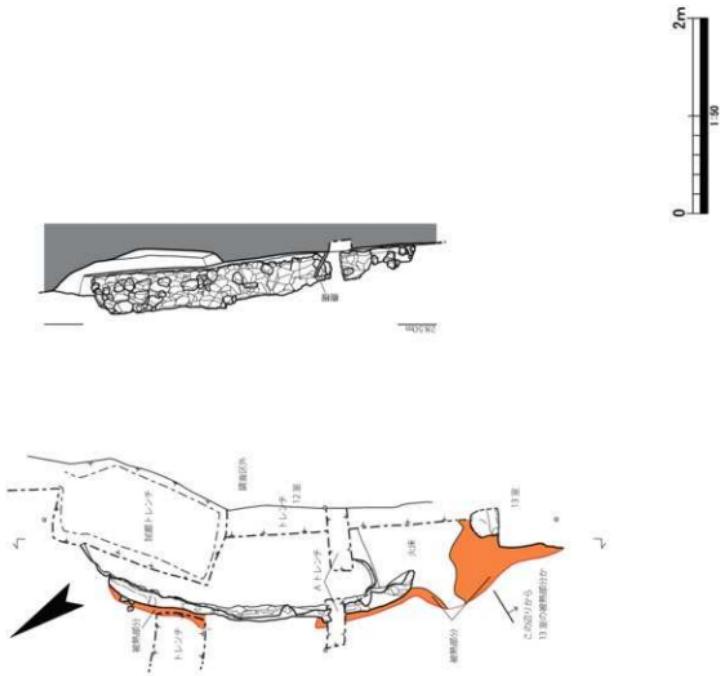


図III-44 11室土層図(1/40)

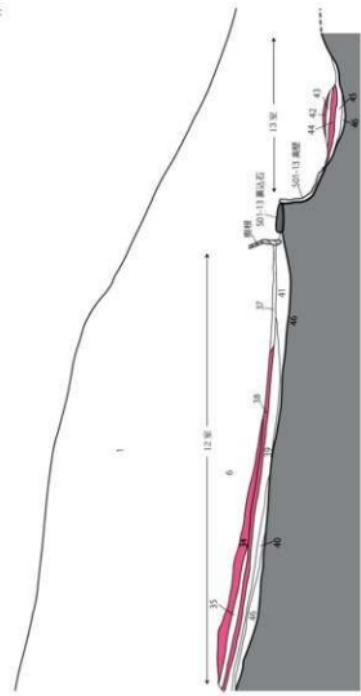
図III-45 12室・13室 1段階平面図・断面見通図 (1/50)



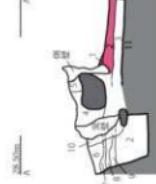
図III-46 12室2段階平面図・断面見通図 (1/50)



A



Aトレンチ土層断面図



24 (0)9.6/2 淡褐色粘土—堅緻 35 1.0m厚付近 (鉛筆の下に引かれた矢印) (0)9.6/2付近 (4cm)

35 3/30/6/4 ニコ・褐色シート (1607/17) 黄褐色—堅緻 36 2.0m厚付近 (鉛筆の下に引かれた矢印) (0)9.6/2付近 (4cm)

36 2.3/30/6/8 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 少許 剥離した上位部。

37 3/30/6/11 黄褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

38 2.5/30/7/1 黄褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

39 3/30/7/8 褐色シート 黄褐色—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

40 3/30/8/4 褐色シート 黄褐色—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

41 2.3/30/8/2 褐色シート 黄褐色—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

42 3/30/8/2 褐色シート 黄褐色—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

43 2.3/30/8/4 ニコ・褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

44 2.3/30/8/2 淡褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

45 2.3/30/8/2 褐色シート 黄褐色—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

46 2.3/30/8/6 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

47 3/30/3 淡褐色シート—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。

1	10/7/1 淡褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) (0)9.6/1付近 (4cm)
2	7.5/30/2 黄褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。ややかさしい。
3	2.3/30/6/8 褐色シート 剥離した上位部。
4	2.3/37/7/6 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
5	5/30/6/8 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
6	2.3/37/6/6 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
7	2.3/37/6/6 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
8	10/30/6/2 黄褐色粘土—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
9	2.3/37/6/6 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
10	2.3/30/6/8 褐色シート (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
11	2.3/30/6/8 褐色シート—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。
12	3/37/3 淡褐色シート—堅緻 (鉛筆の下に引かれた矢印) 剥離した上位部。



図III-47 12・13室土層図 (1/40)

～細粒砂である。

(2) 埋甕

S J 0 2 埋甕

窯跡 1 室の奥壁外側に隣接し、外壁と並行して、直線的に並んだ 7 基の埋甕を検出した。奥壁外壁に隣接した長軸 3.2 m、短軸 1.3 m の掘り方内に、底部を下にした甕が正置しながらも、やや傾いた状態で埋置されていた。埋土は黄色シルト～粘土、浅黄色シルト～粘土で、窯壁片・粘土ブロックを含んでいた。甕 7 基とも上半部は削平されていた。機能は不明であるが、類例として、伊万里市松浦町の鍋原窯跡では、窯跡の同じ位置に、甕数個体が倒置の状態で埋置されていた。

S J 0 7 埋甕

窯跡 1 室の左側壁の西方約 5 m に、3 基の甕が並んで埋置される。地山を掘りこみ、甕を正置して埋置する。甕 3 基とも上半部は削平されていた。

S J 0 8 埋甕

窯跡 9 室の左側壁の西方約 2 m に、3 基の甕が並んで埋置される。地山を掘りこみ、甕を正置して埋置する。甕 3 基とも上半部は削平されていた。

(3) 溝状遺構

S D 0 3 溝状遺構

窯跡 5 室、6 室、7 室の右側壁の外側に、外壁に沿った溝状の遺構であり、図III-49 に掲載する。最大幅は 1.9 m、深さ 1 m で、断面形及び側壁は多様な形状である。埋土中から、窯壁片や焼土ブロックが出土しており、埋土の堆積状況は水平気味であることなどから、人為的に埋めたと思われる。窯跡の構築に関わる遺構と思われる。

出土遺物は甕、擂鉢、注口付瓶などである。

S D 0 6 溝状遺構

6 室第 2 面の完掘後、奥壁から 5 室の火床側の床面下まで掘り下げた。その結果、奥壁裏込の基部で、長径 0.15 m～0.5 m の方形及び長方形の石材を検出した。さらに、5 室の火床側の床面下から、6 室の奥壁をとり聞くような溝跡を検出し、S D 06 とし、図III-23 に掲載する。窯室の下面であり、窯室を意識したような掘り方であることや、溝跡の東端が S D 03 と連結していることなどから、窯跡の構築に関連する遺構であると思われる。

溝幅は 0.8 m～0.4 m、深さは 0.08 m～0.5 m である。溝底から窯壁片が出土した。

(4) 土坑

S K 0 5 土坑

S D 03 溝状遺構の底面にて検出した。図III-49 に掲載する。平面形は長楕円形で、長軸 0.75 m、短軸 0.41 m、深さ 0.28 m である。埋土中から窯壁片や焼土ブロックが出土した。

(5) 作業段

窯跡焼成室の出入口は西側に設けられ、その前面の空間は、地山を階段状に整形した平坦面がみられ、作業段と呼称した。図III-5を参照されたい。作業段が見られるのは1室から8室の窯室西側であり、平坦な空間である作業段の、さらに西側は丘陵の斜面になる。作業段は窯の操業時に製品の出し入れや、薪の置き場として利用された空間であろう。

作業段の幅は、5室西側が最も広く約9mで、1室西側は約5mである。1室西側の作業段の端部で丘陵斜面との境に、3基の甕からなるSJ07埋甕を検出した。

9室～12室の西側は作業段と呼べるほどの空間は無く、幅約2mの通路状の空間が設けられる。9室の西側で、3基の甕からなるSJ08埋甕を検出した。

(6) 物原

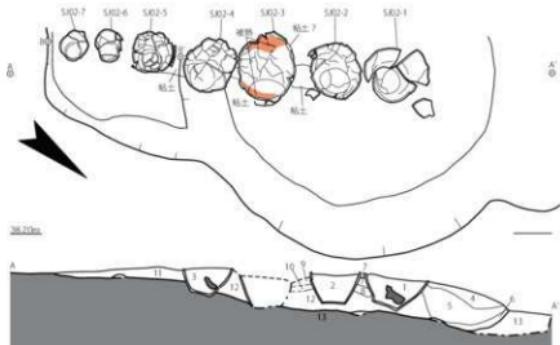
丘陵の中央尾根部付近に窯跡は立地する。丘陵の東側は急斜面の谷部となり、現状は溜池となる。窯跡の西側に出口が設けられるため、物原は丘陵の西側斜面に形成されており、現状で多量の陶器片や窯道具が散乱していた。本発掘調査では、以下の物原及び包含層の調査区を設定し、人力掘削を行い、遺物を採集した。

丘陵西側斜面部の物原の調査として、包含層A、包含層C、包含層D地点を設定した。また、窯跡の11室～13室の直上には、窯の廃絶後の造成土ではあるが、厚さ0.7m～1.5mにも及ぶ多量の陶器片、窯道具からなる層があり、包含層B地点とした。図III-50に、調査した範囲と、その土層図の地点を記す。図III-51は、物原の土層図であり、包含層B地点の東壁土層と西壁土層、包含層C地点の土層図を掲載する。

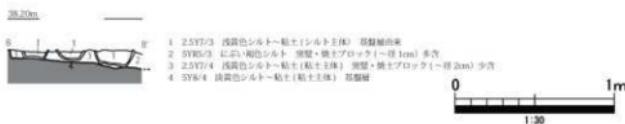
包含層B地点は、大きく、廃窯以後の造成土、窯操業時の物原層、窯構築時、又はそれ以前の堆積層からなる。廃窯以後の造成土及び窯操業時の物原層から多量の陶器片、窯道具が出土した。

包含層C地点の調査着手時に3本のトレンチを設定した。北から、第1トレンチ、第2トレンチ、第3トレンチと呼称し、第1トレンチ及び第3トレンチの北壁土層図を図III-51に掲載する。層序は、廃窯以後の造成土と窯構築時、又はそれ以前の堆積層からなる。丘陵の西側斜面を厚く覆っていたのは、廃窯以後の造成土であり、多量の陶器片、窯道具が出土した。

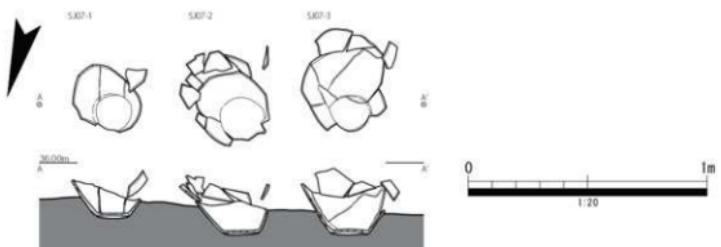
SJ02埋臺



- 1 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 中讃(～径 5cm) 少々
- 2 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 中讃(～径 3cm) 少々
- 3 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 中讃(～径 5cm) 少々
- 4 3196/3 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 中讃(～径 5cm) 少々
- 5 3196/3 三つの砂層を含む淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 砂(～径 5mm) 少々
- 6 10987/9 明黄色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層プロック(～径 1cm) 少々
- 7 3196/3 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層プロック(～径 2cm) 多々
- 8 3195/3 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 粘土プロック(～径 10cm) 少々
- 9 2597/7 明黄色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 粘土プロック(～径 1cm) 少々
- 10 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 粘土プロック(～径 1cm) 少々
- 11 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 粘土プロック(～径 1cm) 少々
- 12 2597/7 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層由来 粘土プロック(～径 1cm) 少々
- 13 3198/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層



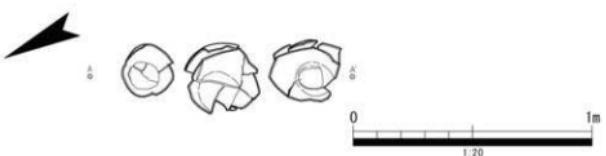
SJ07埋臺



- 1 2537/3 淡褐色シルト～粘土(シルト主体) 基盤層由来
- 2 3195/3 に亘る褐色シルト 基盤・粘土プロック(～径 1cm) 多々
- 3 2537/4 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤・粘土プロック(～径 2m) 少々
- 4 3196/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層



SJ08埋臺



- 1 2537/1 淡褐色シルト～粘土(シルト主体) 基盤層由来
- 2 3195/2 に亘る褐色シルト 基盤・粘土プロック(～径 1cm) 多々
- 3 2537/3 淡褐色シルト～粘土(粘土主体) 基盤・粘土プロック(～径 2m) 少々
- 4 3196/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 基盤層

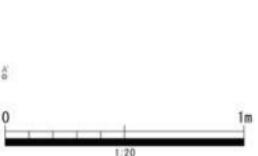
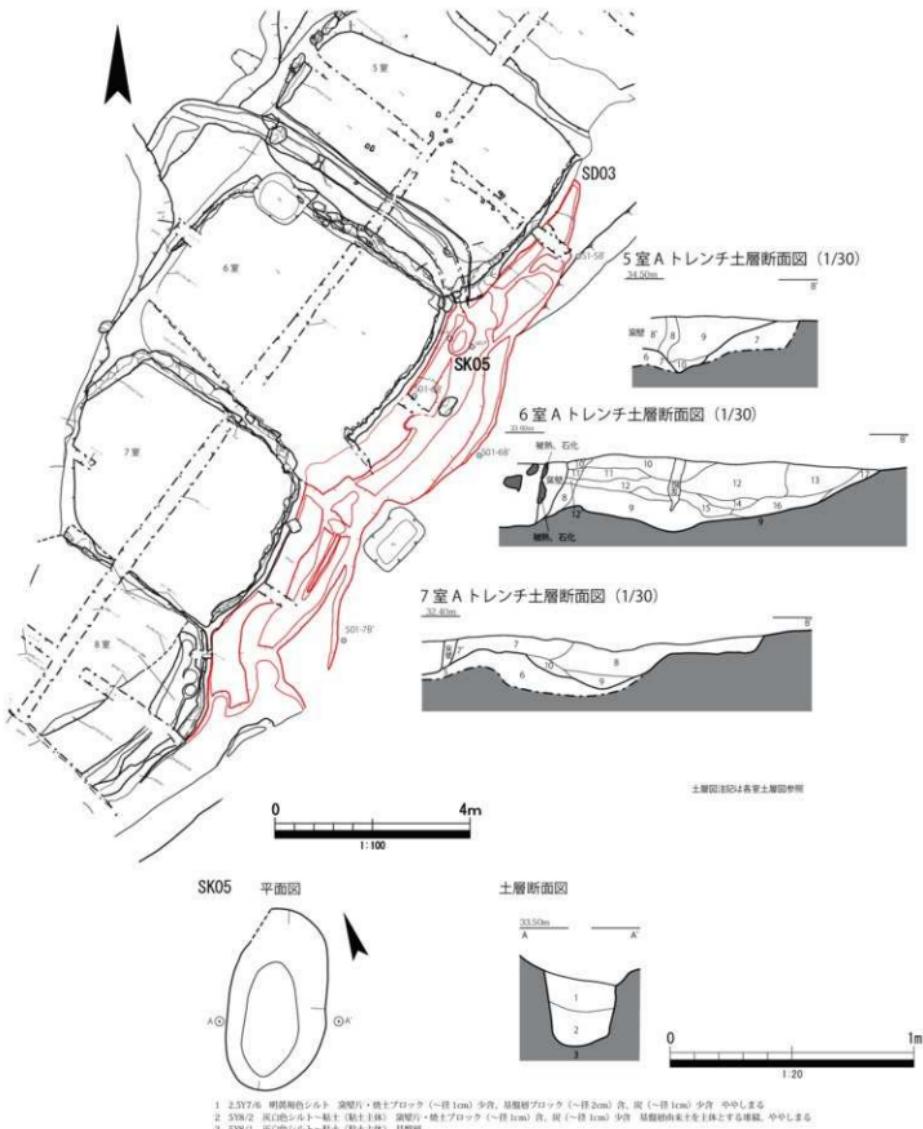
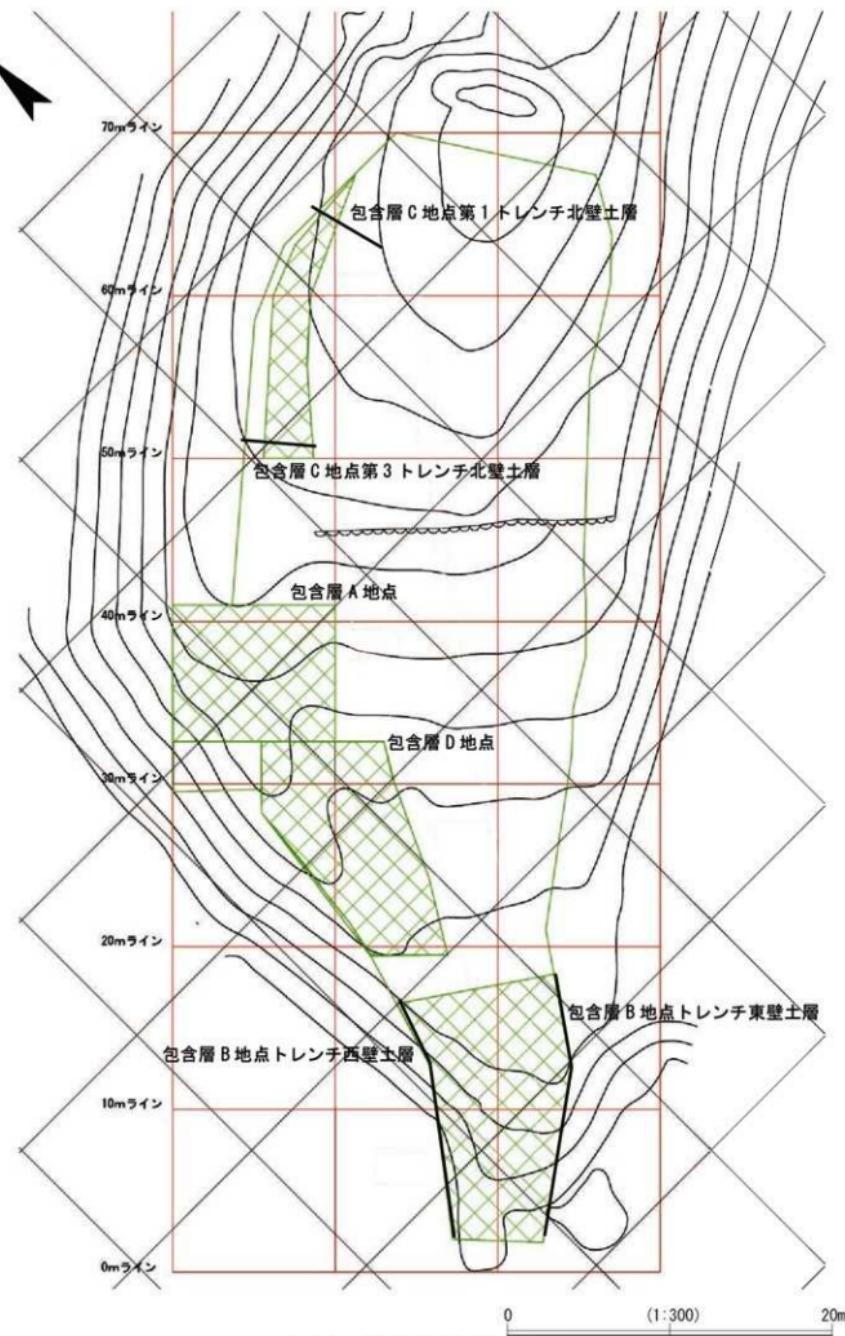


図 III -48 SJ02・SJ07・SJ08 埋臺平面図・見通図 (1/30 1/20)

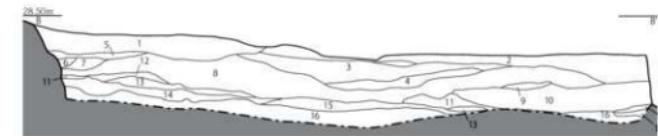


図III-49 SD03-SK05 平面図・土層図 (1/20 1/100)



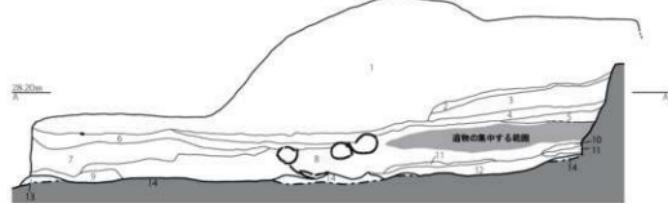
図III-50 物原調査区範囲図 (1/300)

包含層B地点 南北トレンチ東壁土層断面図



- 地盤(他の造成土)
- 7.5YR/3 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 蘆原瓦・埴土ブロック(～径3cm) 多孔, 砂(～径1cm) 少々, 10YR6/3 に於く淡褐色シルトブロック(～径3cm) 含
 - 2.5Y7/6 黄褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径3cm) 食, 砂(～径1cm) 少々, 10YR6/3 に於く淡褐色シルトブロック(～径3cm) 含
 - 10Y7/6 黄褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径5cm) 多孔, 2.5Y7/6 黄褐色シルトブロック(～径3cm) 含
 - 5.5YR/6 黄褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径2cm) 食, 砂(～径1cm) 少々, 10YR6/3 に於く淡褐色シルトブロック(～径3cm) 含
 - 5.5YR/3 に於く淡褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径3cm) 多孔, 砂(～径1cm) 少々, 10YR6/3 に於く淡褐色シルトブロック(～径3cm) 含
 - 7.5YR/3 に於く淡褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径3cm) 多孔, 砂(～径1cm) 少々, ややゆるい
 - 2.5Y7/4 淡黄色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径5cm) 食, 砂(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径3cm) 含
 - 10.5Y7/6 淡褐色シルト～粘土(シルト主体) 嵌土ブロック(～径2cm) 多孔食, 砂(～径5mm) 少々合, 基盤部由土を土体とする堆積, ややゆるい
 - 11.5Y7/6 淡褐色シルト～粘土(シルト主体) 嵌土ブロック(～径1cm) 多孔, 砂(～径1cm) 少々, 基盤部由土を土体とする堆積, しまるい
 - 12.5Y7/3 淡褐色シルト 蘆原瓦・埴土ブロック(～径1cm) 多孔, 砂(～径1cm) 少々, 基盤部由土を土体とする堆積, しまるい
 - 13.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 嵌土ブロック(～径2cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径2cm) 含
 - 14.10YR6/1 淡灰色粘土 瓦(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径1cm) 含
 - 15.2.5Y7/3 淡灰色シルト～粘土(粘土主体) 10YR6/1 淡灰色粘土ブロック(～径5mm) 食, 砂(～径5mm) 少々
 - 16.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 5Y7/1 白色シルト～粘土ブロック(～径1cm) 多孔

包含層B地点 南北トレンチ西壁土層断面図



- 地盤(他の造成土)
- 7.5YR5/2 に於く褐色シルト等
 - 2.5Y7/6 淡黄色シルト
 - 7.5YR3/4 に於く褐色シルト
 - 2.5YR/6 明黄褐色シルト
 - 7.5YR4/4 に於く褐色シルト
 - 7.5YR/4 に於く褐色シルト
 - 10YR2/1 に於く褐色シルト
 - 2.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(シルト主体) 嵌土ブロック(～径1cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(14層由来) ～径1cm 少々
 - 2.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(シルト主体) 嵌土ブロック(～径3cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径5cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々
 - 7.5YR/3 に於く褐色シルト
 - 10YR6/1 淡灰色粘土 瓦(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径3cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々, 基盤部ブロック(～径5cm) 多孔, 砂(～径5mm) 少々
 - 2.5Y7/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 嵌土ブロック(～径2cm) 多孔, 7.5Y7/1 淡灰色粘土ブロック(～径3cm) 少々
 - 11.5Y7/6 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 嵌土ブロック(～径1cm) 多孔, 7.5Y7/1 淡灰色粘土ブロック(～径2cm) 少々
 - 12.5Y7/3 淡灰色粘土 瓦(～径5mm) 少々, 1.7m以上の埋没部, 腐泥化, 基盤部由土を土体とする堆積, しまるい
 - 13.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 嵌土ブロック(～径3cm) 多孔, 基盤部由土を土体とする堆積, しまるい
 - 14.5Y7/3 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 5Y7/1 白色シルト～粘土ブロック(～径1cm) 少々

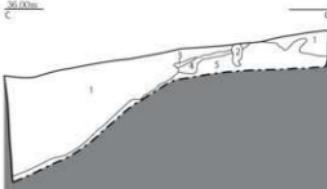
包含層C地点 第1トレンチ北壁土層断面図



- 地盤定義、又はそれ以前の堆積
- 7.5YR5/2 に於く褐色シルト等
 - 2.5Y7/1 淡黄色シルト(～径10cm厚)・陶器片多層・近現代造成土
 - 5Y7/3 淡黄色シルト～粘土ブロック(～径1cm) 食
 - 3.5YR/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体)
 - 上層との境界部分 黃褐色(10YR8/6) に変色

0 2m
1:60

包含層C地点 第3トレンチ北壁土層断面図



- 地盤定義、又はそれ以前の堆積
- 7.5YR5/3 に於く褐色シルト等 蘆原瓦・埴土ブロック(～径10cm厚)・陶器片多層・近現代造成土
 - 7.5YR6/5 に於く褐色シルト等 嵌土ブロック(～径1cm厚)
 - 3.5YR6/5 に於く褐色シルト等 嵌土ブロック(～径1cm厚)・陶器片多層・和土による埋没部

地盤(他の造成土)

- 3.5YR6/5 に於く褐色シルト等 嵌土ブロック(～径1cm厚) 含
- 2.5YR/4 淡黄色シルト～粘土(粘土主体) 嵌土ブロック(～径2cm厚) 含
- 基盤部 5.5YR/4 淡褐色シルト～粘土(粘土主体)

図III-51 物原土層図(1/60)

IV. 遺物

今回の発掘調査で取り上げた遺物は容量 36 リットルのプラスチックケース（以下コンテナと呼ぶ）で 204 箱である。近世の陶器窯跡であり、現状で調査対象地の北西斜面から丘陵部の平坦面に多量の甕や擂鉢や胎土目などの窯道具が散乱していた。調査着手前から、膨大な遺物の出土量が予想されたため、発掘調査時の遺物取り上げにあたっては選別を試みた。選別は窯跡の隣接地に第 1 次選別場所と発掘調査プレハブ敷地内に第 2 次選別場所を設け、段階的に選別を実施した。

選別のポイントは以下のとおりである。①完形品など遺存率が良いこと。②出土している全ての器種を網羅し、同一器種で多量出土品は、遺存率がいいものを優先した。③窯室出土品は、特に選別に注意を払い、希少な器種は遺存率が悪くても取り上げた。④楔形ハマは多量に出土したため、272 点について計測を行い、代表的なものを取り上げた。

取り上げた遺物は、水洗後にジェットマークによる注記と接合をおこない、窯室や埋甕、溝状遺構などの遺構や物原などの出土地点毎に分類してコンテナに保管したが、その数量はコンテナ 204 箱である。また、この作業工程の中で、実測対象とする遺物の抽出もおこなった。実測対象遺物は、この際に抽出した遺物をもとにさらに選別及び追加し、約 550 点の遺物実測と写真撮影を実施した。

出土遺物は陶器が大半を占め、若干の磁器片と窯道具などがある。陶器には甕、擂鉢、三耳壺、瓶、小杯、灰釉陶器には碗、高台付皿、高台付鉢、その他、瓦、土管、紡錘車、磁器、窯道具、窯部材などがある。

甕は法量により大甕、中甕、小甕、極小甕が、擂鉢には平底と高台付があり、さらに高台付は高い高台と低い高台がある。遺物一覧表の器種の欄に擂鉢の後に（平底）（高台付・高）（高台付・低）と記載する。

瓶は注口付瓶、尿瓶がある。

瓦は平瓦、軒先瓦、軒丸瓦がある。磁器は碗、皿などの小破片が少量出土している。窯道具はハマ、チャツ、円筒形焼台、トチン、胎土目があり、ハマはクサビ形ハマ、円盤状ハマ、逆台形ハマ、円孤状ハマ、胎土目などに細分できる。

窯部材には火除け、窯焼成時の炎の色見穴の栓、トンバイ（レンガ）がある。

以下、窯跡出土遺物は窯室ごとに、埋甕や溝状遺構のほか物原・包含層出土遺物の順で説明する。

1. 窯跡出土遺物

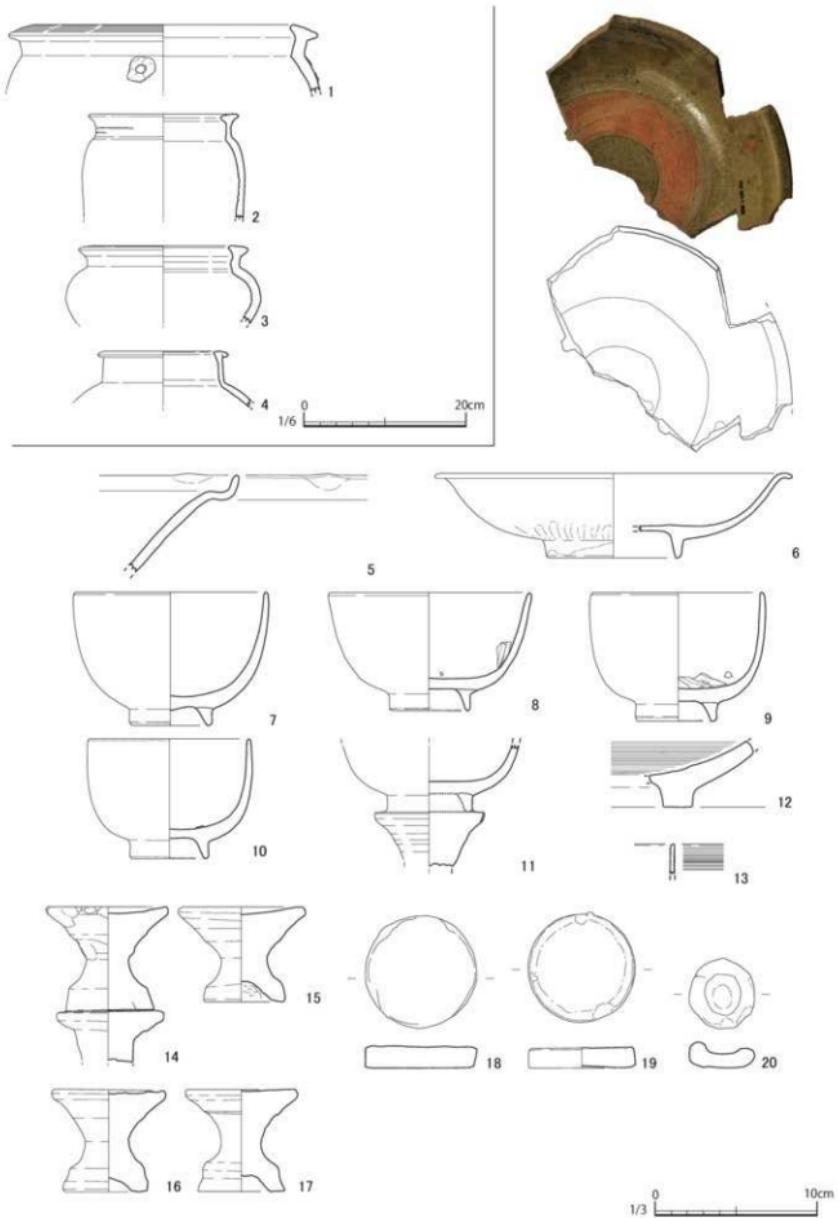
図 IV-1-1 ~ 図 IV-2-13 は 1 室出土遺物である。

図 IV-1-1 ~ 4 は甕であり、口縁部～胴部まで遺存する。1 と 3 は焼け歪みがみられる。1 は肩部一箇所に貼花文があり、口縁上端面に三条の沈線を施す。2 と 3 は体部内面格子目叩きのちナデ。

図 IV-1-5 は高台付鉢の口縁部片、内外面施釉、口縁部は袋状に内湾する。図 IV-1-6 は高台付皿、体部は内外面施釉、高台部の外面は部分的に施釉、内面露胎。蛇の目釉剥ぎ後にオレンジ色の砂粒を塗布する。口縁部は外反する。

図 IV-1-7 ~ 11 は碗、内外面施釉、体部は内湾する。11 はトチンに釉着する。12 は高台付鉢、体部内面施釉、ハケ目。13 は磁器の鉢、口縁端部口紅。

図 IV-1-14 ~ 17 はトチンである。上端面はわずかに窪み、底面は糸切り後、中央部を削り窪ませる。上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。14 はトチン 2 点が釉着する。



図IV-1 1室出土遺物1 (1/3, 1/6)

図IV-1-18、19はハマ。18は両面にオレンジ色の砂目付着。19は片面にオレンジ色の砂目付着。20は胎土目。上面中央部は窪む。全面にオレンジ色の砂目付着。

図IV-2-1～9はトチンである。すべて、外面に自然釉がかかる。1～6は体部断面が円形で、台部及び底部とも外方に開く。1は体部に陶器の小破片が数点、釉着する。2は上部を欠失する。3は高さ12.9cmのトチンの上に、高さ7.1cmのトチンを乗せて、釉着する。下のトチンの底面には、窓跡の床面砂床の痕跡が付着する。4、5、6は形態、法量とも類似する。高さは12.5cm～12.95cmで、上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。7、8、9の体部断面は円形で、台部は外方に開き、上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。底部径は体部径と同じかやや大きい。9は底部糸切り。

図IV-2-10～13はハマである。側面は逆台形であり、上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。12、13は底部糸切り。

図IV-3-1～図IV-8-23は2室出土遺物である。

図IV-3-1～4は中壺であり、口縁部～胴部片である。1と2は、肩部に貼花文を付け、胴部上半に10条前後の沈線文を施す。3は肩部に二条の繩状突帯をまわす。繩状突帯は逆L字状である。4は胴部上半に沈線文を施す。3、4の肩部内面はハケ、胴部内面は格子目叩きのちナデを施す。

図IV-3-5、6は捕鉢である。5は平底で、口縁部は外反気味で、外面に一条の突帯を回す。6は口縁部片である。口縁部は外反し、外面に一条の断面三角形突帯を回す。

図IV-3-7、8は灰釉の高台付皿、体部は内外面施釉、高台部の外面は部分的に施釉、内面露胎。蛇の目釉剥ぎ後にオレンジ色の砂粒を塗布する。口縁部は外反する。

図IV-4-1～5は灰釉の高台付皿、体部は内外面施釉、高台部の外面は部分的に施釉、内面露胎。蛇の目釉剥ぎ後にオレンジ色の砂粒を塗布する。口縁部は外反する。5は底部外面に指先による連続した窪みを施す。

図IV-5-1、2は灰釉の高台付皿、内外面施釉。体部から口縁部にかけて内湾する。高台部は高さ約4cmと高く、高台端部は内側に若干、肥厚する。皿部内面に2本の杉と1本の梅の木と山からなる山水文を描く。この山水文の類例が、九州陶磁文化館所蔵の呉須絵山水文瓶にみられる。本品の高台内には「清水」と押印されており、京焼風陶器の優品とされている。本窯出土品の山水文は、九州陶磁文化館所蔵呉須絵山水文瓶の山水文の絵柄が退化したものと考えられる。

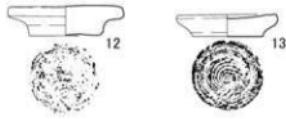
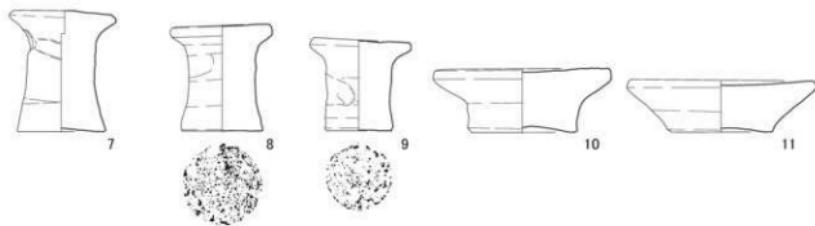
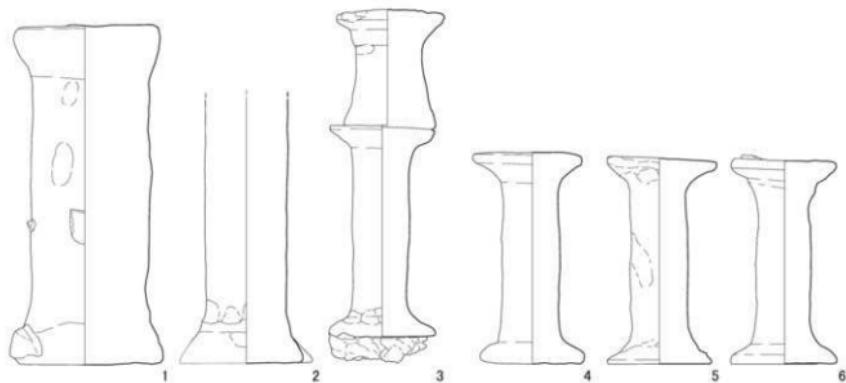
図IV-5-2は1と同じ山水文を描く。高台付皿(図IV-4-1～5と同型式)の蛇の目釉剥ぎ部分に、高台部をのせて重ね焼きする。

図IV-5-3、4は灰釉の大碗、体部内外面施釉。3は高台部内外面露胎、体部内面に呉須の一条線文あり。4は高台部外面施釉、内面露胎。

図IV-5-5～19は灰釉の碗、内外面施釉、体部は内湾する。6は逆台形ハマにのせて釉着する。7は体部底面に厚さ数mmの褐色の付着物あり。

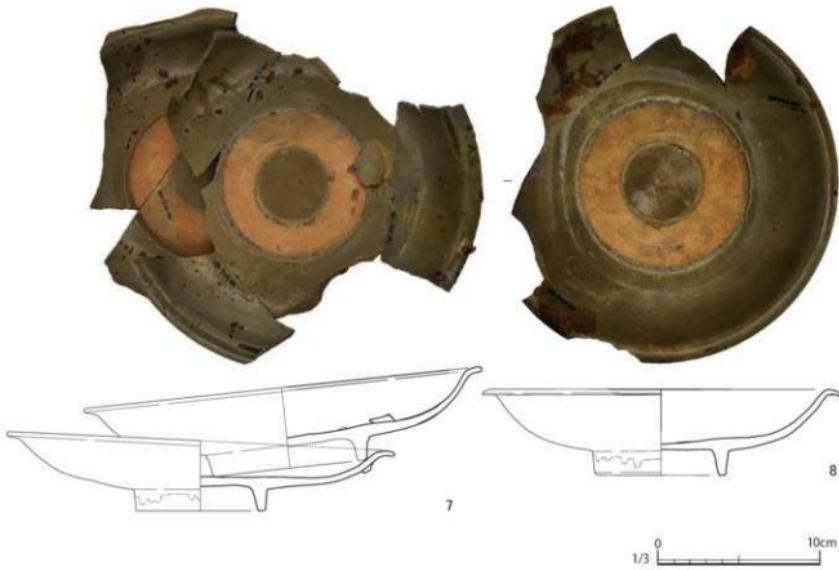
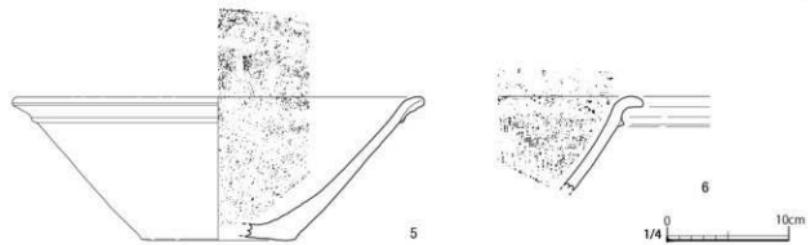
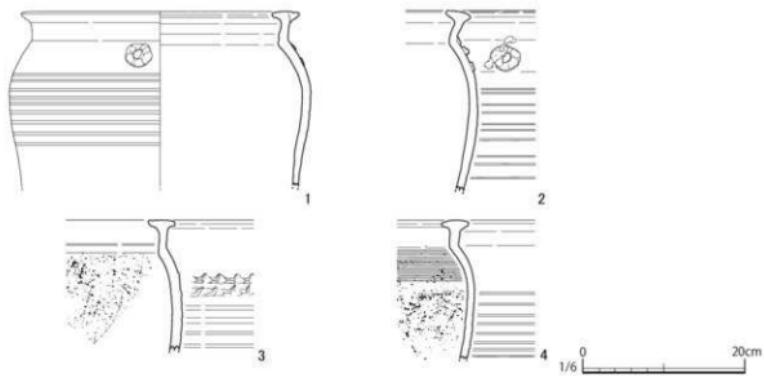
図IV-6-1～6は灰釉の碗、内外面施釉、体部は緩やかに内湾する。6は体部外面に連続した縱方向の切形状の文様を施す。

図IV-6-7～12は灰釉の高台付鉢、体部は内外面施釉、高台部内外面露胎、口縁部は袋状に内湾する。7は同器種の体部から口縁部にかけての破片が重ね焼きの状態で釉着する。9は体部内面に呉須の一条線文を施す。9、12は高台部外面の上半部に釉薬が垂れる。



1/3 0 10cm

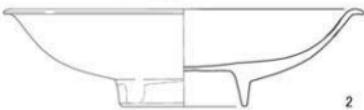
図IV-2 1室出土遺物 2 (1/3)



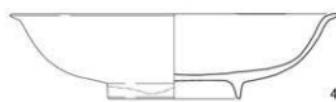
図IV-3 2室出土遺物 1 (1/3, 1/4, 1/6)



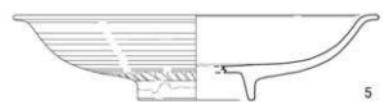
1



2



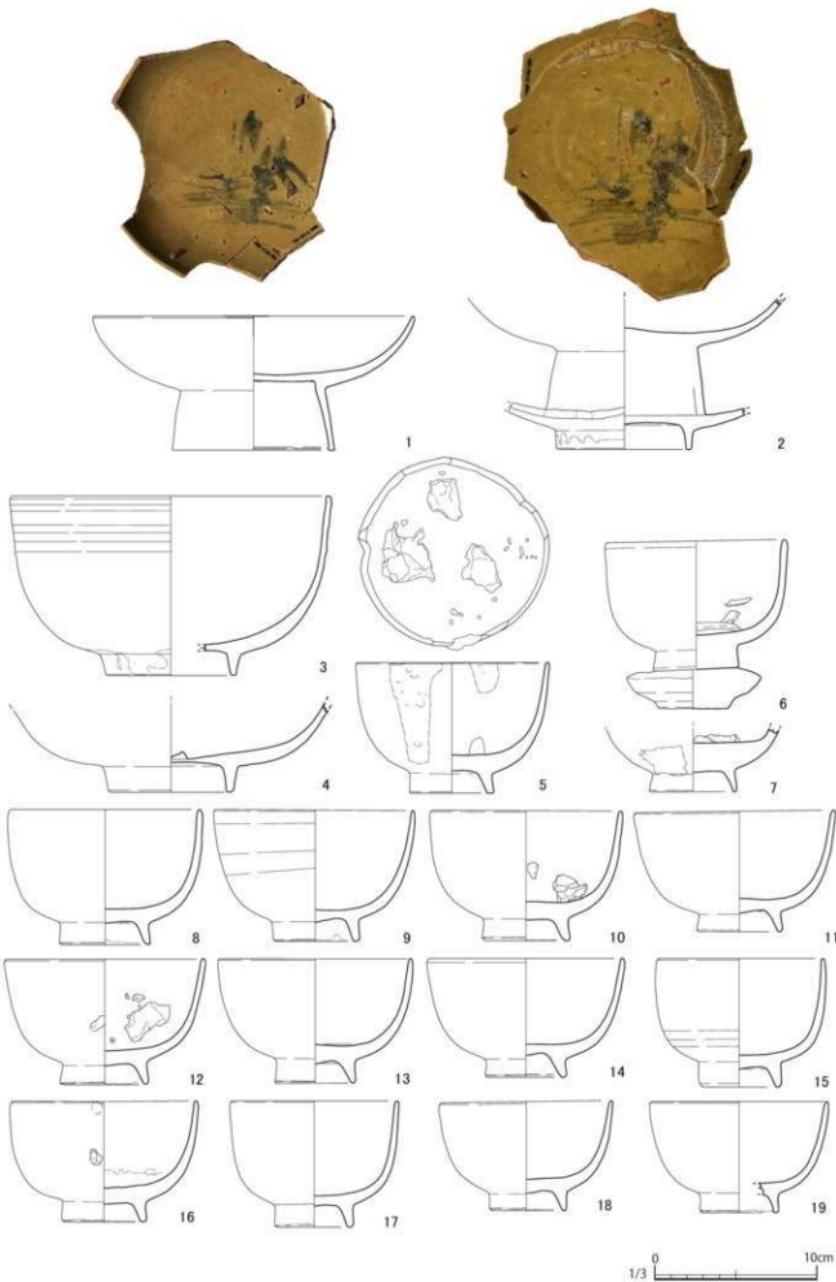
3



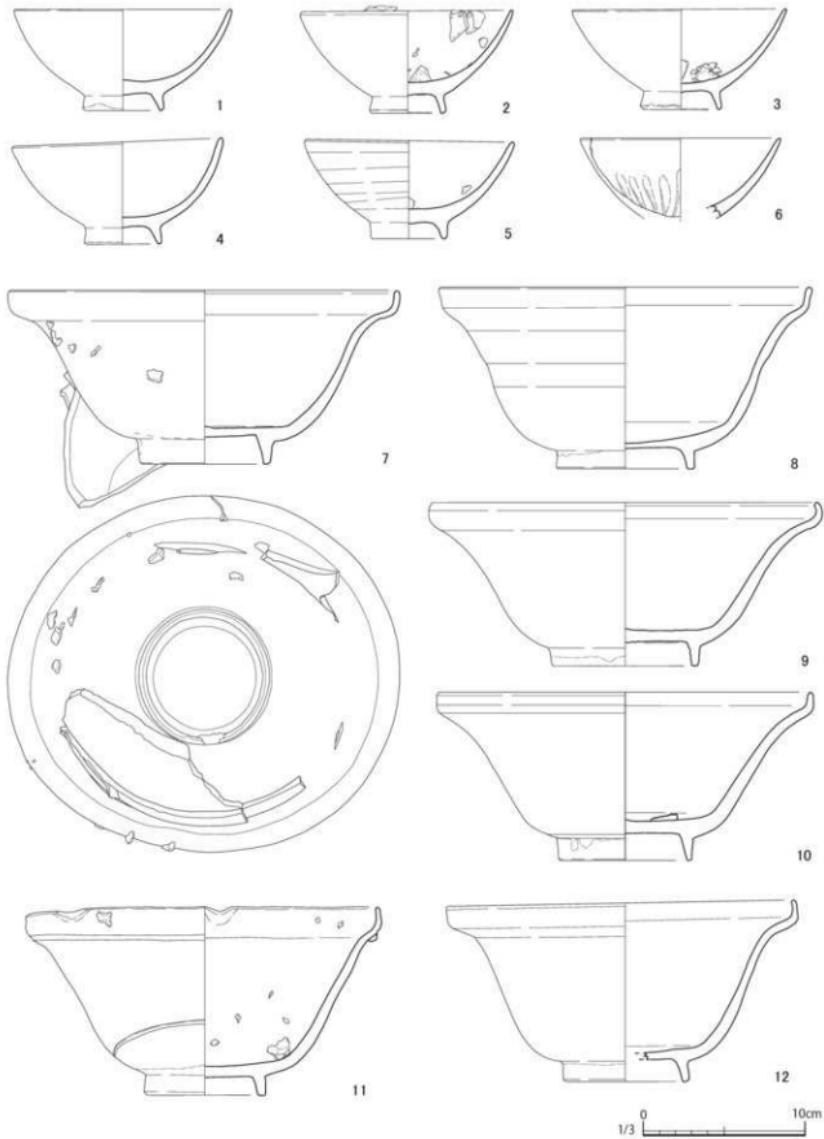
5



図IV-4 2室出土遺物2(1/3)



図IV-5 2室出土遺物3 (1/3)



図IV-6 2室出土遺物4 (1/3)

図IV-7-1、2は灰釉の高台付鉢、1は底部外面で強く屈曲し稜線をつくる。

図IV-7-3は平瓦片。外面ハケ目を施す。端部内面に指頭圧痕あり。

図IV-7-4～18はトチンである。4～11の体部断面は円形で、台部及び底部とも外方に開く。4は体部外面に碗の破片数点とトチンが釉着している。実測図は釉着した状態としていない状態の図を掲載する。

8の底面には高台部の重ね積み痕跡が残り、台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。9の台部上端面にはオレンジ色の砂目と高台部の重ね積み痕跡が残る。11の台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。

12～17の体部断面は円形で、台部は外方に開き、底部径は体部径と同じかやや大きい。台部上端面にはオレンジ色の砂目と高台部の痕跡が残る。14の台部上端面にはオレンジ色の砂目と碗の高台部が釉着する。15はトチンのうえにトチンを重ねる。16、17は底部糸切。18の台部上端面にはオレンジ色の砂目と高台部の痕跡が残る。

図IV-8-1～5はトチンである。上端面はわずかに窪み、底面は糸切り後、中央部を削り窪ませる。上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。

図IV-8-6～14は逆台形ハマである。6、7、9は台部上端面及び底面がわずかに窪み、台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。8、10は底面中央部を轆轤回転ケズリにより窪ませる。台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。11～14は底部糸切。

図IV-8-15、20は円盤形のハマである。15は両面ともにオレンジ色の砂目が付着する。

図IV-8-16は扁平形に整形した胎土目である。

図IV-8-17～19は陶板であり、ハマのような焼台として使用している。表面にオレンジ色の砂目が付着しており、17、19は陶器を載せて焼成した痕が色調として判る。18は高台部をのせた痕跡が残る。

図IV-8-21～23は南東壁裏込土出土。21は灰釉の碗、22は小甕、23は中甕の口縁部片である。

図IV-9-1～図IV-13-5は3室出土遺物であり、図IV-9-1～図IV-10-10は第1面出土である。

図IV-9-1～3は中甕で、1、2は肩部に貼花文を付け、胴部上半に10条前後の沈線文を施す。胴部内面は格子目叩きのちナデを施す。3は肩部に2条の縄状突帯を回し、その下部に8条の沈線を回す。

図IV-9-4～8は擂鉢片である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回し口縁部は外反する。擂目は粗く、その上端は横ナデにより、ナデ消しされる。8は高台部片である。高台の高さは約3cmである。

図IV-10-1は火除けである。平面形は隅丸台形で、長さ（高さ）は31.5cm、最大厚は9cmである。表面は被熱により硬化し、自然釉がかかる。

図IV-10-2～10は楔形ハマである。砂床に接地する面は被熱のため赤化する。平面形は長い台形で断面形は長方形である。

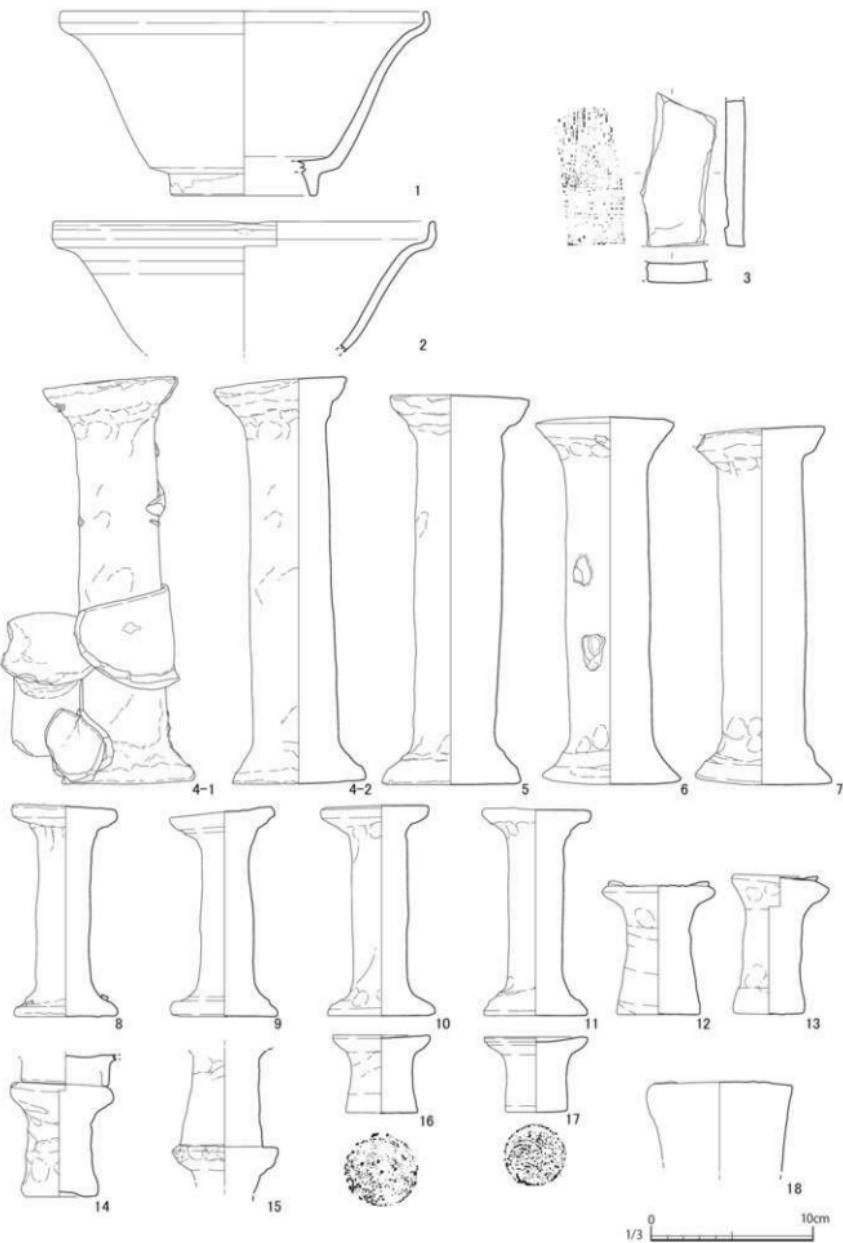
図IV-11-1～図IV-12-15は第2面出土である。

図IV-11-1は擂鉢の口縁部片である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回す。擂目は粗く、その上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-11-2は擂鉢の底部片、平底である。

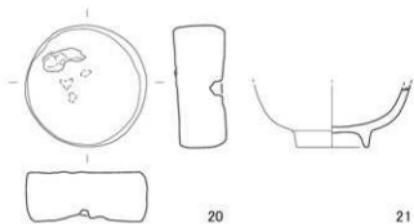
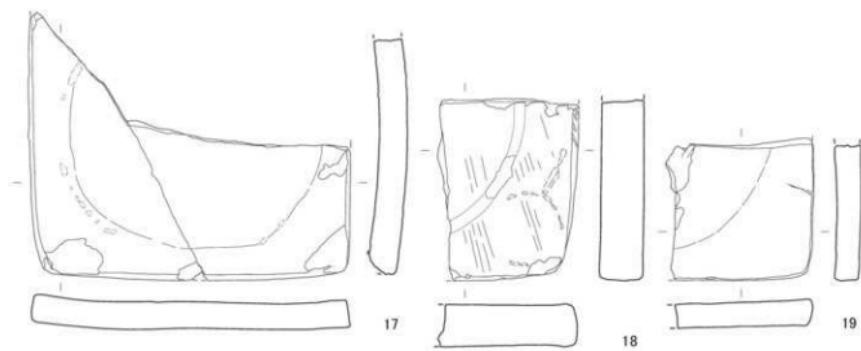
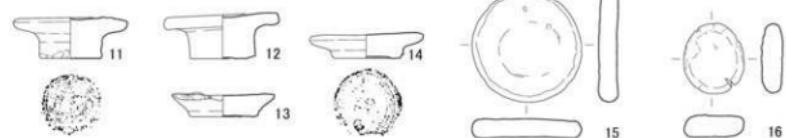
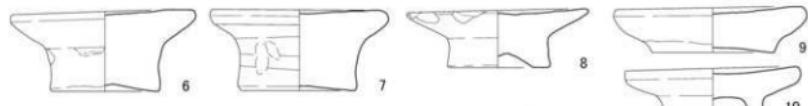
図IV-11-3～6は灰釉の碗。内外面施釉、体部は内湾する。

図IV-11-7は灰釉の高台付鉢、口縁部を欠損する。体部は内外面施釉、高台部内外面露胎。

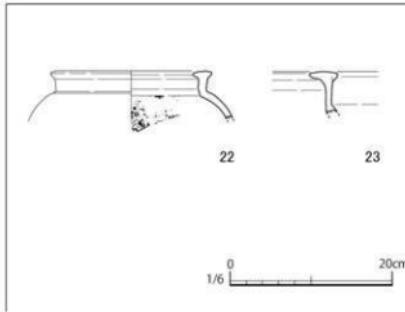
図IV-11-8～10は灰釉の碗。体部外面～口縁部内面は施釉。体部内面は露胎。体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。口縁端部は内側に肥厚する。10は蛇の目釉剥ぎの高台付皿底部の釉剥ぎ部



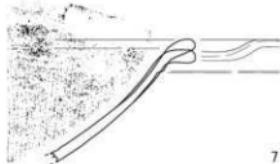
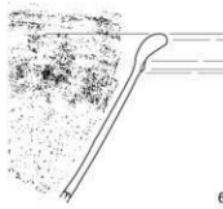
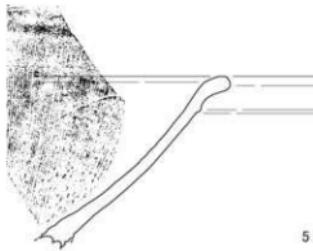
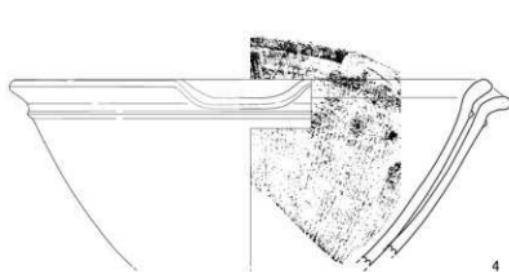
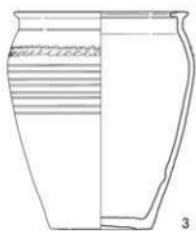
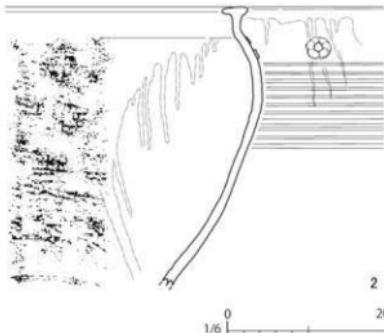
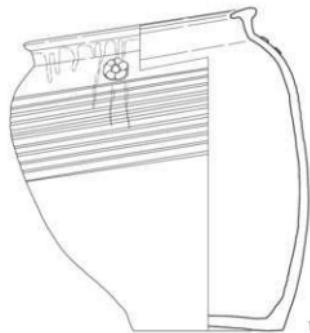
圖IV-7 2室出土遺物5 (1/3)



1/3 0 10cm

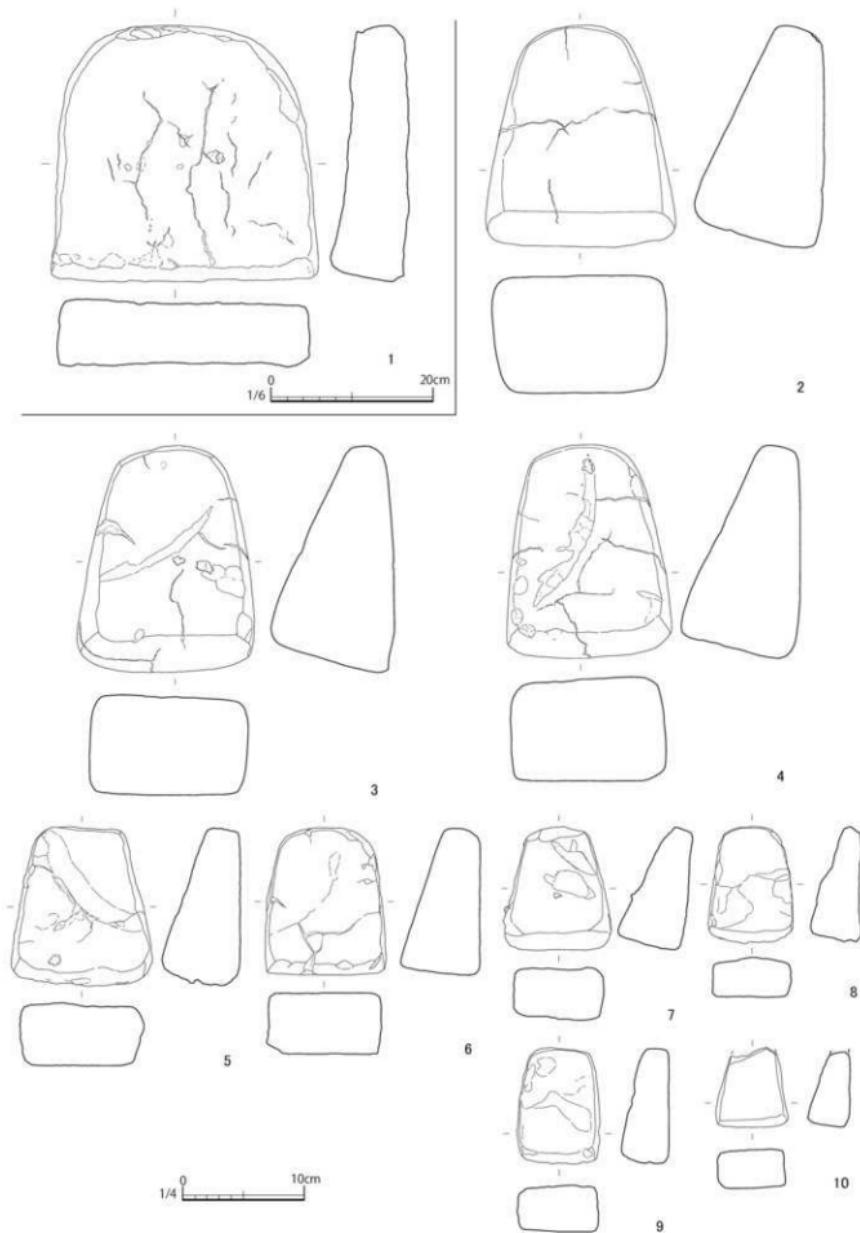


図IV-8 2室出土遺物6 (1/3, 1/6)

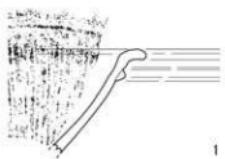


1/4 0 10cm

図IV-9 3室出土遺物1 (1/4, 1/6)



図IV-10 3室出土遺物2 (1/4, 1/6)



1

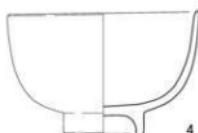


2

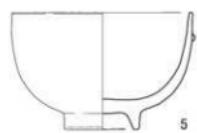
1/4 0 10cm



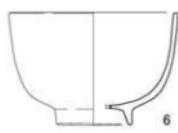
3



4



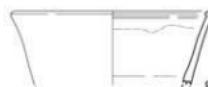
5



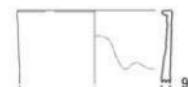
6



7



8



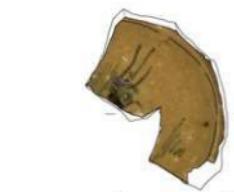
9



10



11



12

1/3 0 10cm

図IV-11 3室出土遺物3 (1/3, 1/4)

分に、逆さにした碗の口縁部が軸着する。

図IV-11-11、12は灰釉の高台付皿。11の体部は内外面施釉、高台部の外面は部分的に施釉、内面露胎。蛇の目釉剥ぎ後にオレンジ色の砂粒を塗布する。口縁部は外反する。12の皿部内面には濃緑色の山水風の絵柄を施す。

図IV-12-1～3はトチン。1、2の体部断面は円形で、台部及び底部とも外方に開く。3の体部断面は円形で、台部は外方に開き、底部径は体部径よりやや大きい。台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。

図IV-12-4、5はチャツ。逆台形ハマの上面内部をケズり込むような形態である。4の上面は露胎で側面は自然釉がかかる。5の上面全面にオレンジ色の砂目が付着する。

図IV-12-6～12はハマ。6～10は逆台形ハマ、台部上端面にはオレンジ色の砂目が付着する。底部糸切り。11、12は円盤形ハマである。上面にオレンジ色の砂目が付着し、高台を載せた窪みが残る。

図IV-12-13、14は陶板であり、ハマのような焼台として使用している。

図IV-12-15は器種不明。円環状を呈し、上端部は内側に突出する。側面は叩き整形で、胎土は甕に似る。

図IV-13-1、2は捕鉢。1は完形で平底である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。口縁下の外面に断面三角形の突帯を指ナデでつくる。捕目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。

図IV-13-3は灰釉の碗。内外面施釉、体部は内湾する。

図IV-13-4はトチン。体部断面は円形で、台部及び底部とも外方に開く。

図IV-13-5は楔形ハマ。炉壁が軸着する。

図IV-14-1～8は4室出土遺物である。

図IV-14-1は小甕の口縁部片である。

図IV-14-2～4は捕鉢、2、3は口縁部片、4は低い高台がついた底部片である。

図IV-14-5は陶器の鉢の口縁部片、外面に円形浮文を貼り付ける。

図IV-14-6は灰釉の碗か。内面に一条線文の染付けを施す。

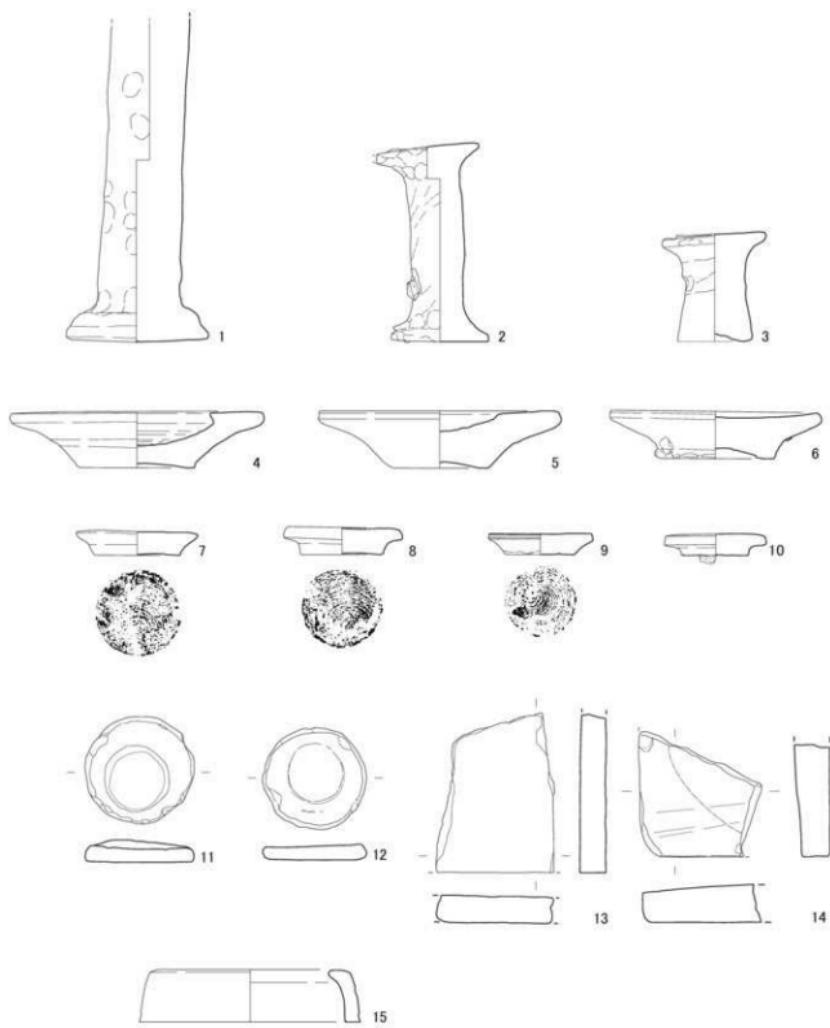
図IV-14-7は磁器の皿。内面に花文の染付けを施す。

図IV-14-8は磁器の碗。外面に染付けあり。

図IV-15-1～図IV-18-7は5室出土遺物である。

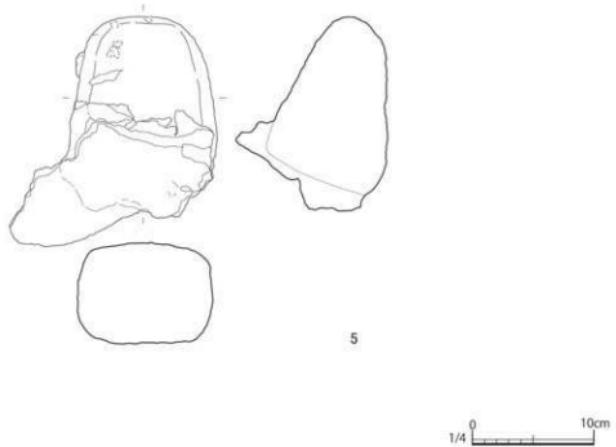
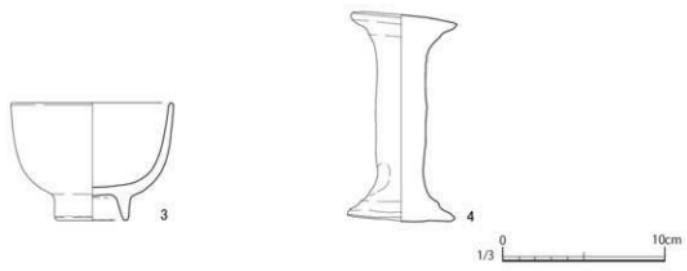
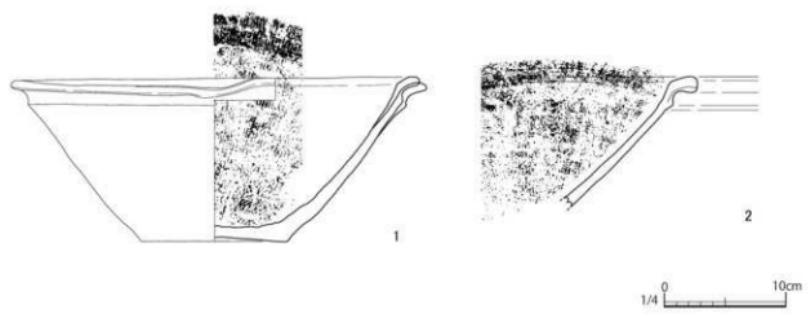
図IV-15-1は中甕、肩部に円形浮文を貼り、胴部上半に10条前後の沈線文を施す。胴部内面は格子目叩きのちナデを施す。

図IV-15-2～13は小甕、口縁部はT字形に内外に突出する。肩部の形態は個体差がみられる。体部内面は格子目叩き、底部内面にも叩きを施すものがある。外面無文である。図IV-15-2の底部外面に円形の砂目痕が4ヶ所みられる。胎土目積の痕跡と思われる。底部内面叩き痕あり。図IV-15-3の口縁上端面全面にまばらに砂目が付着する。底部外面の外周にもまばらに砂目が付着する。底部内面叩き痕あり。図IV-15-4は内外面赤褐色で素焼き状である。底部内面叩き痕あり。図IV-15-5は焼け歪む。底部外面の外周に砂目が付着する。図IV-15-6の底部外面に円形の砂目痕が5ヶ所みられる。胎土目積の痕跡と思われる。底部内面に叩き痕あり。図IV-15-7は口縁上端面全面にまばらに砂目が付着する。底部外面の外周にもまばらに砂目が付着する。底部内面叩き痕あり。図IV-15-8は内外面赤褐色で素焼き状である。図IV-15-9は底部外面全面に砂目が付着する。口縁上端面の半周に砂礫が付着する。床面の砂礫か。図IV-15-10は底部外面全面に砂目が付着する。図IV-15-11は底部外面に円形の砂目痕が5ヶ所みられる。胎土目積の痕跡と思われる。図IV-15-12は体部～口縁部が約1/2欠損し、口縁部は焼



0
1/3 10cm

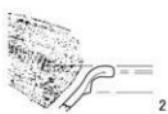
図IV-12 3室出土遺物4(1/3)



図IV-13 3室出土遺物5 (1/3, 1/4)



1/6 0 20cm



1/4 0 10cm



1/3 0 10cm

図IV-14 4室出土遺物 (1/3, 1/4, 1/6)



0
1/6 20cm

図IV-15 5室出土遺物1 (1/6)

け歪む。底部に胎土目が1個付着する。口縁上端面の部分的に砂礫が付着する。体部外面の鉄軸は部分的に施釉する。図IV-15-13は底部外面全面に砂目が付着する。口縁上端面全周に砂礫が厚く付着する。

図IV-16-1～11は小甕。図IV-16-1は底部に胎土目が1個と砂礫が部分的に付着する。また、底部外面の外周に砂目が付着する。図IV-16-2は底部に胎土目が2個、全面に砂目が付着する。口縁上端面に部分的に砂礫と砂目が付着する。図IV-16-3は底部外面全面に砂目が付着する。口縁上端面全周に砂礫がやや厚く付着する。図IV-16-4は底部中央部と体部上半部の大半を欠損する。口縁上端面に砂目が付着する。図IV-16-5は口縁上端面に部分的に砂目が付着する。底部内面に叩き痕あり。図IV-16-6は体部～口縁部が約1/3残存する。図IV-16-7は内外面が青灰色で、底部外面は赤褐色である。図IV-16-8～11は口縁部片である。図IV-16-11は口縁上端面に砂目が付着する。図IV-16-12は甕の胸部片か。

図IV-17-1～9は擂鉢である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回し口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-17-1は平底。擂目は密である。

図IV-17-2～7は口縁部片である。図IV-17-3は外面の突帯が退化する。図IV-17-8、9は低い高台付擂鉢である。擂目は密である。底部内面2箇所に砂目がみられる。高台端部にも砂目が付着する。

図IV-18-1、2は瓶の口縁部片である。図IV-18-1は口縁部外面を帯状に肥厚させる。

図IV-18-3、4は円筒形焼台である。窯道具の焼台として用いられており、上端面に胎土目を置いたと思われる窪みがみられ、その窪みに砂目が付着する。図IV-18-3は5個の胎土目の痕跡と叩き痕がみられる。図IV-18-4も不明瞭ながら胎土目の痕跡がみられる。

図IV-18-5～7は楔形ハマである。砂床に接地する面は被熱のため赤化する。

図IV-19-1～図IV-21-13は6室出土遺物である。

図IV-19-1～6は小甕である。図IV-19-1は底部に5個の胎土目が付着する。口縁部上端面に部分的に砂礫と砂目が付着する。図IV-19-2は肩部付近が焼け歪む。底部に胎土目片が付着する。図IV-19-3～6は口縁部片である。

図IV-19-7は極小甕である。肩部に二条の沈線を回し、体部外面は横ハケを施す。

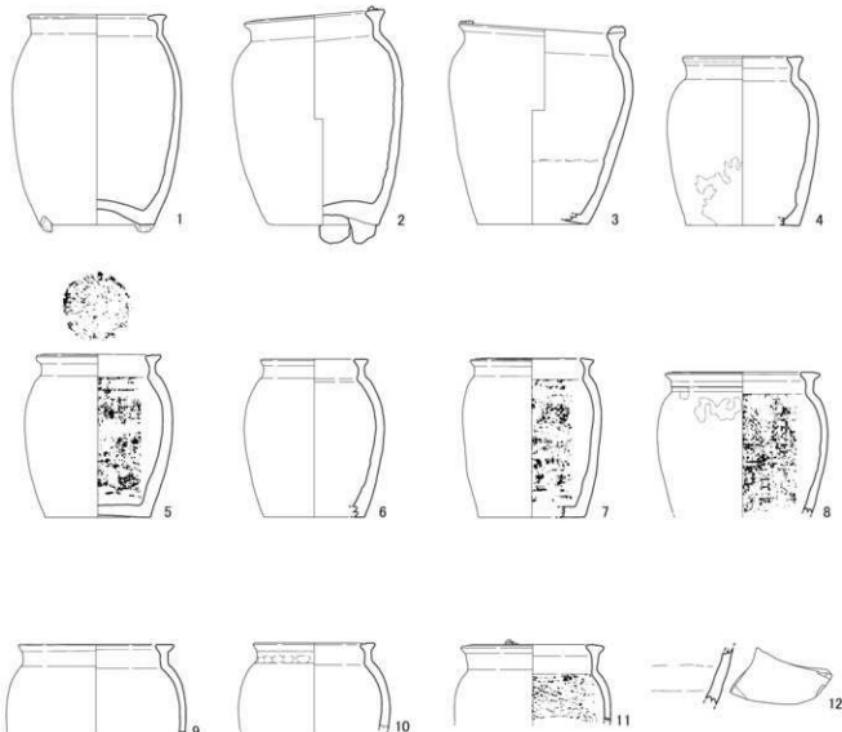
図IV-19-8～12は擂鉢である。図IV-19-8、9は完形で、平底である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。口縁下の外面に断面三角形の退化した突帯を指ナデでつくる。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。内面の擂目上に重ね積みの為の砂目痕が圓線状に回る。

図IV-19-10～12は擂鉢の口縁部片である。

図IV-20-1～9は擂鉢である。図IV-20-1～5は擂鉢の口縁部片である。図IV-20-6は平底で、口縁部が焼け歪む。内面の擂目上に重ね積みの為の砂目痕が圓線状に回る。図IV-20-7～9は低い高台付擂鉢である。高台端部に砂目が付着する。図IV-20-7は内面の擂目上に重ね積みの為の砂目痕が圓線状に回る。図IV-20-8は内面の擂目上に重ね積みの為の胎土目が2個付着し、3個の痕跡がみえる。図IV-20-9は内面の擂目上に圓線状の砂目が途切れ付着し、数cmの細長い窪みが連続してみられる。

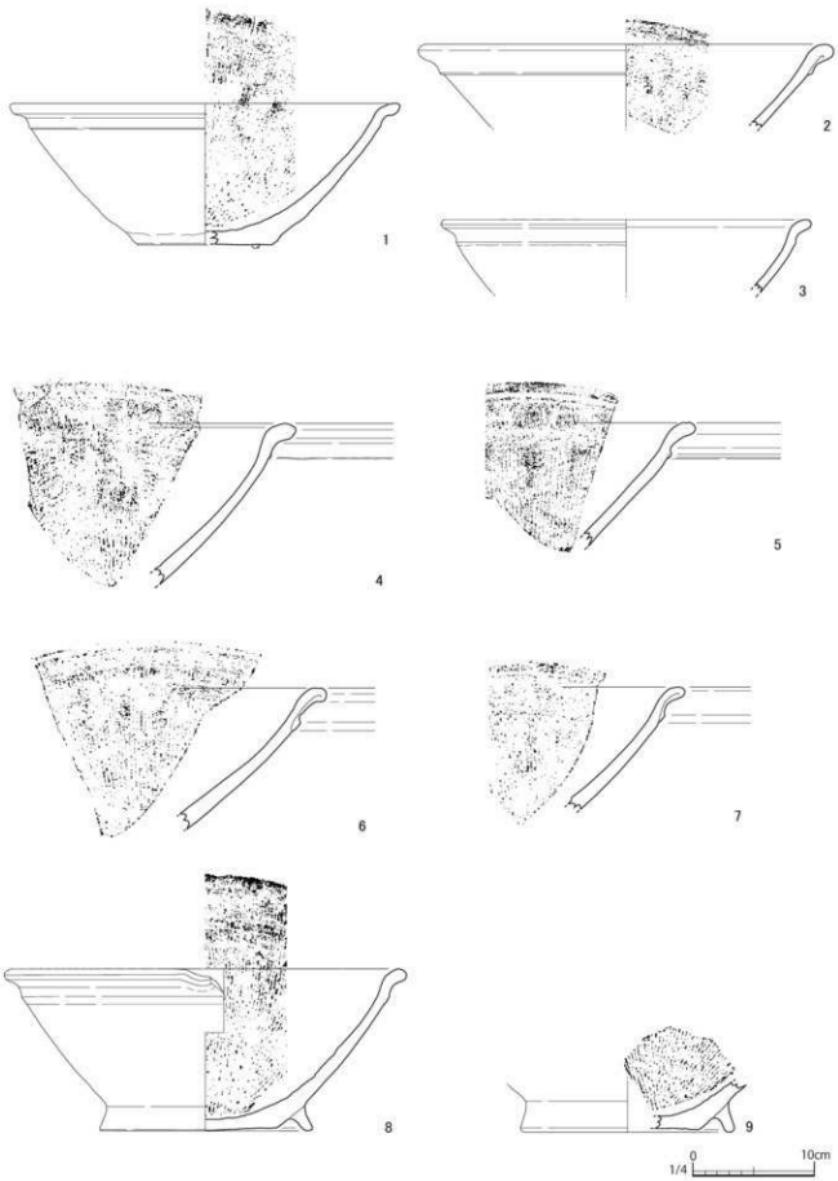
図IV-21-1、2は瓶の口縁部片である。図IV-21-2は長頸で、内外面暗褐色の施釉。図IV-21-3は甕の肩部片である。耳部を一箇所貼り付ける。図IV-21-4は注口付瓶の注口部である。図IV-21-5は瓶の口縁部片である。図IV-21-6は器種不明。外面は灰色の施釉を施し、染付の一部が残る。図IV-21-7～9は磁器碗の口縁部片である。内外面に染付けがみられる。図IV-21-10～13は楔形ハマである。

図IV-21-10、12は片面が、11、13は両面が赤化する。

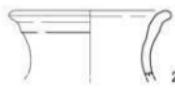
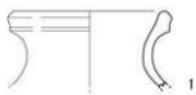


1/6 0 20cm

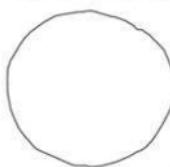
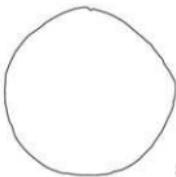
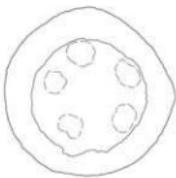
図IV-16 5室出土遺物2(1/6)



図IV-17 5室出土遺物3(1/4)



0
1/3 10cm



0
1/6 20cm



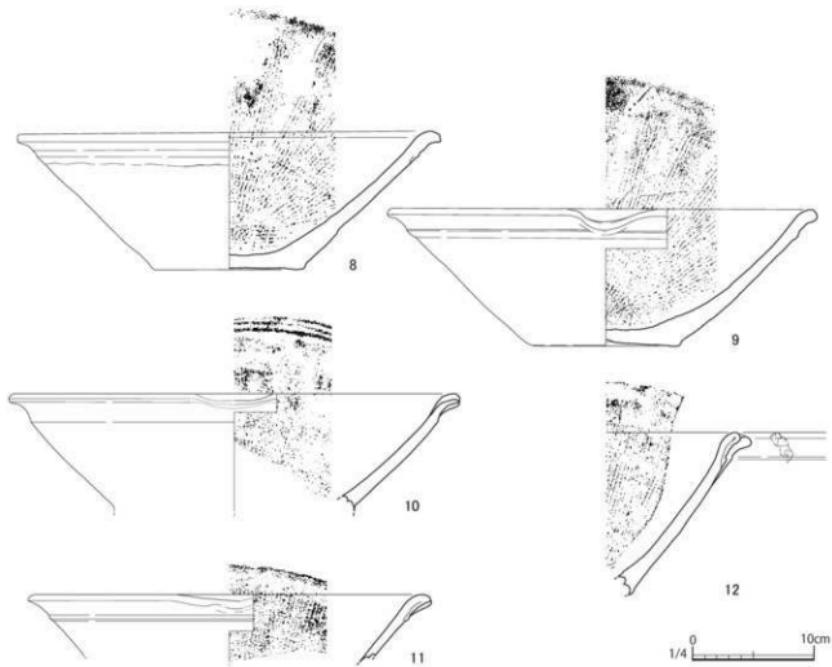
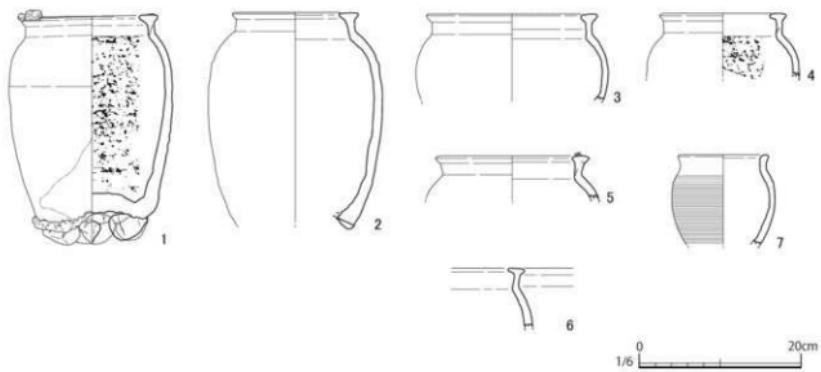
5

6

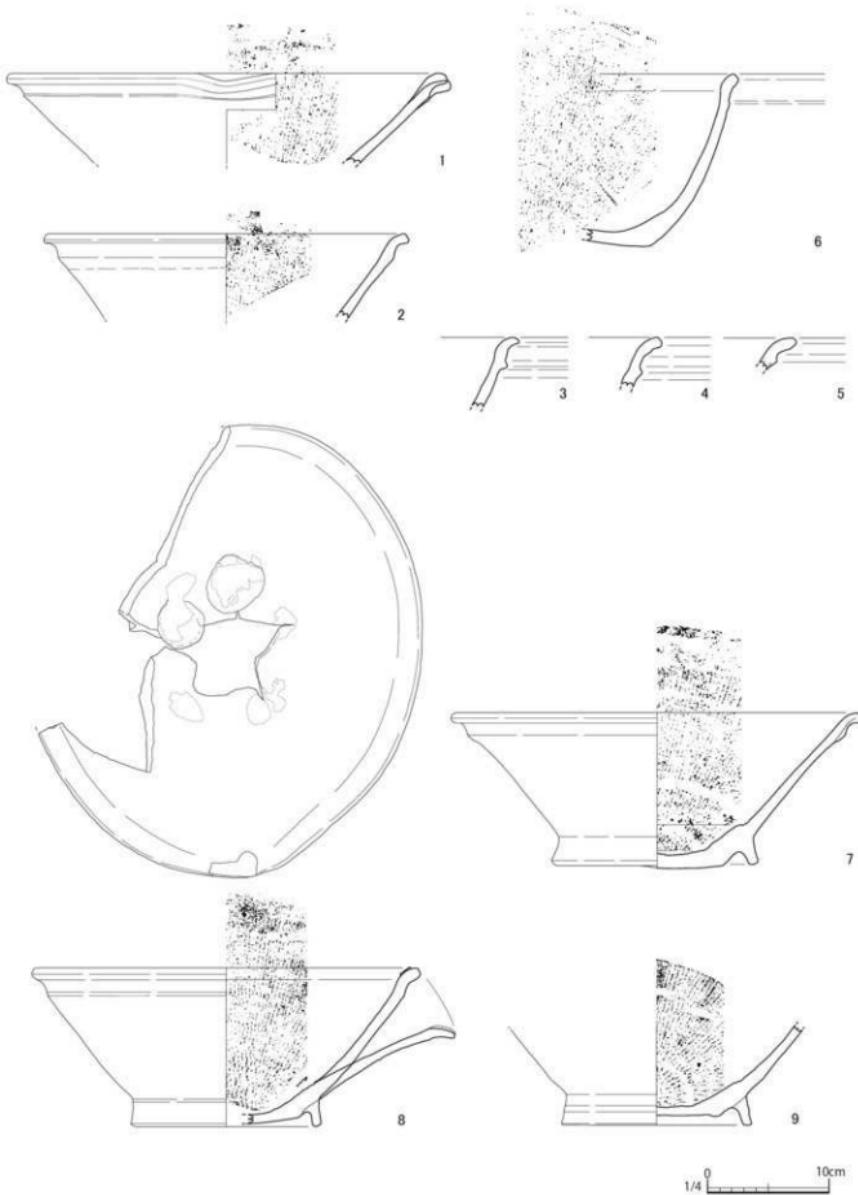
7

0
1/4 10cm

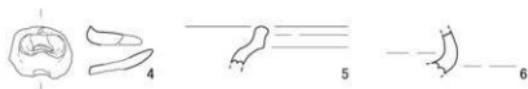
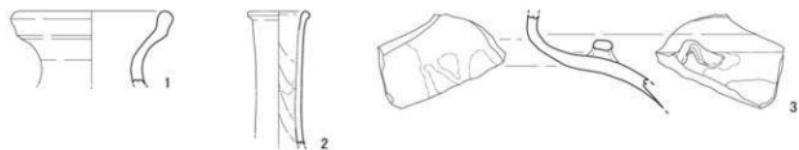
図IV-18 5室出土遺物 4 (1/3, 1/4, 1/6)



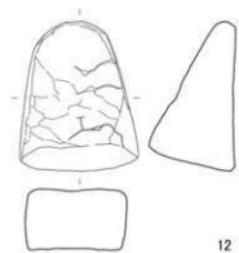
図IV-19 6室出土遺物1 (1/4, 1/6)



図IV-20 6室出土遺物2(1/4)



10



12



13

1/4 0 10cm

図IV-21 6室出土遺物3 (1/3, 1/4)

図IV-22-1～図IV-23-6は7室出土遺物である。

図IV-22-1～4、7、8は小甕、図IV-22-5、6は中甕である。

図IV-22-1は底部外面に4個の胎土目が付着する。図IV-22-2は、肩部付近が焼け歪む。図IV-22-3、4、7、8は小甕の口縁部片である。図IV-22-5は肩部に貼花文を貼り付ける。図IV-22-6は肩部に沈線を回す。図IV-22-9～13は擂鉢の口縁部片である。図IV-22-9～12の口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回し口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-22-13は口縁部の内外面に褐色の釉薬を施釉する。口縁端部は丸味をもち外方に肥厚させ、外面に二条の突帯を回すが、下方の突帯は指ナデでシャープに仕上げる。内面擂目の上端に二条の波状文を回す。

図IV-23-1は平瓦片である。裏面ハケ目。

図IV-23-2～4は楔形ハマである。図IV-23-2、4は片面が赤化する。図IV-23-3は片面の一部と側面片側が赤化する。

図IV-23-5は窯道具のチャツである。口縁端部は内傾する。体部外面は被熱で赤褐色を呈し、口縁端部から内面は露胎である。

図IV-23-6は棒状鉄製品である。断面は長方形で、幅広の小口両面に段を有する。遺存状態は良好である。

図IV-24-1～12は8室出土遺物である。

図IV-24-1は中甕である。肩部で屈曲する。肩部に粘土帯を貼り付ける。胴部上半に多条の沈線を回す。

図IV-24-2～4は小甕である。3点とも外面は灰色である。図IV-24-3は口縁部から肩部にかけて焼け歪む。図IV-24-5は中甕口縁部片である。

図IV-24-6～12は擂鉢である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に退化した断面三角形の突帯を回し口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-24-6は平底である。

図IV-24-7は擂目の上端に波状文を施す。図IV-24-8は内外面、灰色である。図IV-24-10は外面、赤褐色である。図IV-24-10、12は低い高台付擂鉢で、高台端部に砂目が付着する。内面の擂目上に重ね積みの為の砂目痕が囲線状に回る。

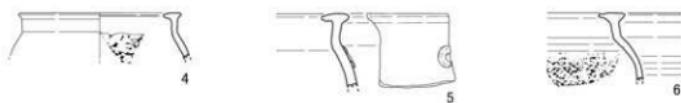
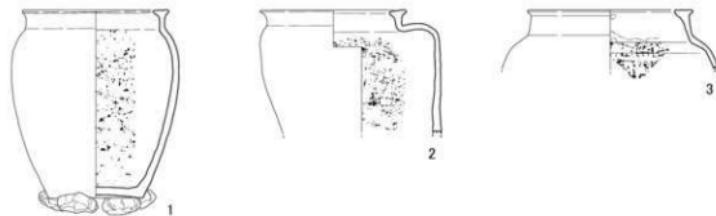
図IV-25-1～図IV-25-10は9室出土遺物である。

図IV-25-1～図IV-25-10は小甕である。口縁部はT字形に内外に突出する。肩部の形態は個体差がみられる。体部内面は格子目叩き、底部内面にも叩きを施すものがある。基本的に外面は無文である。図IV-25-1は体部から口縁部にかけて焼成時に裂け、焼け歪む。外面は灰褐色である。図IV-25-2は底部に胎土目片が残り、胎土目の砂目跡が計5ヶ所残る。図IV-25-3は底部に胎土目片が残り、底部全面に砂目が付着する。図IV-25-4は底部外周と底部内面全面に砂目が付着する。また、口縁端部にも砂目が付着する。図IV-25-5は口縁端部全面に砂礫が軸着する。床面に倒置して焼成した痕跡と思われる。図IV-25-6は底部に胎土目片が残る。図IV-25-7は体部上半の一部が焼け歪む。肩部外面に一条の波状沈線とその上下に横方向の複数の沈線文を施す。小甕では、例外的な施文である。底部二ヶ所に胎土目とその砂目痕を残す。図IV-25-8は底部外周に砂目が付着する。底部内面に叩きを施す。図IV-25-9、10は口縁部片である。

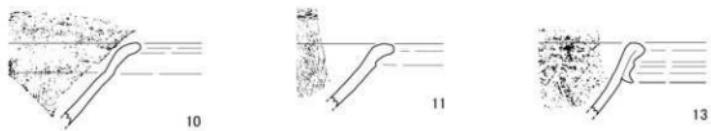
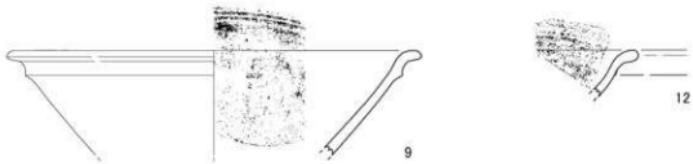
図IV-25-11は極小甕である。肩部に二条の沈線を回し、体部外面は横ハケを施す。

図IV-25-12、13は擂鉢の口縁部片である。図IV-25-12は外面の突帯が突出する。

図IV-26-1～5は低い高台付擂鉢である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に退化した断面三角形の突帯を回し、口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-26-1は

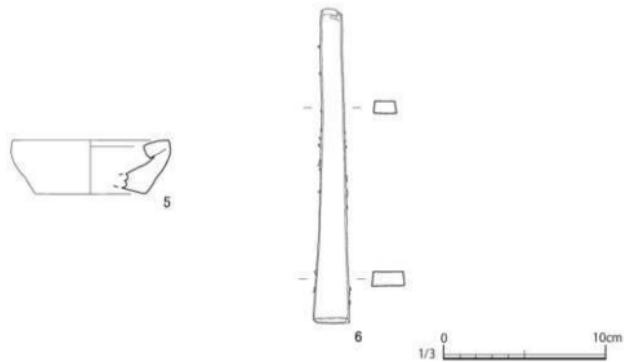
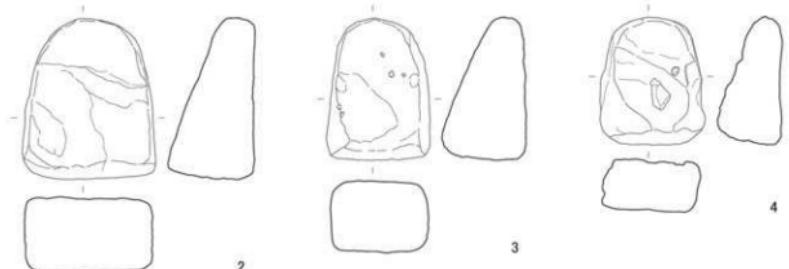
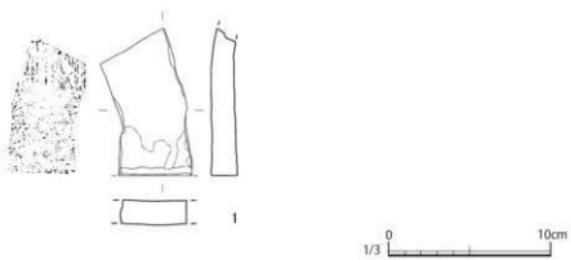


1/6 0 20cm

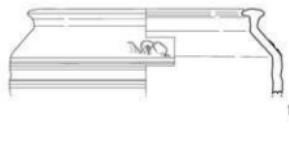


1/4 0 10cm

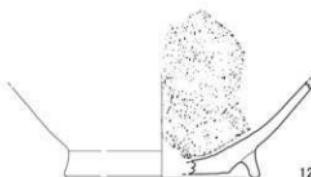
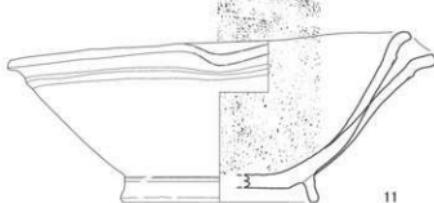
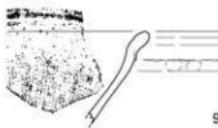
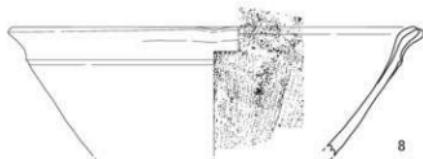
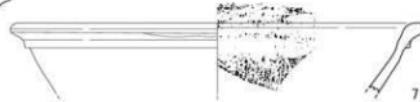
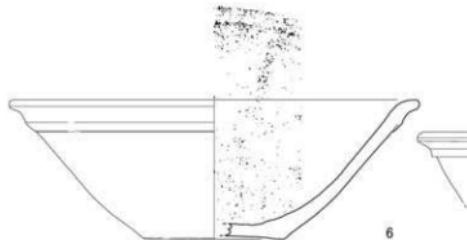
図IV-22 7室出土遺物1 (1/4, 1/6)



図IV-23 7室出土遺物2 (1/3, 1/4)

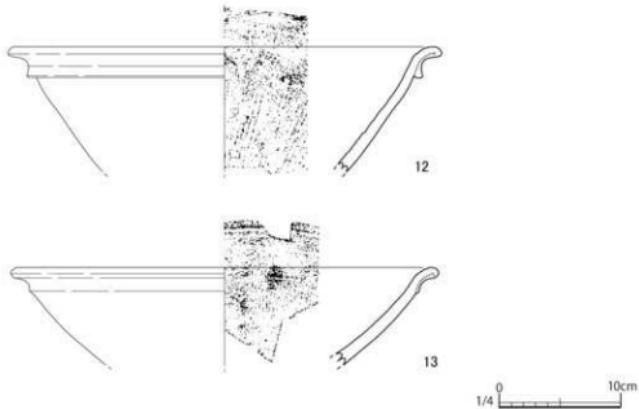
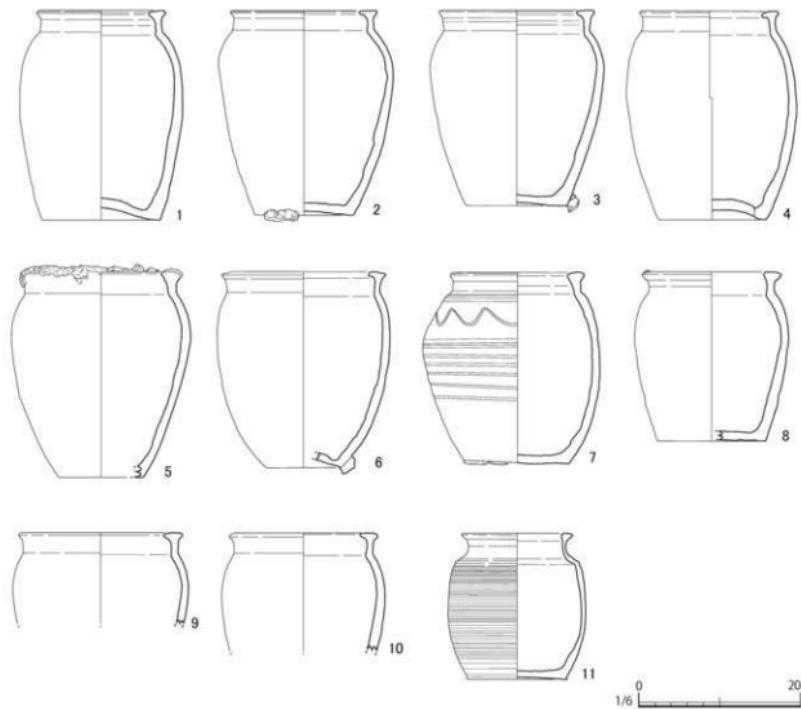


0
1/6 20cm

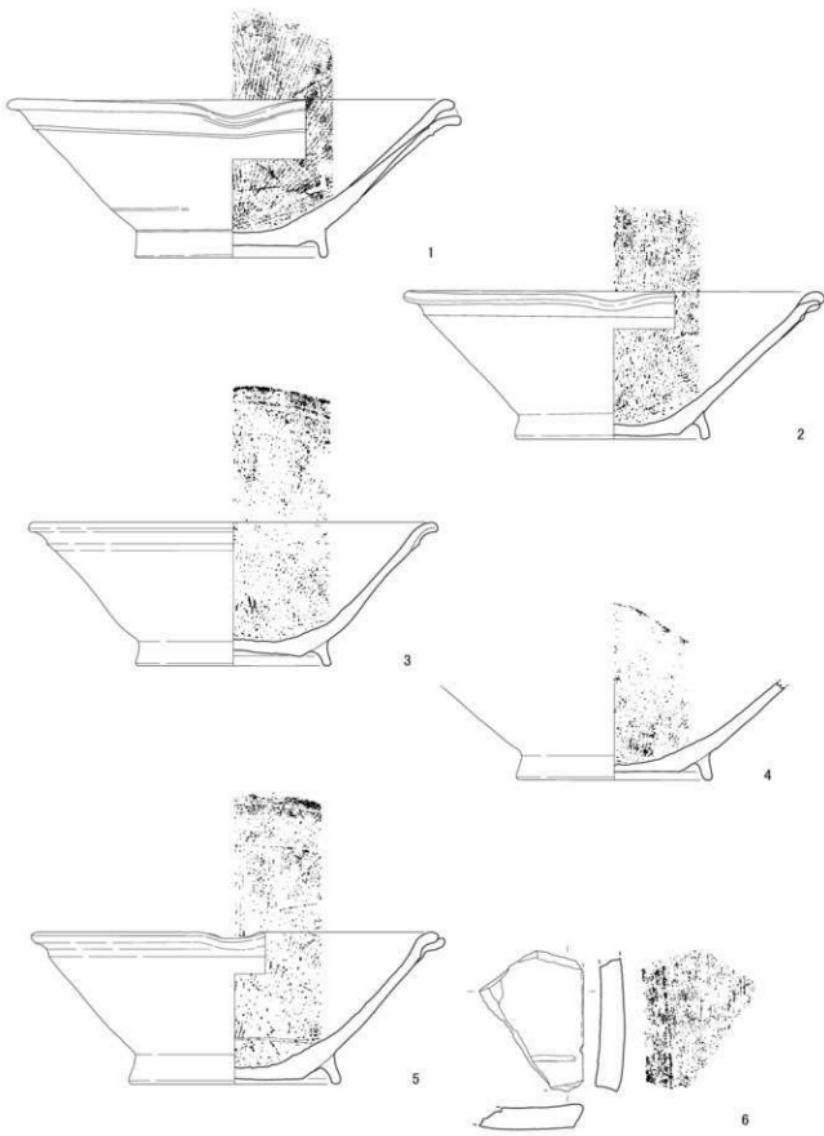


0
1/4 10cm

図IV-24 8室出土遺物 (1/4, 1/6)



図IV-25 9室出土遺物1 (1/4, 1/6)



図IV-26 9室出土遺物2(1/4)

内外面が明赤褐色であり、素焼きか。図IV-26-2、3は高台端部に砂目が付着する。図IV-26-4は内外面が明赤褐色であり、高台端部の一部に砂目が付着する。図IV-26-5は高台端部にまばらに砂目が付着する。内面の描目上に重ね積みの為の砂目痕が圓線状に回る。図IV-26-6は平瓦である。裏面は縦ハケで側縁は弧を描くようなハケを施す。

図IV-27-1は火除けである。平面形は隅丸台形で、長さ（高さ）は30.3cm、厚さは10.3cmである。表面は被熱により硬化し、自然釉がかかる。底面は被熱で赤化する。図IV-27-2～5は楔形ハマである。

図IV-27-2は表面に硬化した粘土塊らしきものが付着する。図IV-27-2、3は表面に赤化した被熱痕はみられない。図IV-27-4は片面が赤化する。図IV-27-5は先端部が両面赤化する。

図IV-28-1、2は10室出土遺物である。

図IV-28-1は中壺口縁部片である。肩部に縄状突帯を回す。口縁上端面の内側半分は赤褐色を呈する。

図IV-28-2は小壺口縁部片である。

図IV-28-3、4は11室出土遺物である。

図IV-28-3は器種不明である。全面、濃緑色に施釉され、外面には二条の太い沈線を施す。図IV-28-4は磁器の皿である。内面に圓線と草文らしき染付が施される。

図IV-28-5～8は12室出土遺物である。

図IV-28-5は中壺の口縁部片である。肩部に二条の縄状突帯と、その下方に沈線を回す。口縁上端面の内側半分は赤褐色を呈する。図IV-28-6、7は小壺の口縁部片である。図IV-28-6の口縁上端面の内側半分は赤褐色を呈する。図IV-28-7は外面に自然釉がかかる。口縁上端面に砂目がまばらに付着する。図IV-28-8は捕鉢の口縁部片である。断面三角形の突帯幅は太い。内外面灰色である。

2. 埋甕出土遺物

S J 0 2 埋甕

図IV-29-1～7はSJ02埋甕である。

図IV-29-1～5は中壺である。すべて、口縁部～胴部上半部を欠損する。図IV-29-1は肩部に二条の縄状突帯と、その下方に退化した沈線を回す。内面は格子目叩きの大半をナデ消す。図IV-29-2は胴部上半に沈線を回す。胴部下半に格子目叩きが残る。図IV-29-3の胴部上半は横ハケと退化した沈線を回す。胴部下半に格子目叩きが部分的に残る。図IV-29-4は肩部に二条の縄状突帯と、その下方に退化した沈線を回す。図IV-29-5は胴部中央部に横ハケを沈線状に施す。

図IV-29-6、7は小壺である。胴部内面は同心円文のあて具痕が残る。胴部外面下半はハケ。

S J 0 7 埋甕

図IV-30-1～3はSJ07埋甕である。

図IV-30-1～3は中壺であり、口縁部～胴部上半部を欠損する。

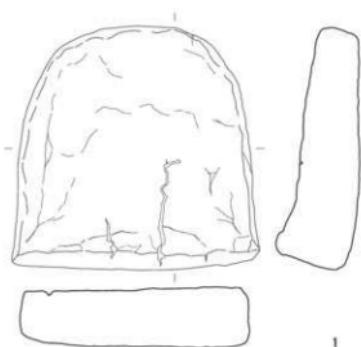
図IV-30-1は肩部に二条の縄状突帯と、その下方に5条の沈線を回す。底部内面に叩き痕がある。図IV-30-2は内外面赤褐色であり、素焼きか。図IV-30-3は底部内面に叩き痕がある。

S J 0 8 埋甕

図IV-30-4～6はSJ08埋甕である。

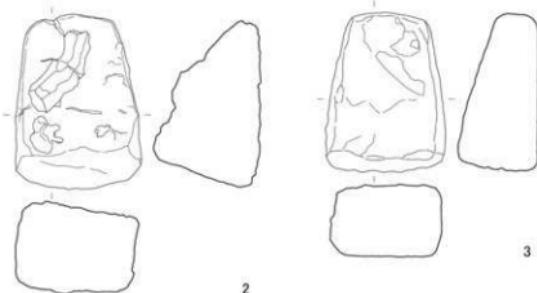
図IV-30-4～5は中壺であり、口縁部～胴部上半部を欠損する。底部内面に叩き痕がある。

図IV-30-6は小壺である。底径は14.8cmで、胴部上半に横ハケを施す。底部内面に叩き痕がある。



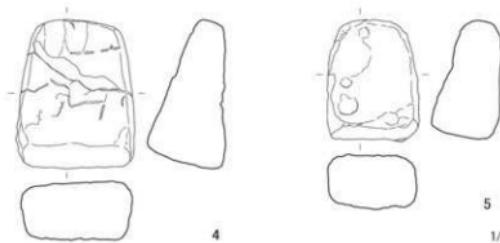
1

0
1/6 20cm



2

3

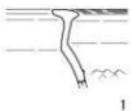


4

0
1/4 10cm

図IV-27 9室出土遺物3 (1/4, 1/6)

10 室



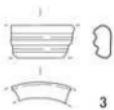
1



2

0
1/6 20cm

11 室



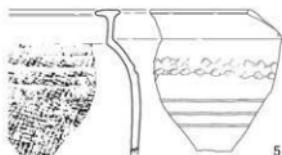
3



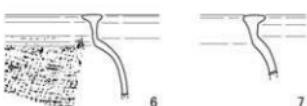
4

0
1/3 10cm

12 室



5



6

7

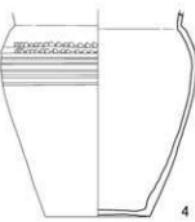
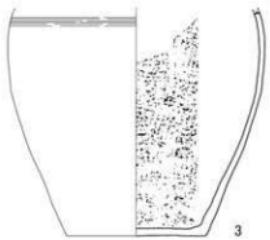
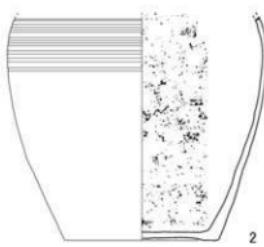
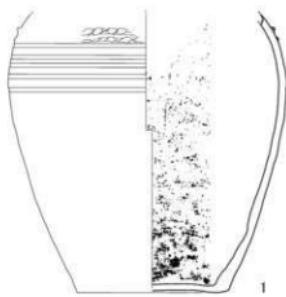
0
1/6 20cm



8

0
1/4 10cm

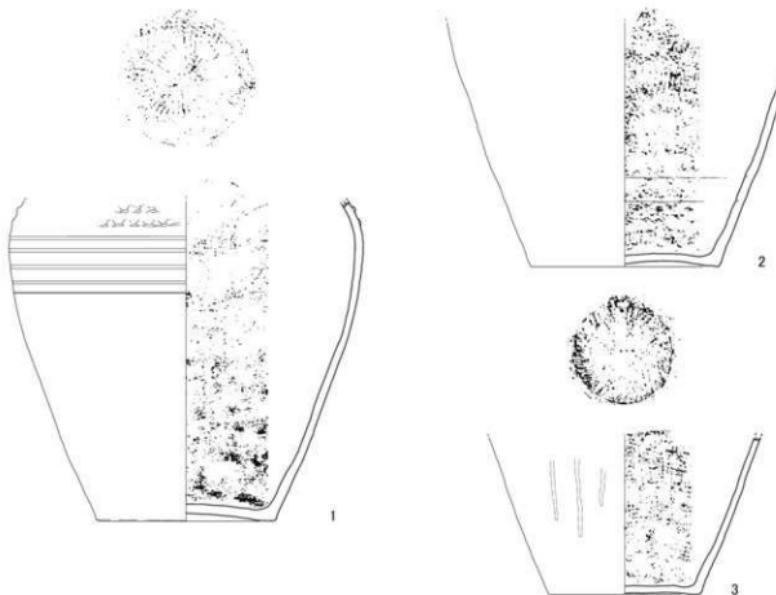
図IV-28 10～12室出土遺物 (1/3, 1/4, 1/6)



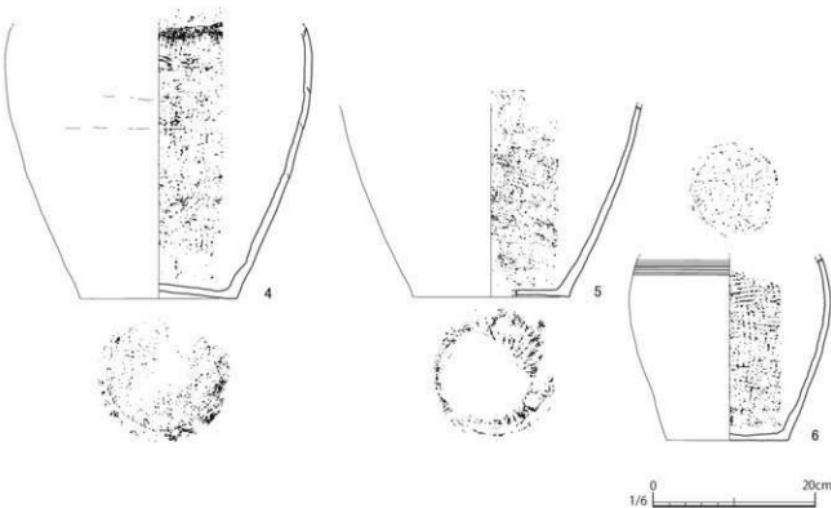
0
1/6 20cm

図IV-29 SJ02 埋甕出土遺物 1 (1/6)

SJ07 埋甕



SJ08 埋甕



圖IV-30 SJ07・SJ08 埋甕出土遺物 2 (1/6)

3. 溝状遺構出土遺物

SD03

図IV-31-1～3はSD03溝状遺構出土遺物である。

図IV-31-1は中壺の口縁部片である。胴部上半に横ハケのち多条の沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-31-2は平底の擂鉢片である。底部に砂目が付着、胎土目積みのためか。図IV-31-3は注口付瓶の注口部片である。

4. 物原・包含層出土遺物

包含層A

図IV-32-1～図IV-38-7は包含層A出土遺物である。

図IV-32-1～5,7は中壺である。図IV-32-1,2は肩部に二条の繩状突帯と、その下方に3沈線を回す。繩状突帯は逆L字状を呈する。口縁上端面の内側は赤褐色を呈し、まばらに砂目が付着する。底部外面に砂目が5ヶ所に付着するが、胎土目積みのためか。図IV-32-3は口縁部片である。肩部に2の繩状突帯と、その下方に3条の沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-32-4口縁部片である。肩部に二条の繩状突帯を回し、口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-32-5は口縁部片である。胴部上半に6条の沈線を回す。

図IV-32-6,8,9は小壺である。図IV-32-6の口縁上端面は、まばらに砂目が付着する。図IV-32-8の口縁上端面は全面に砂目が付着する。底部外面の外周約1/3に窯床の砂礫らしきものが付着する。底部内面に不定方向の線刻がみられる。図IV-32-9の口縁上端面は、まばらに砂目が付着し、口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部外面の2箇所に胎土目付着、2箇所に砂目が付着する。底部内面に不定方向の線刻がみられる。図IV-32-7は法量から中壺とした。口縁上端面は、まばらに砂目が付着する。胴部に多条の沈線を回し、肩部に指頭圧による窪みを施文する。底部外面の外周約1/4に窯床の砂礫らしきものと砂目が1箇所、付着する。底部内面に叩き痕がある。

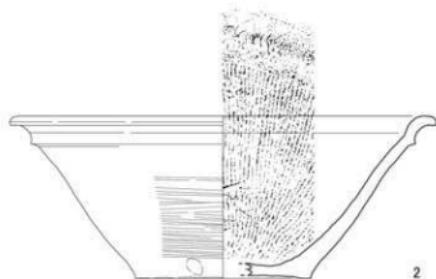
図IV-33-1は小壺である。口縁上端面は全面、赤褐色を呈する。図IV-33-2は中壺の体部片、肩部に円形浮文を貼り付ける。体部は横ハケのち沈線を回す。図IV-33-3は極小壺である。肩部に二条の沈線を回す。図IV-33-4は中壺の口縁部片である。肩部で屈曲し、粘土紐を複数交差させた文様を貼り付ける。胴部上半に指頭圧による窪みを施文する。図IV-33-5,6は壺の胴部片である。図IV-33-5は1条の繩状突帯を回し、断面三角形の突帯と花弁状に粘土帶を貼り付ける。図IV-33-6は胴部上半に沈線文をまわし、その上から、指頭圧による窪みを施文する。その下に櫛描波状文と退化した突帯2条を回す。図IV-33-7は壺の口縁部片である。肩部と胴部を屈曲させ、肩部に耳を貼り付ける。肩部と胴部の境に櫛描状の沈線を回す。

図IV-33-8～10は平底の擂鉢である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回し、口縁部は外反する。図IV-33-8の外面断面三角形の突帯は高さを有する。内面の擂目の上端はナデ消しをせず、その上方に櫛描波状文を施す。図IV-33-9は擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-33-10は擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。口縁部の内外のみ施釉、体部は露胎である。叩き成形。図IV-33-11は擂目の上端は横ナデによりナデ消しされる。底部外面に胎土目付着。

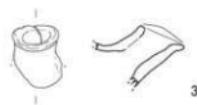
図IV-34-1～3は平底の擂鉢である。図IV-34-1は擂目のうえに胎土目積みの痕跡と思われる2箇所の砂目が付着する。図IV-34-2,3の口縁部内外の釉の色調が濃く、体部の釉の色調が淡い。底部外



1/6 0 20cm

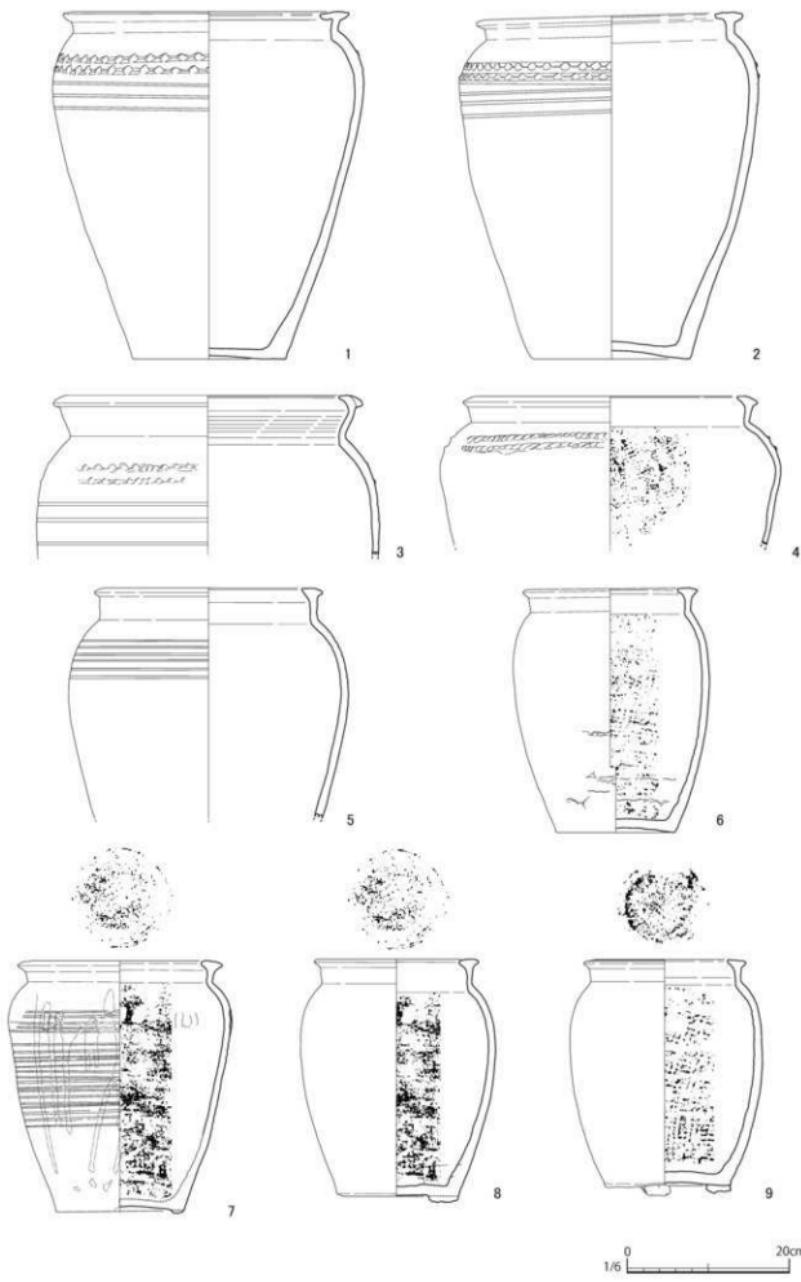


1/4 0 10cm

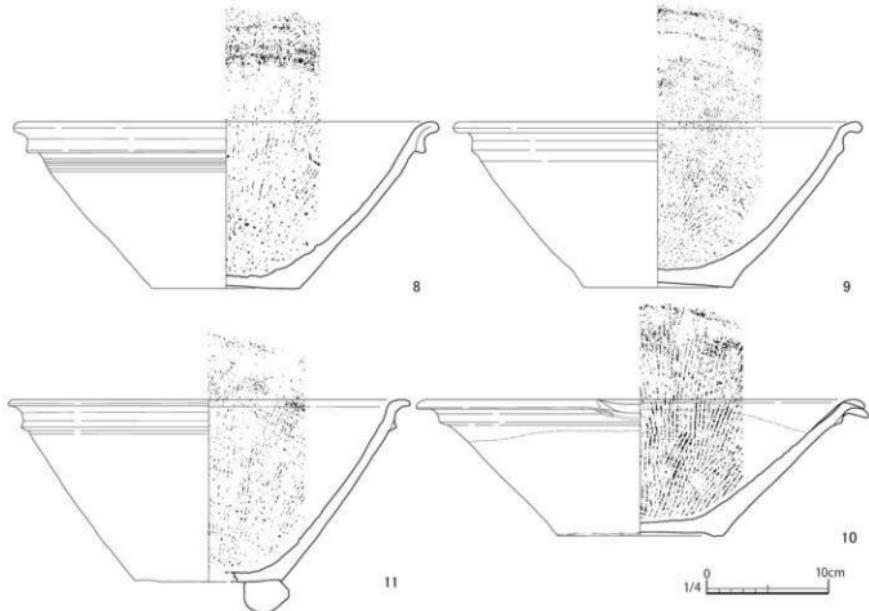
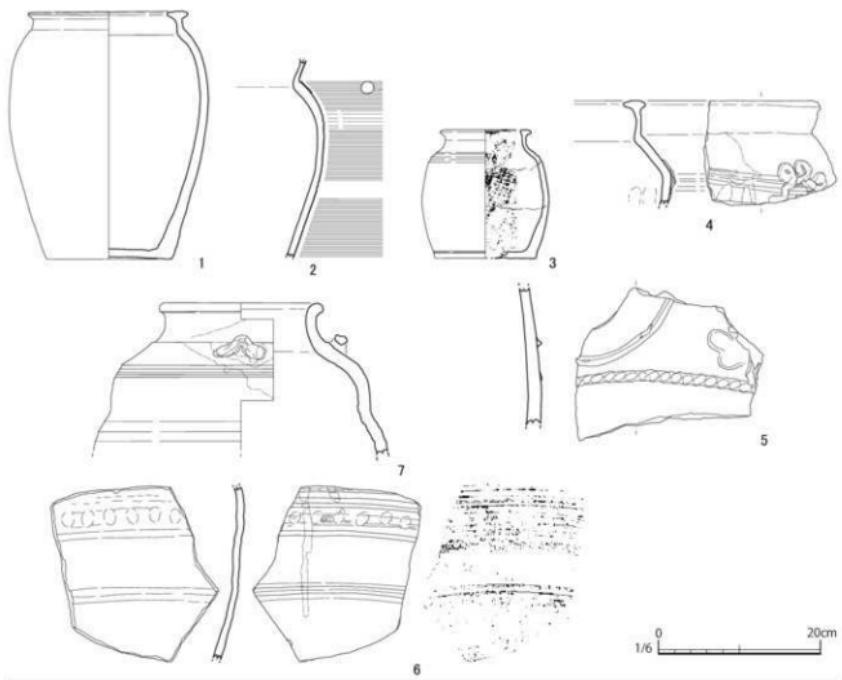


1/3 0 10cm

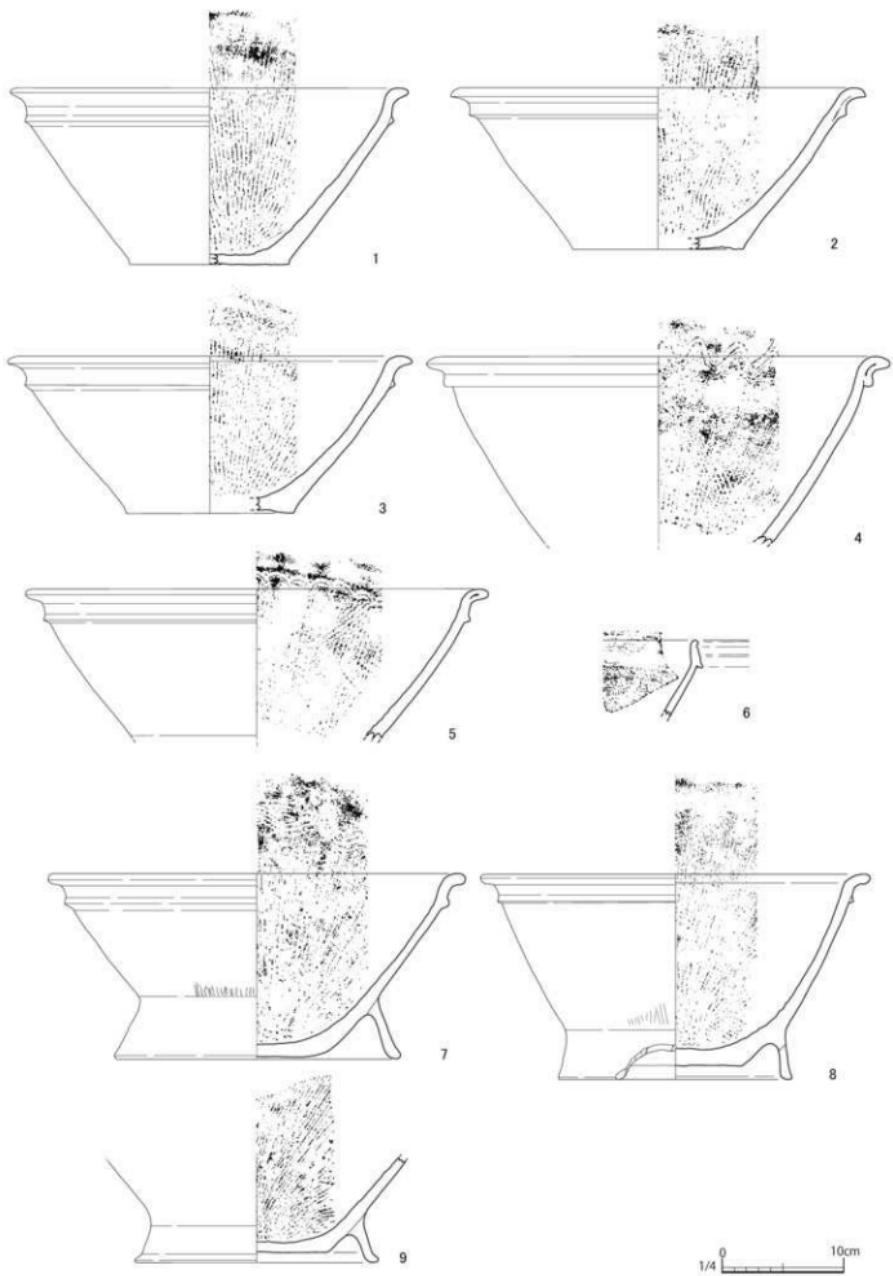
図IV-31 SD03溝状遺構出土遺物(1/3, 1/4, 1/6)



図IV-32 包含層A出土遺物1 (1/6)



図IV-33 包含層A出土遺物2 (1/4, 1/6)



図IV-34 包含層A出土遺物3 (1/4)

面に砂目がまばらに 2 箇所、付着する。

図IV-34-4～6 は擂鉢の口縁部片である。図IV-34-4、5 は内面の擂目は部分的に交差し、その上端はナデ消しをせず、その上方に波状文を施す。図IV-34-6 は器壁が薄く、轆轤成形である。口縁部で屈曲し直立気味に立ち上がる。口縁部内外の釉の色調が濃く、体部の釉の色調が淡い。擂目の上端はナデ消しをしない。

図IV-34-7～9 は高い高台付擂鉢である。高台はハの字形に開く。図IV-34-7 は擂目の上端に櫛描波状文を施す。図IV-34-8 は擂目の上端は横ナデによりナデ消しされる。底面に 4 箇所の胎土目積みのための砂目が付着する。図IV-34-9 は擂目のうえに胎土目積みの痕跡と思われる 4 箇所の砂目が付着する。

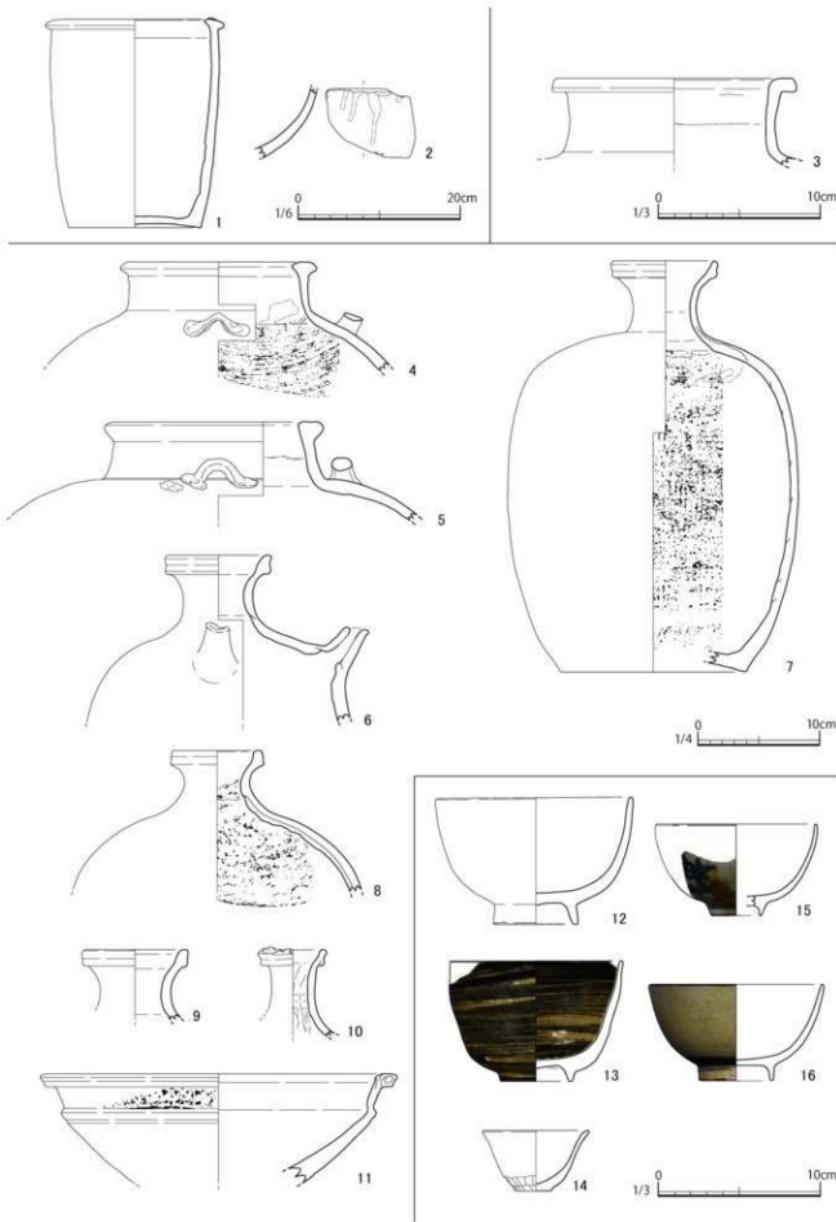
図IV-35-1 は壺である。体部は円筒形で、口縁上端面は外傾する。口縁上端面は砂目が付着する。図IV-35-2 は壺の胴部片か。外面施釉後に釉を搔きとるように文様を描き、黄褐色の釉薬が垂下する。

図IV-35-3～5 は壺の口縁部片である。図IV-35-4、5 は肩部に耳を貼り付ける。図IV-35-6 は注口付瓶であり、上半部が遺存する。図IV-35-7～10 は瓶である。図IV-35-7 の体部外面は横方向のカキ目を施す。図IV-35-7～9 は頸部の径が太く、図IV-35-10 は細い。図IV-35-11 は鉢である。口縁部は逆L字形で、頸部外面に 2 列の波状文を線彫りする。図IV-35-12、13 は灰釉の碗である。高台端部に砂目が付着する。図IV-35-13 は内外面に白色化粧土の横ハケを施す。図IV-35-14 は陶器の小杯である。内外面灰色で素焼きか。図IV-35-15、16 は磁器の碗である。図IV-35-15 は外面に染付文と團線あり。図IV-35-16 は染付けの團線文あり。

図IV-36-1～5 は平瓦であり、横断面形は緩やかな弧状である。図IV-36-1、2 は表面短端側の施釉が薄い。裏面短端側は自然釉が部分的に剥がれる。図IV-36-3 の表面は施釉、裏面は無釉である。図IV-36-4 は表、裏面とも施釉が剥がれ、灰色を呈する。図IV-36-5 は表面施釉、裏面はハケのち、自然釉がかかる。

図IV-37-1 は平瓦であり、裏面ハケを施し、表、裏面とも施釉。図IV-37-2～4 は軒平瓦である。瓦当は唐草文で、裏面はハケを施す。図IV-37-5、6 は土管の端部である。外面に断面三角形および台形状の突帯を付ける。図IV-37-7 は器種不明。円盤の中央に孔を穿つ。片面は無釉で灰色である。

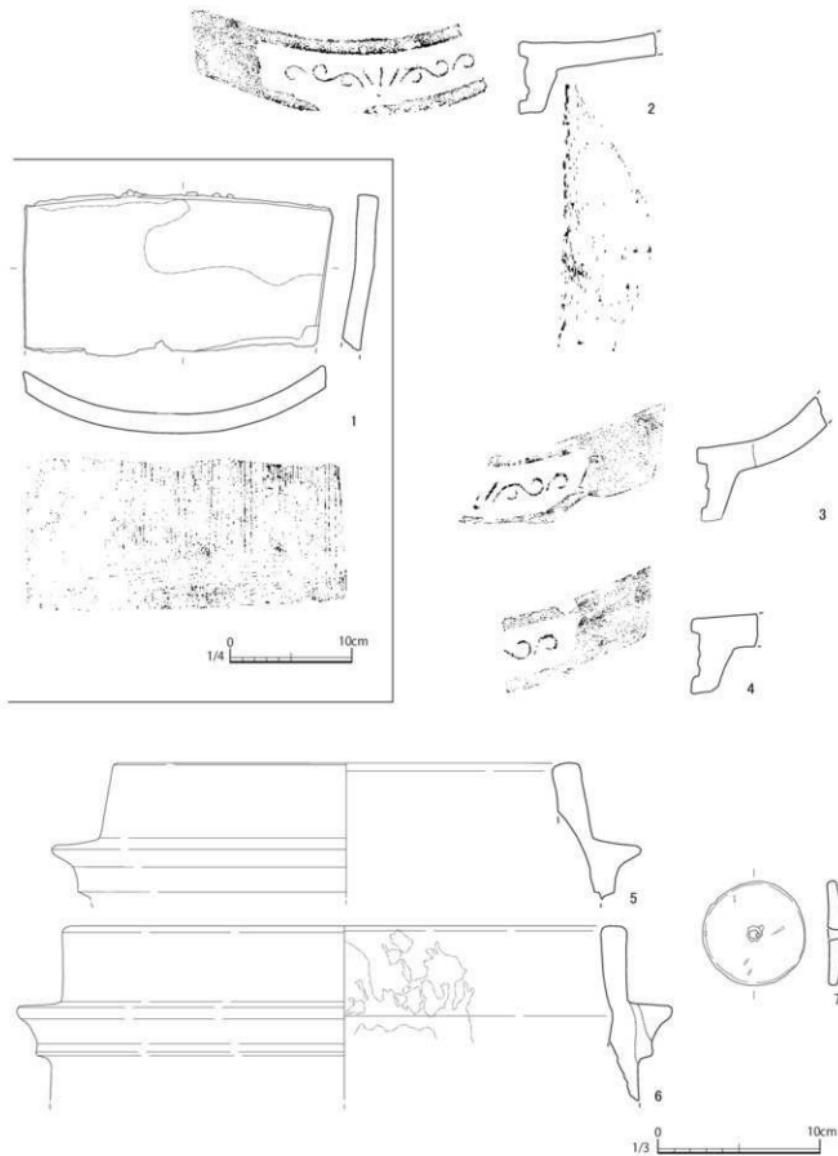
図IV-38-1、2 は円弧状ハマである。とともに、端部を破損しており、円環状の可能性もある。図IV-38-1 の上面は格子目叩きの上に砂目がまばらに付着する。裏面は被熱のため赤化する。図IV-38-2 の上面は格子目叩きをナデ消す。砂目が付着する。裏面の赤化はみられない。図IV-38-3～5 は胎土目である。図IV-38-3 は円盤状で、端部の一部が肥厚する。図IV-38-4、5 は塊状である。図IV-38-6 は楔形ハマである。小甕の口縁部が釉着する。小甕を楔形ハマの上に倒置して焼成したことがわかる。裏面は被熱のため赤化する。図IV-38-7 は窯の色味穴の栓である。断面形は梢円形で、底面と片側小口面は被熱のため赤化する。



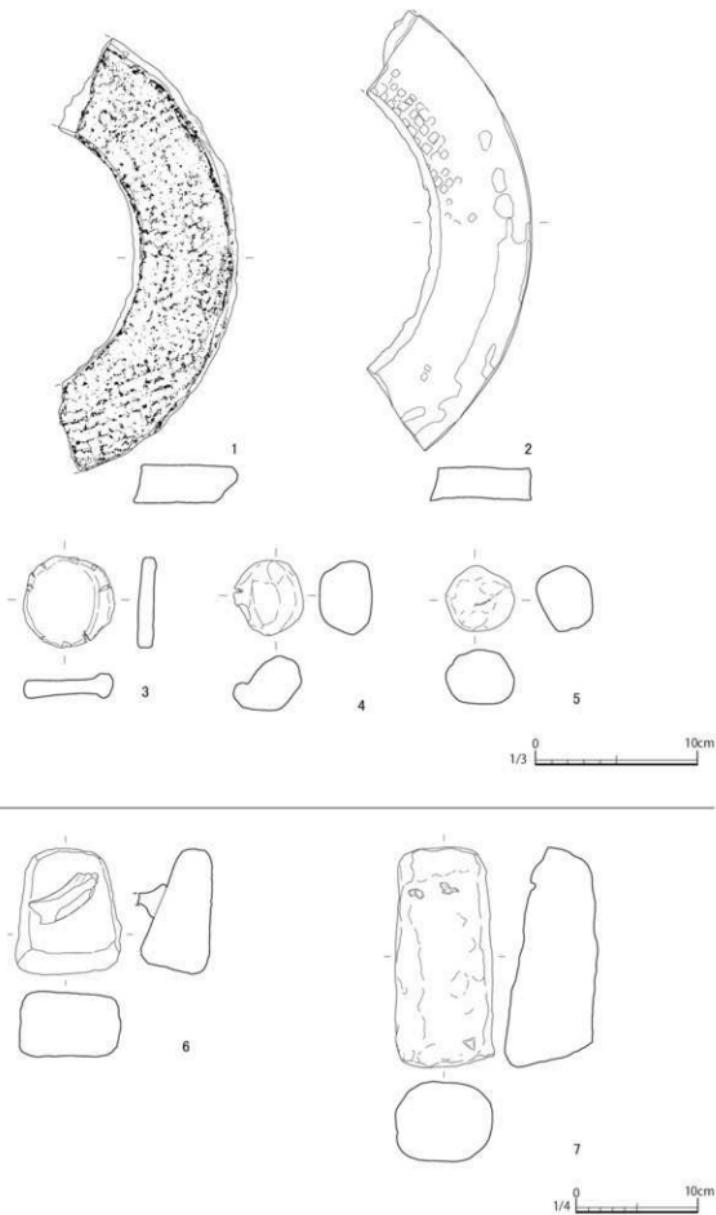
圖IV-35 包含層A出土遺物4 (1/3, 1/4, 1/6)



図IV-36 包含層A出土遺物5(1/4)



図IV-37 包含層A出土遺物6(1/3, 1/4)



図IV-38 包含層A出土遺物7(1/3, 1/4)

包含層B

図IV-39-1～図IV-47-9は包含層B出土遺物である。

図IV-39-1～6は中甕である。口縁部はT字形で肩部に二条の縄目突帯と、その下方に沈線を回す。図IV-39-1、2は口縁外面端部を平坦気味に仕上げ、沈線を回す。図IV-39-2の胴部上半は粗い横ハケのち退化した沈線を回す。図IV-39-3、4の口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-39-4の底部外面の1箇所に砂目が付着する。胎土目痕か。図IV-39-5の底部外面の外周の一部に窯床の砂礫が付着する。図IV-39-6の口縁上端面の内側は赤褐色を呈し、胴部上半は退化した沈線を回す。

図IV-40-1～9は中甕である。図IV-40-1の口縁部はT字形で肩部に二条の縄目突帯と、その下方に沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部内面に放射状の圧痕があり、底部外面の全面に砂目が付着する。図IV-40-2は肩部に貼花文を貼り付け、胴部上半に沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部内面に放射状の圧痕があり、底部外面に3個の胎土目が付着し、1箇所に砂目があるため、計4個の胎土目で窯積めしたことがわかる。図IV-40-3は肩部に円形浮文を貼り付け、肩部と胴部上半に沈線を回し、その間に粗い横ハケを施す。底部外面に胎土目のための砂目が付着する。図IV-40-4～9は口縁部片である。図IV-40-4～6は肩部に縄目突帯とその上下に波状沈線文と貼花文を貼り付ける。さらに肩部に黄褐色の釉薬を垂らす。口縁上端面の内側は黒褐色を呈する。図IV-40-4は二条の縄目突帯を回し、下方に沈線を回す。図IV-40-7～9は肩部に放射文を押圧した円形浮文を貼り付け、沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。

図IV-41-1、2は中甕である。図IV-41-1は胴部上半から肩部にかけて5条の沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-41-2は胴部上半に多条の沈線を回す。底部外面に1個の胎土目が付着する。

図IV-41-3～7は小甕である。図IV-41-3は胴部上半から肩部にかけて粗い横ハケを施す。底部外面の外周約1/3に窯床の砂礫が付着する。図IV-41-4、5は胴部上半から肩部にかけて粗い横ハケを施す。図IV-41-4は口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-41-6は体部外面全面に粗い横ハケを施す。

底部内面に放射状の圧痕があり、底部外面の外周約1/4に砂目が付着する。図IV-41-7は体部外面に粗い横ハケを施す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。

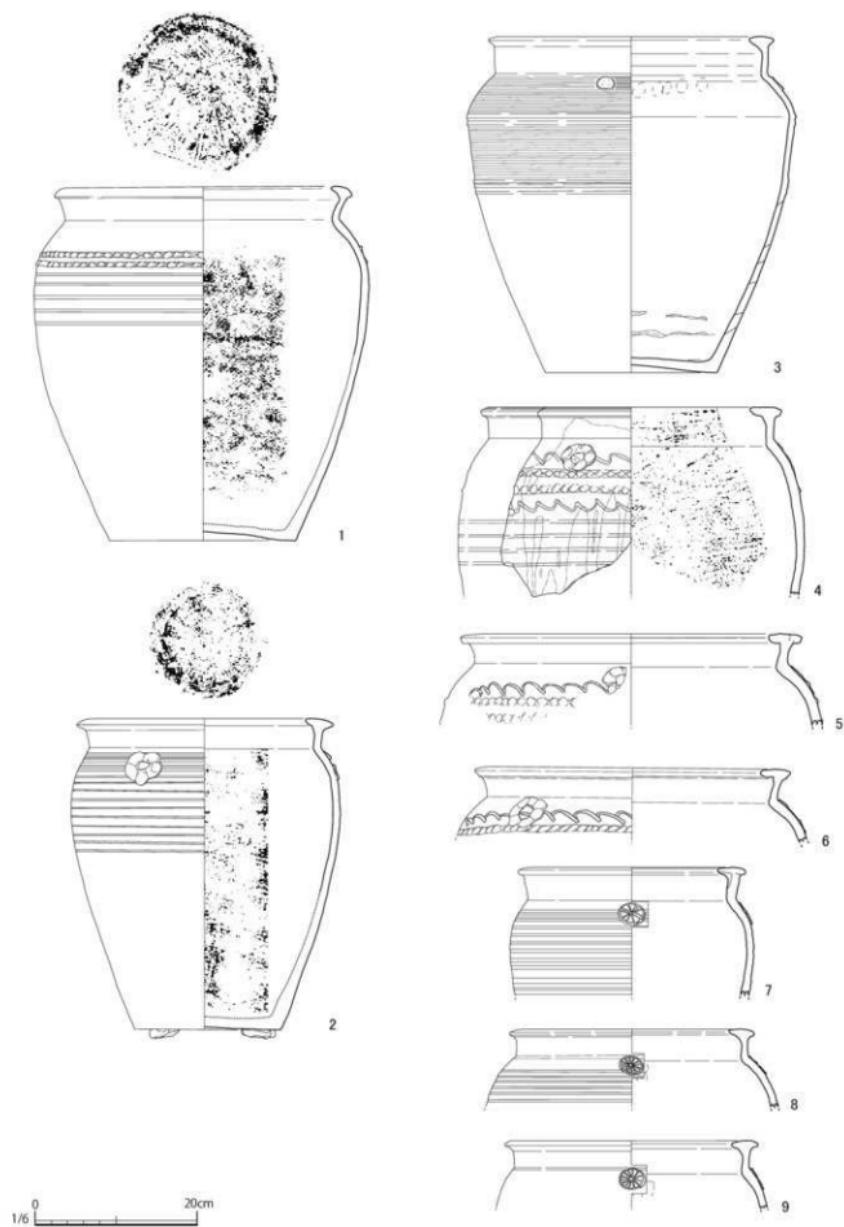
図IV-41-8～13は中甕である。図IV-41-8は肩部に円形浮文を貼り付け、その下方に沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-41-9は胴部上半に沈線を回し、その上から指頭押圧で窯ませる。口縁上端面の内側は赤褐色を呈し、その上にまばらに砂目が付着する。

図IV-41-10～13は肩部で屈曲する。図IV-41-10は肩部に粘土帯を貼り付ける。胴部上半は多条の沈線を回し、その上から連続して、指頭押圧で窯ませる。肩部の粘土帯の上から黄褐色の釉薬を垂下する。図IV-41-11は肩部に2条の波状文を描き、その下方に多条の沈線を回す。その上から連続して、指頭押圧で窯ませる。図IV-41-12は胴部上半に多条の沈線を回し、その上から指頭押圧で窯ませる。図IV-41-13は肩部に波状文とその下方に沈線を回す。

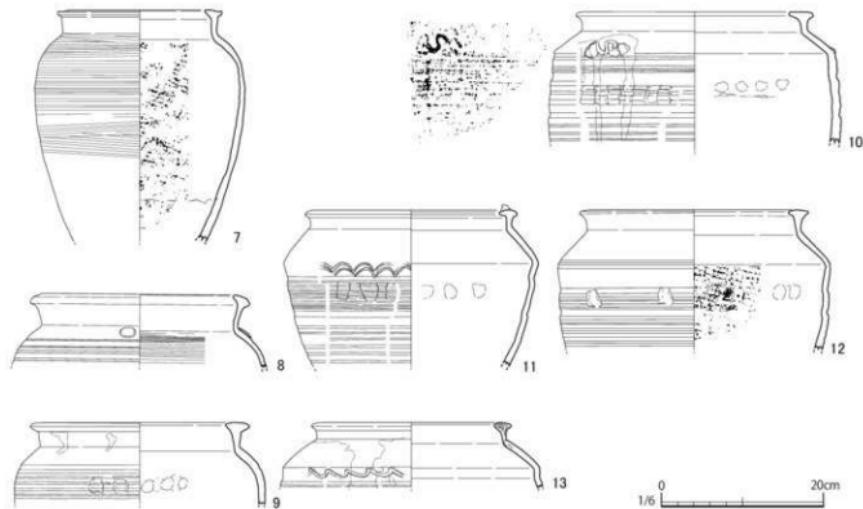
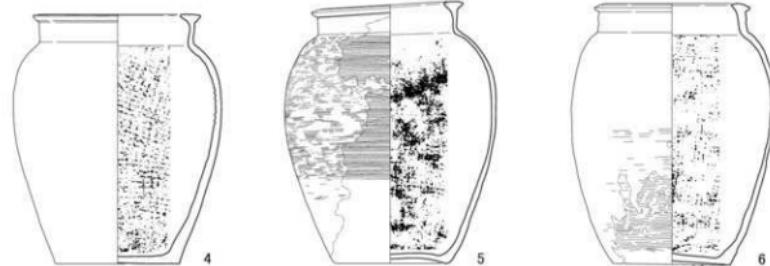
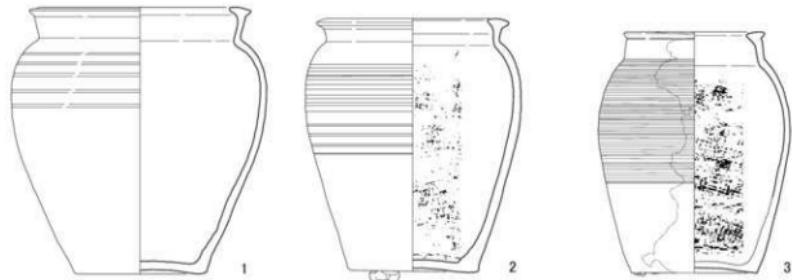
図IV-42-1～6は小甕である。図IV-42-1は底部内面に放射状の圧痕がある。図IV-42-2は底部内面の中央部に圧痕がみられる。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-42-3は口縁上端面にまばらに砂目が付着する。底部外面の外周に窯床の砂礫が比較的厚く付着する。図IV-42-4は体部外面に平行叩き痕と、内面は同心円文の当て具痕がみられる。図IV-42-5は底部外面に砂目と窯床の砂礫が付着する。口縁上端面にまばらに砂目が付着する。図IV-42-6は小甕の口縁部上端面を互いにあわせて焼成したこ



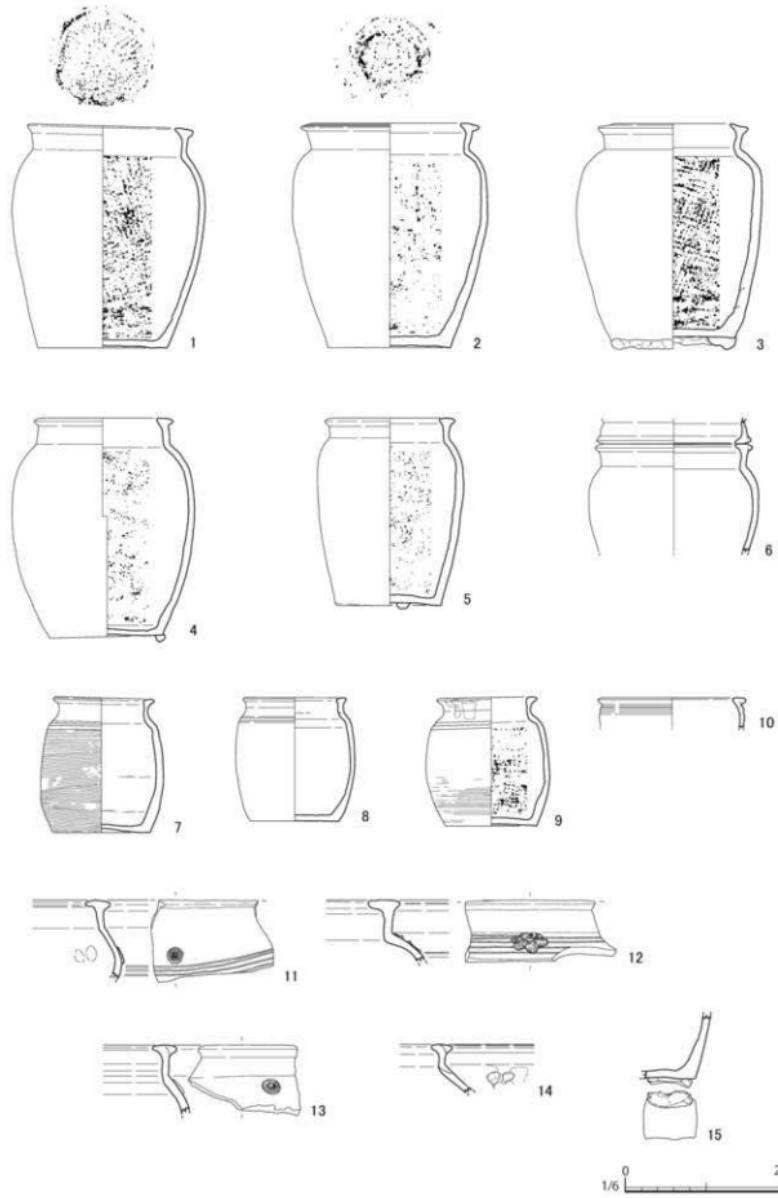
図IV-39 包含層B出土遺物1 (1/6)



図IV-40 包含層B出土遺物2(1/6)



図IV-41 包含層B出土遺物3(1/6)



図IV-42 包含層B出土遺物4 (1/6)

とが判る資料である。

図IV-42-7～9は極小甕である。肩部に二条の沈線を回す。図IV-42-7、9は体部外面に粗い横ハケを施す。図IV-42-10は甕の口縁部。口縁部は逆L字形で、口縁部から体部にかけて緩やかに内湾する。口縁部下方に1条の沈線を回す。法量的には極小甕と類似する。

図IV-42-11～15は中甕である。図IV-42-11は肩部に放射文を押圧した円形浮文を貼り付け、その下方に沈線を回す。図IV-42-12は肩部に沈線を回し、その上に貼花文を貼り付ける。貼花文に多条線を押圧する。口縁部上端面には砂目がまばらに付着する。図IV-42-13は肩部に放射文を押圧した円形浮文を貼り付ける。図IV-42-14は肩部に粘土帯を貼り付け、黄褐色の釉を垂下する。図IV-42-15は甕の底部である。底部外面に胎土目が付着する。

図IV-43-1～5は擂鉢であり、1～3、5は平底である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に断面三角形の突帯を回し、口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-43-1の口縁部外面は黒褐色の釉をかける。底部外面には胎土目積みのための砂目が付着する。図IV-43-2は口縁部内外面は黒褐色の釉をかける。内面擂目の上端に一条の沈線を回す。図IV-43-3は内面の擂目上に、胎土目積みのための砂目が3箇所付着する。図IV-43-4は外面に高台部が剥離した痕跡がみられる。内面には胎土目1個が付着する。図IV-43-5は内面の擂目上に、胎土目が3箇所付着する。底部外面にも胎土目積みのためと思われる砂目が付着する。

図IV-44-1～5は擂鉢であり、1、2は平底である。図IV-44-1は口縁部が内側に折れ曲がるように焼け歪む。実測図は復元して図示している。底部平底の糸切で轆轤成形であり、口縁部は外方に開き、外面に粘土帶貼り肥厚させ、外面に数条の沈線を回す。擂目は交差させ、上端部はナデ消しをしない。全面鉄釉を施釉する。図IV-44-2は平底で、口縁部内外面は黒褐色の釉をかける。図IV-44-3は口縁部片。器壁が薄く、轆轤成形か、体部から口縁部にかけて屈曲し、上方にたちあがる。口縁部外面に粘土帶貼り肥厚させ、外面に数条の沈線を回す。口縁部形態は図IV-44-1と類似する。図IV-44-4、5は高台付擂鉢である。

図IV-44-4は高い高台がつく。高台端部には砂目が付着する。図IV-44-5は高台部が剥離する。底部内面に4個の胎土目をのせ、その上に平底の擂鉢を重ねる。高台が剥離した擂鉢底部には胎土目積みのためと思われる砂目4箇所が付着する。

図IV-45-1～8は瓶である。図IV-45-1は口頸部が細く、なで肩である。図IV-45-2は肩が張り、体部外面は粗い横ハケを施す。図IV-45-3～8は瓶の口頸部である。図IV-45-3～7の口縁部は外反気味に開き、口縁側面は平坦気味に仕上げる。図IV-45-8の口縁側面は丸味をもつ。

図IV-45-9、10は尿瓶である。取手と注ぎ口をもつ。図IV-45-9の体部外面は粗い横ハケを施す。図IV-45-11、12は鉢である。IV-45-11は逆L字状の口縁部で、下方に太い沈線を回す。口縁上端部に砂目が付着する。IV-45-12の体部は内湾し高台がつく。高台端部と内面は無釉である。IV-45-13は灰釉の碗である。体部外面に緑色の釉を垂下し文様とする。

図IV-46-1、2は高台付鉢である。図IV-46-1は内面の茶褐色の釉を同心円状に挿いて文様とする。その上に4箇所の砂目が付着する。図IV-46-2の体部内面は灰白色に施釉したうえから黄褐色の施釉で文様とする。その上に4箇所の砂目が付着する。高台部には4個の胎土目が付着する。

図IV-46-3～6は陶器の高台付皿である。図IV-46-3、4は体部から口縁部にかけて屈曲し、内湾気味に外方に開く。図IV-46-3の体部内面は灰白色に施釉したうえから黄褐色の施釉で文様とする。図IV-46-4は内外面が灰白色である。高台部外面下端は削り込みにより段を有する。図IV-46-5は体部中位



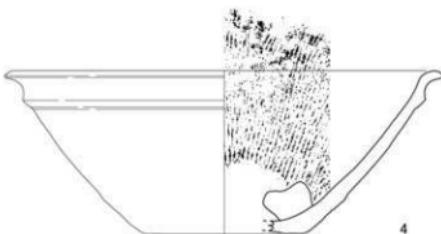
1



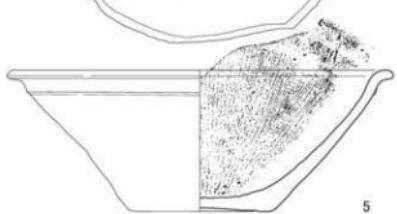
2



3



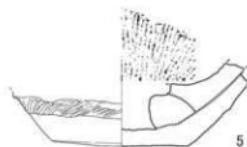
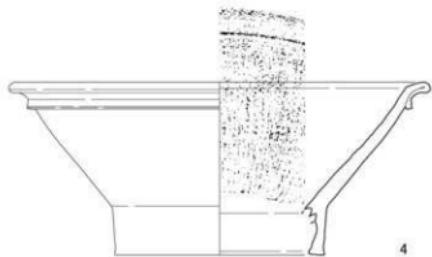
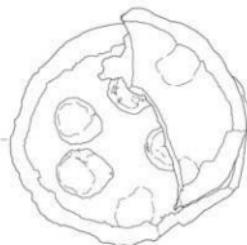
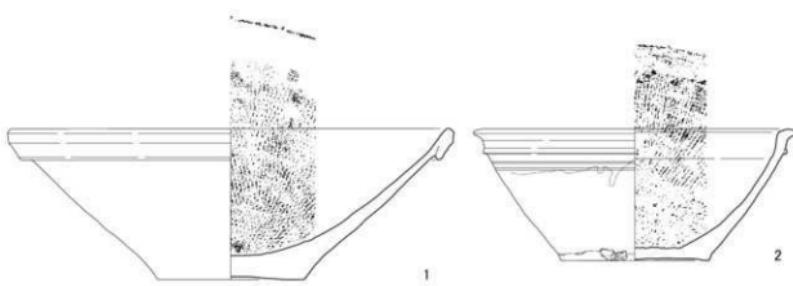
4



5

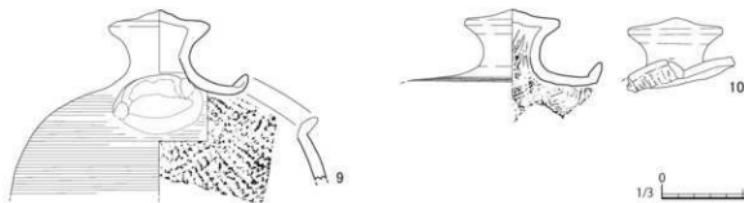
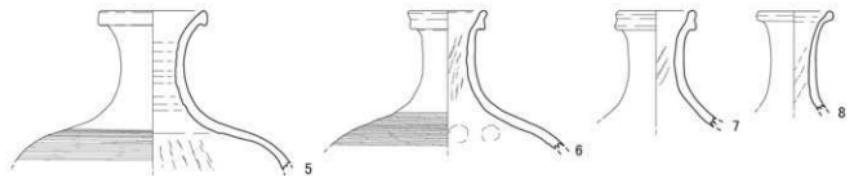
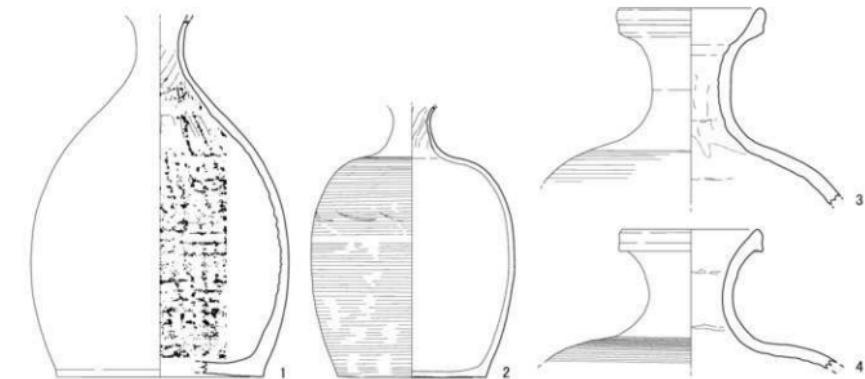
1/4 0 10cm

図IV-43 包含層B出土遺物5(1/4)

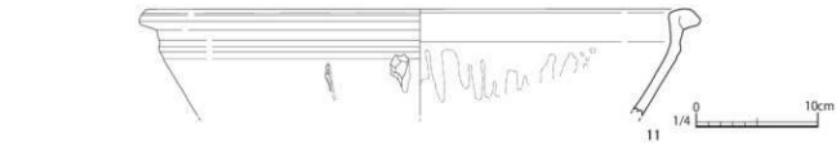


1/4 0 10cm

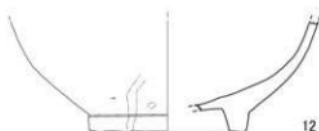
図IV-44 包含層B出土遺物6(1/4)



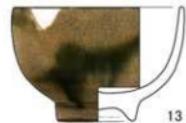
0 10cm
1/3



0 10cm
1/4

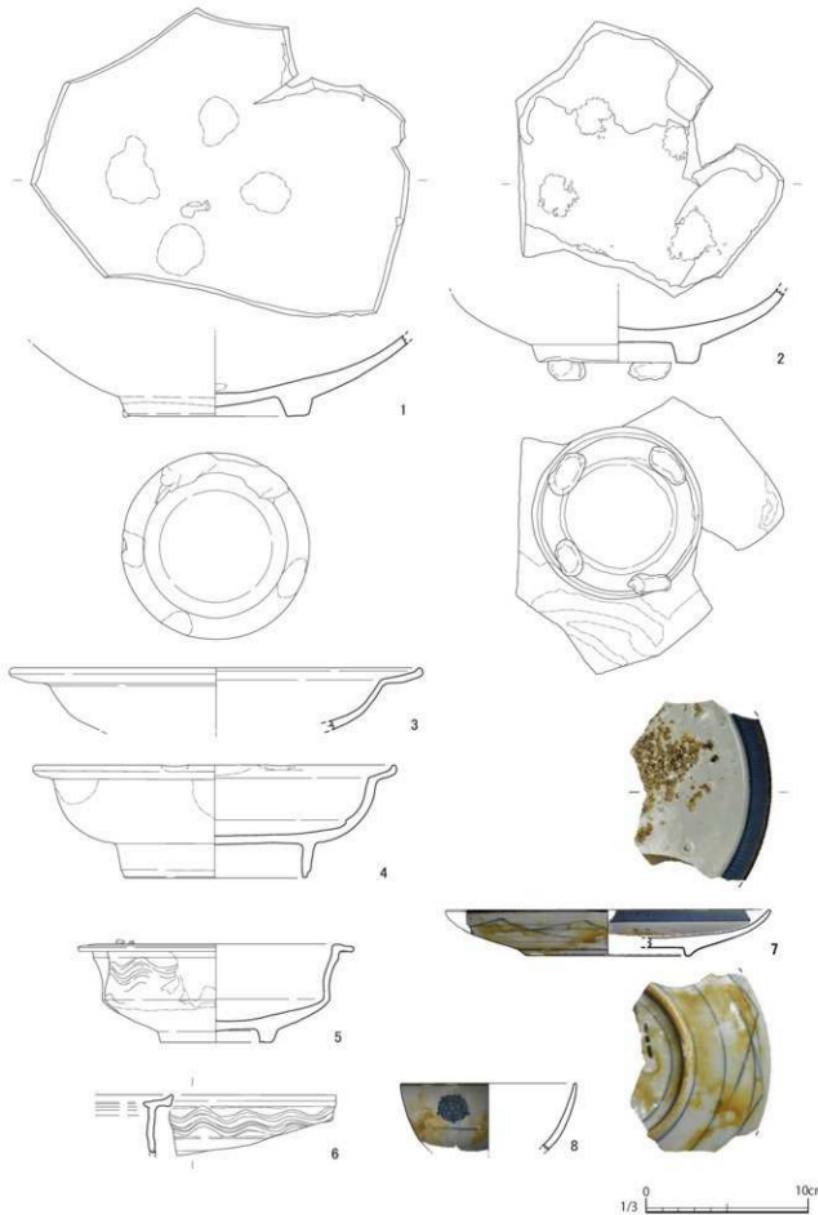


12



0 10cm
1/3

図IV-45 包含層B出土遺物7(1/3, 1/4)



図IV-46 包含層B出土遺物8(1/3)

で屈曲し上方に立ち上がり、口縁部は逆L字状である。口頸部に櫛描波状文を回す。図IV-46-6も口頸部に櫛描波状文を回す。

図IV-46-7は磁器の皿である。内外面に染付がみられる。図IV-46-8は磁器の碗である。外面にコンニャク印判の五弁花と圈線が染付けされる。

図IV-47-1は瓶である。口縁部は外反気味に開き、口縁端部は丸味をもって仕上げる。図IV-47-2は蓋である。天井部中央に把手をもち、天井部外面は同心円の沈線を施す。図IV-47-3は把手か。棒状で、断面形は多角形に面取りする。図IV-47-4は手づくね杯である。図IV-47-5は平瓦である。片側の短側邊側は無釉で、これ以外は両面施釉である。裏面は長側辺と平行したハケを施す。図IV-47-6は丸瓦である。完形で遺存状態は良い。図IV-47-7～10は窯道具である。図IV-47-7はチャツで、上面が窪み、自然釉がかかる。図IV-47-8, 9は側面がくの字形に屈曲し、円環状である。内面に格子目の叩き痕が残る。窯道具か陶器製作時の道具であるか不明である。図IV-47-10は円弧状ハマである。片面にまばらに砂目が付着する。

包含層C

図IV-48-1～図IV-52-5は包含層C出土遺物である。

図IV-48-1～6は大甕の口縁部片である。口縁部を逆L字状に内側に屈曲する。図IV-48-5, 6は口縁部を逆L字状に内側に屈曲させ、口頸部に断面三角形の2条突帯を回す。図IV-48-7～9は中甕である。口縁部はT字形で肩部に二条の縄目突帯と、その下方に沈線を回す。図IV-48-7, 8の口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部内面に放射状の圧痕がみられる。図IV-48-7の沈線は退化し、肩部に文字を線刻する。底部の外周一部に窯室床の砂礫が付着する。図IV-48-9の沈線は退化し、粗い横ハケを回す。底部内面に圧痕がみられる。

図IV-49-1～5は中甕である。口縁部はT字形で肩部に二条の縄目突帯を回す。図IV-49-1～4の口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-49-1は退化気味の沈線を回し、底部の外周一部に窯室床の砂礫が付着する。図IV-49-2は沈線と粗い横ハケを回す。図IV-49-3の沈線は退化気味である。図IV-49-3, 4の底部外面の内側が円形状に微妙に窪む。図IV-49-5は4条の沈線を回す。

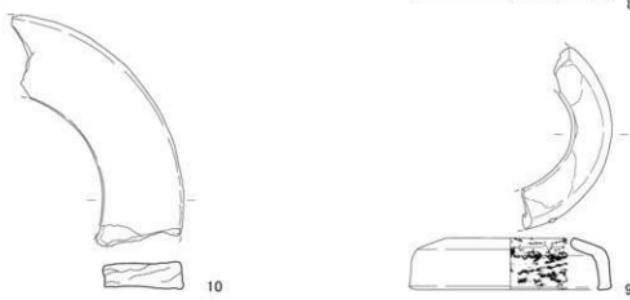
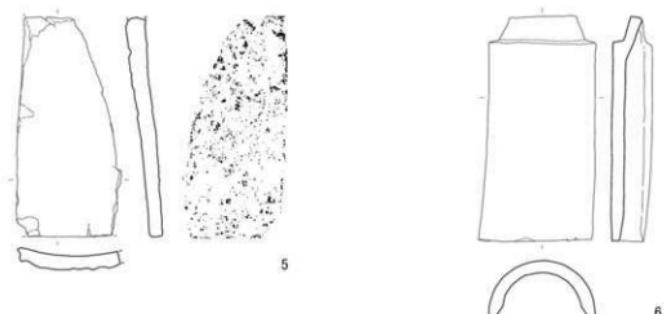
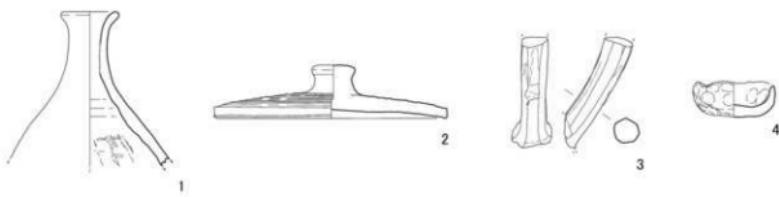
図IV-50-1～4は中甕である。口縁部はT字形で肩部に円形浮文を3箇所に貼り付け、その下方に沈線を回す。図IV-50-1は完形である。図IV-50-2, 4の口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV-50-3の口縁上端面の中央は赤褐色を呈する。図IV-50-4は完形である。底部内面に放射状の圧痕がみられる。

図IV-51-1は中甕である。胴部上半の沈線は退化し、胴部中央に微妙な沈線がみられる。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部外面に窯室床の砂礫が付着する。

図IV-51-2～6は小甕である。図IV-51-2は窯室内の焼成時の火まわりの影響のため、口縁部から底部にかけ、体部の半分が赤化する。図IV-51-3は底部外面に放射状の線刻がみられる。図IV-51-4は体部外面に粗い横ハケを施す。底部内面に不定方向の圧痕がみられる。図IV-51-5は口縁部上端面と底部外面は赤化する。素焼きの状態で、体部は施釉のため褐色である。

図IV-51-7は極小甕である。肩部に二条の沈線を回す。図IV-51-8～12は三耳壺である。口頸部は直立し、口縁部は逆L字状である。図IV-51-8, 9は底部外面に窯室床の砂礫が付着する。図IV-51-8は口縁部上端面に砂目がまばらに付着する。図IV-51-10～12は口縁部片である。

図IV-52-1は瓶である。口縁部の一部を欠損するものの、ほぼ完形である。体部外面は粗い横ハケを

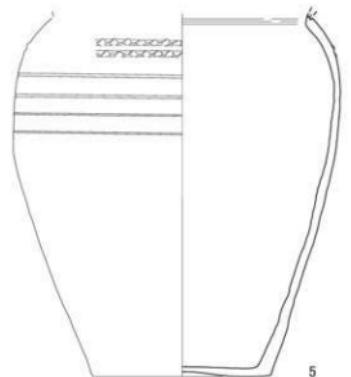
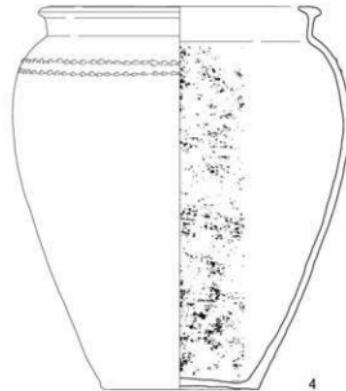
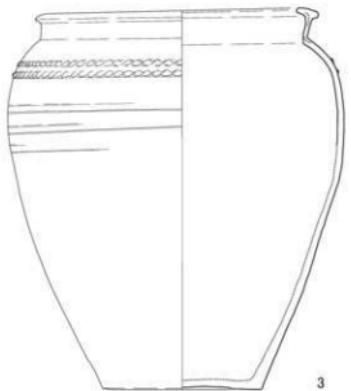
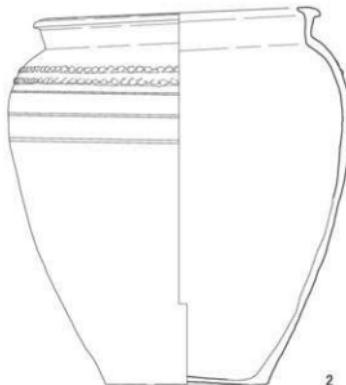
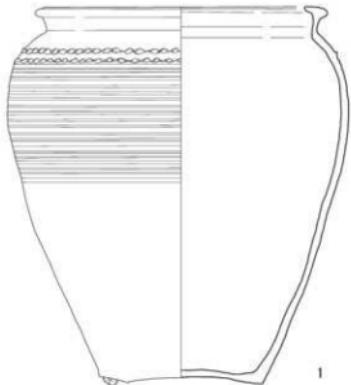


0
10cm
1/3

図IV-47 包含層B出土遺物9(1/3)

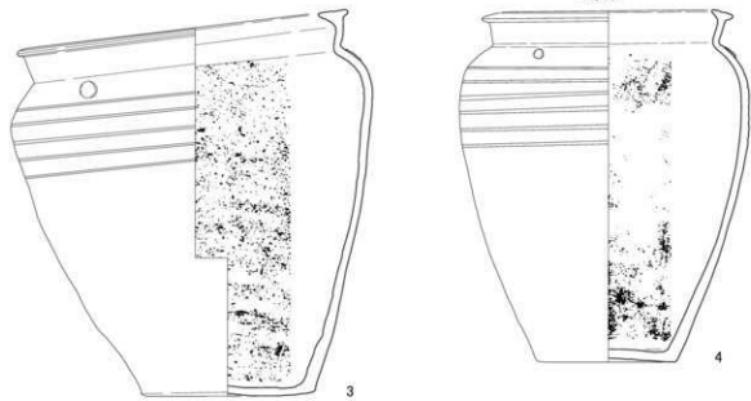
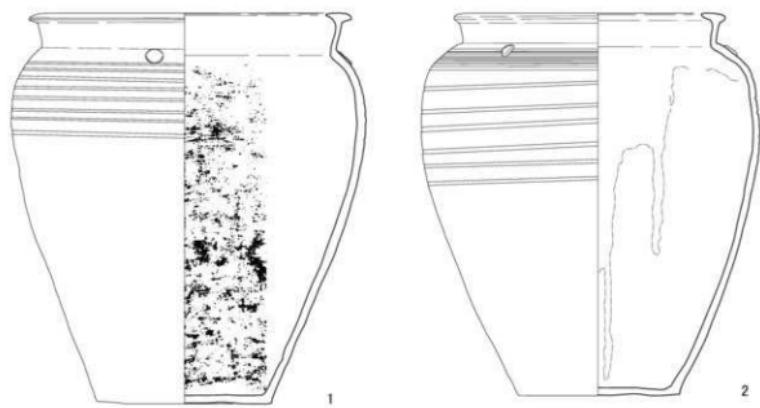


図IV-48 包含層C出土遺物1 (1/6)

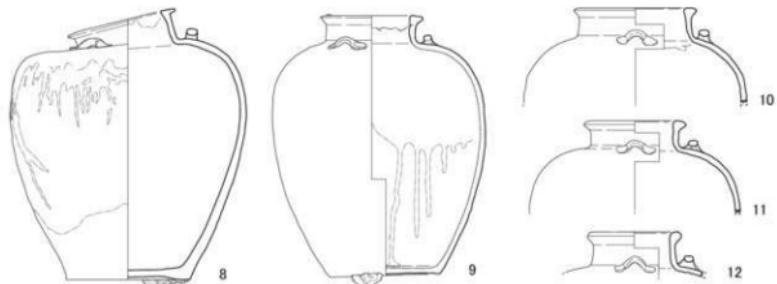
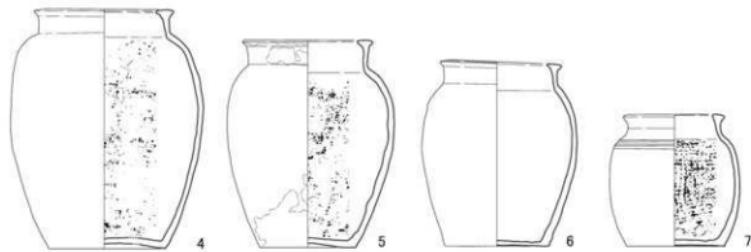
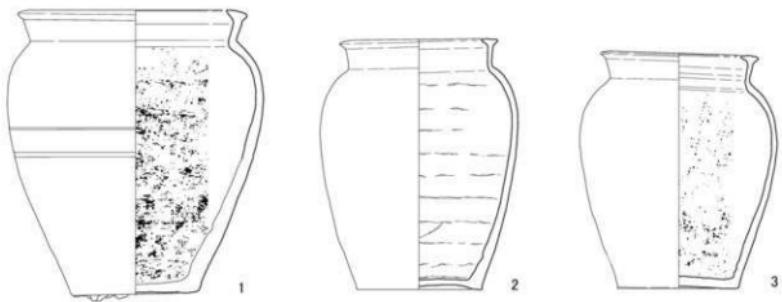


1/6 0 20cm

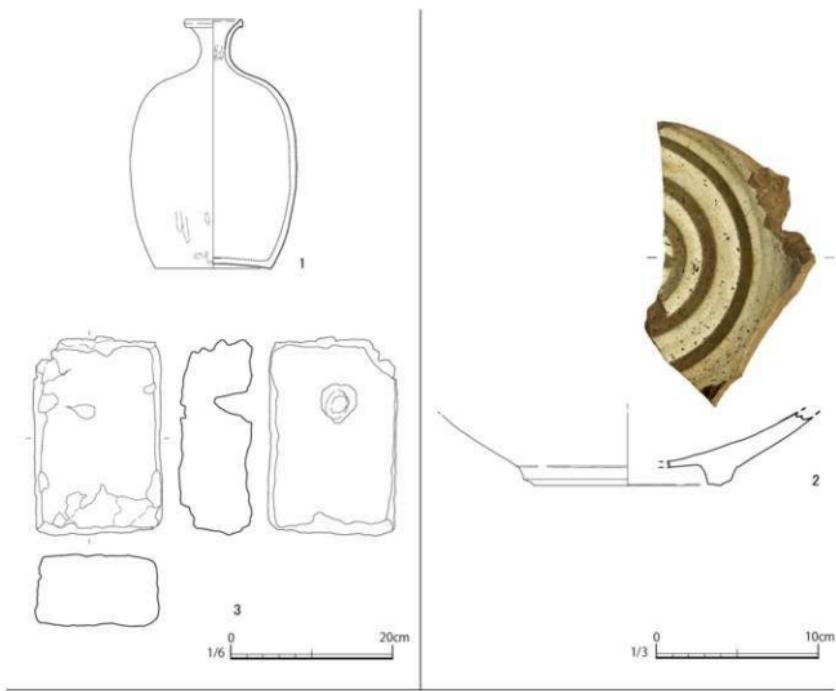
図IV-49 包含層C出土遺物2(1/6)



図IV-50 包含層C出土遺物3(1/6)



図IV-51 包含層C出土遺物4(1/6)



圖IV-52 包含層C出土遺物5 (1/3, 1/4, 1/6)

施す。図IV-52-2は高台付鉢である。内面は灰オリーブ色の釉の上に灰白色の釉で同心円文を描く。外面は露胎で、高台部の外方端部は斜めに面取りする。図IV-52-3はトンパイである。直方体で、片面に自然釉がかかる。片面には深さ約4cm、径約3.5cmの平面円形の孔を窪ませる。図IV-52-4は楔形ハマである。全面が赤褐色であるが、特に赤化した面がある。図IV-52-5は石臼片である。中央に円孔を穿ち、台部に放射状の線刻をいれる。

包含層D

図IV-53-1～図IV-55-6は包含層D出土遺物である。

図IV-53-1、2は中甕である。口縁部はT字形で図IV-53-1は肩部に二条の縄目突帯とその下方に沈線を回す。口縁部上端面は全面赤褐色で、底部外面に砂目が付着する。図IV-53-2は肩部に円形浮文を3箇所に貼り付け、その下方に沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。底部内面に圧痕がみられる。

図IV-53-3～5は小甕である。図IV-53-3は口縁上端面に砂目が付着する。底部外面に窯室床の砂礫が付着する。図IV-53-3、4は口縁上端面にまばらに砂目が付着する。図IV-53-5は口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。

図IV-53-6、7は低い高台付擂鉢である。口縁端部は丸味をもち肥厚させる。外面に退化した断面三角形の突帯を回し、口縁部は外反する。擂目の上端は横ナデにより、ナデ消しされる。図IV-53-6は口縁端部に窯室床の砂礫が付着する。内面の擂目の胎土目積みのための砂目が2箇所付着する。高台端部に砂目がまばらに付着する。図IV-53-7は高台端部に砂目が付着する。内面の擂目上に重ね積みの為の砂目痕が圈線状に回る。

図IV-54-1は灰釉の高台付皿である。内面に白色釉で円形を描き、その上に黒色の細線を平行に描く。高台部はシャープである。図IV-54-2、3は灰釉の碗の底部である。高台部はシャープに削り、露胎である。京焼風陶器であろう。図IV-54-2は高台部外面内側に「目」の字状の刻印がみられる。体部内外面は施釉され、内面に白色と赤色の細線で描く。図IV-54-3の体部内外面は施釉され、内面に黒色で山水文を描く。

図IV-54-4は皿の体部片で、内面は白色の釉の上から、黄褐色の釉で描く。外面は露胎である。図IV-54-5、6は灰釉の皿の高台部片である。体部は強く屈曲し、外方に開く。内外面施釉され、内面に細線で描く。図IV-54-6の高台部内外面は露胎で、体部は内外施釉する。内面は蛇の目状にきめ細かな白色の粉を塗布する。

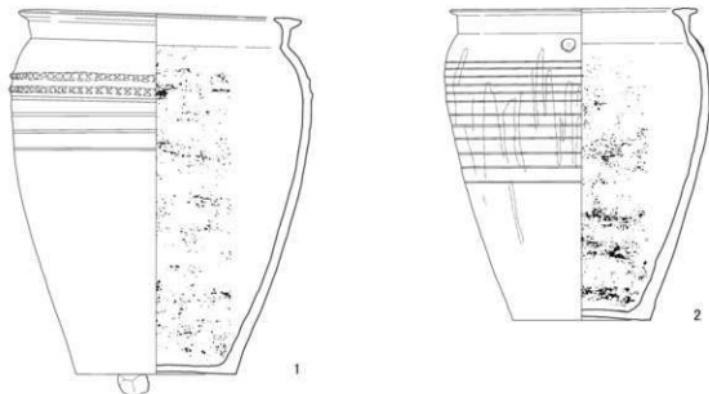
図IV-54-7は鉢の口縁部片である。口縁部は緩やかに内湾し、外端部は丸味をもって仕上げる。上面は内傾する。口頭部に三条の沈線を回し、体部外面に粘土帶を貼り付ける。

図IV-54-8は甕の口縁部片である。体部から口縁部にかけて、垂直に立ち上がる。口縁部上端面に窯室床の砂礫みたいなものが付着する。

図IV-54-9～11は器種不明である。図IV-54-9は器壁が厚く、土管状の口縁部片である。口縁部下に断面三角形の突帯を回す。図IV-54-10は底部片であり、内外面無釉である。図IV-54-11は口縁部片である。外方に開き、端部は丸味をもつ。

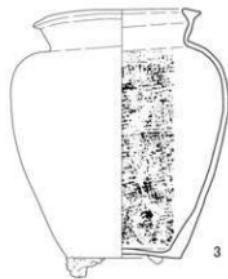
図IV-55-1は軒平瓦である。瓦当は唐草文で、裏面はハケを施す。図IV-55-2は平瓦である。裏面ハケを施し、表、裏面とも無釉である。

図IV-55-3～5は円弧状ハマである。3点とも両端は破面であり、円環状の可能性もある。図IV

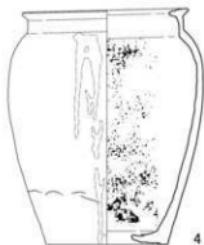


1

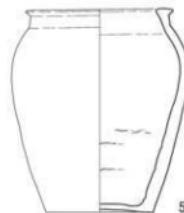
2



3

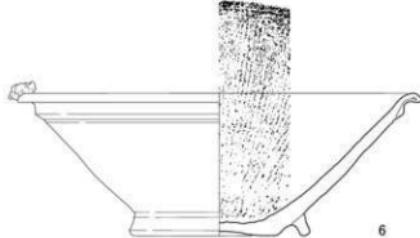


4

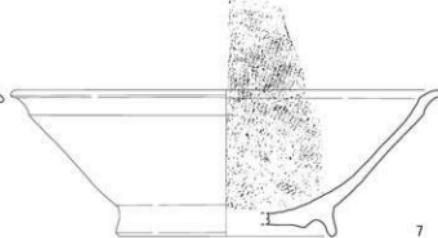


5

1/6 0 20cm



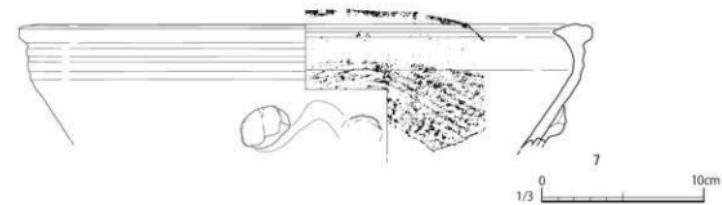
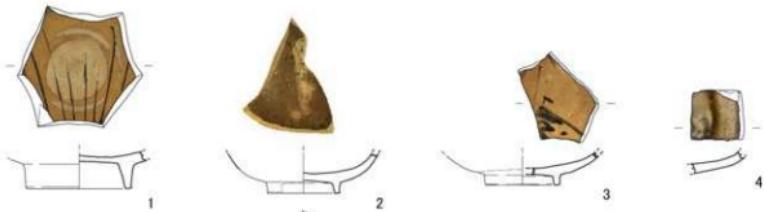
6



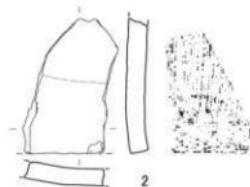
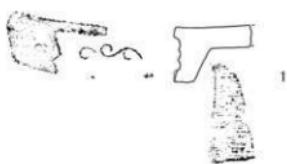
7

1/4 0 10cm

図IV-53 包含層D出土遺物1 (1/4, 1/6)



図IV-54 包含層D出土遺物2(1/3, 1/6)



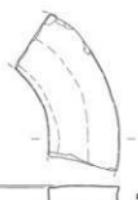
1/4 0 10cm



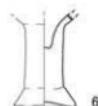
3



4



5



6

1/3 0 10cm

図IV-55 包含層D出土遺物3 (1/3, 1/4)

-55-3 の裏面は叩き痕が残る。図IV -55-4 の表面は黄褐色の付着物がつく。図IV -55-5 の裏面は赤褐色で表面の内側が赤褐色である。

図IV -55-6 は器種不明である。円柱の体部に端部は外方に広がる。上方は中空で、破損する。外面は灰白色である。

その他出土遺物

図IV -56-1 ～図IV -57-7 はその他の出土遺物である。出土地点は一覧表を参照されたい。

図IV -56-1 ～ 6 は中甕である。図IV -56-1、2 の口縁部は T 字形で肩部に二条の縄目突帯とその下方に沈線を回す。図IV -56-2 は底部に窯室床の砂礫が付着する。図IV -56-3、4 は肩部に二条の縄目突帯を回す。図IV -56-3 は口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV -56-4 の体部内面は同心円文の叩き痕が残る。図IV -56-5 は肩部 3箇所に貼花文を貼り付け、その下方に沈線を回す。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV -56-6 は肩部に円形浮文を貼り付け、その下方に沈線を回す。底部に径 2 ～ 3cm の窯壁らしき破片が付着する。

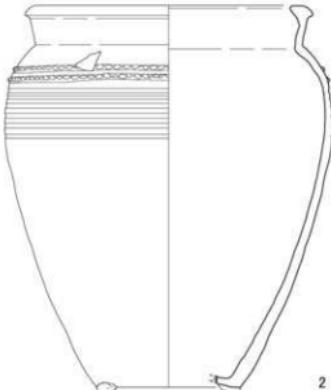
図IV -57-1 ～ 4 は中甕である。図IV -57-1、2 は肩部に円形浮文を貼り付け、その下方に沈線を回す。図IV -57-1 の底部内面に放射状の圧痕がみられる。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV -57-2 は口縁部～体部片である。口縁上端面の内側は赤褐色を呈する。図IV -57-3 は肩部に貼花文を貼り付け、その下方に沈線を回す。底部内面に放射状の圧痕がみられる。図IV -57-4 は法量的には中甕に分類できるが、なで肩で、胴部最大径が中位よりにあり、肩部の突帯や貼り付けがないなど、形態が他の中甕とは異なる。体部外面上半は粗い横ハケを施す。底部に窯室床の砂礫がまばらに付着する。

図IV -57-5 は小甕である。口縁上端面は砂目が付着する。底部外面は窯室床の砂礫が厚さ約 2cm ほど付着する。

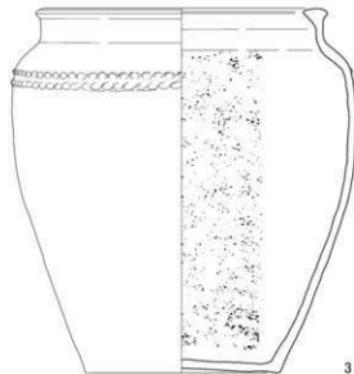
図IV -57-6、7 は極小甕である。肩部に二条の沈線を回す。



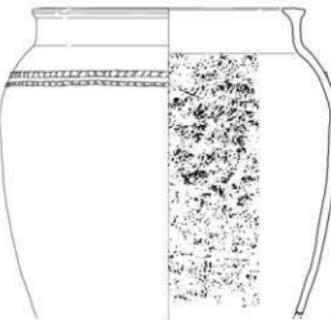
1



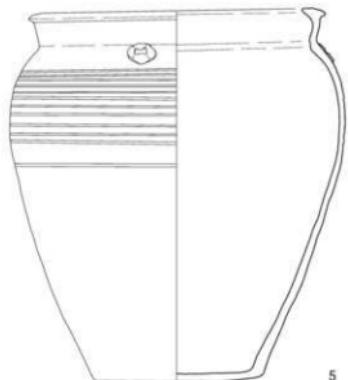
2



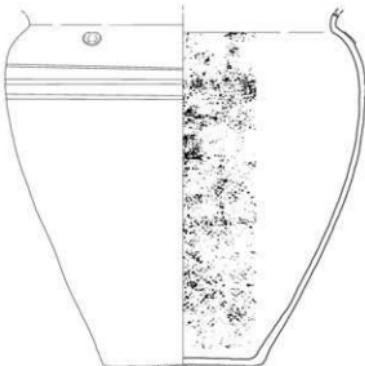
3



4



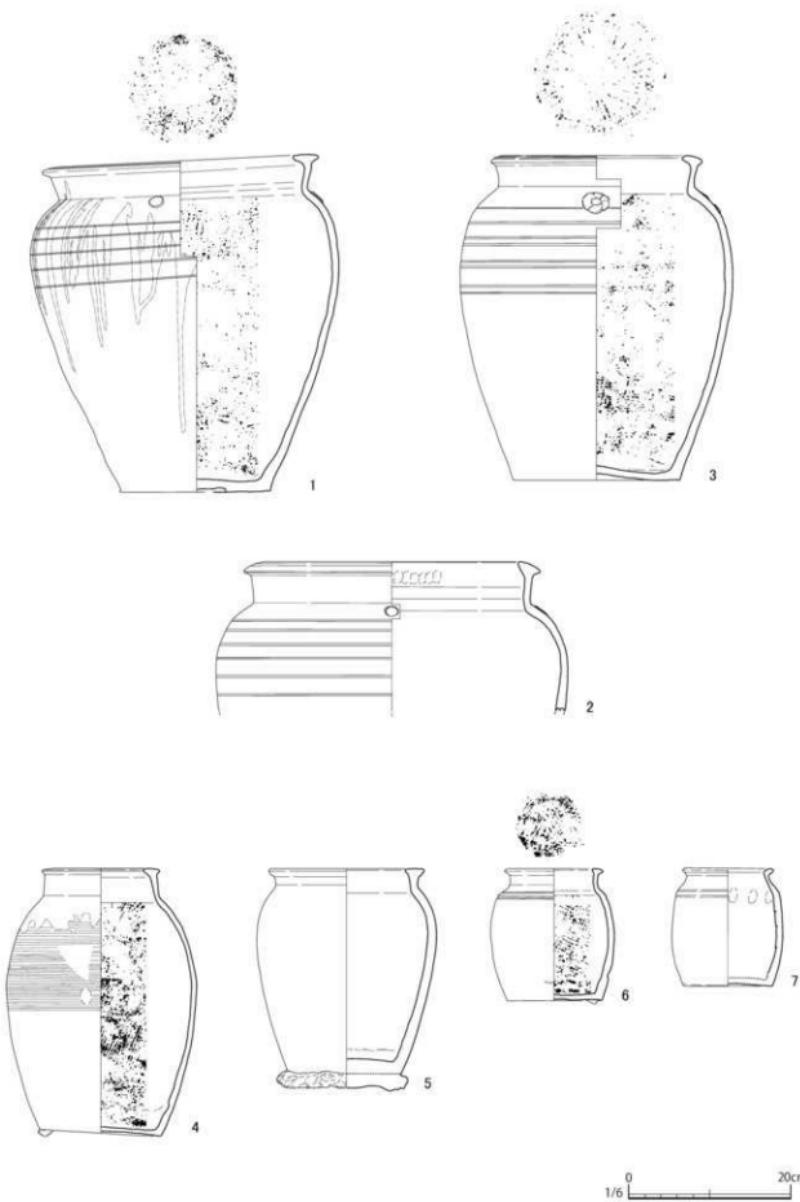
5



6

0
1/6 20cm

図IV-56 その他出土遺物 1 (1/6)



図IV-57 その他出土遺物2 (1/6)

表IV-1 調査一覧表 (1)

調査番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔外径× 〔内径〕〕	底径	法量(cm)	器高	色　調	調整等特記事項	県遺番号
IV-1-1	1室 第1面(砂床土) 陶器	中壺	口縁部 1/2残存 50%以上	(38.0)	(31.2)		(8.2)	(胎土)赤褐色10R4/3 にぶい粒5YR6/4 赤褐色2.5YR3/2	外側貼文1つ、口縁部赤 み有、内面被熱後大小の気泡 有、内面ヨコナデ、ナデ	19001158	
IV-1-2	1室 第2面半遺物 集中箇所	小壺	口縁部 1/4残存	(18.4)	(14.0)		(12.8)	(胎土)褐7.5YR4/3	内面格子目当て具鉢をヨコナ デ、外面格子目タキ半領後ヨ コナデ、施釉	19001165	
IV-1-3	1室 第2面 陶器	小壺	口縁部 1/4残存 破片	(20.8)	(16.0)		(9.5)	(胎土)にぶい粒2.5YR5/3 灰7.5YR3/3 灰褐色5YR5/2	内面格子目当て具鉢をヨコナ デ、外面付着物有 至みの為本來の形状不明	19001156	
IV-1-4	1室 第2面 陶器	小壺	口縁部～ 胴部破片 50%以上	(16.0)	(12.4)		(6.8)	(胎土)にぶい粒5YR6/4 灰7.5YR6/3 にぶい粒5YR6/4	内面ヨコナデ、内面タキ 後ヨコナデ	19001157	
IV-1-5	1室 第2面半遺物 集中箇所	高台付杯	口縁部 残存		(21.2)	(20.6)	(8.0)	(胎土)にぶい粒10YR7/4 (胎土)オリーブ黄5Y6/4	内面ナデ、施釉 口縁部輪花？付着物有	19001166	
IV-1-6	1室 第2面半遺物 集中箇所	高台付皿	口縁部 1/2残存				(5.2)	(胎土)にぶい粒7.5YR7/3 (胎土)オリーブ黄5Y6/4	外側高台部擦痕、内面蛇口目 輪刺ぎ、内外面施釉	19001163	
IV-1-7	1室 第2面半遺物 集中箇所	碗	口縁部～ 底 破片	(12.0)	(11.6)	4.7	(8.1)	(胎土)淡黃橙7.5YR8/4 (胎土)透明	内面ヨコナデ、ナデ、外 面高台端擦痕、内 面施釉	19001160	
IV-1-8	1室 第2面半遺物 集中箇所	碗	口縁部～ 底 破片	(12.5)	(12.2)	4.6	(7.2)	(胎土)淡黃橙7.5YR8/4 にぶい黄2.5Y6/3	高台貼付、高台端擦痕、内 面付着物有(土器片)、内 面施釉	19001161	
IV-1-9	1室 第2面半遺物 集中箇所	碗	口縁部 1/2 底 破片	(10.7)	(10.2)	4.8	(7.8)	(胎土)淡黃橙7.5YR5/2 灰7.5YR6/2	内面ヨコナデ、ナデ、外 面高台端擦痕、内 面付着物有(土器片)、内 面施釉	19001159	
IV-1-10	1室 第2面 陶器	碗	口縁部 1/5～ 1/2 底 破片	9.8		4.6	(7.3)	(胎土)淡黃橙7.5YR8/6 灰7.5YR6/2	内面施釉、外面高台端部砂付着、内面目 蓋2ヶ所	19001184	

表IV-2 遺物一覧表 (2)

捕獲番号	遺物名	種別	形状	器種	残存率	口径外径 [mm]	口径内径 [mm]	底径 [mm]	法量 [cm]	器高	色 調	調査等特記事項	県道番号
IV-1-11 1室	第2面北半遺物 集中箇所	陶器 深道具	陶器 深道具	碗・トチン	陶器部 底盤完全 トチン上 部1/2強 残存	トチン 上部全 上(6.8)	碗(4.1)	碗(4.1)	(胎土) 碗: 淡黄褐7.5YR8/3 (胎土) 碗: 淡黄褐7.5YR8/3 (胎土) 碗: 淡黄褐7.5YR8/3 (胎土) 碗: 淡黄褐7.5YR8/3	碗: 内外面ヨコナデ、ナデ、 施釉、外面高台貼付 トチン・外面ヨコナデ、ナデ、 施釉	19001162		
IV-1-12 1室	長軸トレンチ (北東延長部分)	陶器 高台付林	陶器 高台付林	底盤破片			碗 5.8 (3.3)	トチン (4.0)	トチン (4.0)	外面一部端脚、内外面施釉、 内面ヨケメ、付着物有 削れ口にも施付着	19001167		
IV-1-13 1室		磁器 鉢	磁器 鉢	口環部 残存	口環部 1/4以下			(1.8)	(胎土) 淡黄褐10YR8/3 (胎土) 黄褐色10YR3/3 哥釉灰 10GY8/1	内外面施釉、口縁端脚1虹	19001164		
IV-1-14 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	トチン + トチン	チャツ完 形・ト チン+ト チン 底盤部 形	チャツ完 形・ト チン 底盤部 形 6.6	チャツ 3.2 5.4	チャツ 6.4 トチン 3.1	(胎土) 灰白 10YR8/2 (胎土) 灰白 7.5YR8/2 (胎土) 灰白 7.5YR8/2 10YR8/4 10YR4/3	チャツ: 外面自然釉、回転才 トチン: 指正直、上面砂目 トチン: 外面自然釉、ヨコナ デ、上面砂目 チャツとトチンの接着部体	19001172		
IV-1-15 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	トチン	完形	7.8	7.4	4.8	5.8 (胎土) 灰白 10YR8/4 (胎土) 淡黄 5YR7/2・2.5YR7/3	外面自然釉、上面露胎、砂粒 付着、底部回転糸切り後削り	19001185		
IV-1-16 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	トチン	完形	7.0		5.0	6.3 (胎土) 白 10YR8/2	外面自然釉、回転才元後の 付着、回転ナデ、底部回転糸 切り後工具または指による削 り出し、露胎	19001178		
IV-1-17 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	トチン	完形	6.3		5.3	6.2 (胎土) 淡黄 10YR7/4 (胎土) 淡黄 10YR7/4	砂目、底部回転糸切り、ケズ (胎土) 淡黄 10YR7/4 1リ	19001171		
IV-1-18 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	ハマ	完形	6.9	6.6	6.6	1.3 (胎土) 淡黄 5YR7/3	外面自然釉、上面底部露胎、 砂粒付着	19001170		
IV-1-19 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	ハマ	完形	6.2		6.6	1.3 (胎土) 淡黄 7.5YR7/3	外面自然釉、回転ナデ、上面 底面切り離し後削付着	19001180		
IV-1-20 1室	第1面	深道具	深道具	胎土日	完形	4.3		4.05	厚さ 1.6 (胎土) 淡黄 5YR5/4	内外面ナデ、指正直	19001188		
IV-2-1 1室	第2面北半遺物	深道具	深道具	トチン	完形	8.6		8.6	20.8 (胎土) 黄 7.5YR8/3	外面自然釉、指正直、磁器片	19001168		
IV-2-2 1室	第2面北半遺物 集中箇所	深道具	深道具	トチン	下盤 1/5 残存			(7.0)	(16.2) (胎土) 黄 12.5YR8/1 1リ	外面自然釉、較りによる成形 後ナデ、指正直、底面ナデ	19001181		

表IV-3 蓋物一覧表 (3)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [mm]	口径内径 [mm]	法量 [cm]	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-2-3	1室 第2面 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン+	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰白 トチントン:明褐色 5YR7/2 (輪)チャツ:灰 5Y6/3	チャツ:外面自然軸、回転ナ 面ナデ	指正痕、 トチントン:外面自然軸、回転ナ 面ナデ、砂付着、較りによる成形 後ナデ、指圧痕、ナデ、下部 に付着物有	19001183
IV-2-4	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 5Y6/2 (輪)チャツ:灰 5YR7/3 (輪)チャツ:灰 10YR4/3	外面自然軸、上面露脂、削付着 目痕、底部露脂、砂付着	19001169	
IV-2-5	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 10YR7/3 (輪)チャツ:灰 10YR7/3	外面自然軸、較りによる成形 後ナデ、指圧痕、ナデ、上部 に付着物有	19001177	
IV-2-6	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 10YR5/4 (輪)チャツ:灰 10YR5/4	砂付着、底面露脂、ナデ	19001173	
IV-2-7	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 10YR8/1 (輪)チャツ:灰 10YR8/1	上面成形、上面底面露脂	19001174	
IV-2-8	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 7.5Y6/4 (輪)チャツ:灰 7.5YR6/4 灰 黄褐 10YR6/2	底面露脂、砂粒 砂付着、底面露脂、砂粒	19001186	
IV-2-9	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	トチントン	(土)チャツ:灰 7.5Y5/4 (輪)チャツ:灰 7.5YR6/6 (輪)チャツ:灰 7.5YR7/2 (輪)チャツ:灰 10YR4/4 灰 黄褐 10YR6/2	上面自然軸、上面露脂、砂粒 砂付着、底面露脂、砂粒	19001176	
IV-2-10	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	ハマ	完形	11.0	6.4	6.5	(土)チャツ:灰 10Y8/1 (輪)チャツ:灰 10Y2/2	上面自然軸、上面ナデ、砂付	19001182	
IV-2-11	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	ハマ	完形	11.7	6.2	3.2	(土)チャツ:灰 7.5YR8/4 (輪)チャツ:灰 7.5Y6/3	底面回転ナデ	19001175	
IV-2-12	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	ハマ	完形	7.1	4.3	1.8	(土)チャツ:灰 7.5YR7/4 (輪)チャツ:灰 7.5YR7/4	上面自然軸、上面ナデ	19001187	
IV-2-13	1室 第2面半遺物 集中箇所	第2面半遺物	窓道具	ハマ	完形	6.2	4.3	1.35	(土)チャツ:灰 2.5Y6/4 (輪)チャツ:灰 2.5Y7/3	底面回転ナデ	19001179	
IV-3-1	2室 陶器	陶器	中壺	口縁部~ 肩付	(34.1)	(27.6)	(21.4)	(21.4)	(土)チャツ:灰 5YR5/4 (土)チャツ:灰 2.5YR6/6 (土)チャツ:灰 2.5YR7/3	上面露脂、上部露脂、 砂付着、底面露脂、砂付	19001098	
IV-3-2	2室 陶器	陶器	中壺	口縁部~ 肩付				(22.1)	(土)チャツ:灰 2.5YR2/2 (土)チャツ:灰 7.5YR7/2	内外面ヨコナデ、外側貼花文、 内外面ヨコナデ、外側貼花文、 内外面ヨコナデ、ナデ、ナデ後 ヨコナデ、内外面施釉	19001190	

表IV-4 遺物一覧表(4)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺物番号
IV-3-3	2室	陶器	中壺	口縁部破片			(1.5)	(脚) 斧形鉢 2.5YR3/3 輪軸赤褐色 2.5YR2/2	内外面回転ナデ、外面二条継 目突部、沈縫 4 条弱存、内 外面回転ナデ直格子目当て具 内、外面部輪	19001195	
IV-3-4	2室	陶器	中壺	口縁部～ 腹部部片			(1.7)	(脚) 斧形鉢 2.5YR5/4 輪軸赤褐色 2.5YR3/2	内外面回転ナデ 8 条、内面 ヨコナデ後沈縫 4 条、内面 ヨコナデ直格子目当て具 内、外面部輪	19001105	
IV-3-5	2室	陶器	擂鉢(平底)	1/4 残存	(33.8)	(30.2)	(12.8)	11.7 灰褐色 5YR4/2	内外面ヨコナデ、内面部器口、 外面ナデ	19001099	
IV-3-6	2室	陶器	擂鉢	口縁部 1/4 残存			(7.7)	灰褐色 2.5YR6/1	内外面ヨコナデ、外面泥付突 部、内面部器口	19001106	
IV-3-7	2室	陶器	高台付皿	3/5 残存	上部 側体	上部側 体(9.8)	上部側 体(24.4)	上部側 体 8.0	(脚) 上部：灰白 YR8/1 下部：に 5Y 黄褐色 10YR7/2	上部：内外面部輪、露胎、同 軸ナデ、内面部器口 下部：内外面部輪、露胎、同 軸ナデ、内面部器口 2個体接着、口縁部变形	19001261
IV-3-8	2室	陶器	高台付皿	底盤 2/3 残存	(22.0)		7.8	5.25 灰褐色 7.5YR6/4	内外面回転ナデ、外面面部輪～ 高台部露胎、内面部輪	19001294	
IV-4-1	2室	陶器	高台付皿	ほぼ完形	22.9		7.4	5.9 (脚) 5Y 黄褐色 10YR7/4	内外面回転ナデ、外面高台部 露胎(削り)、内面部輪	19001092	
IV-4-2	2室	陶器	高台付皿	ほぼ完形	22.2		7.6	6.0 (脚) 5Y 黄褐色 10YR7/4	内外面回転ナデ、外面高台部 露胎(削り)、内面部輪	19001093	
IV-4-3	2室	陶器	高台付皿	ほぼ完形	22.6		8.0	5.8 灰褐色 7.5YR6/4	内外面回転ナデ、外面部輪 露胎(削り)、内面部輪	19001094	
IV-4-4	2室	陶器	高台付皿	口縁部～ 底盤 1/2 残存	(20.2)		8.0	5.2 (脚) 5Y 黄褐色 2.5YR7/2	内外面回転ナデ、外面部輪 露胎(削り)、内面部輪	19001088	
IV-4-5	2室	陶器	高台付皿	口縁部～ 底盤 1/2	(22.5)	(20.4)	(7.2)	5.2 (脚) 5Y 黄褐色 10YR6/3 灰黄色 2.5YR6/2	内外面高台部上部に指頭による運 軸ナデ文様、高台部削ぎ、内 面部輪(削り)、内面部輪	19001200	

表IV-5 遺物一覧表 (5)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺物号	登録番号
IV-5-1	2室	陶器	高台付皿	口縁部～底盤1/2 底盤、底 残存	(19.8)	(10.0)	8.2	(釉)に-5V-黄2.5Y6/4 黄褐2.5Y5/4 オリーブ黒5Y3/2	内外面回転ナデ、外面部端部端部断面、不純物付着、 込み部山水文、不純物付着、 内外面施釉	19001262		
IV-5-2	2室	陶器	高台付皿	口縁部～脚 底盤、脚 残存 (3.2側体 輪着)		8.0	(9.2)	(釉)浅黄5Y7/4・2.5Y7/3	上部：内外面回転ナデ、見込 み部山水文、内外面施釉 下部：内外面回転ナデ、高台 部端部、外面部端部 2側体輪着、外面上に焼成跡 割れた破片が付着	19001271		
IV-5-3	2室	長軸トレンチ	陶器	大碗	口縁部破 片、底部 3/4、残存	(19.8)	(19.0)	11.0	(釉)褐7.5YR7/6	内外面回転ナデ、高台部端部 部端部、外面部端部	19001270	
IV-5-4	2室	陶器	大碗	底盤完形		7.6	(5.3)	(釉)に-5V-黄2.5Y6/4	内外面回転ナデ、高台部端部 部端部、外面部端部 施釉、内面部付着物 有、内外面施釉	19001281		
IV-5-5	2室	陶器	碗	口縁部 1/4～底 部完形	(11.7)	5.1	8.0	(釉)黒褐5YR2/1 浅黄5Y7/3	外面高台端部端部、内面部付着 物、内外面施釉	19001090		
IV-5-6	2室	陶器	碗+ハマ	口縁部～ 底盤1/2 底盤、底 部完形 ハマ	(11.2)	碗5.1 ハマ4.2	7.9 2.5	(釉)褐：オリーブ黄5Y6/4 ハマ：灰白10YR7/4 灰白10R8/1	内外面回転ナデ、内面部端部 片付着、内外面施釉 ハマ：外面に焼成跡、 上面端部、外付着	19001286		
IV-5-7	2室	陶器	碗	底盤残存		5.4	3.9	(釉)暗褐7.5YR3/3 褐色7.5YR2/3 オリーブ5Y5/4	内外面回転ナデ、内面部側体 の鉄袖が入り込み温度に耐え きれず破裂したか？、外面部 別側体の付着か、内外面 施釉	19001296		
IV-5-8	2室	陶器	碗	口縁部～ 底盤2/3 底盤、底 部完形	(11.6)	5.4	8.3	(釉)に-5V-黄2.5Y6/3	内外面回転ナデ、外面部端部端部 部端部、内面部側体付着、内 外面施釉	19001265		
IV-5-9	2室	陶器	碗	口縁部～ 底盤(底 部完形)	12.3	12.0	5.0	(釉)褐12.5Y7/2	外面部端部端部、内外面施 釉	19001278		
IV-5-10	2室	陶器	碗		11.9	11.4	8.0	5.4	内外面回転ナデ、外面部端部端部 部端部、内面部付着物、 (員人有)	19001191		
IV-5-11	2室	陶器	碗	口縁部 3/4～底 部完形	12.4		5.0	7.8	(釉)灰水10Y8/1 褐色7.5Y6/2	内外面回転ナデ、内面部付着物 有、内外面施釉(員人有)	19001290	

表IV-6 蔴物一覧表 (6)

拘囚番号	遺物名	種別	器種	残存率	口縁部 1/4残存、 底盤完形	法量(cm) 〔内外径〕〔内径 〔外径〕〕	底径	器高	色 調		調整等特記事項	製造番号
									(輪上)に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/3		
IV-5-12 2室		陶器	碗	1/4輪存、 底盤完形	(12.4) (12.0)	5.4	7.7 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/3	内外面回転ナギ、付着物有、 外面高台端部露脂、内外面施 輪	19001280	
IV-5-13 2室		陶器	碗	1/4輪存、底 盤完形	(11.8) (12.2)	4.8	7.6 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/2	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、内外面施輪	19001285	
IV-5-14 2室		陶器	碗	1/4輪存、底 盤完形	(11.3) (12.2)	4.8	7.25 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5Y6/4 黄褐2.5Y5/3	内外面回転ナギ、一部砂粒付着、 内面見込み部脚付きハマ焼着 痕?、内外面施輪	19001264	
IV-5-15 2室		陶器	碗	1/2以上 残存	(10.1)	4.7	7.9 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/8 黄褐2.5YR8/3	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、内外面施輪(被然)	19001091	
IV-5-16 2室		陶器	碗	3/4残存	(11.5) (11.2)	5.0	7.4 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/4 灰ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、付着物有、 外面高台端部露脂、内外面施 輪	19001279	
IV-5-17 2室		陶器	碗	1/2以上 底盤1/2 残存	(10.4) (10.0)	4.8	7.7 (輪上)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/4 黄褐2.5YR8/3	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、内外面施輪	19001266	
IV-5-18 2室		陶器	碗	ほぼ完形	10.5	10.2	4.6 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/2 灰ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、付着物有、 外面高台端部露脂、内外面施 輪(眞人有)	19001301	
IV-5-19 2室		陶器	碗	1/2以上 底盤1/2 残存	(11.0)	4.6	6.7 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/8 黄褐10YR6/4	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、砂目、内外面施輪	19001284	
IV-6-1 2室		陶器	碗	1/3～底 盤完形	(13.3)	4.5	6.2 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/2 灰ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、付着物有、 外面高台端部露脂、内外面施 輪(眞人有)	19001293	
IV-6-2 2室		陶器	碗	ほぼ完形	13.2	4.6	6.3 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/8 黄ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、砂目、内外面施輪	19001287	
IV-6-3 2室		陶器	碗	3/5残存	13.0	4.8	6.1 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR6/2 灰ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、内外面施輪(眞人有)	19001288	
IV-6-4 2室		陶器	碗	1/3～底 盤完形	13.0	4.4	6.2 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR5/3 黄ホリ一ヶ	内外面回転ナギ、外面高台端 部露脂、内面見込み部の着物 有、内外面施輪(眞人有)	19001292	
IV-6-5 2室		陶器	碗	底盤4/5 残存	12.9	12.4 (4.6)	6.1 (輪)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5YR7/4 灰ホリ一ヶ	外面高台端部露脂、内外面 施輪有、内外面施輪	19001197	
IV-6-6 2室		陶器	碗	1/4残存	(12.2)		(4.8)	〔輪上〕に至る 〔輪〕反本一ヶ	7.5Y6/4 浅黄2.5Y7/3	内外面回転ナギ、内面付着物 有、内外面施輪	19001263	

表IV-7 遺物一覧表 (7)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号
N-6-7	2室	陶器	高台付鉢	ほぼ完形	23.6 (23.0)	7.9 (22.6)	10.6 11.1	(胎土)に赤・黄褐 10YR 4/4 (釉)灰オリーブ 5Y6/2	内外面回転ナード、外面陶器・ 鉢の内縁片が輪郭有、内 外面施釉	19001097
N-6-8	2室	陶器	高台付鉢	3/5残存	24.2 (23.2)	8.4 (8.8)	11.1 10.0	(胎土)に赤・黄 7.5YR 7/4 (釉)オリーブ 5Y6/4	内外面回転ナード、内外面施釉 露胎、内外面高台部 露胎、内外面施釉	19001196
N-6-9	2室	陶器	高台付鉢	1/2 部完形	21.5 (22.2)	7.2 8.2	11.5 10.3	(胎土)に赤・黄 7.5YR 7/6 (釉)オリーブ 5Y6/4	内外面回転ナード、外面部 全体的に歪み有	19001095
N-6-10	2室	陶器	高台付鉢	1/4 部欠損	21.4 (22.0)	7.4 7.4	10.7~ 11.1	(胎土)に赤・黄 5YR 6/4 (釉)明黄 25Y6/4	内外面回転ナード、外面部 露胎、内外面器片付着、内外 面施釉	19001268
N-6-11	2室	陶器	高台付鉢	1/3~底 部1/3残 存	21.4 (22.8)	7.2 7.4	11.5 11.1	(胎土)浅黄 5Y7/3 (釉)オリーブ 5Y6/2	内外面回転ナード、外面部 露胎、内外面付着物有、外面部 施釉	19001289
N-6-12	2室	陶器	高台付鉢	1/2以上 残存	21.4 (22.0)	7.4 8.8	10.7~ 11.3	(胎土)浅黄 5Y7/4 (釉)明黄 2.5Y7/6	内外面回転ナード、付着物有、 全体的に歪み有	19001096
N-7-1	2室	陶器	高台付鉢	1/6,高台 部1/2残 存	21.5 (23.5)	7.2 8.0	11.3 11.3	(胎土)灰 2.5Y7/2 (釉)浅黄 5Y7/3	内外面回転ナード、施釉(質入 有) 口縁部輪花(凹み1ヶ所残存、 完全形跡4ヶ所凹みか)	19001269
N-7-2	2室	陶器	高台付鉢	1/4残存	21.5 12.5	幅6.2 厚さ1.6 (灰N5)	8.2 8.2	(胎土)に赤・黄 10YR 4/2 (釉)浅黄 5Y4/2	内外面回転ナード、施釉(質入 有) 口縁部輪花(凹み1ヶ所残存、 完全形跡4ヶ所凹みか)	19001291
N-7-3	2室	陶器瓦	平瓦	破片	長さ 8.1	8.2	24.9	(胎土)に赤・黄 10YR 4/4 (釉)灰 10YR 3/3	外面自然釉、回転ナード、回転 複数の陶器片とトラン(小) が接着	19001282
N-7-4- 1,2 (同一側 裏表)	2室	窓道具	トラン	完形	8.1	8.2	24.9 8.2	(胎土)灰 10YR 8/2 10YR 7/6 10YR 8/4 10YR 5/4	外面自然釉、回転ナード後絞り、 上面露胎、砂粒付着、底部露 胎	19001189
N-7-5	2室	窓道具	トラン	完形	8.5	8.5	23.8 8.5	(胎土)に赤・黄 10YR 5/4 10YR 5/4	上面露胎、砂粒付着、底部露 胎	19001295

表IV-8 蔵物一覧表(8)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	法量(cm)	器高	色調	調整等特記事項	県道番号	登録番号
IV-7-6	2室	黒道具	トチソ	完形	8.5	8.6	22.4 (輪) 前縁 10YR3/3	外面自然軸、ナデ、指ナデ、 指狂丸、較りによる成形、付 着物有、上面底部繻	19001297		
IV-7-7	2室	黒道具	トチソ	完形	(7.4)	8.4	21.8 (輪) にぶい黄 7.5YR7/4	外面自然軸、ナデ、指狂丸、 較りによる成形、上面底部 ナデ、繻物	19001298		
IV-7-8	2室	黒道具	トチソ	完形	6.5	6.4	13.0 (輪) にぶい黄 5YR6/3	外面自然軸、砂付着、上面 底部繻、砂付着、重ね焼き 痕	19001283		
IV-7-9	2室	黒道具	トチソ	完形	6.4	6.2	6.5 (輪) 前縁 10YR3/3	外面自然軸、ナデ、上面底部 繻	19001108		
IV-7-10	2室	黒道具	トチソ	完形	6.6	6.6	12.8 (輪) オリーブ緑 2.5Y4/3	外面自然軸、砂付着、指狂丸、 較りによる成形、上面底部 ナデ、繻物	19001299		
IV-7-11	2室	黒道具	トチソ	完形	6.7	6.2	12.6 (輪) 前縁 10YR7/3	外面自然軸、砂付着、指狂丸、 較りによる成形、上面底部 ナデ、繻物	19001300		
IV-7-12	2室	黒道具	トチソ	ほぼ完形	7.0	5.0	7.9 (輪) 白 5Y8/1	外面自然軸、砂付着、指狂丸、 上面底部繻	19001109		
IV-7-13	2室	黒道具	トチソ	ほぼ完形	6.0	4.4	8.4 (輪) 白 5Y7/2	外面自然軸、砂付着、指狂丸、 上面底部繻	19001104		
IV-7-14	2室	黒道具	トチソ	筒のみ、 トチソ+碗	6.4	トチソ 高台 5.2 高台 1.7	トチソ 6.9 トチソ:オリーブ緑 5Y6/4	トチソ:白 2.5Y8/1 高台:浅黄 7.5YR8/4 高台:オリーブ緑 5Y6/4	19001267		
IV-7-15	2室	黒道具	トチソ+ト チソ	上部 2/3 下部 1/5	下部側 体 6.4	5.0	9.2 (輪) 上部・下部:にぶい黄	上面自然軸、下部:灰白 付着、底部砂付着	19001259		
IV-7-16	2室	黒道具	トチソ	完形	5.8	4.5	4.7 (輪) にぶい黄 10YR7/2	上面自然軸、回転ナデ、上面 底部砂付着	19001258		
IV-7-17	2室	黒道具	トチソ	完形	6.4	3.8	4.6 (輪) にぶい黄 7.5YR7/4	外面自然軸、砂付着、底部繻、 回転糸切り	19001194		
IV-7-18	2室	黒道具	トチソ	上部残存	9.0	(5.5) (輪) 緑 10YR4/4	外面自然軸、ナデ、上面歯士 目・珍ね焼き痕	19001103			

表IV-9 遺物一覧表 (9)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号	登録番号
IV-8-1	2室	窓道具	トチソ	完形	7.0	4.8	6.7	(胎土)にぶい黄橙 10YR7/3 (輪)浅黄 5.5YR7/4	外面自然釉、回転系切り後削り 砂目、底部回転系切り出し	19001201		
IV-8-2	2室	窓道具	トチソ	完形	6.9	5.3	5.1	(胎土)にぶい黄橙 7.5YR7/4 (輪)にぶい黄橙 7.5YR7/3	外面自然釉、 部回転系切り、ヘラ削り	19001100		
IV-8-3	2室	窓道具	トチソ	完形	7.2	5.0	6.0	(胎土)橙 10YR7.4 底輪 10YR6/6	外面回転ナデ、上面擦れ跡、 底輪系切り	19001089		
IV-8-4	2室	窓道具	トチソ	完形	7.2	5.2	5.9	(胎土)にぶい黄 5YR6/4 (輪)橙 7.5YR6/6 底輪 10YR5/8	外面自然釉、底部擦れ、回転ナデ、上面 砂工具による削り出し、砂 付着	19001192		
IV-8-5	2室	窓道具	トチソ	完形	6.8	5.0	5.9	(胎土)灰白 10YR8/2 (輪)にぶい黄橙 10YR7/3	外面自然釉、回転ナデ、 砂付着、底盤系切り、 削り出し、裏脂	19001257		
IV-8-6	2室	窓道具	ハマ	完形	11.4	6.6	4.9	(胎土)灰白 3Y8/1 (輪)灰白 3Y8/2	砂目、重ね焼き痕、底盤回転 系切り	19001277		
IV-8-7	2室	窓道具	ハマ	完形	11.0	10.8	5.0	(胎土)灰白 3Y7/1 (輪)灰白 3Y7/2 にぶい黄 5YR6/4	外面自然釉、指圧痕、上面自 然輪後砂付着、底盤露胎	19001198		
IV-8-8	2室	窓道具	ハマ	完形	11.2	6.2	3.4	(胎土)灰白 3Y8/3 (輪)淡黄 3Y8/1	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、底部回転系切り、露胎	19001110		
IV-8-9	2室	窓道具	ハマ	完形	11.9	7.5	2.7	(胎土)灰白 3Y8/2 灰黄 2.5Y6/3	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、重ね焼き痕、底盤回転 系切り?	19001276		
IV-8-10	2室	窓道具	ハマ	完形	10.7	6.0	2.7	(胎土)淡黄 7.5YR8/3 にぶい黄 2.5Y6/3	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、重ね焼き痕、底盤系切 り、削り出し	19001275		
IV-8-11	2室	窓道具	ハマ	完形	7.0	3.6	2.5	(胎土)灰白 3Y7/2 (輪)灰白 3Y7/2	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、砂付着、底盤系切り	19001260		
IV-8-12	2室	窓道具	ハマ	完形	7.1	4.0	2.6	(胎土)淡黄 7.5YR8/3 にぶい黄 5YR6/4	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、重ね焼き痕、底盤回転 系切り	19001274		
IV-8-13	2室	窓道具	ハマ	ほぼ完形	6.3	4.2	1.3	(胎土)淡黄 10YR8/3	外面回転ナデ、上面砂目、胎 砂目、底部回転系切り	19001111		
IV-8-14	2室	窓道具	ハマ	完形	7.0	4.0	1.4	(胎土)灰白 2.5Y8/2 にぶい黄 5YR6/4	外面自然釉、回転ナデ、上面 砂目、重ね焼き痕、底盤回転 系切り	19001273		
								輪)灰白 3Y7/2				

表IV-10 遺物一覧表 (10)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 [内径] 延径	法量 (cm)	器高	色 調	調査等特記事項	県遺番号
IV-8-15	2室	窓道具	八マ	完形	長さ 6.7	幅 6.7	厚さ 1.2 (幅) 7.5YR4/3	外面自然釉、上面砂目、重ね 燒き痕、下面砂目	19001272	
IV-8-16	2室	窓道具	胎土目	完形	長さ 4.3	幅 3.7	厚さ 1.3 (胎土) にぶい・焼 5YR6/4	内外面ナデ 重さ 29.3g	19001107	
IV-8-17	2室	窓道具 陶板状ハマ	破片	長さ 8.6	幅 13.7	厚さ 1.6 (幅) にぶい・焼 5YR7/3	外面自然釉、上面砂目、重ね 燒き痕、下面砂目	19001101		
IV-8-18	2室	窓道具 陶板状ハマ	破片	長さ 11.2	幅 8.6	厚さ 2.6 (幅) にぶい・焼 10YR5/4	外面自然釉、上面砂目、重ね 燒き痕、下面砂目、欠損部にも自然釉が付 着	19001202		
IV-8-19	2室	窓道具 陶板状ハマ	破片	縦 8.3	横 8.5	厚さ 1.5 (幅) にぶい・焼 7.5YR7/6	外面自然釉、ナデ、上面重ね 燒き痕	19001193		
IV-8-20	2室	窓道具	八マ	完形	縦 7.4	横 7.4	厚さ 3.2 (幅) にぶい・焼 10YR5/3	外面自然釉、指仔痕、上面砂 目、ハケ状工具痕、付着部、中央部凹み 底部回転ナデ、中央部凹み 有、露胎	19001199	
IV-8-21	2室	南東壁裏込土	陶器	碗	口径 1/6 側身～底 側完形		4.4 (胎土) にぶい・焼 10YR7/4	外面釉が底点状に剥離、内外 面施釉	19001114	
IV-8-22	2室	南東壁裏込土	陶器	小壺	口縁部～ 片窓 1/4 残存	(19.8) (15.2)	5.8 (幅) にぶい・焼 5YR5/3	内外面クロコナデ 口縁部に歪み有	19001112	
IV-8-23	2室	南東壁裏込土	陶器	中壺	口縁部～ 頸部 1/9 残存		(5.2) (幅) 7.5YR6/6	内外面ヨコナデ	19001113	
IV-9-1	3室	第1面	陶器	中壺	完形	28.8	18.1 (幅) 黒褐 5YR4/4 • 5YR5/2	内外面ヨコナデ、回転ナデ、貼 花文 2ヶ所、沈線 11条、口 縁部露胎、砂付着、内面格 子目当て具亂をナデ、内外面 施釉	19001623	
IV-9-2	3室	第1面	陶器	中壺			(34.1) (幅) 黑褐 5YR4/2 • 5YR5/2	66.1 と接合 内外面ヨコナデ、回転ナデ、 格子目当て具亂をナデ、外 面施釉	19001622	
								67.1 と接合		

表IV-11 遺物一覧表 (11)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径×高さ [cm] 内径	法量 [cm]	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号
IV-9-3	第1面床直上	陶器	中壺	ほぼ完形	(32.0) (25.4)	(18.6)	40.2	(胎土)に赤い赤褐色 5YR4/3 (釉)暗赤褐色 5YR3/2 灰褐色 5YR4/2	内外面同様ナデ、ナデ、外 面二条縞目突起、弦線8条、 口縁端部微断、砂付足、内面 格子目当て具鋸をナデ、内外 面施釉	19001601
IV-9-4	第1面床直	陶器	擂钵	口縁部～ 胴部1/2 残存	(39.6) (38.4)	(15.25)	(胎土)灰赤 10R4/2 灰赤 2.5YR3/2	(胎土)に赤い赤褐色 7.5YR5/3	内外面同様ナデ、外面部付突 起、内面端部、振り目後ナ デ酒し、内外面施釉	19001303
IV-9-5	第1面床直	陶器	擂钵	1/10残存			(13.2)	(胎土)黒褐色 10YR2/2	内外面同様ナデ、外面部接合部、 内面端部目、振 り目後ナデ酒し、内外面施釉	19001305
IV-9-6	第1面床直	陶器	擂钵	口縁部～ 胴部破片			(13.5)	(胎土)暗赤褐色 5YR3/3	内外面自然釉、回転ナデ、外 面貼付突起、内面端部目	19001319
IV-9-7	第1面	陶器	擂钵	口縁部破 片			(9.5)	(胎土)灰赤 10R4/2 (釉)灰赤 2.5YR4/2	内外面同様ナデ、内面端部目、 振り目後ナデ酒し、内外面施 釉	19001302
IV-9-8	第1面床直	陶器	高台器	口縁部2/3 残存		(21.2)	(胎土)に赤い赤褐色 5YR5/2	(胎土)に赤い赤褐色 5YR4/2	内外面ヨコナデ、剥離部分に 接合部、施釉	19001116
IV-10-1	第1面床直	緊本体	火燭け	完形	長さ 31.5	幅32.7	厚さ 9.0	(胎土)暗赤褐色 5YR8/4 オリーブ灰 2.5GY5/1	外面部ナデ、燃焼による赤変	19001329
IV-10-2	第1面床直	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 18.1	幅 15.6	厚さ 10.6	(胎土) 椎 2.5YR6/6 (釉) 椎 2.5YR6/6	外面ナデ、丁寧なナデ、びび 割れ有	19001326
IV-10-3	第1面床直	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 18.5	幅 14.5	厚さ 10.1	(胎土)に赤い赤褐色 2.5YR5/4 (釉) 黒褐色 2.5YR6/8	外面自然釉、ナデ、上面付着 物2つ有、裏面液熱による赤 変	19001324
IV-10-4	第1面床直	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 17.4	幅 13.5	厚さ 9.4	(胎土) 椎 2.5YR6/6 (釉) 黑褐色 10YR3/1	外面自然釉、ナデ、上面凹み、 付着物有、裏面液熱による赤 変	19001325
IV-10-5	第1面床直	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 13.5	幅 11.5	厚さ 6.4	(胎土) 椎 2.5YR6/8 (釉) 黑褐色 10YR3/1	外面自然釉、ナデ、上面裏面 重ね焼き銀有	19001323
IV-10-6	第1面	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 12.0	幅 9.9	厚さ 6.5	(胎土) 椎 2.5YR4/2 黒褐色 7.5YR3/1	外面自然釉、ナデ	19001320
IV-10-7	第1面	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 10.05	幅 8.8	厚さ 5.3	(胎土) 黑褐色 7.5YR3/2 黑褐色 5YR5/8	外面自然釉、ナデ	19001321
IV-10-8	第1面	緊道具	楕円ハマ	完形	長さ 9.5	幅 6.9	厚さ 4.1	(胎土) 椎 5YR2/1 (釉) 黑褐色 5YR2/1	外面自然釉、ナデ、自然釉付 着後に砂付有	19001322

表IV-12 遺物一覧表 (12)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 [内径] 延径	法量 (cm)	器高	厚さ 3.9 (幅) 條 5.5YR6/6	色 調	調整等特記事項	県遺番号 登録番号
IV-10-9	3室 第1面床面直上	素道具	楕円ハマ	完形	長さ 9.5	幅 6.9	厚さ 3.5 (幅) 條 5.5YR6/6	外面ナデ、上面重ね焼き痕	19001339		
IV-10-10	3室 第1面床直上	素道具	楕円ハマ	4/5残存	長さ (6.5)	幅 5.9	厚さ 3.5 (幅) 條 5YR5/3	外面ナデ、側面一部黒変	19001328		
IV-11-1	3室 第2面	陶器	拙朴	1/10残存			(8.6) (幅) 黒褐 5.5YR5/6	内外面回転ナデ (内面端より目、 外面部施釉)	19001306		
IV-11-2	3室 第2面	陶器	拙朴	底部 1/4 残存		(12.0)	(5.1) (幅) 黑褐 5.5YR3/2 灰黄褐 10YR4/2	外面部施釉、回転ナデ、ナデ、 砂付着、内面部施釉、底土目 質?	19001330		
IV-11-3	3室 第2面	陶器	碗	口縁部～ 高白1/3 残存	(12.2)	(10.8)	7.4	4.8 (幅) 灰灰リープ 5Y5/2	外面高台端 部露胎、内面部施釉 (買入有)	19001313	
IV-11-4	3室 第2面	陶器	碗	口縁部～ 底部 3/4 残存	11.8	11.2	4.7	7.6 (幅) 5.5-黄 2.5Y6/3	内外面回転ナデ、外面高台端 部露胎、内面部施釉 (買入有)	19001314	
IV-11-5	3室 第2面	陶器	碗	口縁部～ 高台部 2/3 残存	11.0	4.6	7.2	(幅) 5.5-黄 10YR7/3	外面高台端露胎、内面部 施釉 (買入有)	19001311	
IV-11-6	3室 第2面	陶器	碗	口縁部～ 底部 2/5 残存	(10.3)	(4.4)	6.9	(幅) 5.5-黄 10YR6/4	内外面回転ナデ、外面高台端 部露胎、内面部施釉	19001308	
IV-11-7	3室 第2面	陶器	高台付鉢	底部～胴 部片		(8.4)	(8.5) (幅) 5.5-黄 7.5YR7/3	外面高台端露胎、内面部施釉 (買入有)	19001315		
IV-11-8	3室 第2面	陶器	碗	口縁部 1/2 残存	(12.6)	(11.4)	(4.5) (幅) 5.5-黄 5YR7/4 5YR6/6	(幅) 5.5-黄 10YR6/3	内外面回転ナデ、内面露胎、 内面部施釉 (買入有)	19001312	
IV-11-9	3室 第2面	陶器	碗	口縁部～ 胴部 1/5 残存	(9.6)	(8.2)	(4.5) (幅) 5.5-黄 2.5Y7/3	(幅) 5.5-黄 2.5Y6/3	内外面回転ナデ、内面下部露 胎、内面部施釉	19001307	
IV-11-10	3室 第2面	陶器	高台付皿	1/8 残存、 別個体の 口縁部 着		(7.6)	(3.4) (幅) 5.5-黄 10YR7/4	内外面回転ナデ、外面高台端 露胎、内面部施釉 (目輪剥離、内 面の見込み部に逆さにして 重ね焼きをした別個体 (香か か?) の口縁部が溶け合った 状態)	19001310		
IV-11-11	3室 第2面床直上	陶器	高台付皿	1/3～底 部元形	(22.0)	(21.2)	8.0	6.0 (幅) 浅黄 2.5Y7/3	内外面回転ナデ、内面高台端 露胎 (目輪剥離、内面高台端 露胎、内面部施釉)	19001317	
IV-11-12	3室 第2面	陶器	高台付皿	高台部欠 損、底部 1/3 残存			(2.4) (幅) 灰灰リープ 5Y6/2	内外面回転ナデ、外面高台端 露胎、内面部施釉	19001309		

表IV-13 遺物一覧表 (13)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
IV-12-1	3室 第2面	縫隙具	トチン	上部欠損			8.7	(19.5) (輪)	外面自然輪、内輪7.5YR7/2 部分的に砂付着		19001332
IV-12-2	3室 第2面	縫隙具	トチン	完形	6.3	6.0	1.2	(胎土)に5%黄橙10YR7/3 外面部自然輪、砂付着	指圧痕、付着物有、上面武事ナデ		19001333
IV-12-3	3室 第2面	縫隙具	トチン	完形	6.3	4.5	6.7	(胎土)に5%黄橙10YR7/3 (輪)	外面自然輪、内輪ナデ、上面 砂目、重ね焼き痕、底部剥離?		19001341
IV-12-4	3室 第2面	縫隙具	チャツ	完形	15.4	9.1	7.0	3.4	内外面凹凸ナデ、外面自然輪、 切り離し後ナデ		19001338
IV-12-5	3室 第2面	縫隙具	チャツ	完形	15.0	7.4	5.8	3.5	内外面凹凸ナデ、内部砂付着、 (輪)に5%黄7.5YR6/4		19001334
IV-12-6	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	13.0	7.3	2.9	(胎土)に5%黄橙10YR7/3 (輪)	外面自然輪、回転ナデ、付着 物有、上面砂目、底部剥離?		19001336
IV-12-7	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	7.5	5.2	1.5	(胎土)に5%黄7.5YR7/4 (輪)に5%黄5YR6/3	上面砂目、 砂目、重ね焼き痕、底部剥離?		19001346
IV-12-8	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	7.3	5.0	1.7	(胎土)に5%黄2.5Y7/4 (輪)に5%黄7.5RG6/3	上面砂目、 砂目、重ね焼き痕、底部剥離? 切り		19001343
IV-12-9	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	6.4	3.2	1.3	(胎土)に5%黄2.5Y7/3 (輪)に5%黄5YR7/3	上面砂付着、 砂目、重ね焼き痕、底部剥離?		19001337
IV-12-10	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	6.1	4.0	1.35	(胎土)に5%黄2.5Y7/1 (輪)	外面自然輪、回転ナデ、上面 砂目、底部剥離? 切り、付着 物有		19001342
IV-12-11	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	長さ6.5	幅6.8	厚さ1.0	(胎土)に5%黄7.5FR7/6 (輪)に5%黄7.5FR7/4	外面ナデ、上面砂目、重ね焼 き痕		19001345
IV-12-12	3室 第2面	縫隙具	ハマ	完形	長さ6.2	幅6.4	厚さ0.9	(胎土)に5%黄7.5YR8/4 (輪)に5%黄7.5YR8/1	上面自然輪、 砂目、重ね焼き痕		19001344
IV-12-13	3室 第2面	縫隙具	陶板状ハマ	1/10以下 残存	縦(9.7)	幅(7.2)	厚さ1.6	(胎土)に5%黄7.5YR8/6 (輪)	外面ナデ		19001335
IV-12-14	3室 第2面	縫隙具	陶板状ハマ	破片	長さ (7.7)	幅(7.6)	厚さ2.3	(胎土)に5%黄7.5YR8/4 (輪)	上面工具痕、ナ デ?、重ね焼き痕、裏面砂目		19001340
IV-12-15	3室 第2面	縫隙具	口縁部～ 底盤(不明)	縫隙具 底盤	12.3 (12.3)	(9.6)	13.6	3.2	内外面ヨコナデ、外面部自 然輪、砂付着、内面格子目當て具銀有ヨコナデ、内面 自然輪 「縫隙部に3ヶ所版士日痕有		19001316

表IV-14 遺物一覧表 (14)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-13-1	3室	陶器	擂钵 (平底)	ほぼ完形	(33.4)	(31.8)	12.0	13.4	〔胎土〕極薄褐色 7.5YR2/3 (釉) 單褐色 7.5YR3/3	内外面タキ形容後ナデ?、 内面端部リム、端り目後くほり目 部分的にナデ消し強くほり目 が残存、内外面施釉	19001115	
IV-13-2	3室	陶器	擂钵	口縁部 1/10欠存				(15.7)	(釉) 黒褐色 10YR5/3	内外面回転ナデ、内外面端部 端り目後くほり目、端部強貼、内外面施釉	19001304	
IV-13-3	3室	陶器	碗	口縁部 1/5~底 部2/5形	(10.0)		4.3	7.2	〔胎土〕に5-6%黄褐色 10YR5/3 (釉) 浅黄褐色 7.5YR7/4	内外面回転ナデ、内外面施釉 (買入有)	19001318	
IV-13-4	3室	陶器	深盆	トチン	ほぼ完形	6.5	6.4	12.85	〔胎土〕に5-6%重7.5YR2/3 (釉) に5-6%褐色 7.5YR5/3	外面自然釉、較りによる成 形、上面目、別個体の口縁 部片?付着、底部端部、砂粒 付着	19001327	
IV-13-5	3室	奥壁裏込	深造具	楕円ハマ	完形	長さ 18.7	幅17.0	厚さ8.1	〔胎土〕單赤褐色 2.5YR5/6 (釉) オリーブ褐色 2.5Y4/3 オリーブ黄5Y6/4	外面自然釉、ナデ、焼成時に 倒れて割れた幾つか	19001331	
IV-14-1	4室	槌出時	陶器	小甌	口縁部破 片			(7.9)	(釉) 単赤褐色 5YR3/2 黑褐色 5YR3/1 輪廓赤褐色 5YR2/3	内外面回転ナデ、外面部剥落、 格子目タキ後ナデ、内面回 転ナデ後格子目当て具類、内 外面施釉 焼成時の歪み有	19001385	
IV-14-2	4室	槌出時	陶器	擂钵	口縁部破 片			(3.5)	(釉) に5-6%黄褐色 10YR5/4 灰褐色 10YR4/2 黑褐色 10YR3/2	内外面回転ナデ、内面回転ナ デ後端リム、内外面施釉	19001387	
IV-14-3	4室	莫达理士	陶器	擂钵	口縁部破 片			(3.6)	〔胎土〕灰赤 10YR7/2 赤灰 2.5YR4/1	内外面回転ナデ、外面部剥落、 内面端部リム、端り目後 ナデ削	19001383	
IV-14-4	4室	槌出時	陶器	擂鉢(高台 底部片)			(20.0)	(4.8)	(釉) 棕7.5YR6/6 に5-6%褐 7.5YR5/3	内外面回転ナデ後端リ ム、外面部剥落付、高台端部 端り目、内面端部ナデ、内外面 施釉文3	19001386	
IV-14-5	4室	莫达理士	陶器	鉢	口縁部破 片			(2.5)	〔胎土〕に5-6%褐色 7.5YR6/3 (釉) 棕7.5YR4/3 に5-6%褐 7.5YR5/3	内外面回転ナデ、内面端部 端り目、内面端部ナデ、内外面 施釉文3	19001382	
IV-14-6	4室	陶器袋 付	碗	口縁部破 片				(2.6)	(釉) 棕2.5Y6/4 (朱色) 陶オーバー灰 5G3/1	内外面回転ナデ、内面端部 端り目、内面端部ナデ、内外面 施釉文3	19001390	
IV-14-7	4室	莫达理士	磁器	皿				(2.35)	〔胎土〕灰7.5Y6/1	内外面回転ナデ、内面端部 端り目、内面端部ナデ、内外面 施釉文3	19001381	
IV-14-8	4室	槌出時	磁器	碗	口縁部破 片			(1.9)	(釉) 灰7.5YR8/1 (朱色) 陶緑灰 7.5GY4/1	内外面回転ナデ、内外面施釉 銀、内外面施釉	19001388	

表IV-15 遺物一覧表 (15)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 〔内径〕	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-15-1	Aトレンチ 西盛り土	陶器	中壺	口縁部～ 肩部1/2 残存 底部完全存 在	(34.0) (29.0)	19.2	41.35 (輪) 嵌赤陶 5YR4/3 嵌赤陶 10R3/2	内外面回転ナデ、外面円形 文、沈線11条、回転ナデ後 ナデ、タキ後ナデ、底削ナ デ、内面格子目タキ後ナデ、 見込み部円形狀のタキ痕、 ナデ、内外面施釉	1900.1930		
IV-15-2	床直	陶器	小壺	口縁部 1/2～底 部9/10 残存	(22.2) (17.8)	(13.6)	24.9 (輪) 嵌赤陶 10R3/1 にぶい赤陶 5YR5/4	内外面回転ナデ、ナデ、底削 胎、断土十目(砂目)有、内 面格子目当て具焼をナデ、見 込み部菊花状の工具痕、粗い ナデ、内外面施釉	1900.1562		
IV-15-3	床直	陶器	小壺	ほぼ完形	18.7	14.3	24.55 (輪) 嵌赤陶 2.5YR3/2 にぶい赤陶 7.5YR6/3	内外面回転ナデ、タキ後ナ デ、内面底削胎、砂付着、 輪焼成時のものと思われる縦 向の大きなひび有	1900.1603		
IV-15-4	床上	陶器	小壺	口縁部 1/4～底 部完形	20.5	15.0	26.9 (輪) 滲繪 5YR8/3 輪 2.5YR6/6	内外面ヨコナデ、ナデ、内面 タキ痕	1900.1205		
IV-15-5	床直	陶器	小壺	口縁部 1/4～圓 部3/5～ 底部完形	(20.0) (15.6)	13.0	24.7 (輪) 滲繪赤陶 2.5YR2/2	内外面回転ナデ、タキ後ナ デ、外側口縁部付着物有、 底削胎付着有、内面粘土接合痕、 内外面施釉	1900.1564		
IV-15-6	床直	陶器	小壺	完形	18.0	13.6	24.8 (輪) 嵌赤陶 2.5YR1/3 2.5YR5/4	内外面回転ナデ、外側ナデ後 ナデ、口縁部付着物有、底 削胎付着有、ナデ、底削胎土目 輪焼成時の格子目タキ、内 面施釉、焼成時の器面亀裂、 「縫部余み有」	1900.1566		
IV-15-7	床直	陶器	小壺	口縁部 3/4～底 部完形	18.8	14.0	25.5 (輪) 嵌赤陶 7.5YR3/3	内外面ヨコナデ、外側ナデ後 ナデ、内面格子目当て具痕、 「縫部余み有」 「縫部上端部を休面に置き焼 成か」	1900.1394		

表IV-16 遺物一覧表 (16)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項		県遺番号
									内外面回転ナデ、外面格子目 タキ後ナデ、内面格子目当 て具輪をナデ、見込み部格子	内外面回転ナデ、外面口縫部 付着物多頭付着、粘土織ぎ目 痕部底面付着、内面格子目 当て具輪をナデ、見込み部格 子目当て具輪、内外面施輪 口縫部上端部を床面に置き焼 成か。	
IV-15-8	5室 床直	陶器	小壺	1.3頭部 2/3～胸 部4/5～ 底部完形	20.0	16.2	16.2	26.2	(胎土) 淡黄橙 7.5YR8/4	内外面回転ナデ、外面格子目 タキ後ナデ、内面格子目当 て具輪をナデ、見込み部格子	19001466
IV-15-9	5室 床直	陶器	小壺	完形	18.0	13.0	13.0	25.1	(胎土) 黑赤褐 7.5R3/2	内外面回転ナデ、外面口縫部 付着物多頭付着、粘土織ぎ目 痕部底面付着、内面格子目 当て具輪をナデ、見込み部格 子目当て具輪、内外面施輪 口縫部上端部を床面に置き焼 成か。	19001465
IV-15-10	5室 床直	陶器	小壺	口縫部一 部火照	19.6	15.2	12.7	24.6	(胎土) 黄赤褐 2.5YR4/3 赤褐 10R4/3	内外面回転ナデ、格子目当 て具輪をナデ、外面自然輪、 底面砂目、付着 物有、内面格子目当て具輪、 見込み部格子、内外面施輪	19001565
IV-15-11	5室 床直	陶器	小壺	ほぼ完形	(15.8)			13.2	(胎土) 黄赤褐 5YR3/3 · 黄粉 10YR8/6	内外面回転ナデ、格子目当 て砂付着、内面格子目当て 具輪、内外面施輪	19001392
IV-15-12	5室 床直直上	陶器	小壺	口縫部～ 胸部1/2 以上残存	21.7			(14.4)	(胎土) 黄本リープ 7.5Y4/2 赤褐 5YR5/1	内外面回転ナデ、外面口縫部 付着物有、底面施土1つ 付着物有、内面回転ナデ後格子目 当て具輪、自然輪、内外面施 輪	19001367
IV-15-13	5室 床直	陶器	小壺	口縫部～ 胸部1/2 以上残存	18.7			(10.2)	24.6 (胎土) 黄 5Y6/3 橙 7.5YR6/6	内外面回転ナデ、底部口縫部上端 に厚い付着物有、底部全面上に 痕、粘土結合痕、内外面施輪 上面全体的に概然、口縫部上 端部を床面に置き焼成か	19001563
IV-16-1	5室 床直	陶器	小壺	ほぼ完形	(17.0)			(14.0)	25.7 (胎土) 橙褐赤褐 10R2/2 褐 7.5YR4/3	内外面回転ナデ、外面外角格 子目タキ後ナデ、内面格子目当て 具輪有、内面格子目当て具 輪有、内外面施輪	19001391
IV-16-2	5室 床直	陶器	小壺	口縫部 1/2～底 部完形	17.3	12.4	13.7	25.7	(胎土) 黑赤褐 10R3/2 輪胎赤褐 2.5YR2/2	内外面回転ナデ、自然輪、口 縫部付着物有、底面施土1つ 付着、施土目に數条の汗溝 有、内面格子目当て具輪有ナ 子、見込み部ナデ、土器片付	19001602

表IV-17 遺物一覧表 (17)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	法量(cm)	器高	色　調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-16-3	5室 床直	陶器	小壺	ほぼ完形	20.4	13.4	24.7 (釉) 喷赤褐色2.5YR3/3 輪噴赤褐色2.5YR2/3	(胎土) 厚褐色5YR4/2	内外面回転ナデ、外面施釉、 底部ナデ、砂付着、口縁部付着物有、肩部2ヶ所施器押着、 口縁部上端部分を底面に置き焼成	19001395	
IV-16-4	5室 床直	陶器	小壺	口縁部 1/3～底 部1/2残 存	(14.8)	(11.0)	14.0	20.7 (釉) 浅褐色1.5Y7/1 輪噴赤褐色2.5YR7/3 輪噴赤褐色2.5YR4/3	外面ヨコナデ、外面露胎、 口縁部露胎、砂付着、 内面格子目当て具鋸ナデ、見込み 工具による粗いナデ、見込み 部露胎、外面施釉	19001567	
IV-16-5	5室 床面直上	陶器	小壺	完形	15.3	11.6	20.0 (釉) 喷赤褐色10R3/3 (釉) 喷赤褐色10R3/3	外面ヨコナデ、ナデ、内面 タキナデ、内面施釉 口縁～底部にかけてひび割れ 有	19001203		
IV-16-6	5室 床面直上	陶器	小壺	口縁部～ 胴部1/3、 底部の一部残 存	(13.2)	(9.6)	(12.4)	19.4 (釉) 喷赤褐色5YR2/4 輪噴赤褐色5Y4/4 オリーブ5Y6/6 オリーブ黒5G2/1	外面回転ナデ、外側口継ぎ端 部露胎、底部露胎、施釉被熱 により一部剥離、内面回転ナ デ後格子目当て具鋸、内外面 施釉	19001368	
IV-16-7	5室 Aトレンチ	陶器	小壺	口縁部～ 底部1/4残 存	(15.2)	(11.8)	13.0	19.9 (釉) 喷赤褐色10B6/1	外面ヨコナデ、ナデ、内面 タキナデ、内面施釉	19001204	
IV-16-8	5室 床面直上	陶器	小壺	口縁部～ 胴部破片	(19.0)	(14.2)	(17.3)	(釉) 喷赤褐色5Y6/3 (釉) オリーブ黄5Y4/3 (釉) 喷赤褐色2.5YR4/3	外面回転ナデ、内面格子目 当て具鋸、内外面施釉	19001369	
IV-16-9	5室 床直	陶器	小壺	口縁部 4/5～胴 部1/5残 存	(19.0)	(14.6)	(10.9) (釉) 喷赤褐色7.5R3/2	外面回転ナデ、内面格子目 当て具鋸ナデ、内外面施釉	19001467		
IV-16-10	5室 床面直上	陶器	小壺	口縁部	(15.0)	(11.4)	(11.1) (釉) 喷赤褐色7.5YR7/3 灰赤10R4/2	外面回転ナデ、外面指丘 ナデ、内面回転ナデ後タナフ後 ナデ、内外面施釉	19001380		
IV-16-11	5室 床面直上	陶器	小壺	1/4残存	(17.6)		(9.5) (釉) 喷赤褐色5R3/4 灰赤7.5E4/2	外面回転ナデ当て具鋸、内外面 施釉	19001372		
IV-16-12	5室 床面直上	陶器	壺片	壺片			(3.5) 内面回転ナデ、露點、外 面施釉	内面回転ナデ、露點、外 面施釉	19001384		

表IV-18 遺物一覧表 (18)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径部 〔内径×外径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号	登録番号
IV-17-1	5室	陶器	擂鉢	1/4～底 部1/3残 存	(平底) (32.0)	11.0	11.5	(胎土)に赤褐色 (釉)暗赤褐色	5YR6/3	内外面回転ナデ、内面端部リム、 外面タキナデ工具痕付有、ナデ、内外面 施釉	19001370	
IV-17-2	5室	陶器	擂鉢	1/4残存				(6.8)	黑褐色 5YR3/3 に赤褐色 5YR5/3	内外面回転ナデ、内面端部リム、 外面回転ナデ、内外面施釉	19001378	
IV-17-3	5室	陶器	擂鉢	口縁部片 （30.4）	(29.8)			(6.0)	(胎土)褐色 5YR5/1 (釉)深褐色 5YR5/2	内外面回転ナデ、内面端部リム、 内外面自然釉	19001379	
IV-17-4	5室	床面直上	陶器	擂鉢	1/8残存			(13.1)	(胎土)に赤褐色 2.5YR4/4 (釉)赤褐色 2.5YR4/3	内外面回転ナデ、内面端部リム、 端部リム日後強ナデ、内外面自 然釉	19001374	
IV-17-5	5室	床面直上	陶器	擂鉢	1/8残存			(10.1)	(胎土)に赤褐色 7.5YR5/4 (釉)褐色 5YR5/3	内外面回転ナデ、内面端部リム、 端部リム日後強ナデ、内外面施 釉	19001373	
IV-17-6	5室	床面直上	陶器	擂鉢	1/8残存			(11.5)	(胎土)褐色 5YR3/4 (釉)褐色 10R3/2	内外面回転ナデ、内面端部リム、 端部リム日後強ナデ、砂留有、 内外面施釉	19001375	
IV-17-7	5室	床面直上	陶器	擂鉢	1/8残存			(10.0)	(胎土)褐色 7.5YR4/3 黒褐色 7.5YR2/2・5YR3/1 灰オリーブ 5Y5/3	内外面回転ナデ、回転ナデ後 端部リム、外面一端端部、内外 施釉	19001377	
IV-17-8	5室	床直	陶器	擂鉢(當台 付・底)	底盤部～ 1/2残存 (33.0)	(17.2)	13.2	(胎土)暗赤褐色 5YR2/3 暗赤褐色 5YR3/1		内外面回転ナデ、外面格子目 タキナデ後端子目タタ 牛、高台付、回転ナデ後 端子目、指痕、内外面 施釉	19001393	
IV-17-9	5室	床面直上	陶器	擂鉢(當台 付・底)	1/4残存 (10.1)	(17.0)	(4.2)	(胎土)褐色 7.5YR2/2 褐色 7.5YR3/3	内外面回転ナデ後格子目タタ 牛、高台付、回転ナデ後 端子目、指痕、内外面 施釉	19001376		
IV-18-1	5室	床面直上	陶器	擂鉢	口縁部～ 1/2残存 (10.0)			(4.7)	(胎土)褐色 7.5YR4/4	内外面回転ナデ、施釉	19001389	
IV-18-2	5室	陶器	擂鉢	口縁部～ 残存片 (9.4)				(4.0)	(胎土)褐色 5YR5/2 (釉)褐色 5YR4/2	内外面回転ナデ、施釉	19001371	
IV-18-3	5室	床直	深道具	円筒形燒台 完形	14.3	21.0	25.9	(胎土)稍 23.2	(胎土)稍 7.5YR7/6	外面格子目タキナデ後 端子目	19001397	
IV-18-4	5室	床直	深道具	円筒形燒台 完形	16.0	25.0		(胎土)褐色 5YR5/6	(胎土)褐色 5YR4/8	外面自然釉、ナデ、上面重ね 燒き痕、割れ有、ナデ、下面自然釉 後砂粒付着	19001396	
IV-18-5	5室	床直	深道具	橢形ハマ 完形	長さ 10.1	幅8.3	厚さ4.6		黒褐色 5.5YR5/4 1.1	燒き痕、割れ有、ナデ、上面重ね 後砂粒付着	19001370	

表IV-19 遺物一覧表 (19)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
IV-18-6	床直	深道具	横彫ハマ	完形	長さ 8.4	幅 6.8	厚さ 5.1	(胎土) 黒褐色 5YR4/2 明赤褐色 5YR5/6 褐 7.5YR5/4 褐 7.5YR4/3	外面自然釉、下面自然釉後砂粒付 燒き痕、ナデ、上面重ね 着	19001569
IV-18-7	床直	深道具	横彫ハマ	完形	長さ 7.0	幅 5.2	厚さ 3.7	(胎土) 黑褐色 2.5YR4/6 明赤褐色 2.5YR3/1 赤黒 2.5YR2/1	外面自然釉、下面自然釉後砂粒付 燒き痕、ナデ、上面重ね 着	19001568
IV-19-1	6室 第1面	陶器	小壺	口縁部～ 2/3残存	16.8	10.3	11.0	25.0 (胎土) 黑褐色 10R3/2 (胎土) 黑褐色 10R4/2	(胎土) に赤褐色 2.5YR5/3 均等に施釉、口縁部付着 物有、底部胎土目5つ有、 前面格子目当て、内部 露胎(触試き取りか)、内 外面施釉	19001206
IV-19-2	6室 第1面	陶器	小壺	口縁部 胸部	(15.4)	(10.8)	26.5	(胎土) 黑褐色 5YR3/1 (胎土) 黑褐色 5YR2/3	外面回転ナデ、付着物、外 面器面に気泡多、底部胎土 目有、内部施釉 ナデ、付着物有、内外面施釉 ナデ、付着物有、	19001468
IV-19-3	6室 長軸トレンチ	陶器	小壺	口縁部～ 胸部	(21.0)	(17.0)	(10.5)	(胎土) に赤褐色 7.5YR6/4 灰褐色 5YR5/4	外面回転ナデ、前面格子目 当て、具鋸をナデ、格子目当て 具鋸をナデ、前面施釉	19001478
IV-19-4	6室 第1面	陶器	小壺	口縁部～ 胸部	(15.6)	(11.3)	(7.8)	(胎土) 黑褐色 2.5YR5/2 灰褐色 5YR3/2	外面回転ナデ後施釉、外面 具鋸をナデ後施釉	19001209
IV-19-5	6室 第1面	陶器	小壺	口縁部 1/5残存	(18.8)	(14.8)	(5.3)	(胎土) 黑褐色 5R6/4 (胎土) 黑褐色 2.5YR4/2	外面施釉、ナデ後施釉、口 縁端部付着物有、砂目	19001212
IV-19-6	6室	陶器	小壺	口縁部 1/8残存			(7.2)	(胎土) に5.5-6.5cm 2.5YR6/4 灰褐色 5YR4/2 褐 5YR4/1	外面回転ナデ、前面格子目 当て具鋸をナデ、内外面 施釉	19001472
IV-19-7	6室 第1面	陶器	極小壺	口縁部～ 胸部	(11.1)	(9.0)	(11.0)	(胎土) 黑褐色 5YR2/2	各、力キヌ、前面格子目当て 具鋸をナデ、内外面施釉	19001469
IV-19-8	6室 第1面	陶器	拙体 (平底)	口縁部～ 底盤半完 形	34.7	33.6	12.2	11.4 (胎土) に5.5-6.5cm 2.5YR4/3 [5.5-6.5]赤褐色 2.5YR4/3	外面回転ナデ、前面施釉 ナデ、前面目、内外面施釉	19001214
IV-19-9	6室 第1面	陶器	拙体 (平底)	ほぼ完形	35.1	34.2	12.0	11.3 (胎土) に5.5-6.5cm 2.5YR5/4 灰褐色 2.5YR4/2	外面回転ナデ、外面底盤ナ デ、蒙脂、前面盛り目、内外 面施釉	19001213

表IV-20 遺物一覧表(20)

査定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径]	底径	法量(cm)	器高	(胎土)に塗る・糊 7.5YR7/4 (釉) 單赤褐色 7.5R3/2	色 調	調整等特記事項		県遺品号 登録番号	
											内外面回転ナデ、内面施釉 重ね焼き板(砂付着)、内外 面施釉	内外面回転ナデ、外面口輪端 部強胎、一部砂付着、内面回 転ナデ後端より、端口輪部 消し、内外面施釉		
IV-19-10 6室	陶器	擂鉢	口輪部片	(37.0)	(36.4)		(9.6)							19001476
IV-19-11 6室	陶器	擂鉢	口輪部 1/4残存	(33.0)			(5.5)	(釉) 極端な糊 5YR3/3 糊 5YR3/3						19001471
IV-19-12 6室	第1面(火床)	陶器	擂鉢	口輪部片				(13.3)	(釉) 黒赤褐色 5YR3/3 糊 7.5YR3/3					19001488
IV-20-1 6室	第1面	陶器	擂鉢	1/5残存	(36.0)	(34.2)	(7.4)	(釉) 黒赤褐色 10YR4/2 糊 7.5YR3/4						19001475
IV-20-2 6室	第1面	陶器	擂鉢	口輪部 1/5	(30.0)	(29.2)	(6.9)	(釉) 透明釉 糊 10YR3/2 糊 10YR3/2						19001208
IV-20-3 6室	Aトレンチ	陶器	擂鉢	口輪部～ 口輪部破片 ～ 口輪部の破 片			(5.7)	(胎土) 黑褐色 2.5YR6/2 糊 1.5YR6/2						19001480
IV-20-4 6室	陶器	擂鉢	口輪部破 片				(4.0)	(胎土) 黑褐色 3YR5/4 糊 7.5YR6/3						19001481
IV-20-5 6室	陶器	擂鉢					(2.6)	(胎土) 青灰 3PB6/2 (釉) 青灰 10R5/2						19001482
IV-20-6 6室	第1面	陶器	擂鉢 (平底)	不明			14.1	(胎土) 朱赤褐色 7.5YR6/2 糊 5YR4/2 糊 5YR4/1						19001211
IV-20-7 6室	第1面	陶器	擂鉢(高台 付・低)	口輪部 1/5～輪 部 1/3～ 底盤円形	(33.7)	(32.8)	16.0	(釉) 透明釉 にぶい朱赤 2.5YR4/3 糊 10R4/2						19001210

表IV-21 遺物一覧表 (21)

排列番号	遺物名	種別	器形	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-20-8	6室 第1面	陶器	壺鉢 (高台付・底)	口縁部～脚部 1/3 残存	(32.0)	(30.8) 15.5	(13.0)	(脚) 勾頭灰 10RA/1 (脚) 海螺灰 5YR7/3 灰赤褐色 2.5TR3/2 灰赤褐色 2.5TR3/3・2.5YR3/2	内外面ヨコナ子後施釉、外面 高台貼付、高台端部砂目、底 部ナ子後施釉、内面ナ子後施 釉消し後施釉、デ後施釉、口縁部一部付	19001207		
IV-20-9	6室 第1面	陶器	壺鉢 (高台付・底)	底盤 1/2 残存		(15.6)	(7.75)	(脚) 灰褐 7.5YR3/4 灰灰黄 7.5YR5/2	外面部回転ナ子、高台貼付、底 部砂粒付着、高台端部砂粒付 着、内面回転ナ子後施釉 マグネ2、外面部施釉	19001470		
IV-21-1	6室	陶器	壺	口縁部 1/2残存	(10.0)		(4.5)	(脚) 灰 7.5YR4/4 灰褐 7.5YR3/3	内面部回転ナ子、 (脚) マグネ3.5-4.5 灰 7.5YR7/4	19001487		
IV-21-2	6室 第1面	陶器	壺	口縁部の み元形	3.8	3.4	(8.2)	(脚) 灰 10YR17/1 灰 7.5YR7/4	内面部回転ナ子、内面ねじり 成形痕、露點、内外面施釉 に5.5相	19001479		
IV-21-3	6室	陶器	壺	口縁部～肩 部 1/8 残 存			(5.7)	(脚) 灰 7.5YR4/2 灰 5TR4/1	内面部回転ナ子、外面部施釉を施す、 所残存、一部露點、内面1ヶ 内面ナ子、一部露點、内外面施釉	19001477		
IV-21-4	6室 長袖トレンチ	陶器	注口付壺	注口のみ 残存		幅 3.9	厚さ 0.6	(脚) 灰 7.5YR4/3 黑褐 2.5YR3/1	内面部ナ子、刺繡有、施釉	19001486		
IV-21-5	6室	陶器	壺	口縁部破 片			(2.3)	(脚) 灰 7.5YR4/4 灰 N1.5	内面部回転ヨコナ子、施釉	19001473		
IV-21-6	6室	陶器染 付	不明	破片			(2.7)	(脚) に5.5 灰木灰 5YR5/3	内面部回転ヨコナ子、内面 露點、内面露點、下部露點	19001474		
IV-21-7	6室	磁器	碗	口縁部～ 脚部 1/4	(10.6)		(3.6)	(脚) 明細灰 10GY8/1 (脚) 底付 7.5YB8/1	外面部須絵一筆描き(線 描?)、内外面施釉	19001483		
IV-21-8	6室	磁器	碗	口縁部破 片			(3.2)	(脚) 底付 10Y8/1 脚 10GY8/1	外面部須絵、内外面施釉 脚麦摺口?	19001484		
IV-21-9	6室	磁器	碗	口縁部破 片			(2.3)	(脚) 明細灰 10GY8/1 (脚) 底付 10Y8/1	外面部須絵、内外面施釉 猪口?	19001485		
IV-21-10	6室 第1面	磁器	楕円形ハマ	完形	長さ 9.2	幅 15.4	厚さ 10.9	明赤褐 2.5TR5/8 灰 9.8 (脚) 5YR6/6	外面部ナ子、被熱、側面強い液 熱、自然釉	19001121		
IV-21-11	6室 第1面	磁器	楕円形ハマ	完形	14.8	10.75	厚さ 10.75	灰 9.8 (脚) 5YR6/6	外面部ナ子、被熱、側面強い液 熱、自然釉	19001117		
IV-21-12	6室 第1面	磁器	楕円形ハマ	完形	長さ 12.25	幅 9.7	厚さ 7.0	明赤褐 2.5TR5/8 灰 9.7 (脚) 5YR6/6	外面部ナ子、被熱、側面強い液 熱、自然釉	19001118		
IV-21-13	6室 第1面	磁器	楕円形ハマ	完形	長さ 9.25	幅 7.45	厚さ 4.0	明赤褐 2.5TR5/8 灰 9.25 (脚) 5YR3/2	外面部ナ子、被熱、側面強い液 熱、自然釉	19001122		

表IV-22 遺物一覧表 (22)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
N-22-1	7室 第1面	陶器	小壺	口縁部 1/6～肩 部2/3 底盤完形	18.0	14.2	11.6	23.0	(釉)赤黒 明治褐5YR3/1 黒褐5YR3/2	内外面回転ナデ、タキ後ナ デ、外面部斜面付着、肩込み 4つ付着、前面ナデ、見込み 部コロナデ、口縁端部彫削、 内外面施釉	19001215	
N-22-2	7室 第1面	陶器	小壺	口縁部完 形～胴部 2/5残存	18.0	13.8		(1.5)	(釉)赤灰5R6/1 明治褐2.5YR3/3 赤灰5R6/1	内外面回転ナデ、外面ナデ、 前面格子目当具鍵をナデ、 内外面施釉	19001216	
N-22-3	7室 Aトレンチ	陶器	小壺	口縁部破 片	(20.4)	(16.0)		(7.3)	(釉)灰赤10R4/2	前面ヨコナヂ、前面格子目 当具鍵、口縁端部彫削、内 面施釉	19001218	
N-22-4	7室	陶器	小壺	口縁部破 片	(20.0)	(15.6)		(5.6)	(釉)褐色10YR4/1 灰5YR4/1	前面回転ナデ、前面格子目 当具鍵、外面釉	19001220	
N-22-5	7室 Aトレンチ	陶器	中壺	口縁部 1/5残存			(9.0)		(釉)灰褐2.5YR4/2 黒褐5YR3/1	前面回転ナデ、外面貼花文、 外面施釉	19001224	
N-22-6	7室	陶器	中壺	口縁部～ 肩部破片			(8.2)		(釉)灰褐10R4/3 赤2.5YR4/1	前面回転ナデ、前面格子目 当具鍵、外面施釉	19001220	
N-22-7	7室 Aトレンチ	陶器	小壺	口縁部 1/8残存			(6.0)		(釉)灰褐5YR3/2 黒褐7.5YR2/2	前面回転ナデ、施釉	19001223	
N-22-8	7室 Aトレンチ	陶器	小壺	口縁部 1/6残存			(4.5)		(釉)灰褐7.5YR7/2 黒N1.5/2	前面回転ナデ、外面部工具痕、 内外面施釉	19001222	
N-22-9	7室 第1仙末面直上	陶器	擂钵	ほぼ完 形	(34.0)	(32.8)		(8.5)	(釉)灰赤10R4/2 赤10R4/2	前面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001217	
N-22-10	7室 横出時	陶器	擂钵	口縁部破 片				(6.7)	(釉)灰褐10YR5/1 灰黄褐10YR5/1	前面回転ナデ、内面端り目	19001221	
N-22-11	7室 長袖トレンチ	陶器	擂钵	口縁部 1/10残存				(5.2)	(釉)灰褐5YR4/2 暗褐10YR3/3	前面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001225	
N-22-12	7室	陶器	擂钵	口縁部 1/5残存				(3.8)	(釉)褐暗褐7.5YR4/2 黒褐7.5YR2/2	前面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001226	
N-22-13	7室 裏込み	陶器	擂钵	口縁部 1/8残存			(5.9)	(釉)灰褐5YR4/3 灰5YR4/3	前面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001227		

表IV-23 遺物一覧表 (23)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号	登録番号	
IV-23-1	7室	陶器	平瓦	破片	長さ (9.0)	幅 (5.6)		厚さ 1.4 cm cm	(胎土) 黄灰 N3/ 灰 SY4/1	表面ナデ、側面ナデ、裏面ナ デ方向ナデ、ケメ、ヨコ方向ナ デ	19001230		
IV-23-2	7室	第1面	窯道具	楕円ハマ	完形	長さ 13.1	幅 11.0	厚さ 7.1	(胎土) 黄系褐 SYR3/2	外面ナデ、被熱、側面強い被 熱、自然釉	19001120		
IV-23-3	7室	第1面	窯道具	楕円ハマ	完形	長さ 11.6	幅 8.5	厚さ 6.9	(胎土) 黄系褐 SYR3/2	外面ナデ、被熱、側面強い被 熱、自然釉	19001119		
IV-23-4	7室	第1面	窯道具	楕円ハマ	完形	長さ 10.4	幅 8.65	厚さ 5.3	(胎土) 黄系褐 SYR3/2	外面ナデ、被熱、側面強い被 熱、自然釉	19001123		
IV-23-5	7室	窯道具	チャツ	口縁部 1/4～開 部 1/4～ 底盤 1/4 残存	完形	長さ 9.6	幅 6.6	厚さ 6.8	(胎土) 黄系褐 SYR4/1	(輪) に55°赤褐色 SYR4/3	内外面回転ナデ、外面自然釉	19001229	
IV-23-6	7室	第1面床面直上	鉄製品	棒状鍛製品	完形	長さ 19.2	幅 ~2.2	厚さ 0.7 ~10.0	(胎土) 黄灰 N3/	(胎土) 黄系褐 SYR4/2	内外面回転ナデ、外面自然釉	19001228	
IV-24-1	8室	1段階	陶器	中壺	口縁部 1/4残存	(29.0)	(13.6)	(10.9)	(胎土) 黄系褐 SYR4/2	(輪) に55°赤褐色 SYR5/3	内外面回転ナデ、沈穀文 4 条、 外面自然釉	19001405	
IV-24-2	8室	1段階	陶器	小壺	口縁部～ 胴部 3/4	(18.0)		(16.5)	(胎土) 黄系褐 10RS/3 灰 NS/5	(胎土) 黄系褐 10YR5/3	内外面回転ナデ、口縁部強 タキナ後ナデ、口縁部強タ 内面格子目 当て貝殻をナデ、 格子目 当て貝殻、外面自然 釉	19001399	
IV-24-3	8室	1段階	陶器	小壺	口縁部～ 底盤残存	(16.2)		23.0	(胎土) 黄系褐 SYR4/6 (輪) 棒 7.5GY4/1	(胎土) 黄系褐 SYR4/6 (輪) 棒 7.5YR6/6	内外面回転ナデ、内面格子目 当て貝殻をナデ、見込み端ナ デ、口縁部強タキナ後ナデ、 内面格子目 当て貝殻をナデ、 格子目 当て貝殻、外面自然 釉	19001398	
IV-24-4	8室		陶器	小壺	口縁部破 片			(6.0)	(胎土) 黄系褐 7.5FR5/1 (輪) オリーブ黒 10Y3/1	(胎土) 黄系褐 7.5FR5/1 (輪) オリーブ黒 10Y3/1	内外面回転ナデ、口縁部強 タキナ後ナデ、内外面自然 釉	19001407	
IV-24-5	8室		陶器	中壺	口縁部～ 胴部の破 片残存			(5.5)	(胎土) 黄系褐 2.5YR4/6 (輪) 淡黄 2.5YB/3	(胎土) 黄系褐 2.5YR4/6 (輪) 淡黄 2.5YB/3	内外面回転ナデ、施釉	19001401	
IV-24-6	8室		陶器	壺	口縁部 (平底)	1.8～底 部 1/4 残 存	(33.6)	11.4	11.4	(胎土) 黄系褐 2.5YR4/1 (輪) 黄系褐 2.5YR4/2	内外面回転ナデ、外面施釉、 底部ナデ、内面施釉	19001400	
IV-24-7	8室		陶器	壺	口縁部破 片			(5.8)	(胎土) 黄系褐 2.5YR4/2 灰赤 2.5FR4/2	内外面回転ナデ、内面施釉、 施釉	19001406		

表IV-24 遺物一覧表 (24)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径部～底部 〔内径 厚〕	法量(cm) 〔内径 厚〕	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号
IV-24-8	8室 1段階	陶器	擂钵	口縁部～胸窓1/4 底部～底窓1/4 残存	(33.6)	(10.6) (輪) 仄渴 5YR4/2	(胎土) 仄灰 5S/5	内外面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001403	
IV-24-9	8室 1段階	陶器	擂钵	口縁部～底部 片		(7.6) (輪) 仄渴 7.5YR5/2 底灰 7.5YR3/1	(胎土) 斜赤灰 5YR3/1	全体的に歪み有 自然釉、内面端り目、口縁部 付近砂目?	19001409	
IV-24-10	8室 1段階	陶器	擂钵	口縁部 1/1以下 残存		(5.1)	(輪) 仄渴 7.5YR5/6	内外面回転ナデ、内面端り目、 内面施釉	19001404	
IV-24-11	8室 1段階	陶器	擂鉢(高台 付・底)	口縁部 1/2～底 部 1/4	33.1	(16.0)	13.5 (輪) 仄渴 7.5YR2/3	(胎土) 仄灰 7.5YR4/1	内外面回転ナデ、外面部 高台付、底筒ナデ、高台端 部移付着、内面端り目、内外 面施釉	19001402
IV-24-12	8室 1段階	陶器	擂鉢(高台 付・底)	底部破片		(15.6)	(7.9) 底赤渴 7.5YR3/2	(胎土) 仄灰 2.5YR3/2	内外面回転ナデ、高台部付着、 自然釉、自然釉回転ナデ後ナデ、 内面端り目、(形)形狀に砂付着、 内面端り目、(形)形狀	19001408
IV-25-1	9室 1段階床直	陶器	小懶	ほぼ完形	(15.8) (11.6)	(14.5)	25.65 (輪) 仄渴 7.5YR6/2	(胎土) 仄灰 2.5YR4/3 底赤渴 7.5YR3/2	内外面回転ナデ、底筒ナデ、底 部ナデ、内面込み部ナデ、 内面見込み部ナデ、(一部強 い)底筒ナデ、(形)形狀	19001576
IV-25-2	9室 1段階床直	陶器	小懶	口縁部 2/3～胸 窓1/5～ 底部完形	18.0	13.6	25.0 (輪) 仄渴 7.5YR4/3 底赤渴 7.5YR3/2	(胎土) 仄灰 10R3/3 底赤渴 7.5YR4/2 底赤渴 7.5YR3/2	内外面回転ナデ、タキ後ナ デ、外面部施釉、(胎土)日 つ付着、(胎土)日付 5ヶ所有 る(一部強い)底筒ナデ、 内面込み部ナデ、(形)形狀	19001579
IV-25-3	9室	陶器	小懶	口縁部～ 底部一部 残存	(19.1)	(14.8)	(12.4)	23.9 (輪) 仄渴 7.5YR4/2 底赤渴 7.5YR3/2	内外面端部付 り部に付着物有、底筒ナデ 着、内面タキ後ナデ、内外 面施釉	19001577
IV-25-4	9室 長袖トレンチ	陶器	小懶	口縁部～ 底部3/4 残存	17.0	13.0	25.7 (輪) 横向赤渴 5YR2/3 底赤渴 5YR3/2	(胎土) 仄灰 5YR3/2 底赤渴 5YR2/3 底赤渴 5YR3/2	内外面回転ナデ、底部砂目、 内面格子目 当て具根をナ デ、砂付着、 内面端部付 着物、(形)形狀 然釉、底部砂付着、内面回転 ナデ後格子目当て具根をナ デ、内外面施釉	19001571
IV-25-5	9室 1段階床直	陶器	小懶	口縁部～ 底部一部 残存	19.8	(10.4)	25.1 (輪) 仄渴 5YR3/3 底赤渴 2.5YR6/3	(胎土) 仄灰 5YR3/3 底赤渴 2.5YR6/3	口縁部上端部を床面に置き焼 成か	19001578

表IV-25 遺物一覧表 (25)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口縁部 口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	
N-25-6	9室	陶器	小壺	口縁部～ 底部 裏存	(20.2)	(9.0)	24	(胎土) 深灰 5YR5/2 (釉) 黑褐 5YR5/1	内外面回転ナデ、外面立ち上 がり部胎土目付着、自然釉、 底部ナデ、内面格子目當て具 痕をナデ	19001427		
N-25-7	9室	1印暗休直	陶器	小壺	口縁部～ 底部 3/4 裏存	16.4	12.2	23.5	(胎土) 深灰 5YR4/1 (釉) 暗赤灰 7.5R3/3 暗赤灰 7.5R3/1	内外面回転ナデ、口縫端部砂 付着、外面施文、沈腹 7 条、 立ち上がり部胎土目付着、 底部ナデ、胎土目当て具痕をナデ、 見込み部回転ナデ後ナデ、 内面施	19001580	
N-25-8	9室	陶器	小壺	脚部～底 部 1/2 口縁部少 し裏存	(17.0)		(13.2)	20.8	(釉) 黒 7.5YR4/3 黒 7.5YR2/1 輪明褐 7.5YR2/3	内外面回転ナデ、口縫端部付 着物、外面施文ナデ、指王 痕、砂付着、内面格子目當て 具痕をナデ、見込み部輪明 後格子目當て具痕、付着物 有、内外面施釉、窓分の自 然釉	19001574	
N-25-9	9室	陶器	小壺	口縁部 1/4 外存	(20.2)		(11.1)	(釉) にざい赤褐 2.5YR4/3 暗赤灰 2.5YR3/1	内外面回転ナデ、外面付着物 有、内面回転ナデ後格子目當 て具痕、内外面施	19001415		
N-25-10	9室	陶器	小壺	口縁部 1/2 外存	(18.2)		(14.5)	(釉) 暗赤褐 5YR3/3 黒褐 5YR2/1	内外面回転ナデ、口縫端部 分的に砂付着、内面回転ナデ 後格子目當て具痕、内外面施 釉	19001412		
N-25-11	9室	北側埋め土	陶器	極小壺	口縁部 1/6 底部 1/2 外存	(13.6)	(11.0)	(12.2)	17.9	(胎土) 青灰 10BG6/1 灰 N5	内外面回転ヨコナデ、外面沈 跡 2 条、カキメ? 工目によ るナデ、格子目タキシ曳、内 面格子目當て具痕、見込み部 ナデ、自然釉	19001561
N-25-12	9室	Aトレンチ	陶器	擂鉢	口縁部 1/4 外存	(35.6)		(10.2)	(釉) にざい黄褐 10YR4/3 暗赤褐 2.5YR3/2	内外面回転ナデ、内面施釉	19001414	
N-25-13	9室	陶器	擂鉢	口縁部 1/2 外存	(35.0)		(8.0)	(釉) 黒 7.5YR6/8 にざい暗 7.5YR6/4	内外面回転ナデ、内面施釉 後格子目、内外面施釉	19001413		
N-26-1	9室	Aトレンチ	陶器	擂鉢 (高台 底部) 付・空 身存	(36.7)		15.4	12.9	(胎土) 明黄褐 10YR6/6	内外面ナデ、内面施釉 (一 部剥離?)	19001573	

表IV-26 遺物一覧表(26)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-26-2	9室 長袖トレンチ	陶器	擂鉢(高台付・底)	口縁部～底盤2/3 残存	34.6	31.8	15.9	12.15 (袖)に5.5cm 7.5YR7/4 灰黄褐色7.5YR5/2 褐灰7.5YR7/6 褐灰7.5YR5/1	内外面ヨコナデ、外面高台貼付、高台端部砂付着、底部ヨコナデ後部砂付着、内面ヨコナデ後部砂付着、重ね焼き痕(断土目質?)、砂付着	19001572		
IV-26-3	9室	陶器	擂鉢(高台付・底)	口縁部～底盤1/2 残存	(33.6)	(16.0)	11.7	(袖) 黒 10VR2/1	内外面ヨコナデ、外面高台貼付、高台端部砂付着、内面側軸ナデ、軸ナデ後部ヨコナデ、重ね焼き痕、砂付	19001411		
IV-26-4	9室	陶器	擂鉢(高台付・底)	口縁部～底盤2/3 残存		16.0	(8.0)	(袖) 灰 7.5YR6/6 白 7.5YR6/6 に5.5cm 7.5YR5/3	内外面ヨコナデ、内面側軸ナデ、高台貼付、高台端部砂付着、内面側軸砂付着、内面側軸砂付着	19001575		
IV-26-5	9室	陶器	擂鉢(高台付・底)	口縁部～底盤1/2 残存	(33.4)	(17.4)	12.4	(袖) 橙褐色5YR2/3	内外面ヨコナデ、外面高台貼付、高台端部砂付着、内面側軸ナデ後部ヨコナデ、内面側軸砂付着、内面側軸砂付着、内面側軸砂付着	19001410		
IV-26-6	9室 2段階	陶器	平瓦	破片	長さ (11.5)	幅 (8.5)	厚さ (8.5)	(袖) 陶褐色2.5YR3/3 浅黄 2.5YR3/3	上面ヨコナデ後部ヨコナデ、側面ナデ、自然釉	19001231		
IV-27-1	9室	焼本体	火除け	完形	長さ 30.5	幅 30.3	厚さ 10.3	(袖) 淡黄 2.5YR7/3 黄灰 2.5YR6/1 暗赤褐色 5YR3/2	強め焼熱、自然釉、全体的にひび、付着物有	19001236		
IV-27-2	9室 1段階床直	横形ハマ	横形ハマ	完形	長さ 14.4	幅 10.3	厚さ 8.8	(袖) 淡黄褐色10YR8/3 黄灰 2.5YR6/1	外面ナデ、強め被熱、上面下側面片付着	19001235		
IV-27-3	9室 1段階床直	横形ハマ	横形ハマ	完形	長さ 13.0	幅 9.85	厚さ 6.6	(袖) 淡黄 2.5YR8/4 灰黄褐色10YR5/2	外面ナデ、上面前面被熱、側面強め被熱、自然釉、上面付着物有	19001232		
IV-27-4	9室 2段階ハマ集積	窓道具	横形ハマ	完形	長さ 12.2	幅 9.8	厚さ 6.4	(袖) 黄灰 2.5YR8/2 褐灰 5YR6/8	外面ナデ、下面被熱、上面強め被熱、工具類、指汗	19001233		
IV-27-5	9室 2段階ハマ集積	窓道具	横形ハマ	完形	長さ 9.8	幅 7.6	厚さ 5.7	(袖) 陶褐色5YR6/2 褐灰 7.5YR5/1	外面ナデ、下面被熱、上面強め被熱、自然釉、上面側面強め被熱、上面付着物有。部分的にひびが見られる。	19001234		
IV-28-1	10室	陶器	中壺	口縁部 1/8 残存			(9.2)	(袖) 陶褐色10R6/8 褐灰 7.5YR6/1	内外面ヨコナデ、外面側面1条、内面側面	19001419		
IV-28-2	10室	陶器	小壺	口縁部 1/8 残存			(3.2)	(袖) 青灰 5B5/1 灰褐色 2.5YR6/3 黄褐色 2.5YR5/3	内外面ヨコナデ、施釉	19001420		

表IV-27 遺物一覧表 (27)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径×底径 [cm]	法量 [cm]	器高	色 調	調査等特記事項		県道番号
									内径	底径	
IV-28-3	11室	陶器	不明	口縁部破片	2.0	3.9	1.0 (釉) 黒滑 灰オリーブ	5YR3/3	外面ナデ、施釉		19001426
IV-28-4	11室	裏込め	磁器	皿	底盤破片		(3.3) (胎) 灰10Y8/1	外面回転ナデ、外面見込み漆皮付 内部底始、内面見込み漆皮付			19001424
IV-28-5	12室	陶器	中壺	口縁部破片			(17.6) (胎) 灰系10R3/4 [~5%]赤褐5YR4/3	外面回転ナデ、外面二条縫 目文、沈縫3条、施釉、内			19001423
IV-28-6	12室	陶器	小壺	口縁部破片			(9.8) (胎) 灰系10R5/3 [~5%]赤褐5YR4/2	外面回転ナデ、口縁端部露 胎、外面タキナデ、内面			19001421
IV-28-7	12室	陶器	小壺	口縁部破片			(7.2) (胎) 灰系10R5/2 [~5%]赤褐2.5YR4/3 オリーブ黄5Y6/3	外面回転ナデ、口縁端部露 胎、砂付着、内面自然釉、内 外面施釉			19001422
IV-28-8	12室	陶器	擂棒	口縁部～ 底部破片			(4.0) (胎) 灰10S/5	外面回転ナデ、外面施釉 帯			19001425
IV-29-1	S102-1	陶器	中壺	胴体一部 残存～底 部完形			(胎) 灰5%赤褐2.5YR4/4 [~5%]赤褐2.5YR4/4	外面二条縫目文、沈縫5条、 内面格子目当て具縫、工具ナ デ、内面見込み漆皮付			19001428
IV-29-2	S102-2	陶器	中壺	底部完形		18.7	(34.2) (胎) に5%赤褐2.5YR4/4	内面格子目当て具縫ナ デ、内面施釉8条、底部ナデ、 内面見込み漆皮付			19001581
IV-29-3	S102-4	陶器	中壺	胴体1/2 残存		18.5	(27.5) (胎) 灰褐7.5YR2/4 [~5%]赤褐7.5YR7/1	内面格子目当て具縫ナ デ、内面施釉8条、底部ナデ、 内面見込み漆皮付			19001583
IV-29-4	S102-3	陶器	中壺	胴体～底 部完形		17.0	(27.5) [~5%]赤褐10R3/3	内面回転ナデ、不均等に格子目 ナデ、内面施釉3 タキナデ、内面回転ナデ後 格子目タキナデ、内面施釉			19001604
IV-29-5	S102-5	陶器	中壺	底部はぼ 底盤		19.3	(37.5) [~5%]赤褐10R5/3	内面回転ナデ、外側見込み漆皮付 目文、沈縫5条、底部ナデ、 内面見込み漆皮付			19001582
IV-29-6	S102-6	陶器	小壺	胴体1/2 ～底部完 形		16.1	18.2 (胎) に5%赤褐5YR5/4	外面ナデ、底部ナデ後タ キナデ、底部ナデ、底部ナデ、 内面見込み漆皮付			19001430
						13.8	(11.0) (胎) 灰7.5Y5/4 赤褐10R5/4	外面工具ナデ、底部ナデ、内 面タキナデ後タキナデ、内 面見込み漆皮付			

表IV-28 遺物一覧表 (28)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径×高さ 〔内径×外径〕	法量(cm)	器高	(胎土)に-る、赤褐色	色調	調整等特記事項		県道番号	登録番号
										内部工具等	底部付着物有、見込		
IV-29-7	S0027	陶器	小壺	胴部1/4 ～底部完全形		12.6 (12.5) (軸)		〔胎土〕に-る、赤褐色	5YR4/4	外面工具等	底部付着物有、見込	19001429	
IV-30-1	S0073	陶器	中壺	胴部～底 部1/2残存		(22.2) (39.4)		〔胎土〕に-る、赤褐色	2.5YR5/4	内面格子目 内面格子目	内面格子目 内面格子目	19001431	
IV-30-2	S0072	陶器	中壺	胴部～底 部1/2残存		(23.0) (29.9)		〔胎土〕樹脂5YR6/8 明赤褐色2.5YR5/8 粗2.5YR7/8		外表面格子目 内面格子目	タキ後ナデ、二条目 沈縫5条、底部ナデ、内面 格子目	タキ後ナデ、二条目 沈縫5条、底部ナデ、内面 格子目	19001606
IV-30-3	S0074	陶器	中壺	胴部1/2 ～底部完全形		18.8 (19.2)		〔胎土〕暗赤褐色2.5YR3/4 暗赤褐色7.5R4/4 粗2.5YR3/2		内面格子目 内面格子目	当て具痕を ナデ、粘土接合部、内外面施 釉	当て具痕を ナデ、粘土接合部、内外面施 釉	19001605
IV-30-4	9室西側 作業段	陶器	中壺	胴部～底 部1/3 底部9/10		(19.2) (33.2)		〔胎土〕に-る、赤褐色 赤褐色10R4/4 ～5YR4/3 赤褐色10R5/6	7.5R7/4 3 外表面ナデ後 カキメ工具ナ ド？、ナデ後 く偏輪、粘土 積み上げ痕、底部 器底有、内面格子目 タキ後薄 'く施釉、見込 工具ナド(タ キ半痕?)、見込 ナデ	外表面格子目 内面格子目 内面格子目 外表面格子目 内面格子目 外表面格子目	当て具痕 ナデ、粘土接合部、内外面施 釉	19001937	
IV-30-5	9室西側 作業段	陶器	中壺	胴部～底 部残存		(19.2) (23.2)		〔胎土〕暗赤褐色 7.5R3/2	7.5R4/4 外表面ナデ後 カキメ工具ナ ド、内面格子目 当て具痕 ナデ、粘土接合部、内外面施 釉	外表面格子目 内面格子目 内面格子目 外表面格子目 内面格子目 外表面格子目	当て具痕 ナデ、粘土接合部、内外面施 釉	19001938	
IV-30-6	9室西側 作業段	陶器	小壺	胴部1/2 残存 底部は 完全形		1.4.8 (22.4)		〔胎土〕暗赤褐色 2.5Y3/3	10YR4/3 (軸) 淡赤褐色 2.5Y3/3	外表面格子目 立ち上がり筆ヨコ ナデ、底部ナデ、胎土痕？、 見込ぶ溜縫脂、ナデ、内外面 施釉	立ち上がり筆ヨコ ナデ、底部ナデ、胎土痕？、 見込ぶ溜縫脂、ナデ、内外面 施釉	立ち上がり筆ヨコ ナデ、底部ナデ、胎土痕？、 見込ぶ溜縫脂、ナデ、内外面 施釉	19001935
IV-31-1	S003	陶器	中壺	胴部 1/4残存	(33.4) (28.0)			〔胎土〕赤褐色 10R3/3	10R3/4 暗赤褐色10R3/3	内面回転ナデ、外表面 施釉	内面回転ナデ、自然輪？、内外面 施釉	19001418	
IV-31-2	S003	陶器	壺体(平 底)	口縁部 ～底部5/1 残存	(35.0) (30.6)	1.4.4 (13.3)		〔胎土〕赤褐色 5YR2/2 ～5YR5/4	10R5/4 暗赤褐色10R5/4	内面回転ナデ、外表面 格子目	タキ後ナデ後ハケ状工具 によるナデ、胎土ナデ、2ヶ所 砂目、内面端り目、口縁部砂 目	19001416	

表IV-29 遺物一覧表 (29)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径部の 状況	法量(cm)	器高	色 調	調査等特記事項		県道番号		
									[内径]	[外径]			
N-31.3	SD03	陶器	注口付瓶	注口部の 状況	注口溝	3.0	幅2.6	長さ4.0	赤褐色	7.5R5/3	内外面全面、施釉	19001417	
N-32.1	包含層A	陶器	中壺	ほぼ完形	口縁部~ 底盤1/2 以上残存	35.0	27.7	18.7	42.7	(釉) 咬赤褐色	10R3/1	外面回転ナデ、口縁部留藻 条、底部ナデ、内外面施釉	19001609
N-32.2	包含層A	陶器	中壺	口縁部~ 底盤1/2 以上残存	(32.8)	25.4	19.0	42.6	(釉) 咬赤褐色	10R3/2	外面回転ナデ、口縁部留藻 条、底部ナデ、内外面施釉	19001134	
N-32.3	包含層A	陶器	中壺	口縁部 1/2 残存	(38.0)	(32.2)		(19.1)	(胎土) 咬赤褐色	7.5R5/6	底部ナデ、内外面施釉	19001445	
N-32.4	包含層A	陶器	中壺	口縁部~ 腹等1/4 残存	(36.2)	(31.2)		(18.3)	(胎土) 咬赤褐色	7.5R5/8	底部ナデ、内外面施釉	19001141	
N-32.5	包含層A	陶器	中壺	口縁部~ 腹等1/3 残存	(28.0)			(28.2)	(釉) 咬赤褐色	7.5R3/4	底部ナデ、内外面施釉	19001442	
N-32.6	包含層A	陶器	小壺	口縁部 1/2 ~ 腹 部2/3 残 存	21.4	16.6	14.4	29.9	(釉) 黑褐色	7.5R2/1	底部ナデ、内外面施釉	19001585	
N-32.7	包含層A	陶器	中壺	口縁部 1/7 ~ 頸 部~ 腹部 1/4 ~ 底 部完形	(25.2)	(20.0)	15.8	30.8	(釉) 咬赤褐色	5YR3/3	底部ナデ、内外面施釉	19001608	
									(胎土) 咬赤褐色	10R4/3	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	10R4/2	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	10R3/1	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	10R3/2	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	7.5R1/4	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	7.5R1/3	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	7.5R1/2	底部ナデ、内外面施釉		
									(胎土) 咬赤褐色	7.5R1/2	底部ナデ、内外面施釉		

表IV-30 遺物一覧表(30)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項		県道番号
									内外面回転ナデ、口輪端削跡 胎、砂付着、外面底部ナデ、 付着物(砂末)、内面格子目 当て具痕をナデ、見込み部ナ デ、砂付着、内外面施輪	登録番号	
N-32-8 包含層A	陶器	小甕	完形	20.2	15.4	14.9	29	(釉) 黒褐 7.5YR3/2 黒褐 7.5TR3/1	内外面回転ナデ、口輪端 削跡、胎、砂付着、外面底 部ナデ、砂付着、内面格子 目当て具痕をナデ、見込み部ナ デ、砂付着、内外面施輪	19001607	
N-32-9 包含層A	陶器	小甕	完形	19.9	15.4	15.2	28.0	(胎土) 黑赤褐 5YR2/2 輪明赤褐 5YR2/4	部鐵鉄、重ね焼き時の跡目、 部鐵鉄、重ね焼きの跡目、底 部ナデ 2つ付着、胎土目 具痕、見込み部工具痕、工具 痕後ナデ、格子目当て具痕を ナデ、内外面施輪	19001584	
N-33-1 包含層A	陶器	小甕	完形	19.6	14.4	15.3	30.35	(胎土) にぶい黄褐 7.5YR6/3 にぶい黄褐 7.5TR6/3	内外面回転ナデ、回転ナデ後 タナハ後ナデ、内外面施輪	19001586	
N-33-2 包含層A	陶器	中甕	翼部～胴 部破片					(胎土) 赤褐 10YR4/4	内外面回転ナデ、外側カキメ、 円形凹1つ、回転ナデ後 沈線3条、圓輪ナデ後沈線 4条、円形浮文が刻まれた痕 1ヶ所か、施輪、内面回転ナ デ後格子目当て具痕をナデ、 露胎	19001444	
N-33-3 包含層A	陶器	梅小甕	口輪端～底 部破片	(11.2)	(12.4)	(12.4)	15.7	(胎土) 黑赤褐 7.5YR3/1 輪赤褐 10YR3/1	内外面ヨコナデ、外側ナデ、 沈線1条、底内面自然釉 内面タキ、内外面施輪	19001138	
N-33-4 包含層A	陶器	中甕	口輪端破 片				(12.7)	(釉) にぶい黄褐 10YR6/4 にぶい黄褐 10YR3/2	内外面回転ナデ、外側花文、 指圧痕、沈線2条、一部化 解輪?、内面指圧痕、内外面 施輪	19001443	
N-33-5 包含層A	陶器	甕	胴部破片				(16.5)	(胎土) 赤褐 5YR4/6 (釉) 福 7.5YR4/4	内外面ヨコナデ、外側帯文、刻 み目文、内外面施輪	19001136	
N-33-6 包含層A	陶器	甕	胴部破片				21.1	(釉) 灰赤 10YR4/2 輪赤褐 5YR3/2	内外面ヨコナデ、外側指圧痕、 輪端波状文、施輪、内面指圧 痕、強引ナデ、格子目当て具 痕をヨコナデ表飾としての指圧 痕(外側する指圧痕が内面に有 る)、内面の指圧痕に対応する指 圧痕が内面に有	19001447	
N-33-7 包含層A	陶器	甕	口輪部～ 胴部破片	(10.0)			(9.4)	(胎土) 黑褐 7.5YR7/2 (釉) 黑褐 5YR2/2	内外面回転ナデ、外側波線1 条、耳1か所堅在、内面格 子目当て具痕をナデ、一部化 施輪、一部化施輪	19001434	

表IV-31 遺物一覧表 (31)

捕獲番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号
N-33-8 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～底盤部 残存	(35.8)	(30.4)		13.6 (軸) 暗赤 7.5R3/2	(胎土) に茶褐色 胎土 7.5R4/2	内外面ヨコナデ、外面部子目 タキ後ヨコナデ、内面部子目 内面端り目、櫛端波状文、内 外面施釉	19001446	
N-33-9 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～底盤部 残存	(33.6)	(12.0)	13.5 (軸) 暗赤 7.5R2/2	(胎土) に茶褐色 胎土 7.5R3/2	内外面ヨコナデ、外面部子目 内面端り目、内外面施釉	19001142		
N-33-10 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～底盤部 残存	(36.6)	(34.8)	11.2 (13.4)	(胎土) に茶褐色 胎土 2.5R4/6	内外面回転ナデ、外面部子目 格子目 タキ後ヨコナデ、底 部ナデ、内面端り目、振り目 帶、格子目 タキ後ヨコナデ、底 部ナデ、口縁部以下露窓、内 外面施釉	19001435		
N-33-11 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～底盤部 残存	(32.8)	(12.0)	14.9 (軸) 暗赤 2.5YRA/2	(胎土) に茶褐色 胎土 1.5付前	内外面回転ナデ、外面部子目 土目 1.5付前、内面端り目、 振り目後ヨコナデ消し、内 外面施釉	19001433		
N-34-1 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～ 底盤部 残存	(32.6)	(29.2)	13.0 (14.4)	(胎土) 黒褐 7.5YR3/2	内外面回転ナデ、外面部子目 帶、タキ後ヨコナデ、底部ナデ、 内面端り目、振り目後ヨコナデ、 内外面施釉	19001438		
N-34-2 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～ 底盤部 残存	(35.0)	(30.6)	(14.0)	(胎土) に茶褐色 胎土 2.5YR3/2	内外面回転ナデ、外面部子目 有、内面端り目、外面部施釉	19001439		
N-34-3 包含層A	陶器	擂鉢(平底)	口縁部～ 底盤部 残存	(33.0)		13.6 (12.9)	(胎土) に茶褐色 胎土 2.5YR4/2	内外面回転ナデ、外面部子目 状工具痕後ヨコナデ、底盤回転ナ デ、砂付着、内面端り目、内 外面施釉	19001432		
N-34-4 包含層A	陶器	擂鉢	口縁部～ 底盤部 残存	(38.0)	(34.4)		(胎土) に茶褐色 胎土 3YR4/2	内外面回転ナデ、内面端り目、 外面部子目	19001440		
N-34-5 包含層A	陶器	擂鉢	口縁部～ 底盤部 残存	(38.0)	(35.0)		(胎土) に茶褐色 胎土 10R3/1	1条の櫛端波状文、内面端り目、 軸	19001441		
N-34-6 包含層A	陶器	擂鉢	口縁部破 片				(胎土) に茶褐色 胎土 5YR3/1	内外面回転ナデ、内面端り目、 内外面施釉	19001454		
N-34-7 包含層A	陶器	擂鉢(高台 付・高)	口縁部 1/3～底 部充形	(34.2)	(33.4)	23.0 (6.3)	(胎土) に茶褐色 胎土 2.5YR3/1	内外面ヨコナデ、外面部子目 付、底部ナデ、内面端り目、 波状文(5本)単位)、砂目錬、 内外面施釉	19001124		

表IV-32 遺物一覧表(32)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径]	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号
N-34-8 包含層A		陶器	擂鉢	1/4深部 1/4～底 部1/5残 存	(32.0)	(30.2)	19.1	16.7 (輪) 壁厚 7.5R3/3 底厚 7.5R3/2	(底土) に古い赤褐色 貼付三角支架、下部ハサツ?、 底部ナデ 脱土上部4ヶ所、 内面端凹目、内面施釉	内外面ヨコナデ、外面部ナデ、 貼付三角支架、下部ハサツ?、 底部ナデ 脱土上部4ヶ所、 内面端凹目、内面施釉	19001125
N-34-9 包含層A		陶器	擂鉢(高台 付・高)	口縁部～ 底部残存			20.0	(8.6) (輪) 横断系剥 2.5TR 2/2 底厚 7.5R3/3	(底土) に古い赤褐色 底厚 7.5R3/3	外面部回転ナデ、高台付、内 面回転ナデ後端り日、脱土日 痕4つ、内外面施釉	19001587
N-35-1 包含層A		陶器	甕	口縁部～ 底部残存	(22.0)	(17.2)	25.5	(16.4) 底厚 7.5R4/2	(底土) に古い赤褐色 底厚 7.5R4/2	内面回転ナデ後端り日、脱土日 痕4つ、内外面施釉	19001436
N-35-2 包含層A		陶器	甕	側面破片			(8.5)	(輪) 横断系剥 2.5YR4/3 底厚 5YR7/3	(底土) に古い赤褐色 底厚 5YR7/3	内面回転ナデ、口縁部端部 付着、外面部格子目タキシ後ナ デ、底部ナデ、内面端凹目、内 面施釉	19001453
N-35-3 包含層A		陶器	甕	口縁部片	(15.0)	(12.0)		(5.3) (輪) 壁厚 2.5YR4/2	(底土) に古い赤褐色 底厚 2.5YR4/2	内面回転ナデ、施釉、外面部 自然釉付着	19001452
N-35-4 包含層A		陶器	甕	口縁部～ 側面残存	(16.0)	(12.0)	(8.4)	(輪) 壁厚 2.5YR4/2 底厚 5YR2/2	(底土) に古い赤褐色 底厚 5YR2/2	内面回転ナデ、外面部 自然釉付着	19001240
N-35-5 包含層A		陶器	甕	口縁部片	(13.0)	(9.8)		(5.7) (輪) 横断系剥 2.5YR2/3 底厚 7.5R3/3	(底土) に古い赤褐色 底厚 7.5R3/3	内面回転ナデ、外面部1ヶ所 は全部で4ヶ所か	19001451
N-35-6 包含層A		陶器	注口付瓶	口縁部完 形～側部 1/7残存	8.7	8.1		(13.5) (輪) 横断系 底厚 5YR4/2 底厚 5YR3/2	(底土) に古い赤褐色 底厚 5YR3/2	内面タキ、内外面施釉	
N-35-7 包含層A		陶器	瓶	口縁部完 形～側部 2/5～底 部1/6残 存	8.8	8.2	(15.0)	33.5 (輪) 底厚 5YR5/ 底厚 5YR4/2 底厚 5YR3/2	(底土) 底厚 5Y/ 底厚 5YR4/2 底厚 5YR3/2	内面ヨコナデ、ナデ、指压 痕、内面施釉	19001126
N-35-8 包含層A		陶器	瓶	1/4残存	7.2			(11.5) (輪) 黒褐色 底厚 5YR6/4	(底土) に古い赤褐色 底厚 5YR6/4	内面回転ナデ、内面端凹目 付後ヨコナデ、タキシ後ナデ、 一部釉付着	19001146
N-35-9 包含層A		陶器	甕	口縁部～ 側面完形	8.7	7.4	(6.0)	(輪) 底厚 2.5YR4/2 底厚 2.5YR4/2	(底土) に古い赤褐色 底厚 2.5YR4/2	内面回転ナデ、施釉	19001450

表IV-33 遺物一覧表 (33)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-35-10 包含層A	陶器	瓶	口縁部～ 胴部吹形	5.6	4.4	(7.1)	(8.9)	(胎土) 黒褐 10R3/3 (釉) 暗赤灰色 10R3/1	内外面回転ナデ、内面歯りによる成形、ケズリ、焼り後ナデ、口縁端部付着物有、内外面施釉	19001449		
IV-35-11 包含層A	陶器	鉢	口縁部～ 胴部吹形	(29.2)	(27.0)	(3.0)	(8.9)	(胎土) 黒褐 10R5/3 (釉) 天褐 5YR4/2	内外面回転ナデ、外面2条の波状文、内面工具痕後ナデ、	19001129		
IV-35-12 包含層A	陶器	碗	はぼ完形	12.1	5.1	7.8	(胎土) 淡黄 2.5Y6/3 (釉) 淡黄 2.5Y7/1	(胎土) 黑褐 10R6/3 (釉) 淡黄 5Y4/2	内外面回転ナデ、外面前台端部繩輪、砂付、着、内面見込み部付着物有、内外面施釉	19001448		
IV-35-13 包含層A	陶器	碗	口縁部～ 胴部吹形	(10.4)	4.4	7.4	(4.4)	(胎土) 淡黄 10YR6/1 (釉) 淡黄 5Y4/2	外面高台端部繩輪、砂目、内面施釉 並み有	19001137		
IV-35-14 包含層A	陶器	小杯	はぼ完形	6.6	2.2	3.7	(4.4)	(胎土) 淡黄 10YR8/4 陶灰 10YR6/1 に、5Y、黄褐 10YR6/3	内外面クロロナデ、外面上がり部ヘラ伸され、底部へア切り離し、内面一部輪付着	19001143		
IV-35-15 包含層A	磁器	碗	口縁部～ 底部吹形	(10.0)	(3.0)	5.6	(4.4)	(胎土) 透明 (釉) 透明	内部繩輪、外外面施釉	19001145		
IV-35-16 包含層A	磁器	碗	口縁部～ 底部吹形	(10.8)	(4.4)	5.9	(4.4)	(胎土) 透明 (釉) 透明	内外面クロロナデ、外面前台端部繩輪、内面施釉	19001144		
IV-36-1 包含層A	陶器	平皿	完形	長さ 26.2	幅23.0	厚さ 1.6 mm	(4.4)	(胎土) 黒褐 5YR3/2 黄褐 2.5Y5/4	全体ナデ、施釉(一部露胎)、側面付着物有	19001242		
IV-36-2 包含層A	陶器	平皿	4/5吹形	長さ 25.7	幅23.0	厚さ 1.6 mm	(4.4)	(胎土) 黒褐 10YR17/1 (釉) 黒褐 5YR17/1	全体ナデ、表面裏面一部露胎、	19001241		
IV-36-3 包含層A	陶器	平皿	2/3吹形	長さ 24.8	幅23.8	厚さ 1.5 mm	(4.4)	(胎土) 黒褐 2.5YR2/2 (釉) 黒褐 2.5YR2/2	全体ナデ、一部施釉	19001237		
IV-36-4 包含層A	陶器	平皿	2/3吹形	長さ 25.4	幅23.0	厚さ 1.5 mm	(4.4)	(胎土) 黒褐 10YR7/3 黄褐 2.5YR7/3	全体ナデ、表面付着物多量、裏面付着物有、裏面側面自然	19001238		
IV-36-5 包含層A	陶器	平皿	1/2吹形	長さ 19.5	幅22.6	厚さ 1.6 mm	(4.4)	(胎土) 黒褐 5YR5/2 黑褐 5YR2/2	裏面力キヌ、全体施釉	19001239		
IV-37-1 包含層A	陶器	平皿	1/2吹形				(4.4)	(胎土) 黒褐 10YR3/3 黄褐 2.5YR3/3	上面力キヌ?、上面下面施釉	19001140		

表IV-34 遺物一覧表 (34)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	法量 (cm)	器高	色 調	調査等特記事項	県遺番号
N-37.2 包含層A		陶器	軒平瓦	瓦当部分 2/3残存	奥行 (8.5)	幅 (17.8)	高さ (7.5)	(胎土) 厚NS/1 赤褐色 10R5/4 灰褐色 5YR5/2	上面ナデ、瓦當部型押し文、 施輪、下部ナデ、ハケメ (輪) 施輪 5YR3/2	19001132
N-37.3 包含層A		陶器	軒平瓦	瓦当部分 1/2残存	奥行 (8.0)	幅 (11.4)	高さ (7.7)	(胎土) 厚NA/ 赤褐色 2.5YR5/2	上面ナデ、瓦當部ナデ後施輪、 型押し文、下部ハケメ、焼成 による歪み	19001130
N-37.4 包含層A		陶器	軒平瓦	瓦当部分 2/5残存	奥行 (8.6)	幅 (8.6)	高さ (8.2)	(胎土) 厚10R6/6 灰褐色 7.5YR4/2	上面ナデ、瓦當部ナデ後施輪、 型押し文、下部ナデ	19001131
N-37.5 包含層A		陶器	土管	口環部 1/4残存	奥行 (27.0)			(胎土) 厚10YR4/4 灰褐色 2.5YR4/1 黒褐色 5YR3/2	上面ナデ、瓦當部型押し文、 施輪、下部ナデ	19001131
N-37.6 包含層A		陶器	土管	口環部 1/4以下 残存	奥行 (33.6)			(胎土) 厚3YR5/2 灰褐色 5YR3/1	内外面回輪ナデ、外面自然輪、 付着物有	19001135
N-37.7 包含層A		陶器	有孔円形板	完形	縦 6.5	横 6.3	厚さ 1.0	(胎土) 厚 N7/	内面剥離、下面露筋、中央に 穿孔 1つ	19001133
N-38.1 包含層A	窓道具 円弧状ハマ	破片	縦	縦 26.5	横 6.4 径 14.5	厚さ 2.3	(胎土) 厚-5.5 約 2.5YR5/8	上面格子目タタキ、細かい小穴 付着、側面ヨコナデ、指圧痕、 下面ヨコナデ	19001147	
N-38.2 包含層A	窓道具 円弧状ハマ	破片	縦	縦 27.0	幅 6.2	厚さ 2.0	(胎土) 厚-5.5 約 2.5YR4/3	内外面ナデ、上面タタキ痕、 砂付着	19001139	
N-38.3 包含層A	窓道具 胎土目	完全形	縦	縦 5.6	横 5.6	厚さ 1.5	(胎土) 厚1.5YR7/6	全体ナデ	19001151	
N-38.4 包含層A	窓道具 胎土目	完全形	縦	縦 4.6	横 4.3	厚さ 3.3	(胎土) 厚1.5YR6/6	全体ナデ	19001150	
N-38.5 包含層A	窓道具 胎土目	完全形	縦	縦 3.9	横 4.3	厚さ 3.5	(胎土) 厚1.5YR6/8	全体ナデ	19001149	
N-38.6 包含層A	窓道具 横形ハマ	完全形	長さ	長さ 10.3	幅 8.7	厚さ 5.6	(胎土) 厚2.5YR6/6 (輪) 浅黄5Y7/3	外面ナデ、自然輪、側面強い施熱 変形、側面強い施熱	19001437	
N-38.7 包含層A	窓道具 棘	完全形	縦	縦 18.0	横 8.2	厚さ 7.6	(胎土) 厚赤褐色 5YR3/3 厚2.5YR5/6	上面付着物有、全体ナデ	19001148	
N-39.1 包含層B		陶器	中燃	口環部 1/4残存 底無完形	36.8	31.6	23.5	50.5 (胎土) 暗赤褐色 2.5YR 3/3 暗赤褐色 2.5YR3/4	内外面ヨコナデ、外面ガキメ 工具ナデ後ナデ、二条鉢 目、沈鉢 5 条、底端ナデ、 内面格子目 当て具類、見込み 部ナデ、内外面施輪	19001457

表IV-35 遺物一覧表 (35)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径 〔外径×内径〕	法量(cm) 底径	器高	色 調	調整等特記事項	県遺物 登録番号
N-39-2 包含層B	陶器	中壺	口縁部 3/4 壁存 底部完形	37.0	32.0	22.2	48.0	(胎土) 唇赤褐色 2.5YR3/4 に5y、輪 7.5R7/3 輪赤褐色 5TR3/4	内外面凹凸ナデ、外面ヨコナ 後ナデ、二条縞目文、沈線3 条、袖だれ、底部ナデ、内面 ナデのち格子目当て貝殻、見 込み部ナデ	19001153
N-39-3 包含層B	陶器	中壺	口縁部 3/4 壁存 ほぼ完形底 部 1/2	(38.3)	(33.3)	22.1	48.8	(胎土) K-5y、系褐色 7.5R4/3 (釉) オリーブ色が分かつた 透明釉 輪赤褐色 7.5R3/3 輪赤褐色 2.5YR3/2	内外面凹凸ナデ、外面ヨコナ デ、二条縞目文、カキ後ナデ、 格子目タキ後ナデ、底部付 着物有、内面格子目当て貝殻 ナデ、見込み部ナデ、内面 面施釉	19001527
N-39-4 包含層B	陶器	中壺	ほぼ完形	35.0	29.4	20.4	47.0	(胎土) 赤褐色 10R5/3 (釉) 唇赤褐色 2.5YR3/3	内外面凹凸ナデ、外面ヨコナ デ、二条縞目文、沈線 4条、タキ後ナデ、底部砂 付着、内面格子目当て貝殻、 上部一部窓附、内面面施釉 底部片方凹みが微しい(胎土 目の痕か?)	19001152
N-39-5 包含層B	陶器	中壺	ほぼ完形	38.0	32.7	(21.4)	45.3	(胎土) 海灰褐色 7.5YR5/1 (釉) 赤褐色 7.5R4/2 明赤褐色 7.5R3/2	内外面ヨコナデ、外面二条縞 目文、沈線9条、格子目タ キ後ヨコナデ、底部ナデ、 露胎、内面格子目当て貝殻、 込み部ナデ、内面面施釉 全体的に歪み有	19001528
N-39-6 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 底部 1/2 壁存	34.5	29.4	20.3	39.9	(胎土) 赤褐色 2.5YR4/6 明黄褐色 10YR6/6	内外面ナデ、格子目タキ後ナ デ、外面二条縞目文、沈線 5条、格子目タキ後ナデ、 底部ナデ、内面面施釉(一部 自然釉)	19001610
N-40-1 包含層B	陶器	中壺	ほぼ完形	36.5	31.4	22.8	43.5	(胎土) 唇赤褐色 2.5YR3/4 赤 10R4/8 (釉) 黒褐色 5YR2/2	内外面ヨコナデ、口縁部面 拭き取り痕、外面二条縞目文、 沈線5条、格子目タキ後ナ デ、底部ナデ、砂目重、内 面格子目当て貝殻、見 込み部円形状のタキナデ、 内面施釉	19001924
N-40-2 包含層B	陶器	中壺	完形	31.3	25.8	17.9	38.2	(胎土) 唇赤褐色 7.5 R 3/1	内外面ヨコナデ、外面貼花文 3つ、ヨコナデ後沈線9条(タ キ後沈線有)、タキ後ナデ、 底部ナデ、胎土目丸1つ(合計4つ) 胎土目・胎土目直)、見込み 部タキ	19001594

表IV-36 遺物一覧表(36)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量(cm)	器高	調査等特記事項		県遺番号
								内外面印形	登録番号	
IV-40-3 包含層B	陶器	中壺	口縁部～底 部3/4 残 存	(35.0) (29.0)	21.0	41.3 (輪)	[胎土] 壁厚 10R3/6	内外面ヨコナデ、外面印形浮 文、カキメ、沈線 1 条・2 条、 底部ナデ、胎土目施 3 ケ所、 内面指压痕、格子目当て具痕、 粘土接合痕、見込み部ナデ、 内外面施釉	19001154	
IV-40-4 包含層B	陶器	中壺	口縁部 1/6 残存	(37.0)	29.2	(23.0) (輪)	[胎土] 横断面焼 7.5R2/2 にぶい、幅 7.5YR5/4 にぶい 黄褐色 10R3/4	内外面ヨコナデ、外面印形浮 文、沈線 2 条、内面 沈線 4 条、化粧繩?、内面 格子目当て具痕ナデ、露胎、 内外面施釉	19001503	
IV-40-5 包含層B	陶器	中壺	口縁部 1/4 残存	(42.0)	(33.8)	(11.2) (輪)	[胎土] 壁厚青褐色 3YR3/6 オリーブ黒 7.5Y3/1 横断面焼 7.5YR2/3	内外面印形浮 文、重ね焼き時、付着物有、波 状文 1 条、内外面施釉	19001496	
IV-40-6 包含層B	陶器	中壺	口縁部 1/4 残存	(38.8)	(31.4)	(8.9) (輪)	[胎土] 壁厚 7.5YR4/3 黄褐色 2.5Y5/4	内外面ナデ、口縫端部露胎、 重ね焼き痕、内面波状文 1 条、貼花文、縞目文、内外面 貼花文と縞目文が併存してい ることから特注品か	19001515	
IV-40-7 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 胸窓 1/10 残存	(28.0)	(21.2)	(15.7) (輪)	[胎土] 壁厚 2.5YR3/2 黒褐色 5YR2/2	内外面印形浮 文 (輪輪文)、波端 12 条、 一部付着物有 (焼着物)、内 外面格子目タチ後ナデ、内外 面施釉	19001501	
IV-40-8 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 胸窓 1/8 残存	(30.0)	(23.8)	(9.5) (輪)	[胎土] 壁厚 2.5YR4/3 沈線 7 条、内 面浮文貼付のための折付痕、 内面印形浮文 (車輪文)、沈線 7 条、内 面施釉	格子目当て具痕ナデ、内外 面浮文貼付のための折付痕、 内面印形浮文 (車輪文)、沈線 7 条、内 面施釉	19001363	
IV-40-9 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 胸窓 1/10 残存	(31.0)	(24.6)	(8.3) (輪)	[胎土] 赤褐色 10R4/3 横断面黄 2.5Y4/2	内外面印形浮 文、付着物有、施釉、内面タ キ後ナデ、浮文貼付時の指 圧痕	19001490	
IV-41-1 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 底部 3/4 残存	(27.2)	22.0	16.1	32.7 (輪)	[胎土] 壁厚青褐色 10R3/2 壁厚赤 2.5YR3/1	内外面ヨコナデ、口縫端部露 胎、内面北緯 1 条、底部ナデ、 内外面施釉	19001616

表IV-37 遺物一覧表 (37)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径×高さ 〔内径〕	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-41-2 包含層B	陶器	中壺	口縁部～底盤1/2 残存	(23.6) (18.4)	15.8	30.9	(胎土) 淡茶褐色 (釉) 黑褐2.5YR3/2 輪略赤褐5VR2/3	内外面回転ナデ、口縁端削付 着物有、外面沈線11条、回 転ナデ後タタキ後ナデ、底部 付着、内面タタキ後ナデ、砂 込み部ナデ、内外面施釉	19001591		
IV-41-3 包含層B	陶器	小壺	完形	(17.2) (12.8)	15.4	29.8	(胎土) 黄灰2.5Y6/1 青灰5BG6/1 輪青灰5BA1/1 (釉) 黑褐10YR2/3 浅黄5Y7/3	内外面ヨコナデ、口縁端削重 ね焼き痕、外面ナデ、カキメ、 底部ナデ、砂目痕、轍跡、内 面格子目(当て具痕有ナデ、内 外面施釉(当て外面断部多い) 系み大、	19001612		
IV-41-4 包含層B	陶器	小壺	ほぼ完形	20.6	15.2	30.5	(胎土) 淡茶褐色5YR3/2 褐10YR4/4 褐10YR4/4 黑褐10YR3/1	内外面回転ナデ、口縁端削露 輪状の重焼き痕、底部 ヘラ切り離し2?、砂付着、内 面回転ナデ後格子目タタキ、 見込み部回転ナデ後ナデ、内 外面施釉	19001592		
IV-41-5 包含層B	陶器	小壺	ほぼ完形	18.6	13.2	31.1	(胎土) 淡茶褐色7.5YR3/4 (釉) 黑褐7.5YR2/2 明黄褐2.5YR6/6	内外面ナデ、外前面施釉の力 キメ、格子目タタキ銀、格子 目タタキ後ナデ、ナデ、内面 格子目(当て具痕有ナデ、見込 み部ナデ、内外面施釉(部分 的に自然釉) 全体的に被熱。	19001613		
IV-41-6 包含層B	陶器	小壺	口縁部～ 底盤4/5 残存	(19.2) (14.6)	14.3	32.0	(胎土) 淡茶褐色7.5R3/2 (釉) 明茶褐色4.5R3/2	内外面ハケ状工具ナデ、外 面ハケ状工具後ナデ(カキ メ?)、格子目タタキ後ナデ、 底部ナデ、付着物有、露胎、 内面格子目タタキ、見込み部 ナデ、工具痕、内外面施釉(部 分的に被熱により一部剥離) 全体的に含み有	19001455		
IV-41-7 包含層B	陶器	小壺	口縁部～ 底盤1/2 残存	(20.1) (15.8)		(28.4)	(胎土) にがい赤褐色2.5YR4/3 (釉) 朱褐色5YR1/2 にがい朱褐色2.5YR4/3	内外面回転ナデ、内外面格子目当 て工具、内外面施釉	19001355		
IV-41-8 包含層B	陶器	中壺	口縁部 1/4 残存	(26.8) (22.8)		(8.8)	(胎土) 淡茶褐色7.5YR4/4 (釉) 褐7.5YR4/4	内外面ヨコナデ、外面四形 浮文、沈線文4条、自然釉、 内面格子目タタキ後ナデカキメ 古手か	19001513		

表IV-38 遺物一覧表 (38)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径]	法量(cm)	器高	(胎土)に云い赤焼 7.5R4/3	色 調	調整等特記事項	県道番号
IV-41-9 包含層B	陶器	中燃	口縁部～胸郭部～脚部 1/5 残存	(26.8) (21.0)	(10.0)	(輪) 呛赤焼 2.5YRS/2		内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、部分的に砂付着、外面沈 積文 6 条、指圧痕、内面格 子當て真珠をナデ、指圧痕、 内外面施釉、外面自然釉が重 複してかかる部分有 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	内外面回転ナデ、外面既施釉 文、沈殿 4 条・7 条、化粧釉、 内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	1900.1489	
IV-41-10 包含層B	陶器	中燃	口縁部～ 胸郭部 1/10 残存	(29.0) (23.2)	(16.1)	(輪) 黒褐 7.5YRS/2		内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、沈殿 15 条、指圧痕、 化粧釉、内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、沈殿 15 条、指圧痕ナデ、 化粧釉、内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	1900.1357	
IV-41-11 包含層B	陶器	中燃	口縁部～ 胸郭部 1/10 残存	(26.0) (21.6)	(19.1)	(輪) 呛灰 N3/		(胎土) 灰 N6/	内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、沈殿 15 条、指圧痕、 化粧釉、内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、沈殿 15 条、指圧痕ナデ、 化粧釉、内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	1900.1500
IV-41-12 包含層B	陶器	中燃	口縁部～ 胸郭部 1/10 残存	(28.0) (23.2)	(17.2)	(輪) 灰褐 7.5YRS/2		(胎土) 灰 N6/2	内外面回転ナデ、外面既施釉 2 条・4 条・5 条、指圧痕、内 面格子目当て真珠をナデ、指 圧痕	内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、沈殿 15 条、指圧痕ナデ、 化粧釉、内面指圧痕、粘土繊 維目直し、内外面施釉 装飾としての指圧痕(外面) と外面の指圧痕に對応する指 圧痕が内面に有	1900.1356
IV-41-13 包含層B	陶器	中燃	口縁部～ 胸郭部 1/6 残存	(24.6) (20.4)	(8.1)	(輪) 楠焼赤焼 2.5YRS/2 浅黄 2.5YR7/3 黒褐 5YR3/1		(胎土) に云い赤焼 2.5YRS/4	内外面ヨコナデ後泥付洗擦 1 条、 面ヨコナデ後泥付洗擦 1 条、 沈殿 2 条、内面工具押さえ痕、 ヨコナデ後工具押さえ痕、内 外面自然釉	内外面回転ナデ、口縁端部削 胎、外面部分に格子目タタ キ、下部露胎部分有、低骨質 胎、内面回転ナデ後泥付洗擦 1 条、 見込み泥付洗擦ナデ後泥 形タタキ、工具ナデ、露胎、 内外面施釉	1900.1504
IV-42-1 包含層B	陶器	小燃	完形	20.4	15.8	27.4	(輪) 楠焼赤焼 3YR2/3	(胎土) 灰 N5/			1900.1589

表IV-39 遺物一覧表 (39)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
IV-42-2 包含層B	陶器	小壺	口縁部～底盤部1/2 残存	(21.8)	17.2 14.9	27.6 (軸) 横断面測2.5YR2/2 輪郭赤灰2.5YR3/1	[胎土] 周赤灰2.5YR3/6	内外面ヨコナデ、外面格子目タタキ後ナデ、砂付着、口縫端部露 出、内面格子目当て、輪郭ナ デ、見込み部工具、工具頭 後ナデ、内外面施釉	19001614	
IV-42-3 包含層B	陶器	小壺	ほぼ完形	(18.4)	(14.0)	27.6 (軸) 周赤灰2.5YR3/1	[胎土] 反赤10R4/2	外面回転ナデ、格子目タタキ後ナデ、口縫端部付着、 部付着物(胎土の名残か)、 内面格子目当て工具、工具頭 格子目当て工具、見込み部ナ デ、内外面施釉	19001456	
IV-42-4 包含層B	陶器	小壺	完形	17.1	13.4	26.8 (軸) 周灰N 3/ 赤褐10R4/3	26.8 (胎土) 周灰N 3/ 赤褐10R4/3	外面回転ナデ、並行タタキ後 ナデ、底部ナデ、砂付着、付 着物有、内面同心円タタキ後 ナデ、見込み部ナデ、内外面 施釉(一部自然釉、露胎部分 有)	19001588	
IV-42-5 包含層B	陶器	小壺	完形	16.0	12.2	22.9 (軸) 赤褐7.5 R 2/1 にぶい赤7.5 R 4/4	22.9 [胎土] にぶい赤7.5 R 4/4	外面ヨコナデ、砂付着、 内面格子目当て工具をナデ、 内外面施釉	19001615	
IV-42-6 包含層B	陶器	小壺	口縁部～ 胸郭1/4 残存	(19.4)	(15.2)	15.9 (軸) 赤褐10R3/2 灰7.5Y4/1 輪郭7.5YR3/3	[胎土] 所視SYR4/2	外面回転ナデ、口縫端部露 出、内面格子目当て工具をナ デ、内外面施釉 2個体が口縫部で焼着	19001352	
IV-42-7 包含層B	陶器	極小壺	完形	11.4	9.7	11.6 (軸) 横断面測7.5R2/2	[胎土] 長・幅7.5YR5/3	外面回転ナデ、外面洗脱2 各、カキメ、底盤ナデ、付着 物有、内面粘土織ぎ痕、内外 口縫部少し歪み有	19001590	
IV-42-8 包含層B	陶器	極小壺	口縁部～ 胸郭1/2 残存、底 部完形	(12.7)	(10.2)	10.8 (軸) 淡黄橙10YR8/3 淡黄2.5Y8/4	15.1 [胎土] 赤褐2.5YR6/6 灰色N5/4 [胎土] 淡黄橙10YR8/3 淡黄2.5Y8/4	外面ヨコナデ、外面洗脱2 条、格子目タタキ後ナデ、底 部ナデ、内面格子目当て工具 をナデ、粘土接合痕、見込み 部ナデ、内外面施釉	19001510	

表IV-40 遺物一覧表(40)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口外径 [口内径]	法量(cm)	器高	(胎土) 収率 NA%	色 調	調整等特記事項	県道番号
IV-42-9 包含層B	陶器	柄小壺	ほぼ完形	12.3	11.2	15.8	(軸) 喰海 7.5YR3/3 褐灰 7.5YR4/1 オリーブ灰 5Y6/4 前横肉 2.5YR7/6 暗赤 10R3/4	口輪端削蹊 胎、付着物、部分的に格子目タヌ キヌ、一部剥離、底面部 牛後格子目タヌキ。見込み部 輪ナデ、化粧輪、内面回転ナデ 牛後格子目タヌキ。内面施輪	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、外側面部	19001593	
IV-42-10 包含層B	陶器	壺	口縁部～ 底部 $\frac{1}{2}$	(18.2)	(15.0)	(3.6)	(胎土) 前横肉 2.5YR5/2 (軸) 収率 10R4/2	内外面回転ナデ、化粧輪 内面回転ナデ、内面施輪 カキヌ? 後ナデ、内面格 子目当て具銀毫ナデ、内外面 施輪	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、内面施輪 カキヌ? 後ナデ、内面格 子目当て具銀毫ナデ、内外面 施輪	19001525	
IV-42-11 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 胴部 1/10 以下残存			(9.8)	(胎土) 胎灰 N3/ (軸) 喰灰 N3/	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、沈藻 3 条、内 面指正模、格子目当て具銀毫 ナデ、内面施輪	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、沈藻 3 条、内 面指正模、格子目当て具銀毫 ナデ、内面施輪	19001364	
IV-42-12 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 胴部 1/10 以下残存			(7.5)	(胎土) 赤黒 10R2/1 (軸) 赤黒 6 条、内外面施輪	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、沈藻 6 条、内外面施輪	内外面回転ナデ、外側面部 付着物、沈藻 6 条、内外面施輪	19001365	
IV-42-13 包含層B	陶器	中壺	口縁部～ 肩部破片			8.5	(胎土) 前横肉 2.5YR4/1 (軸) 黒 2.5YR4/1	内外面回転ナデ、内面格子目当 て具銀、内面施輪	内外面回転ナデ、内面格子目当 て具銀、内面施輪	19001498	
IV-42-14 包含層B	陶器	中壺	口縁部破 $\frac{1}{2}$				(胎土) 前横肉 2.5YR5/2 灰 NS5.0	内外面回転ナデ、口縁部削蹊 貼蛇紐付、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	内外面回転ナデ、口縁部削蹊 貼蛇紐付、外側耳様	19001509	
IV-42-15 包含層B	陶器	中壺	底部片				(5.9)	(胎土) 前横肉 2.5YR5/3 灰 7.5YR5/2 に5.5、黄褐 10R7/4	内外面回転ナデ、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	内外面回転ナデ、外側耳様	19001353
IV-43-1 包含層B	陶器	壺	口縁部～ 底部 1/8 残存	(32.8)	(30.0)	(12.0)	(胎土) 前横肉 2.5YR4/3 暗赤肉 2.5YR3/2 灰肉 5YR4/2	内外面回転ナデ、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	内外面回転ナデ、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	19001349	
IV-43-2 包含層B	陶器	壺	口縁部～ 底部 1/3 残存	(33.6)		(15.0)	(13.2)	(胎土) 黒 2.5YR4/1 (軸) 黒 2.5YR4/1	内外面回転ナデ、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	内外面回転ナデ、外側耳様 貼蛇紐付、外側耳様	19001243
IV-43-3 包含層B	陶器	壺	口縁部～ 底部 1/2 残存			(12.4)	(胎土) 前横肉 2.5YR2/3 褐灰 5YR2/2	内外面回転ナデ、外側耳様 付着、内面回転ナデ後縫り 胎土目地、内面施輪	内外面回転ナデ、外側耳様 付着、内面回転ナデ後縫り 胎土目地、内面施輪	19001502	

表IV-41 遺物一覧表 (41)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
N-43-4 包含層B	陶器	擂钵	口縁部～ 底部1/4 残存 (高台付)	(35.9)	(34.0)	(13.1)	13.4 (脇)赤黒 にぶい、黄褐色	2.5YR3/3	内外面ナデ、外面部高台合痕、 底部断土目頃1/4付着、搗り目、 内面端子10付着	19001514	
N-43-5 包含層B	陶器	擂钵	底部完形 (平底)	31.6	30.6	11.6	11.6 (脇)暗赤灰	7.5R3/1	内外面回転ナデ、外面部格子目 タタキ後ナデ、底部ナデ、砂 付着、内面端子目、断土目3 つ付着、断土目頃2ケ所(合 計5ケ所)の断土目・断土目 痕、内外面施釉	19001497	
N-44-1 包含層B	陶器	擂钵	口縁部～ 底部1/2 (平底)	(32.4) (36.6)	(31.2) (35.4)	(12.0) (12.0)	8.1 (脇)褐灰 にぶい、黄褐色	2.5YR4/1 2.5YR4/3	内外面回転ナデ、外面部端子 輪糸切り、内面回転ナデ後端 り目、内外面施釉	19001354	
N-44-2 包含層B	陶器	擂钵	口縁部～ 底部1/4 残存 (平底)	(26.4)	(26.4)	(12.0)	10.8 (脇)暗赤灰	2.5YR3/3 2.5YR3/2	内外面回転ナデ、外面部端子 輪糸切り、上から着物持、 内面端子目、内外面施釉	19001499	
N-44-3 包含層B	陶器	擂钵	口縁部片 片				(3.2) (脇)褐赤灰	5YR2/2 7.5YRA4/4	内外面回転ナデ、外面部端子 輪糸切り、内面端子目、施釉	19001360	
N-44-4 包含層B	陶器	擂钵	口縁部～ 底部1/4 残存 (付・高)	(34.6)	(34.6)	(17.2)	14.1 (脇)暗赤灰	2.5YR3/3 2.5YR4/3	内外面回転ナデ、外面部端子 輪糸切り、内面端子目、施釉	19001358	
N-44-5 包含層B	陶器	擂钵	脚部～底 部完形 (高台付)				11.1 (脇)N 4 / (脇)N 4 /	(脇上)にぶい、赤褐色 にぶい、黄褐色	下の脚体：外面部回転ナデ、高 台合痕、底部断土目頃4ケ 所、内面端子目、断土目4ヶ 所、2個体溶着	19001348	
N-45-1 包含層B	陶器	瓶	頭部～底 部1/4 残存				(12.6)	(21.9) (脇)黒赤 にぶい、赤褐色	外面部回転ナデ、内面部格子目 タタキ後合痕、格子目当 て具痕、見込み部ナデ、内外 面施釉	19001350	
N-45-2 包含層B	陶器	瓶	ほぼ完形				18.1 (脇)赤灰	2.5YR4/2 10R3/1	外面部回転ナデ、外面部カキメ、 タタキ後力強め、底部ナデ、 内面取り上げ痕、見込み部ナ デ、内外前面施釉	19001611	

表IV-42 遺物一覧表(42)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径] 厚径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-45-3 包含層B		陶器	瓶	口縁部～肩部残存	9.2	(1.20) 肩周部 暗赤褐色	(輪)褐7.5YRA/4 暗赤褐色 5YR3/3	内外面回転ナデ、外面カキメ、 内面取りぬ、格子目付着物有、 輪だけ、粒子状の付着物有、 輪だけ、内外面施釉		19001520	
IV-45-4 包含層B		陶器	瓶	口縁部 3/5残存	(8.3)	(8.5)	(輪)黒褐7.5Y3/2	内面取りぬ、当て具痕 氣、内外面施釉		19001361	
IV-45-5 包含層B		陶器	瓶	口縁部～ 肩部残存	6.7	(9.7)	(輪)黒褐2.5YR2/3	内外面回転ナデ、外面カ キメ、内面校り痕、内外面施 釉		19001519	
IV-45-6 包含層B		陶器	瓶	頭部～胴 部1/10 以下残存	4.7	(8.4)	(輪)黒褐10R2/4	内外面回転ナデ、外面カキメ、 内面取りぬ、料土織目		19001362	
IV-45-7 包含層B		陶器	瓶	口縁部 1/2残存 ～頭部完 形	(5.0)	(4.5)	(輪)黒褐 SYRA/1	内外面回転ナデ、外面カ キメ、内面校り痕、内外面施 釉、輪部自然輪かげで焼成跡有		19001508	
IV-45-8 包含層B		陶器	瓶	口縁部～ 頭部残存	4.7	(6.1)	(輪)黒褐 2.5YR4/3	内面取りぬ、内面ナデ、絞り		19001351	
IV-45-9 包含層B		陶器	瓶	口縁部～ 肩部残存		(1.14)	(輪)黒褐 2.5YR5/4	内外面ナデ、内面回転ナデ、 カキメ、施釉、内面取りぬ、 格子目タキナ、露胎		19001521	
IV-45-10 包含層B		陶器	瓶	つまみ部 元形		(4.7)	(輪)黒色 N 5/	内外面回転ナデ、外面カキメ、 内面タキナ、絞り痕		19001366	
IV-45-11 包含層B		陶器	鉢	口縁部 1/6片	(46.0)	(41.0)	(輪)黒褐 5YR5/2	内外面回転ナデ、口縁端部漏 斗状工具痕後ナデ、内外面施 釉		19001491	
IV-45-12 包含層B		陶器	鉢	底盤3/4 残存		(8.7)	(輪)輪暗赤褐色 2.5YR2/2 赤黒 2.5YR2/1	外れ口の一部に輪付着(焼成 前にできたひびき)		19001518	
IV-45-13 包含層B		陶器	碗	3/4残存	10.6	9.6	(輪) 黒褐 7.5YRA/2	内外面回転ナデ内面、施釉、 内面回転ヨコラバに付着		19001516	
						(6.8)	(輪)褐7.5YRA/3 褐8.5YR4/1	自然輪まばらに付着			
							(輪)黒褐10YR7/4	内外面回転ナデ、外面高台 端部輪指、内外面施釉(貝入 有)、絞り輪を重ねがけして いる			

表IV-43 遺物一覧表 (43)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項		県道番号	登録番号	
										内面	外側	内面	外側	
N-46-1 包含層B	陶器	鉢	脚部～底部1/2残存		8.9	5.0	(脚) 壁赤褐色 2.5YR3/2 〔に〕赤褐色 5YR3/3	外面部高台部断土痕3ヶ所、高台内面砂痕4ヶ所、内外面施釉	19001245					
N-46-2 包含層B	陶器	鉢	底盤丸形		10.0	(4.5)	(脚) 黄褐色 10YR4/1 黄褐色 2.5YR3/3 黒褐色 10YR2/3	外面部へラケズリ、高台断土痕4つ付着、輪縁内面、施釉内面回転ヨコナナデ内面、施釉	19001517					
N-46-3 包含層B	陶器	皿	口縁部1/4残存	(25.3)			(3.9)	(脚) 壁赤褐色 5YR3/3	内外面回転ナデ、施釉古式雖か、内面化粧土	19001512				
N-46-4 包含層B	陶器	皿	口縁部の一部欠損	(22.4)	(21.6)	11.1	6.9	(脚) 壁赤褐色 10YR8/2	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR7/4 内外面回転ナデ、施釉、化粧土輪花、焼成は2回か	19001347				
N-46-5 包含層B	陶器	皿	口縁部～底盤1/2残存	(17.0)		6.8	6.0	(脚) 壁赤褐色 5YR4/2 オリーブ黒5Y3/1	内外面回転ナデ、外面部高台後破状文、化粧土施釉、外面部回転ナデ、外面部施釉金み有	19001359				
N-46-6 包含層B	陶器	鉢	口縁部破片				(3.6)	(脚) 壁赤褐色 5YR2/3	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR8/1 内外面回転ナデ、外面部高台後破状文、外面部施釉金み有	19001523				
N-46-7 包含層B	磁器	皿	口縁部底盤1/4残存	(20.0)		(10.0)	2.8	(脚) 明快灰 10GY	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR3/2 紅、外面部高台端縁鋸歯、筆書き文様、内面口縁割れ花？、見込み部付着物有、外面部施釉	19001492				
N-46-8 包含層B	磁器	碗	口縁部～腹盤部片	(10.8)			(4.2)	(脚) 明快灰 10GY	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR3/2 内外面回転ナデ、外面部コントラック田判、内外面施釉	19001493				
N-47-1 包含層B	陶器	瓶	口縁部～脚部はぼ丸形	(3.6)	(2.8)		(9.5)	(脚) 壁赤褐色 2.5YR4/2	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR3/2 内外面回転ナデ、内面施釉	19001494				
N-47-2 包含層B	陶器	蓋	3/4残存	14.0			3.3	灰N5/ 灰Na/	〔脚〕緑10GY5/1 外面部回転ナデ、内面回転ナデ、内面施釉	19001495				
N-47-3 包含層B	陶器	把手	把手部破片	長さ(6.8)		幅1.5	厚さ1.5cm	灰褐色 7.5YR4/3 〔脚〕灰褐色 5YR5/2	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR3/2 外面部回転ナデ、内面施釉	19001522				
N-47-4 包含層B	陶器	手づくね杯	口縁部に欠けあり	4.8		3.0	2.2	(脚) 壁赤褐色 5YR5/4 〔脚〕灰褐色 5YR4/2	〔脚〕に5.5cm 壁赤褐色 5YR3/2 外面部回転ナデ、内面施釉部分的に剥離、内面施釉	19001505				

表IV-44 遺物一覧表 (44)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県道番号	登録番号
IV-47-5 包含層B		陶器	平底	1/2残存	長さ (12.9)	幅 (12.9)	厚さ 3.3 〔胎土〕灰褐色 5YR5/2 〔釉〕暗赤褐色 10R3/2	表面ナデ、面取り、裏面ナデ メ、ヨコナデ、側面ナデ 被熱のため歪み有	表面ナデ、面取り、裏面ナデ メ、ヨコナデ、側面ナデ 被熱のため歪み有		19001526	
IV-47-6 包含層B		陶器	丸底	完形	縦 27.7	横 13.0	厚さ 1.5 〔胎土〕灰褐色 2.5YR2/2 〔釉〕黄褐色 10R8/6	〔胎土〕にぶい赤褐色 2.5YR4/3 〔釉〕にぶい赤褐色 2.5YR2/2	表面工具ナデ、裏面布目、工具ナデ		19001244	
IV-47-7 包含層B		窯道具	チヤツ	完形	10.0	8.6	2.7 〔釉〕浅黃褐色 7.5YR8/3	内外面回転ナデ、底部回転糸 切り後へラ削ぎ?、露點、内 外面自然釉	内外面回転ナデ、底部回転糸 切り後へラ削ぎ?、露點、内 外面自然釉		19001524	
IV-47-8 包含層B		窯道具	不明	1/4残存	〔胎土〕にぶい灰褐色 7.5YR5/3 〔釉〕灰褐色 7.5YR5/2	〔胎土〕にぶい灰褐色 7.5YR5/3 〔釉〕灰褐色 7.5YR5/2	〔胎土〕灰褐色 5YR5/3 〔釉〕灰褐色 5YR5/2	外面ヨコナデ、上部砂目、胎 土目模様、内面工具後ヨコナ デ 耐土目の箇所は凹み有	外面ヨコナデ、上部砂目、胎 土目模様、内面工具後ヨコナ デ 耐土目の箇所は凹み有		19001507	
IV-47-9 包含層B		窯道具	不明	上部~下部 1/2残存	〔胎土〕灰褐色 8.0 〔釉〕灰褐色 8.0	〔胎土〕灰褐色 7.4 〔釉〕灰褐色 7.4	〔胎土〕灰褐色 2.5YR5/2 〔釉〕灰褐色 2.5YR5/2	内外面ヨコナデ、外面上部胎 土目模様 2ヶ所、施釉、内面 格子目当て具縫をナデ、露點	内外面ヨコナデ、外面上部胎 土目模様 2ヶ所、施釉、内面 格子目当て具縫をナデ、露點		19001511	
IV-47-10 包含層B		窯道具	円弧状ハマ	1/6 残存	〔胎土〕灰褐色 23.6 〔釉〕灰褐色 23.6	〔胎土〕灰褐色 24.6 〔釉〕灰褐色 24.6	〔胎土〕灰褐色 10R5/3 〔釉〕灰褐色 10R5/2	上面格子目タキ後ヨコナ デ、部分的に附着、側面同 軸ナデ、下面付着物有	上面格子目タキ後ヨコナ デ、部分的に附着、側面同 軸ナデ、下面付着物有		19001506	
IV-48-1 包含層C		陶器	大壺	口縁部 部残存	〔胎土〕灰褐色 46.4 〔釉〕灰褐色 46.4	〔胎土〕灰褐色 40.0 〔釉〕灰褐色 40.0	〔胎土〕灰褐色 10R4/4 〔釉〕灰褐色 10R6/2	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近格子目当て具縫をナデ	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近格子目当て具縫をナデ		19001598	
IV-48-2 包含層C		陶器	大壺	1/6~胸 部残存	〔胎土〕灰褐色 46.2 〔釉〕灰褐色 46.2	〔胎土〕灰褐色 40.0 〔釉〕灰褐色 40.0	〔胎土〕灰褐色 10R4/4 〔釉〕灰褐色 10R4/4	内外面回転ナデ、内面格子目 当て具縫をナデ	内外面回転ナデ、内面格子目 当て具縫をナデ		19001600	
IV-48-3 包含層C		陶器	大壺	口縁部 部残存	〔胎土〕灰褐色 46.1 〔釉〕灰褐色 46.1	〔胎土〕灰褐色 40.0 〔釉〕灰褐色 40.0	〔胎土〕灰褐色 10R4/4 〔釉〕灰褐色 10R4/4	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近巻回転ナデ?付着、格子目当て 具縫をナデ	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近巻回転ナデ?付着、格子目当て 具縫をナデ		19001597	
IV-48-4 包含層C		陶器	大壺	口縁部 部残存	〔胎土〕灰褐色 44.2 〔釉〕灰褐色 44.2	〔胎土〕灰褐色 38.0 〔釉〕灰褐色 38.0	〔胎土〕灰褐色 9.3 〔釉〕灰褐色 9.3	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近巻回転ナデ?付着、格子目当て 具縫をナデ	内外面回転ナデ、内面口縁部 付近巻回転ナデ?付着、格子目当て 具縫をナデ		19001599	
IV-48-5 包含層C		陶器	大壺	口縁部 部残存	〔胎土〕灰褐色 44.2 〔釉〕灰褐色 44.2	〔胎土〕灰褐色 38.0 〔釉〕灰褐色 38.0	〔胎土〕灰褐色 9.9 〔釉〕灰褐色 9.9	内外面ヨコナデ、外面上部輪 帶 2 条、内外面貼付突 起 2 条、外面上部輪	内外面ヨコナデ、外面上部輪 帶 2 条、内外面貼付突 起 2 条、外面上部輪		19001529	

表IV-45 遺物一覧表 (45)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径 外径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調		調整等特記事項	県道番号 登録番号
									(胎土) 陶器	(胎土) 陶器		
IV-48-6 包含層C		陶器	大甕	口縁部破片			(10.75) 灰赤	2.5YR4/2	内外面ヨコナデ、外面部付突 部2条、内面部後部拭取 りか、内外面施釉		1900.1530	
IV-48-7 包含層C		陶器	中甕	口縁部～ 底部1/2 残存底部 完形	(36.0)	(30.0)	20.5	46.7 (胎土) 陶器 に、5y、相 黒褐7.5YR3/2	内外面ヨコナデ、口縁部端部 の工具痕か? ヘラ彫き文字? 、付着物有、内面部後 タタキ、内外面施釉		1900.1254	
IV-48-8 包含層C		陶器	中甕	完形	38.0				(胎土) に、5y、赤褐色 黒褐7.5YR7/3	内外面回転ナデ、外面部2条繩 目文、沈線4条、打ち焼き による穿孔1ヶ所、底部ナデ、 内面部格子目タタキ後ナデ、黑 斑有、内外面施釉		1900.1256
IV-48-9 包含層C 第2トレンチ		陶器	中甕	口縁部～ 底部3/4 残存	31.1				(胎土) 陶器 に、5y、赤褐色 黒褐7.5YR3/3	内外面回転ナデ、外面部2条繩 目文、一部格子目タタキ後ナ デ、底盤工具ナデ、内面部格子 目当て具頸をナデ、内外面施 釉全体的に歪み有		1900.1250
IV-49-1 包含層C 第2トレンチ		陶器	中甕	元形	36.0	30.2	20.0	46.4 (胎土) 陶器 に、5y、赤褐色 黒褐5YR4/4	内外面回転ナデ、外面部2条繩 目文、カリメ?、断節ナデ、 内面部格子目当て具頸をナデ、 見込み部ナデ、内外面施釉		1900.1251	
IV-49-2 包含層C		陶器	中甕	口縁部 1/4欠損	35.5	29.2	19.9	45.7 (胎土) 陶器 に、5y、赤褐色 黒褐5YR4/4	内外面ヨコナデ、外面部 3条、格子目ナデ、 タナ後ナデ、施釉、 内面部格子目当て具頸、見込み 部ナデ		1900.1252	
IV-49-3 包含層C		陶器	中甕	口縁部 1/2～肩部 2/3残存	34.8	29.2	19.5	46.9 (胎土) 陶器 に、5y、赤褐色 黒褐2.5YR3/3	内外面回転ナデ、口縁部端部 の工具痕取りか、外 面ナデ、二条間目文、タタキ 上がり部にかけて格子目ナデ のタナ痕、施土付着、底 部ナデ、砂目紋、内面部 当て具頸をナデ、見込み部端 部		1900.1253	
IV-49-4 包含層C		陶器	中甕	口縁部 1/2～底 部完形	(34.7)	(29.2)	19.1	47.0 (胎土) 陶器 に、5y、相 黒褐10R4/4 赤褐色5YR7/3	内外面回転ナデ、外面部2条繩 目文、底部ナデ、砂目紋、内 面部格子目タタキ後ナデ、見込 み部ナデ、内外面施釉		1900.1618	

表IV-46 遺物一覧表 (46)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 [] 内径	底径	法量 (cm)	器高	色 調		調整等特記事項	県遺番号
									(胎土) 周赤褐色 2.5YR5/6 (釉) 深赤褐色 7.5YR5/2	(胎土) 周赤褐色 2.5YR5/6 (釉) 明赤褐色 5YR5/6		
IV-49-5 包含層C		陶器	中壺	觸盤～底部残存		21.9	(44.6)		外表面二条觸目文、沈陳4条、底部ナデ、足跡ナデ、見込み部ナデ		19001620	
IV-50-1 包含層C		陶器	中壺	完形	39.6	33.4	21.5	48.0	格子目タガ子文、沈縫8条、格子目タガ子文、底部ナデ、内面格子目当て具鉢ナデ、見込み部ナデ		19001255	
IV-50-2 包含層C		陶器	中壺	口環部 1/2 残存 底部完形	(33.3)		19.7	47.0	(胎土) 周赤褐色 5YR5/4 (釉) に5%赤褐色 2.5YR5/3	内外面ナデ、内面円形浮文1つ、沈縫6条、格子目タガ子文、底部ナデ、内面格子目当て具鉢ナデ、見込み部ナデ	19001155	
IV-50-3 包含層C	第2トレンチ	陶器	中壺	ほほ完形	41.1	33.9	20.5	47.4	(胎土) 周赤褐色 5YR5/4 (釉) に5%赤褐色 2.5YR4/1	内外面ナデ、内面円形浮文3つ、沈縫5条、格子目タガ子文、底部ナデ、内面格子目当て具鉢ナデ、見込み部ナデ、内面触輪	19001617	
IV-50-4 包含層C		陶器	中壺	完形	30.7		16.7	43.3	(胎土) 周赤褐色 10R4/6 (釉) 黄褐色 10YR7/6	内外面ナデ、格子目タガ子文、底部ナデ、内面触輪、外表面触輪、内面浮文、沈縫6条、底部ナデ、内面見込み部タガ子文、内外面触輪(部分的に自然輪)	19001619	
IV-51-1 包含層C		陶器	中壺	完形	28.1	22.2	15.4	35.1	(胎土) 周赤褐色 10R3/2 (釉) に5%黄褐色 10YR8/2	内外面ナデ、口輪端部露輪、底部ナデ、付着物有、内面ナデ、足跡ナデ、見込み部ナデ、内面触輪	19001458	
IV-51-2 包含層C		陶器	小壺	完形	19.4		15.4	30.6	(胎土) 周赤褐色 2.5YR6/8 (釉) 黄褐色 10YR7/8	内外面ナデ、内面格子目タガ子文、底部ナデ、内面格子目当て具鉢ナデ、粘土接合痕、見込み部ナデ、内外面触輪	19001595	
IV-51-3 包含層C		陶器	小壺	ほほ完形	19.3	15.1	14.9	29.0	(胎土) 周赤褐色 5YR3/4 (釉) 明黄褐色 2.5YR6/6	全体的に被熱、内外面ナデ、外面上工具に見込み部ナデ、底部ナデ、見込み部ナデ、内面触輪	19001461	

表IV-47 遺物一覧表 (47)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径]	底径	法量 (cm)	器高	色 調	調査等特記事項	県道番号
IV-51-4 包含層C		陶器	小壺	ほぼ完形	17.1	13.5	(14.3)	29.2	(胎土) 噴赤褐色 2.5YR3/4 (釉) 明黄褐 2.5 Y 7/6	内外面ヨコナデ、外面ハケ抜 工具によるナデ、格子目タタ キ痕後ハケ抜工具によるナ デ、底部ナデ、内面格子目当 て具痕、見込み部工具ナデ、 内面施釉	19001460
IV-51-5 包含層C		陶器	小壺	完形	16.0	12.0	11.8	25.4	(胎土) 噴赤褐色 10R5/4 (釉) 墨 2.5Y8/1 噴赤褐色 10R3/2 喷赤褐色 10R4/1	内外面回転ナデ、底部ナデ、外面自然 釉、内面格子目当て具痕、見 込み部ナデ	19001247
IV-51-6 包含層C		陶器	小壺	完形	14.9	11.2	12.6	22.8	(胎土) 噴赤褐色 2.5YR3/4 にぶい赤褐色 5YR5/3	内外面回転ナデ、タタキ後ナ デ、外面見込み部銀ナデ、内外 面施釉、外面部分的に自然釉 付着か	19001596
IV-51-7 包含層C		陶器	極小壺	口縁部～ 底部 1/2 残存	12.4	9.3	12.1	16.2	(胎土) 淡黄 2.5Y7/3	内外面ヨコナデ、外面洗浄 2 各、底部ナデ、外面ヨコナデ 後格子目当て具痕、見込み部 ナデ、一部露断、内面施釉	19001459
IV-51-8 包含層C		陶器	三耳壺	完形	13.5		15.2	33.3	(胎土) 噴赤褐色 2.5YR3/6 暗青色 5B1/1 黑褐色 7.5TR4/2	内外面回転ナデ、底部ナデ、露 出物有、内面格子目当て 器具回転ナデ、付着物有、内 面施釉	19001248
IV-51-9 包含層C		陶器	三耳壺	完形	12.6		13.4	32.0	(胎土) 黒褐色 7.5YR3/1 黑褐色 7.5TR3/2	口縁部～肩にかけて大きくな み有	19001246
IV-51-10 包含層C		陶器	三耳壺	口縁部 1/6～胴 部残存	(15.1)	(12.0)	(11.6)	(1.6)	(胎土) 噴赤褐色 2.5YR3/3 黑褐色 7.5TR3/2	内外面回転ナデ、外面耳 1つ、 底部付着物有（被焼により變 化した断土日わ）、ナデ、内 面施釉	19001533
IV-51-11 包含層C		陶器	三耳壺	口縁部 1/4～胴 部	(12.5)	(9.4)	(11.0)	(1.6)	(胎土) 噴赤褐色 2.5YR4/1 (釉) 墨 5YR3/2	内外面回転ナデ、外面耳 1つ、 内面當て具痕後ナデ、内面 施釉	19001532

表IV-48 遺物一覧表 (48)

測定番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径径 〔内径〕	底径	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
N-51-12 包含層C		陶器	三耳壺	口縁部 3/4 ~ 脚 部残存	(11.5)	(8.0)	(5.5)	(脚) 噴赤褐色 10R3/2 (釉) 噴赤褐色 10R4/1	内外面回転ナデ、外面 つ(1)は欠損、内面當て具 痕後合張、内外 面施釉	19001534	
N-52-1 包含層C		陶器	壺	ほぼ完形 口縁部 2/3欠損	(7.2)	14.2	30.6	(脚) 黄灰 2.5Y4/1 に(5) 噴赤褐色 10R4/3 (釉) 噴赤褐色 10R3/1	内外面回転ナデ後ナデ、外面 カキメ、底部ナデ、露點、一 部輪留まり、内面較り塗、内 外面施釉	19001249	
N-52-2 包含層C		陶器	鉢	脚部~底 部1/3残 存		(11.5)	(4.5)	(脚) 黄灰 10YR6/2 (釉) 黄灰 3Y8/1 に(5) 噴赤褐色 5Y6/2 ナメ	内外面回転ナデ、外面高台内 削り、内面施釉	19001535	
N-52-3 包含層C	黒漆村	トシハイ		完形	長さ 24.4	幅 15.9	厚さ 8.8	(脚) 黄灰 3Y7/3 (釉) 黄灰 3Y7/3	調整不明瞭、裏面側面自然釉、 裏面砂目肌、凹凸有	19001537	
N-52-4 包含層C	黒道具	楕円ハマ		完形	長さ 18.2	幅 10.9	厚さ 10.3	(脚) 黄灰 2.5YR4/8	全体ナデ、施然	19001536	
N-52-5 包含層C	石製品	臼白	臼白 1/8 残存 (17.5)			(脚) 黄灰 2.5YR6/3 (釉) 黄灰 2.5TR5/2	上面工具による彫り目、下面 削り、端部欠損	19001531			
N-53-1 包含層D		陶器	中壺	ほぼ完形	34.8	(28.0)	19.5	(脚) 黄灰 2.5YR5/3 に(5) 噴赤褐色 2.5TR3/1	内外面回転ナデ、格子目タ キ半後ナデ、口縁端部露胎、 外表面2条綱目、沈縫4条、 底部ナデ、砂付音。施土目1 つ、施土目痕ケ所(合計5 つの施土目・施土目組)、見 込み部ナデ、内外面施釉	19001933	
N-53-2 包含層D	壁出土	陶器	中壺	完形	30.4	22.4	17.0	38.1	(脚) 黄赤褐色 2.5YR3/4 灰褐色 7.5TR4/2	内外面回転ナデ、口縁端部露胎、 外表面形浮文、沈縫12条、 底部ナデ、前面右目当て具 痕をナデ、見込み部ナデ、内 外面施釉	19001934
N-53-3 包含層D		陶器	小壺	ほぼ完形		26.8	14.1	30.5 32.9付 前物含 む	前面燒き斑、外表面カキメ? 後 ナデ、底部ナデ、付着物有、内 面格子目タマギナデ、内 外面施釉 (部分的に自然釉) 「輪部」の添み大	19001936	

表IV-49 遺物一覧表 (49)

検出番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [内径] 厚径	法量 (cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
N-53-4 包含層D	陶器	小壺	ほぼ完形 底盤一部欠損	20.5	15.0	15.0	28.6	(胎土) に茶・赤褐色	口縁端部露 胎、砂付着 半丸、輪郭付 子目タタキ 内面格子目当 見込み部ナデ、 内外面施 釉	内外面回転ナデ、 外面格子目タタ キ丸、輪郭付 子目タタキ 内面格子目当 見込み部ナデ、 内外面施 釉	19001931
N-53-5 包含層D	陶器	小壺	完形	18.1			24.9	(胎土) 赤褐色	口縁端部露 胎、砂付着 半丸、輪郭付 子目タタキ 内面格子目当 見込み部ナデ、 内外面施 釉	内外面回転ナデ、 重ね焼き痕(砂付着) 格子目タタキ 内面格子目当 見込み部ナデ、 内外面施 釉	19001932
N-53-6 包含層D	陶器	擂鉢(高台 付・低 質仔)	口縁部～ 底盤1/4 質仔	(33.2)		(1.48)	11.65	(釉) 赤褐色 黒褐色 褐灰	口縁端部付 着物有、 内面回転ナデ 砂付着、 内面施釉	内外面回転ナデ、 口縁端部付 着物有、 内面回転ナデ 砂付着、 内面施釉	19001549
N-53-7 包含層D	陶器	擂鉢(高台 付・低 質仔)	口縁部 1/10 - 腹 部1/5～ 底盤1/4 質仔	(35.2)		(1.80)	12.0	(釉) 明赤褐色	口縁端部付 着目、重ね焼き痕(砂付 着)、内外面施 釉	内外面回転ナデ、 口縁端部付 着、底部 砂付着、 内面施釉	19001538
N-54-1 包含層D	陶器	皿	底盤完形				6.4	(2.1) 淡黄	外面高台部 露筋、高台端部一部 内面施釉	外面高台部 露筋、高台端部一部 内面施釉	19001550
N-54-2 包含層D	陶器	碗	輪郭～胸 部1/5 残 存			(4.4)	(2.5)	(釉) 淡黄褐色	口縫剥離	口縫剥離	19001556
N-54-3 包含層D	陶器	碗	底盤～胸 部1/5 残 存			(4.5)	(2.0)	(釉) 淡黄褐色	口縫剥離 内面草花文様 (買入有)	口縫剥離 内面草花文様 (買入有)	19001546
N-54-4 包含層D	陶器	皿	見込み部 分破片				(1.4)	(釉) 淡黄褐色	内外面回転ナデ、 外面高台部 露筋、内面施 釉	内外面回転ナデ、 外面高台部 露筋、内面施 釉	19001553
N-54-5 包含層D	陶器	皿	輪郭～底 部1/5			(11.2)	(2.5)	(釉) 淡黄褐色	内外面施 釉	内外面回転ナデ、 内面見込み部に文様	19001543

表IV-50 遺物一覧表(50)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径外径 [口内径] 厚さ	法量(cm)	器高	〔胎土〕焼成焼 10YR 8/4 (釉) 烧成焼 10YR6/2	〔胎土〕	〔釉〕	調整等特記事項	県遺番号 登録番号
									〔胎土〕	〔釉〕		
N-54-6 包含層D	陶器	三	口縁部1/4～腹部1/2残存	(19.2)	7.0	5.0	(7.6)	〔胎土〕陶系焼 3YR3/3 (釉) 陶系焼 3YR4/2	内外面凹凸ナデ、外面赤褐色露出し、内面赤褐色露出し、内面施釉	19001540		
N-54-7 包含層D	陶器	鉢	口縁部1/4～腹部1/2残存	(35.2)	(30.5)			〔胎土〕陶系焼 3YR3/3 (釉) 陶系焼 3YR4/2	内外面凹凸ナデ、外面赤褐色露出し、内面赤褐色露出し、内面施釉 条、具痕の一部ナデ、内面格子目	19001555		
N-54-8 包含層D	陶器	甕	口縁部1/4～腹部1/6残存	(18.0)	(13.6)	(9.4)		〔胎土〕灰褐色 5YR3/1 (釉) 黑褐色 5YR3/1	口縁端部付 耳は完形時3つか 着物有、外面部タキナデ、内面部タキナデ、内面格子目タキナデ 露出し、内面格子目タキナデ、施釉	19001539		
N-54-9 包含層D	陶器	不明	口縁部1/4残存	(12.2)		(10.2)		〔胎土〕灰褐色 10YR5/2 (釉) 黑褐色 10YR3/2	内外面凹凸ナデ、外面貼付突 帶1条、内外面施釉	19001542		
N-54-10 包含層D	陶器	不明、底部	底部～胴部1/6残存			(12.0)	(3.1)	〔胎土〕灰褐色 10YR5/3 (釉) に5S、黄褐色 10YR7/3	〔胎土〕に5S、施釉 内外面ヨココナデ、外面部タキナデ、内面部タキナデ、輪葉の飛 切りか、施釉 見込み部凹凸ナデ、輪葉の飛 び散り?	19001548		
N-54-11 包含層D	陶器	不明、口縁部	口縁部破片			(1.0)		〔胎土〕灰褐色 3YR5/2 灰褐色 5YR5/1 灰褐色 5YR6/2	内外面ヨココナデ	19001545		
N-55-1 包含層D	陶器	軒平瓦	瓦割1/3残存	長さ4.4	幅(6.3) 厚さ1.7 幅(6.3) 厚さ1.5			〔胎土〕陶系焼 2.5YR5/8 〔胎土〕に5S、黄褐色 2.5YR2/2 〔胎土〕に5S、黄褐色 2.5YR6/4	上面ナデ、上面及当削施釉、 瓦当部唐草文、剥離有、下部 ナデ、ナデ後ハケヌ、付着物 有、鋼胎	19001554		
N-55-2 包含層D	陶器	平瓦	破片	長さ(11.0)	幅(7.0) 厚さ1.5			〔胎土〕陶系焼 2.5YR5/3 〔胎土〕に5S、黄褐色 2.5YR6/8 〔胎土〕に5S、陶系焼 2.5YR4/3	露胎部1重なナデ、 裏面タテ方向のハケヌ、ヨコ 方向のハケヌ 瓦当部唐草文、剥離有、下部 ナデ、ナデ後ハケヌ、付着物 有、鋼胎	19001547		
N-55-3 包含層D	窓道具	円弧状ハサマ	1/4残存	長さ14.5	幅6.3 厚さ2.2 幅5.7TR1.71			〔胎土〕陶系焼 2.5YR6/8 〔胎土〕陶系焼 2.5YR6/6	上面ナデ、胎土目韋、側面凹 転ナデ、下面タキナデ 後ナデ	19001551		
N-55-4 包含層D	窓道具	円弧状ハサマ	1/4残存	長さ(13.1)	幅3.6 厚さ1.2 幅2.5YR1.5			〔胎土〕陶系焼 2.5YR6/8 〔胎土〕陶系焼 2.5YR6/6	全体回転ナデ、自然釉、上面 部分的に炒付有 裏面タテ方向のハケヌ、ヨコ 方向のハケヌ	19001552		
N-55-5 包含層D	窓道具	円弧状ハサマ	1/5残存	(10.0)	(10.0) 11.1			〔胎土〕陶 2.5YR6/6	上面重ね焼き痕、側面指圧痕、 全体回転ナデ	19001541		
N-55-6 包含層D	窓道具	不明	脚部～底部ほぼ完形		3.7 (5.7)			〔胎土〕に5S、灰褐色 2.5YR8/2 灰白 2.5YR8/1	外面部斜ナデ? (一部剥離) 粘土難き痕、内面ヨコナデ	19001544		

表IV-51 遺物一覧表 (51)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径 〔外径× 〔内径〕〕	底径	法量(cm)	器高	色　調	調整等特記事項	県遺番号	登録番号
IV-56-1 8室・9 室西側作 業段	陶器	中壺	口縁部 1/6-肩 部-胴部 2/5-底部 1/10	(41.8)	(36.8) (23.4)	47.0	(輪) 既述 10YR8/2 灰素 2.5YR4/2 暗赤褐 7.5R3/2	(胎土) 塗赤褐色 10R4/3	内外面同赤ナデ、外面二条綻 目文。沈縫 5条後ナデ、底部綻物、瓶状頸、輪状物(轍等) の痕か、付着物(新子目タ キがした痕跡有)、新子目タ キ後ナデ、内外面施釉、外 面輪だけれど	19001927		
IV-56-2 8室・9 室西側作 業段	陶器	中壺	口縁部 1/2-底部 1/2残存	(35.4)	(17.6)	46.8	(胎土) 塗赤褐色 2.5YR8/4 明黄褐 2.5Y7/6	(胎土) 塗赤褐色 10R4/4 に、5号赤褐 2.5YR4/4 に、5号赤褐 2.5TR4/3	内外面ナデ、格子目タキ後 ナデ、底部付着物、内面ハ ケ工具後ナデ、格子目タ キ後ナデ、内外面施釉(部分的に自然釉) 口縁部の歪み大	19001928		
IV-56-3 7室西側 作業段	陶器	中壺	3/4残存	(35.8)	(30.0)	23.7	44.7	(胎土) 塗赤褐色 10R4/4 に、5号赤褐 2.5YR2/2	内外面ヨココナデ、外面一一条綻 目文、底部ナデ、内面格子目 コナデ	19001462		
IV-56-4 8室・9 室西側作 業段	陶器	中壺	口縁部 1/2-底部 1/2残存	(33.6)	(28.0)	(38.2)	(輪) 検出赤褐色 5YR2/2 に、5号赤褐 5YR4/3	(胎土) 塗赤褐色 2.5YR2/2 に、5号赤褐 5YR4/3	内外面ヨココナデ、外面二条綻 目文。工具による成形後ナデ、 内面同心円文のタキ後 ナデ、窓沿、内外面施釉	19001929		
IV-56-5 C4 作業 段	陶器	中壺	口縁部- 底部 1/2 以上残存	36.5	20.8	45.8	(輪) 検出赤褐色 2.5YR2/3 黃褐 10YR	(胎土) 塗赤褐色 10R3/4	内外面ナデ、内外面施釉(部分的に自然釉) カキメ?後ナデ、沈縫 12条、 底部ナデ、内面格子目 ナデ、窓沿、内外面施釉	19001621		
IV-56-6 C4 作業 段	陶器	中壺	胴部-底 部 2/3 残 存部完形		19.6	(43.5)	(輪) 塗赤褐色 7.5R5/3 に、5号赤褐色 2.5R4/3	(胎土) 塗赤褐色 7.5R5/3 沈縫 3条、底筒ナデ、付着 物(轍目) に、5号赤褐色 2.5R4/3	内外面同赤ナデ、印形浮文3つ、 沈縫 3条、底筒ナデ、付着 物(轍目) に、5号赤褐色 2.5R4/3	19001557		
IV-57-1 C4 作業 段	陶器	中壺	完形	34.0	18.4	40.7	(輪) 塗赤褐色 5YR3/3 輪端赤褐色 2.5YR2/3	(胎土) 塗赤褐色 2.5YR4/6 既述 2.5YR4/6	内外面ヨココナデ、口縁端部輪 端、外面印形浮文 3つ、沈 縫 5条、格子目タキ後ナデ、 底部ナデ、内外面施釉、外 面輪だけれど	19001925		
IV-57-2 8室西側 作業段	陶器	中壺	口縁部 1/2-底部 1/2残存	(36.4)	(31.0)	(18.3)	(輪) 赤褐色 5R5/1 赤褐 7.5R4/2	(胎土) 塗赤褐色 10R3/3 既述 N4 既述 6条、内面格子目タキ後ナデ	内外面同赤ナデ、外面印形浮 文、沈縫 6条、内面格子目タ キ後ナデ	19001558		

表IV-52 遺物一覧表 (52)

排列番号	遺物名	種別	器種	残存率	口径 〔外径× 〔内径〕	法量(cm)	器高	色 調	調整等特記事項	県遺番号
IV-57.3	7室西側 作業段	陶器	中壺	口縁部 1/3-底部 完形	(25.8) (21.0)	20.5	39.9	(脂土)赤褐色 10R3/3 (釉)赤褐色 10R4/3	内外面回転ナデ、口縁端削落 胎、外面貼花文、赤褐色子目当て具 底部ナデ、内面格子目当て具 頸をナデ、見込み部工具によ るナデ、内外面施釉	19001926
IV-57.4	8室・9 室西側作 業段	陶器	中壺	口縁部 1/2-底部 1/2残存	(14.4) (10.4)	14.8	32.75	(脂土)赤褐色 7.5R5/1 赤褐色 7.5R4/2	内外面回転ナデ、外面回転ナ 子後カキメ、下方露胎、底部 ナデ、蓋跡、内面格子目タダ キ、指爪痕、見込み部ナデ、 内外面施釉	19001559
IV-57.5	表土除去 時	陶器	小壺	完形	19.0	1.38	26.9付	(釉)褐7.5YR4/3 着物あ り不明 黒7.5YR3/3 口縁部 破	外面回転ナデ、口縁端削落 付着、外面一部格子目タダキ 後ナデ、底部全面付着物有、内 面格子目タダキ後ナデ、 内外面施釉	19001463
IV-57.6	表土除去 時	陶器	極小壺	完形	12.0	9.4	11.6	16.2 (釉)明赤褐色 5YR3/2	内外面回転ナデ、外面タタキ 後ナデ、工具類、底部ナデ、 付着物2ヶ所有、内面格子 目タダキ、見込み部回転ナデ、 内外面施釉	19001464
IV-57.7	C2落ち 込み内	陶器	極小壺	完形	11.1	11.0	14.4	(脂土)に赤褐色 2.5YR5/3 に赤褐色 2.5YR5/4	内外面回転ナデ、見込み部 化ナデ、見込み部格子目当て 具類、ナデ、内外面施釉	19001560

V. 総括

1. 窯の変遷

(1) 窯跡変遷の概要

本窯跡は階段状連房式登窯であり、焼成室名を窯尻から 1 室、2 室、3 室・・と呼称した。胴木間およびその上方の焼成室は調査区外にのびており、発掘調査で確認したのは 1 室から 13 室の一部である。焼成室の出入口は胴木間側からみて、左側に設けられ、焼成室出入口のさらに左側は、丘陵の地山を階段状に整形し、平坦な区画を造り出しており、製品の窯入れ、窯出し時の作業場と思われる空間を作り出していた。

1 室から 7 室では側壁の改修はみられず、焼成室の砂床が複数面、確認できたため第 1 面（上面）、第 2 面（下面）と呼称した。また、8 室から 12 室は両側壁を改修し、焼成室の幅を縮小しており、さらに 9 室と 10 室は焼成室から胴木間に改築することにより、窯の焼成室数も縮小させるなどの変遷がみられた。個々の焼成室ごとの調査所見は第 III 章に記すが、本項では窯跡の変遷について述べる。

(2) 変遷の画期

前述のとおり窯跡の変遷を考えるに重要な観点は、8 室から 12 室は両側壁を改修し、焼成室の幅を縮小しており、さらに 9 室と 10 室は焼成室から胴木間に改築することにより、窯の焼成室数も縮小させるなどの変遷がみられたことである。また、窯尻である 1 室と 2 室～12 室の焼成室の主軸が大きく異なるが、このことが窯の変遷とどのように関わるかは問題である。さらに、8 室床面のさらに下層から胴木間と思われるような平面三角形の掘り込みを確認したため、根拠に乏しいが 0 期とした。以下、各画期について記し、図 V-1 にその変遷を示す。

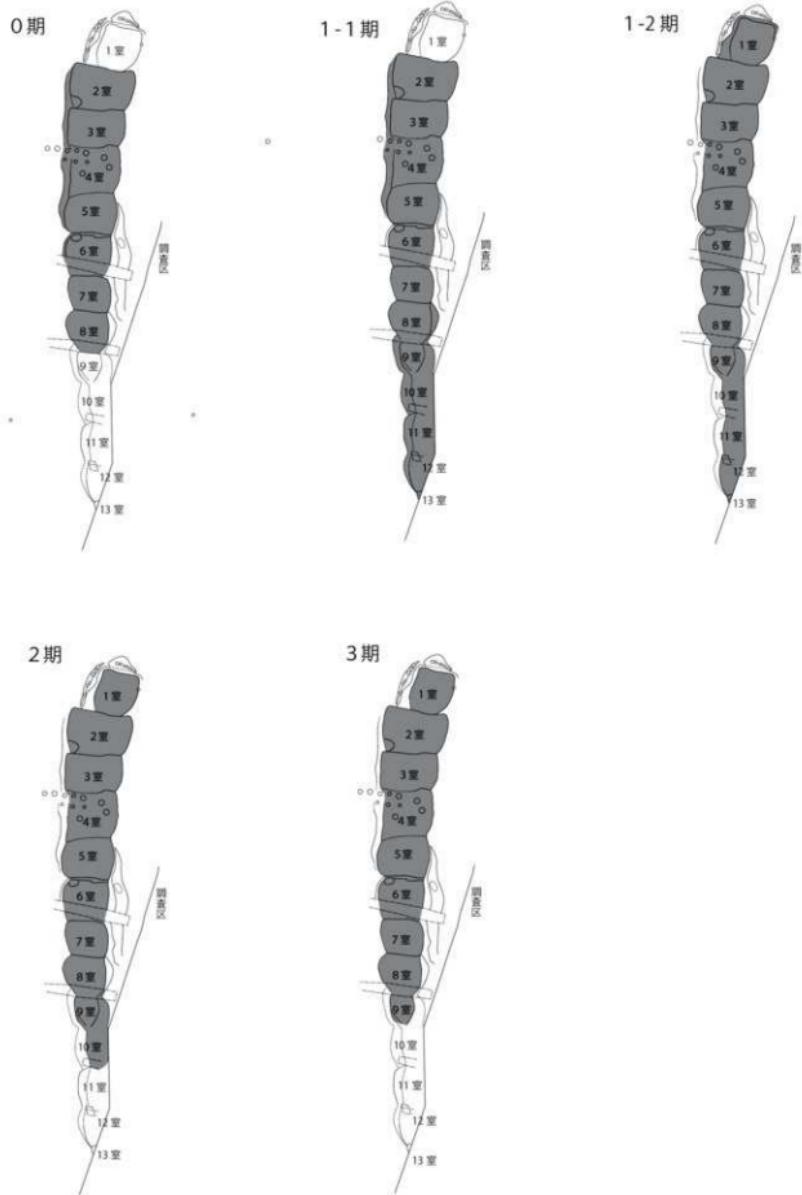
0 期

8 室を胴木間として、2 室あるいは 1 室までの時期である。8 室は両側壁の改修がみられ、これを 1 段階と 2 段階と呼称した。2 段階の床面のさらに下層から平面三角形の胴木間らしき掘り込みと火床よりに被熱部を検出した。明確な床面や壁面、焚口は確認できなかったが、胴木間の可能性があるため本期を 0 期とした。1 室の主軸は 2 室～8 室の主軸から北東へ約 12 度振れ、焼成室の最大幅が 2 室より、2.4m 狹い。これらのことから 2 室～8 室の築窯後の 1 期以後に、1 室を継ぎ足したとも考えられ、0 期の段階では 2 室～8 室だった可能性がある。いずれにせよ、調査所見等根拠に乏しいため 0 期とする。

1 期

未調査ではあるが胴木間が調査区外にある段階である。地形的にみて、胴木間から 13 室の間に 1 室～2 室の焼成室があったと仮定すれば、最大 15 室と胴木間からなる。1 室と 2 室～12 室の主軸が異なることから、当初は 2 室～13 室 + 焼成室、胴木間であったと思われ、この時期を 1-1 期とする。

次に、1 室を継ぎ足して、1 室～13 室 + 焼成室と胴木間からなる時期を 1-2 期とする。1 室～7 室では各焼成室の床面は 1 面（上面）と 2 面（下面）が確認でき、両側壁の改修はみられなかった。8 室～12 室は各焼成室の両側壁を改修し、焼成室の幅を縮小しており、1 期のなかでの窯体の縮小化がみられる。また、各焼成室の改修にあたり、床面（砂床）は奥壁側をかさ上げし、火床側を削平する傾向があり、床面の傾斜角度をより大きくする傾向がみられた。



図V-1 窯跡変遷図

因みに、1室～3室では碗や高台付皿、高台付鉢などの灰釉陶器を焼成しており、そのための窯道具であるトチンやハマなども出土している。4室～13室の焼成品が甕や擂鉢などの陶器類であることと対照的であり、1室を追加して築くのは、灰釉陶器群の需要に応じた結果ではないだろうか。

2期

10室を胴木間に改修し、1室～9室を焼成室とする時期である。1期から少なくとも3室以上の焼成室を減じ、窯体を縮小させている。

各焼成室の両側壁を改修し、焼成室の幅を縮小しており、この工程を段階と称した。10室では1段階、2段階、3段階と3つの段階があり、このうち1段階の焼成室の床面は浅黄色シルト層で、被熱によりしまっており、平面形が三角形に近いことからも胴木間と判断した。

3期

9室を胴木間に改修し、1室～8室を焼成室とする時期である。2期から1室分、焼成室を減じている。9室では1段階、2段階、3段階と3つの段階があり、1段階は胴木間に改修される。全体奥行は2.9m、最大幅は2.6m、床面傾斜角度は10.83°であり、平面形は、側壁が胴張り状の逆三角形である。焚口部の幅は0.9mで、左右に立石を配する。焚口左側の立石は長さ0.75m、厚さ0.4mの平面不整形の石材を横置きする。焚口右側の立石は長さ0.8m、幅0.35mの石材を立て、3石の石材を裏込め状に配する。

(3)まとめ 一再び1室の追室時期について

1室と2室～12室の主軸が異なることについて、1期の中で追加されたと前述したが、別案もあることを述べる。まず、1室～3室では碗や高台付皿、高台付鉢などの灰釉陶器を焼成しており、そのための窯道具であるトチンやハマなども出土したが、これは、本窯の廃窯直前の状況であり、灰釉陶器を2期の段階で焼成していたかどうかは不明である。1室～3室の北西側は丘陵斜面であり、物原が形成されており、包含層Cがそれに該当する。包含層C出土遺物を図IV-48～図IV-52に掲載する。大甕、中甕、小甕、極小甕、三耳壺、瓶、鉢がみられ、灰釉陶器はみられない。このことから本窯の操業開始期から2期の頃までは、甕や壺などの陶器類を焼成していた可能性が高く、3期の段階に1室を追窯して灰釉陶器を焼成した可能性もある。すなわち、1期、2期では1室は無く、3期に1室を築室したという変遷案も考えられるが、これ以上の実証ができないために、可能性を述べるにとどめる。

本窯の変遷よりむしろ、灰釉陶器には京焼風陶器や呉器手碗などがみられることが重要で、伊万里市脇田町の窯でこのような灰釉陶器の焼成が開始された時期を探る意味で重要なと考える。

本窯では0期の8室の胴木間を含めて、3つの焼成室で胴木間への改修がみられたが、この9室の胴木間改修は焚口など明瞭に遺存しており、窯跡の縮小化が判った。また、1室～3室で灰釉陶器を焼成しているが、このために1室を追室している可能性が高いことを付記する。

2. 古瓶屋下窯跡出土品の器種分類

古瓶屋下窯跡出土品には甕や擂鉢などの焼成品や窯道具のほかに少量ではあるが窯部材や窯の操業時あるいは廃窯後に持ち込まれたと思われる陶磁器片が出土している。出土品の大半は焼成品と窯道具であるが、これらは本窯跡の時期や製品の流通及びその歴史的意義を考える上で重要な資料である。本項では焼成品と窯道具の器種分類をおこない、今後の研究のための基礎資料としたい。図V-3～図V-5に器種分類を掲載するが、焼成品と窯道具には形式設定できるほどの量が出土していない器種や形式もあり、すべてを分類できなかったが、本窯焼成品、窯道具の大半の傾向を示した器種分類である。

(1) 焼成品

焼成品には陶器、灰釉陶器、建築部材があり、以下種別ごとに記す。陶器には甕、擂鉢、瓶、三耳壺、皿、鉢がある。

甕は器形や胴部の施文などと法量により大甕、中甕、小甕、極小甕に分類した。図V-2は甕の法量分布図である。大甕は口縁部破片が6点のみの出土で、器高等は計測できなかった。中甕は小甕や極小甕に比べて口径の法量差が大きいが、体部外面に後述するような共通した施文をほどこすため分類は明瞭である。中甕と小甕の器高で数cmの重なりがあるが、口径では分類できる。小甕と極小甕の口径で数cmの重なりが見られるが、器高では分類ができる。この法量分布図をもとに、各形式の法量を以下のように求めた。

大甕は口縁部破片のみで全器形がわかるものは出土していない。口径は45cm以上で、口縁部は袋状に内湾し、口頸部外面に二条の突帯をまわすA類と突帯を回さないB類がある。A類、B類ともに類例が武雄市西川登町小田志の甕屋窯跡1号、2号、3号、4号窯跡や同市東川登町袴野の甕屋窯跡から出土している。

中甕は口径23cm以上～45cm未満、器高30cm以上～51cm未満である。A類はナデ肩で、外面の施文で細分できる。A-1類は肩部外面に二条の縄状突帯とその下位に数条～多条の沈線を回す。A-2類は肩部に貼花文を貼り付ける。さらに数条～多条の沈線を回す個体もある。この他、円形浮文（ボタン文）を貼り付けるものもあるが、細分及び図示していない。B類は肩部で屈曲し、胸部上半部に指頭圧痕を施す。B類は個体数も少なく、全器形がわかるものは出土していない。

小甕は口径13cm以上～23cm未満、器高19cm以上～33cm未満とした。A類はナデ肩で、外面に施文はない。B類の体部は円筒形で、個体数は少ない。

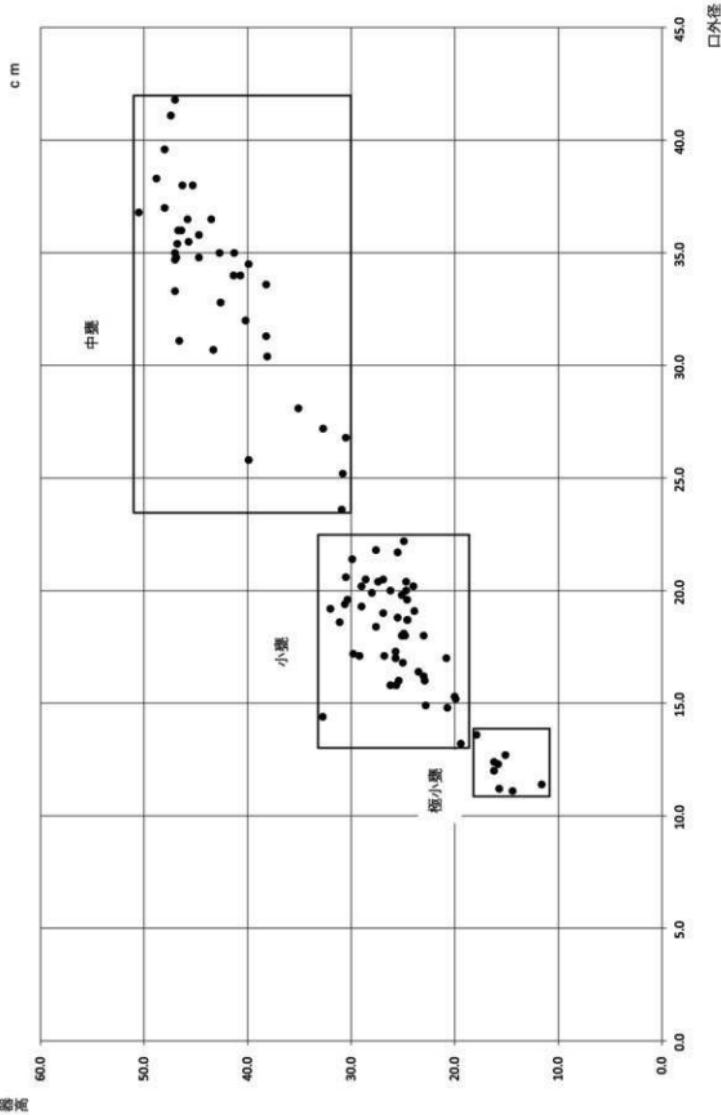
極小甕は口径11cm以上～14cm未満、器高11cm以上～19cm未満である。肩部に二条の沈線を回し、体部全面にヨコハケを施す。

擂鉢は底部形態で、平底のA類、高い高台が付いたB類、低い高台が付いたC類の3つに分類したが、これらはタタキ成形で、全面に鉄釉を施釉し、内面擂目の上端はナデ消しされる。口縁部は外反し、端部は丸味をもつ。口縁部下に断面三角形の突帯を回す。高台はB類、C類とも体部下半に、ハの字形に貼り付ける。

瓶はA類、B類、注口付瓶、尿瓶がある。A類は口頸部が太く、肩が張る。B類は口頸部が細く、なで肩である。注口付瓶は瓶A類の肩部に上方を向いた注口を付ける。尿瓶は肩部に円孔を穿ち、注口とする。体部の頂部に中空の把手をつける。

三耳壺の口縁部は逆L字形で、肩が張り、三方に粘土帶を貼り付け耳部とする。

皿は灰釉陶器、磁器、陶器があり、灰釉陶器の皿の分類は後述する。磁器の皿は数点が破片で出土し



大甕		
A 類	B 類	
中甕		
A-1 類	A-2 類	B 類
小甕		
A 類	B 類	極小甕

圖 V -3 器種分類 1

擂鉢		
A類（平底）	B類（高台付・高）	C類（高台付・低）
瓶		
A類	B類	注口付瓶
瓶	三耳壺	皿 A類
尿瓶		
皿 B類		
鉢		

図V-4 器種分類2

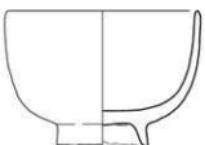
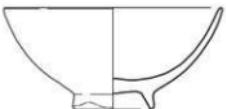
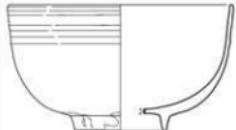
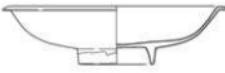
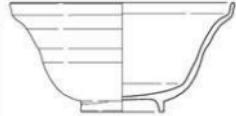
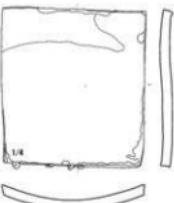
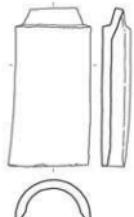
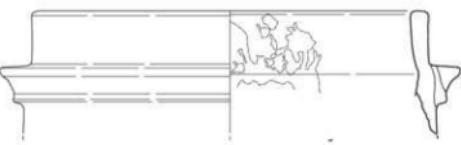
灰釉陶器		
碗 A 類	碗 B 類	大碗
		
高台付皿 A 類	高台付皿 B 類	高台付鉢
		
建築部材		
平瓦	軒平瓦	丸瓦
		
土管		
		

圖 V -5 器種分類 3

ているため、分類にはいたらない。陶器の皿も10点以下の出土であるが、A類とB類がある。A類は高台付きで、口縁部は逆L字形で、胴部中位で屈曲する。B類は高台付きで、口縁部は外方にひらき、端部は上方に跳ね上げる。胴部は内湾気味である。

鉢は灰釉陶器、陶器があり、灰釉陶器の皿の分類は後述する。陶器の鉢は約10点が出土しているが、破片のみである。断面逆台形の高台が付いた鉢である。

灰釉陶器は碗、大碗、高台付皿、高台付鉢がある。碗はA類、B類とも高台付で、A類の口縁部は上方に立ち上がる。B類は胴部が若干内湾気味で、口縁部は外側上方に開く。大碗の出土量は少ない。口径約20cm、器高11cmで、体部下半は内湾し、口縁部は上方に立ち上がる。

高台付皿はA類、B類がある。A類の高台内の高さは5mm～10mmで、口縁部は短く外反する。内面見込みに蛇の目釉剥ぎ状にオレンジ色の砂目らしき粉末を塗布する。B類の高台内の高さは約40mmで胴部から口縁部にかけて若干内湾気味に外方に開き、山水文を描いた高台付皿が2点出土している。この山水文は九州陶磁文化館蔵の呉須絵山水文瓶の絵柄が退化したものである。九州陶磁文化館蔵の呉須絵山水文瓶は底部に清水の刻印があり、京焼風陶器の代表例されておりのB類は京焼風陶器の退化形式と位置づけられる。

高台付鉢は胴部上半がわずかに外反し、口縁部で屈曲し、短く上方にのびる。

建築部材は瓦と土管がある。瓦は陶器瓦で平瓦、軒平瓦、丸瓦がある。平瓦の裏面全面にハケを施す。軒平瓦は瓦当に唐草文を施す。丸瓦は1点の出土である。裏面に布目痕が残る。

土管は破片のみ少量の出土であり、正確には土管状製品と呼称した方がいいかもしれない。端部の約4.5cm下方外面に有段の突帯を回す。

(2) 窯道具

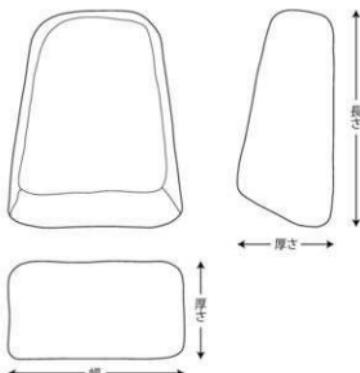
窯道具にはトチン、ハマ、チャツ、円筒形焼台、胎土目と器種不明品がある。図V-8、図V-9に窯道具の分類図を掲載する。

トチンはA類、B類、C類がある。A類は台部と底部が外方に開き、器高は約25cm～約12cmと法量差がみられる。B類は台部が外方に開き、胴部から底部にかけて緩やかに外反する。C類は台部が外方に開き、胴部中位でくびれ、胴部下半で屈曲し、底部は若干外方に開く。底部内面は削り込む。C類はナンキンやシノとよばれることもある。

逆台形ハマはA類、B類、C類、D類がある。A類とB類は胴部中位で屈曲したのち外方に開き台部とする。A類は器高約4cm、B類は器高約5cmである。C類は底部を削り込み上げ底とする。D類は平らな底部から垂直に立ち上がり、台部は水平に広がる。底部は回転糸切りである。

円盤状ハマは径約6cm～7cm、厚さ約1cmの円板である。

クサビ形ハマは平面が長い台形で、断面が三角形のクサビ形である。図V-6と図V-7にクサビ形ハマの計測値凡例と長さと厚さの法量分布図を示す。長さ



図V-6 模形ハマ計測値凡例

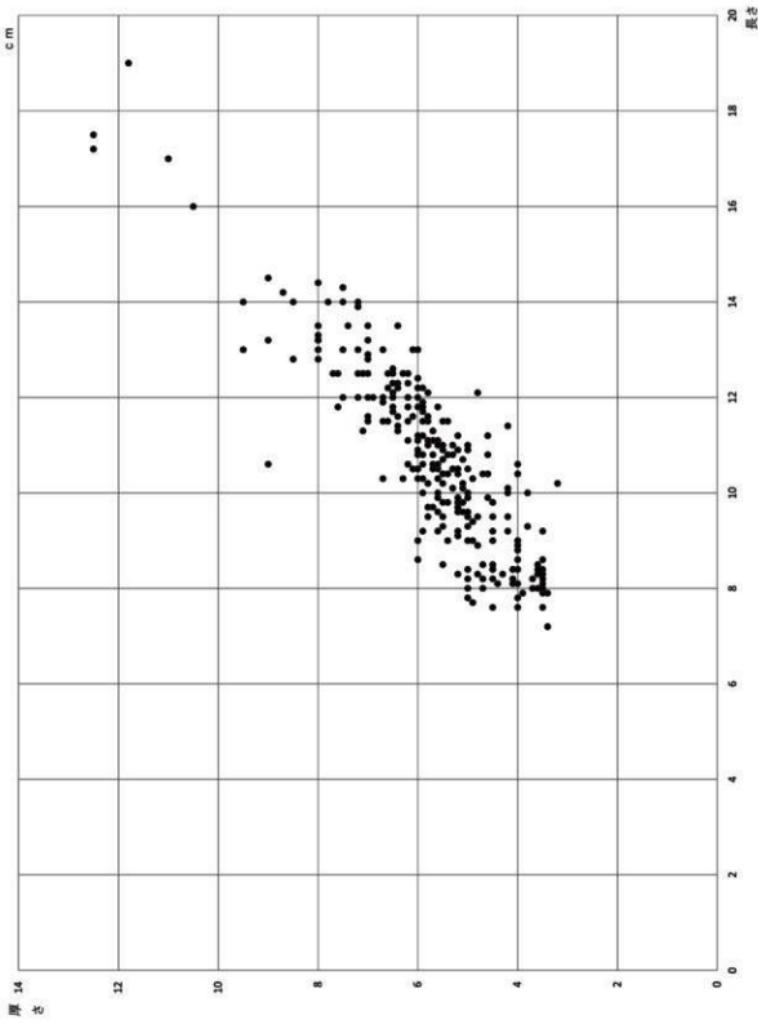
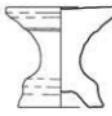
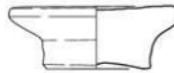
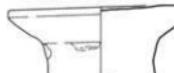
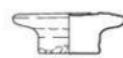
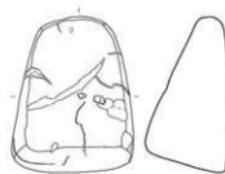
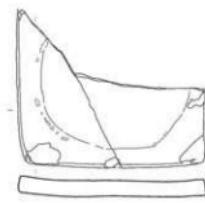


図 V-7 櫻形ハマの法量分布図

トチン		
A類	B類	C類
		
ハマ		
逆台形ハマ A類	逆台形ハマ B類	逆台形ハマ C類
		
逆台形ハマ D類	円盤状ハマ	陶板状ハマ
		
クサビ形ハマ	円弧状ハマ	
		

図V-8 器種分類4

チャツ	不明	円筒形焼台
胎土目		

図V-9 器種分類5

は約7cm～19cm、厚さは約3cm～13cmと個体により法量差が大きいが、法量による分類にはいたらなかった。

円孤状ハマは厚さ約2cm、径約5cmの円孤状の焼台である。本窯出土品では完形ではなく、両端が破損する。表面に方形タタキ痕がみられるものがある。袴野糞屋窯跡では円板の上に円孤状ハマに類似した円環状の粘土板を重ねた焼台が出土している。

陶板状ハマは厚さ約2cm、幅約20cmの方形の陶板を焼台としている。表面に器を置いた痕跡がみられる。

チャツは底面から上面にかけて、外方に開き、上面の内側は窪ませる。

円筒形焼台は底径約20cm～25cm、高さ約23cm～26cmの円筒形である。上面に数個の胎土目を置いたと思われる窪んだ痕跡がみられるが、小糞の焼台として使われたと思われる。体部外面に格子目タタキが残るものもある。

胎土目は長径約4cm～5cmの塊状や円盤状がある。糞や擂鉢などの焼成時に用いる。

名称や使用法も不明な陶器がある。円環状で体部中位がくの字に屈曲する。「輪トチン」とよばれることもあが、輻轆の軸受けの可能性もあり、窯道具ではない可能性がある。

佐賀県内で糞や擂鉢などの陶器専用窯の発掘調査を実施した武雄市西川登町小田志の糞屋窯跡や同市東川登町の糞屋窯跡の出土品と比較すると、本窯跡のみで出土した焼成品として、小糞B類や極小糞、擂鉢B類（高い高台付）、擂鉢C類（高い高台付）があり、窯道具では円筒形焼台や陶板状ハマなど類

例が少ない器種があり、今後の研究につなげていきたい。

【参考文献】

- 佐賀県教育委員会 1996 『内野山北窯跡』 佐賀県文化財調査報告書第 129 集
佐賀県教育委員会 2019 『表屋窯跡・袴野城跡』 佐賀県文化財調査報告書第 221 集

3. 豊、擂鉢の型式変化

(1)はじめに

本窯跡は「古瓶屋下窯跡」の遺跡名どおり豊や擂鉢などの陶器類を主に焼成している。豊は貯蔵用、埋葬費や便所、肥料用など多様な使用法があり、擂鉢は食材や薬草などをすりつぶしながら混ぜるための鉢で、食材や薬草を細かな粒子状に碎いたり、ペースト状にすりつぶす加工をおこなう調理器具である。近世においては肥前でつくられた豊や擂鉢が県内をはじめ国内各地に流通している。

豊や擂鉢の専用窯は、本窯以外に近年、武雄市東川登町袴野で豊屋窯跡の発掘調査が実施され、発掘調査報告書が刊行された。また、昭和61年～昭和62年に発掘調査が実施された武雄市西川登町小田志の豊屋窯跡の発掘調査成果を合わせると17世紀前半から18世紀前半の豊や擂鉢の変遷が理解できるようになってきた。因みに窯跡出土品のおおまかな年代観は小田志豊屋窯跡4号窯が17世紀前半、同窯1号・2号・3号窯が17世紀後半、袴野豊屋窯跡が17世紀後半～18世紀前半である。本項では、本窯とこれらの窯跡の発掘調査成果と2000年に刊行された『九州陶磁の編年』九州陶磁学会編に掲載された東中川忠美氏や家田淳一氏の論考を参考にしながら、豊と擂鉢の型式変化について雑感していきたい。

なお、武雄市東川登町袴野所在の豊屋窯跡と同市西川登町小田志所在の豊屋窯跡は遺跡名が同じであるため、それぞれ小字名を追記して、袴野豊屋窯跡、小田志豊屋窯跡と呼称する。以下、豊と擂鉢の器種分類は本書の第V章「古瓶屋下窯跡出土品の器種分類」による。

(2) 大豊の型式変化

本窯の特徴として袴野豊屋窯跡や小田志豊屋窯跡出土品と比較すると豊の法量分化が明瞭であることがあげられる。同章の前項の器種分類で示したように豊は法量により、大豊・中豊・小豊・極小豊に分類した。さらに形態により大豊はA類、B類に、中豊はA類（A-1類、A-2類）に、小豊はA類、B類に、極小豊は細分していない。

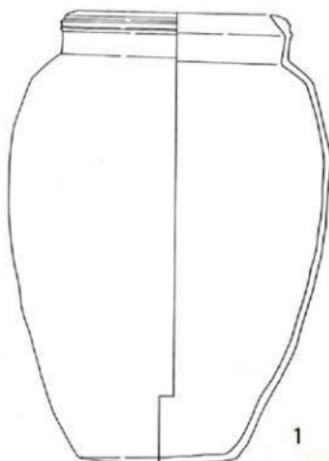
中豊・小豊は口縁形態や体部内面の叩きが同心円文から格子目文に変化するなどのおおまかな変遷がおえるが型式変化までにいたらなかった。大豊は口頭部で形式分類ができ、その型式変化も比較的明瞭におえたため大豊を対象とし、17世紀から18世紀の変遷について記す。

図V-10～図V-12に大豊の変遷図を示す。大豊は前項の器種分類でA類とB類に分類したが、さらに本窯ではみられないC類を設定した。A類とB類の口縁部は内側にせり出すような袋状を呈し、口頭部外面に二条の突帯を回すA類と、回さないのがB類である。C類は口縁部外面を肥厚させ、口縁部内面は袋状あるいは逆L字状にせりだす。

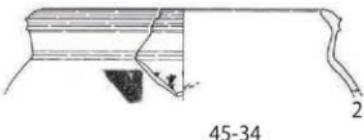
図V-10は大豊Aの変遷である。V-10-1、2ともに口縁部は内傾し、先端部はシャープである。口縁部外面に断面三角形の二条突帯を回す。V-10-1は寛永6年（1629年）の刻字があり、V-10-2の肩部にも寛（永）の刻字があることから17世紀前半であることがわかる。V-10-3、4は口縁端部形態が丸みをもち、口縁外面の突帯も退化し、その位置も下がる。V-10-5、6の口縁部外面突帯も退化し、口縁部は袋状である。V-10-5、6の袋状口縁の形態は大豊Bに類似している。ともに袴野豊屋窯跡出土品であり、大豊AのV-10-5、6の形態は大豊Bの影響によるものと考えられる。V-10-3、4は小田志豊屋窯跡1～3号窯出土品であり、口頭部や胴部内面の叩きの変化により17世紀後半に位置づけられる。大豊Aは17世紀末あたりで消失すると考えられる。

図V-11は大豊Bの変遷である。V-11-1の口縁部はV-10-1、2と類似しており、同時期であるこ

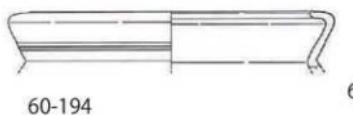
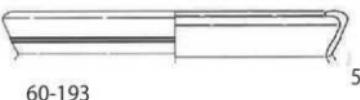
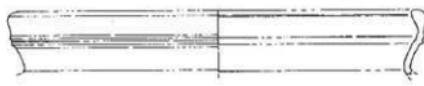
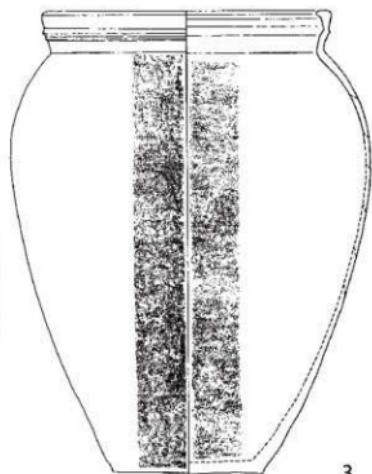
17世紀前半



寛永 6 年



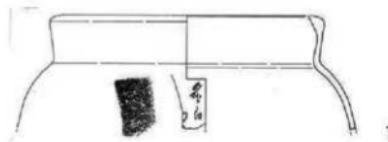
17世紀後半



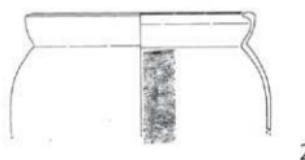
- 1 寛永 6 年銘の大甕（九州陶磁文化会館）
- 2 小田志甕屋窯跡 4 号窯
- 3 小田志甕屋窯跡 1 ~ 3 号窯表採
- 4 小田志甕屋窯跡 1 号窯物原
- 5, 6 梶野甕屋窯跡物原

図 V - 10 大甕 A の変遷 (1/10)

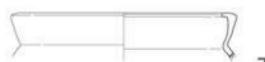
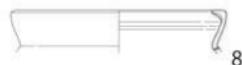
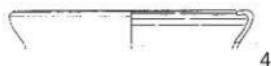
17世紀前半



17世紀後半



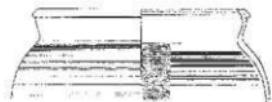
17世紀末～18世紀



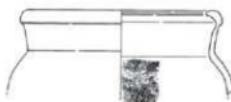
- 1 小田志甕屋窯跡4号窯
2 小田志甕屋窯跡2号窯
3,4 榎野甕屋窯跡物原
5～8 古瓶屋下窯跡物原

図V-11 大壺Bの変遷 (1/10)

17世紀後半

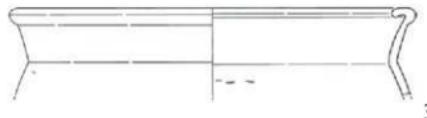


1

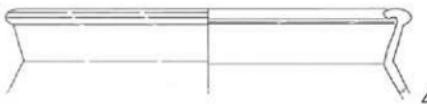


2

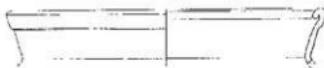
17世紀末～
18世紀前半



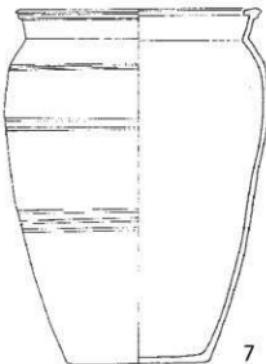
3



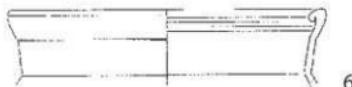
4



5

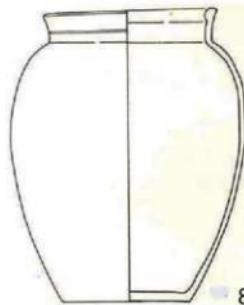


7

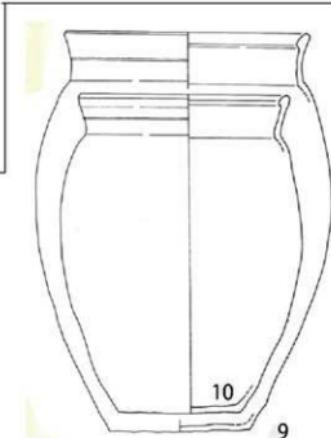


6

18世紀後半



8



9

1,2 小田志甕屋窯跡 2号窯

3～6 脇野甕屋窯跡物原

7 元禄 10年没 6代目梶尾明全の埋葬甕

8 安永 9年銘の大甕（九州陶磁文化会館）

9 安永 3年没 長尾元弼の埋葬甕

10 寛政 6年没 長尾元弼の妻の埋葬甕

図V-12 大甕の変遷 (1/10)

とが想定できる。V-11-2は袋状の口縁部に変化し、V-11-3～7は逆L字状の口縁部に変化する。V-11-1は17世紀前半、V-11-2は17世紀後半、V-11-3～8は17世紀末と考える。

図V-12は大甕Cの変遷である。大甕Cは図V-12-3～6の袴野甕屋窯跡出土品を抽出し、同形式の甕を探すことによって変遷がおえた。

図V-12-1、2は外面を肥厚させ、口縁部内面は袋状に内湾させる。図V-12-3、4の口縁部は外面を肥厚させ、内面は逆L字状にせりだす。図V-12-5、6は口縁部外面の肥厚が幅広くなり、内面の逆L字状のせりだしが下方にさがり、丸みをもつ。図V-12-7は多久市内の六代目梶尾明全の埋葬墓で、その没年は元禄10年（1697年）である。口縁端部内外面を平坦に整形するが、図V-12-3、4のバリエーションであろう。

図V-12-8、9、10は口縁部外面の肥厚がなくなり、口頭部中位よりやや下方に一条の沈線を回すがこれは5、6の口縁外面の幅広肥厚の痕跡と思われる。また、口縁部内面は丸みをもつ。口縁部の型式変化が5、6→8、9、10でおえる。図V-12-8は安永9年（1780年）銘の甕（九州陶磁文化館蔵）である。図V-12-9、10は佐賀藩の学者の家系である長尾家一族の埋葬甕で、図V-12-9は安永3年（1774年）没の長尾元弼、図V-12-10は寛政6年（1791年）没の元弼の妻の埋葬甕であり、本形式の年代がわかる。

大甕生産の第一の画期は寛永の頃（1624年～1645年）とされており（東中川2000）、生産の専業体制が整い、技術的にも大きな変化が生じ、大甕A、大甕Bが生産されはじめる。大甕A、大甕Bの形態は備前の大甕を模倣したかのような口縁形態であることは興味深い。

（3）擂鉢の型式変化

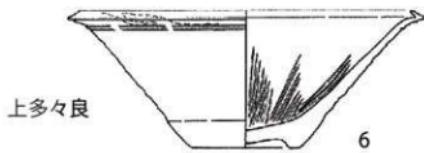
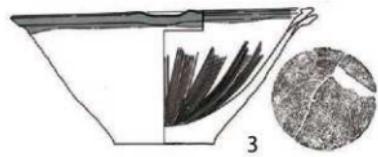
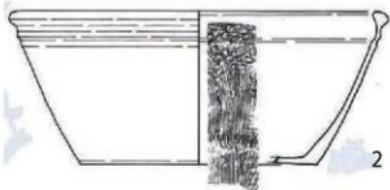
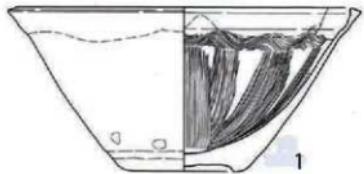
本窯出土の擂鉢は平底、高台付があり、さらに高台付は高い高台と低い高台があるなど、底部形態が多様である。また、叩き成形であり、全面に鉄軸を施釉するなど、本窯以前のろくろ成形による擂鉢と大きな変化がみられる。但し、本窯では高い高台付擂鉢の出土量は少ない。

肥前の擂鉢の編年は家田（2000）があり、I期からV期に編年されており、本窯はIV期にあたり、その年代は1690年～1750年である。ところで肥前の甕や擂鉢を考えるうえで備前の影響は重要な視点であり、大甕の口縁部形態や擂鉢にもその影響があると考える。伊万里市教育委員会の盛峰雄氏は伊万里市内古窯跡の確認調査を実施された1990年前後に、その調査報告書の中で「備前の影響」をすでに指摘されている。本項では、このような視点のもと、家田氏の編年を参考にし、家田編年II期～V期併行期の擂鉢の変遷について記す。本書では擂鉢の分類をA類（平底）、B類（高い高台付）、C類（低い高台付）に分類したが、本分類は本窯の擂鉢分類であり、成形技法、口縁部、底部形態を考慮すると新たな形式・型式分類が必要になるため、本項では本書分類は限定的に使用する。

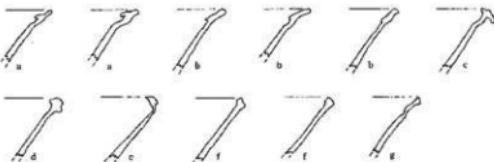
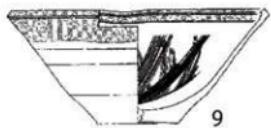
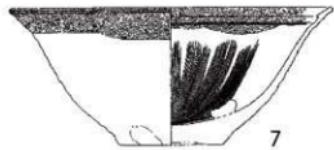
図V-13～図V-15は擂鉢の変遷図であり、図V-13、図V-14は17世紀前半～後半で、図V-14は備前焼の影響がある擂鉢である。図V-15は17世紀末～18世紀以降の擂鉢の変遷図であり以下、各図について説明する。

図V-13は17世紀前半～後半の擂鉢である。17世紀前半の擂鉢は叩き成形とロクロ成形があり、叩き成形は1630年頃までには一旦終焉すると考えられている（家田2000）。図V-13-2は叩き成形で、口縁端部は内外に肥厚する。図V-13-1,3～6はロクロ成形で、図V-13-1,6の底部は碁笥底状であるが、この底部形態は前時期からみられるもので、本期で消失する。図V-13-3～5は口縁端部を内側に突出させ、口縁部直下を若干屈曲させ、口縁内外面にのみ鉄軸を施し、底部糸切りである。この形式が次

17
世紀前半



17
世紀後半



小田志糀屋窯跡出土擂鉢口縁部分類

1, 2 糀屋遺跡出土

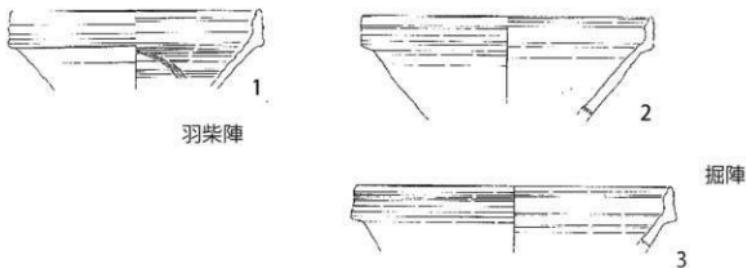
3, 4 内野山北窯跡出土

5, 6 上多々良窯跡出土

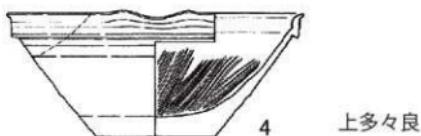
7 ~ 8 小田志糀屋窯跡出土

図V-13 擂鉢の変遷 1 (1/5)

備前(系)



17世紀前半



4

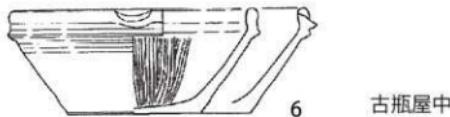
上多々良

17世紀中～後半



5

古瓶屋下



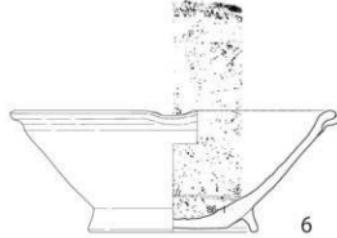
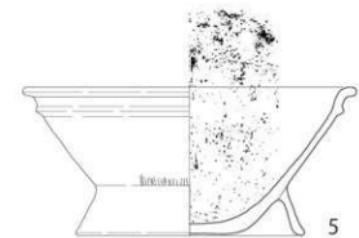
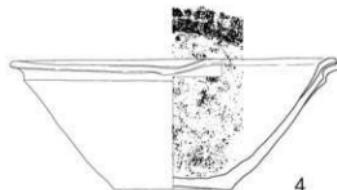
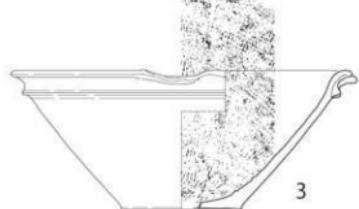
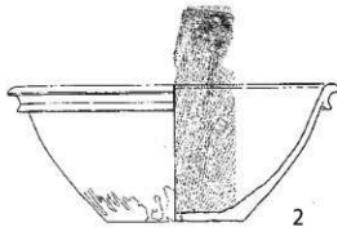
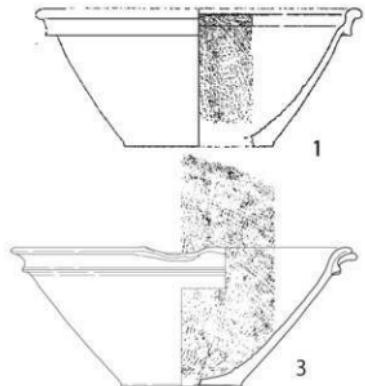
6

古瓶屋中

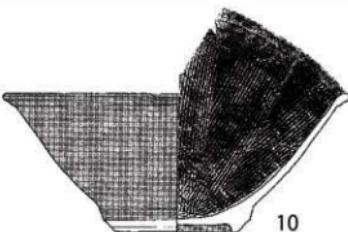
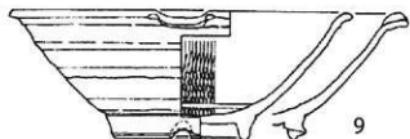
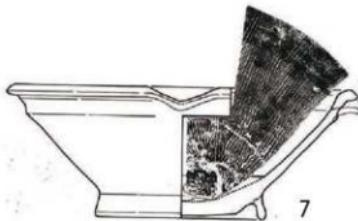
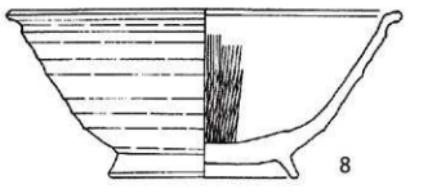
- 1 名護屋城跡羽柴秀保陣跡出土
- 2, 3 名護屋城跡掘秀治陣跡出土
- 4 上多々良窯跡出土
- 5 古瓶屋下窯跡出土
- 6 古瓶屋中窯跡出土

図V-14 横鉢の変遷2 (1/5)

17世紀末～18世紀前半



18世紀後半以降



1,2 梶野甕屋窯跡出土

3～6 古瓶屋下窯跡出土

7 志田西山1号窯跡出土

8,9 瓶屋窯跡出土

10 赤絵町遺跡出土

図V-15 楠鉢の変遷3 (1/5)

時期の図V-13-7のように型式変化し、多量生産される。図V-13-7は口縁部内側を鋤先状に肥厚するが、この鋤先状の肥厚の退化が本時期で生じる。口縁外面にのみ鉄軸を施し、底部糸切りであり、本型式が17世紀後半の擂鉢に多くみられるが、袴野瓔屋窯跡でも出土している。また、口縁部形態は多样であり、小田志瓔屋窯跡出土の擂鉢口縁部分類を掲載し、図V-13-8、9を提示する。

図V-14は備前焼の流通品とその模倣品である。図V-14-1は名護屋城羽柴秀保陣跡出土、図V-14-2、3は同城堀秀治陣跡出土であり、この年代は文禄・慶長の役の1592年～1598年が与えられ、これらは備前焼の流通品である。

図V-14-4は伊万里市南波多町府招に所在する上多々良窯跡出土であり、図V-14-1～3と同じ口縁形態である。図V-13-5、6も上多々良窯跡出土品であり、同窯で多様な口縁部形態の擂鉢を生産していることが判る。図V-14-5は古瓶屋下窯跡の包含層A出土品である。口縁端部を短く外反させるなど上多々良窯跡出土品と類似する。口縁部器壁も薄く、内面の櫛描の先端を撫でそろえることをしないなど、17世紀代の要素をもっており、本例は口縁部片1点のみの出土であることを考えると古瓶屋下窯跡での焼成品とは考えられない。図V-14-6は古瓶屋中窯跡出土品である。口縁部で屈曲し、上方に立ち上げるなど図V-14-1～3と類似する。同窯では同形式が多く生産されているが、高台付擂鉢は確認されておらず、古瓶屋中窯跡は古瓶屋下窯跡より先行して築窯したと考えられる。両窯の位置関係を図III-1に掲載する。

図V-15は17世紀末～18世紀代の擂鉢であり、叩き成形により製作される。図V-15-1、2は袴野瓔屋窯跡、図V-15-3～6は古瓶屋下窯跡、図V-15-7は志田西山窯跡出土である。口縁部は短く外反し、外面に断面三角形の突帯を回すが、この突帯は低く退化する変化がみられる。図V-15-1、2は口縁外面の断面三角形の高さを有する突帯を回し、内面の櫛描の先端を撫で揃えない。図V-15-3は口縁外面の突帯がやや低くなり、図V-15-4は突帯が退化する。さらに、図V-15-3、4以降の擂鉢は内面櫛描の先端を撫で消すという変化がみられる。図V-15-5、6は高台付き擂鉢で、胴部下半に高台を貼り付ける。高い高台（B類）と低い高台（C類）があるが、これまでの見知では高い高台（B類）の生産は少ないと思われる。図V-15-7はC類である。

図V-15-8、9は伊万里市脇田町の瓶屋窯跡、図V-15-10は有田町の赤絵町遺跡出土である。図V-15-8、9は口縁外面の突帯の退化がすむ。図V-15-8は高台を貼り付ける位置が胴部と底部の境に貼り付けるなど、図V-15-6、7と比較すると変化が看取される。図V-15-9は高台が下方にのびる。図V-15-10は高台の外側を削る。また、口縁部の突帯は消失し、短く外反させ、外側に肥厚させる。

17世紀末以降、口縁部形態は斉一的で、口縁部外面突帯が退化するなどの変化がみられる。また、内面の櫛描も先端を撫で消さないものから撫で消すものへの変化がみられ、底部形態は、高台付が出現すると平底の生産は少なくなると思われるが、高い高台付擂鉢の生産は限定的と考えられる。古瓶屋下窯跡で高台付擂鉢が生産され始めたことは画期にあたると考えられる。

【参考文献・挿図掲載報告書】

武雄市教育委員会 1989『瓔屋遺跡』武雄市文化財調査報告書第20集

佐賀県教育委員会 1996『内野山北窯跡・瓔屋窯跡』佐賀県文化財調査報告書第129集

伊万里市教育委員会 1990『上多々良窯跡・権現谷高麗神窯跡・日峯社下窯跡』伊万里市文化財調査報告書第33集

佐賀県教育委員会 1983『特別史跡 名護屋城並びに陣跡 堀 秀治陣跡』佐賀県文化財調査報告書第

72集

佐賀県教育委員会 1993『特別史跡 名護屋城並びに陣跡2 羽柴秀保陣跡発掘調査・環境整備報告』佐賀県文化財調査報告書第 114 集

伊万里市教育委員会 1993『古瓶屋中窯跡・徒幾ノ川内窯跡・鞍壺窯跡』伊万里市文化財調査報告書第 40 集

佐賀県 2013『古瓶屋下窯跡』佐賀県文化財調査報告書第 230 集

佐賀県教育委員会 2019『瓶屋窯跡・袴野城跡』佐賀県文化財調査報告書第 221 集

佐賀県立九州陶磁文化館 1991『塙田町志田西山1号窯跡』

伊万里市教育委員会 1988『瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡』伊万里市文化財調査報告書第 27 集

有田町教育委員会 1990『赤絵町』

東中川忠美 2000『陶器の編年4. 壺・甕』九州近世陶磁学会

家田淳一 2000『陶器の編年2. 捶鉢・鉢・片口・水指・茶入・土瓶・水注・灯火具』九州近世陶磁の編年』

九州近世陶磁学会

4. 焼成品及び出土遺物からみた古瓶屋下窯跡の編年的位置づけ

本窯跡焼成品のうち擂鉢の変遷について前項で述べたが、擂鉢には平底、高台付があり、さらに高台付は高い高台と低い高台があるなど底部形態が多様である。さらに叩き成形であり、全面に鉄軸を施釉するなどの特徴をもち、17世紀代のロクロ成形の平底擂鉢とは大きな変化がみられる。本窯の低い高台付擂鉢と嬉野町志田西山1号窯跡出土擂鉢（本書図V-15-7）は高台部のみならず、口縁部形態や内面櫛描の先端を撫で消すという特徴も同じであり、極めて規格化された擂鉢であることがわかる。

志田西山1号窯跡出土擂鉢を家田氏はIV期（1690年～1750年）に位置づけており、本窯焼成の擂鉢も同時期であることがわかる。

次に京焼風陶器の退化についてである。本書図IV-5-1、2は2点とも内面に2本の杉と1本の梅の木と山からなる山水文を描く。この山水文の類例が九州陶磁文化館所蔵の呉須絵山水文瓶にみられ、本窯出土の京焼風陶器の山水文は九州陶磁文化館所蔵瓶の山水文が退化したものと考えられる（本書89頁）。京焼風陶器は17世紀後半に伊万里市大川内山の窯跡で生産が開始され、18世紀前半まで継続するが、この時期は印銘のある碗・皿は次第に粗い作行となり、やがて印銘を押さなくなる（大橋1989）とされており、本窯焼成の京焼風陶器の高台付皿は山水文が退化した大橋編年IV期に位置づけられる。

また、本書図IV-46-8は磁器碗の口縁部片で本窯の焼成品ではないが時期の参考になる。磁器碗の外側にコンニャク印伴の五弁花と團線が染付されるが、コンニャク印判の盛期は大橋編年IV期（1690年～1780年）とされることも上述の編年位置と整合する。

さらに、本窯の北西約110mに立地する脇田韓人墓4基には1690年～1708年の年号が刻まれていることも上述の年代と整合する（VI章参照）。

本窯の下限の時期を明確に示すことはできないが、低い高台付擂鉢での型式変化が参考になる。図V-15-8は伊万里市脇田町瓶屋窯跡出土であり、高台は底部と胴部の境に貼り付け、外方にのびる。また、口縁部は短く外反し、口縁下の突帯は退化して消失するなど、図V-15-6、7と図V-15-8の変遷は明瞭である。瓶屋窯跡は本窯が立地する谷筋の西側の谷筋に瓶屋窯跡は現存する。それぞれの窯跡の焼成品から考えても、瓶屋窯跡が開窯した時期には、本窯は廃窯していたと推定できる。

【参考文献】

大橋 康二 1989『肥前陶磁』ニューサイエンス社 考古学ライブラリー 55

佐賀県立九州陶磁文化館 1991『塙田町志田西山1号窯跡』

伊万里市教育委員会 1988『瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡』伊万里市文化財調査報告書第27集

VI. 付論

1. 脇田韓人墓の調査と周辺の近世墓石・石碑について

(1) はじめに

佐賀県伊万里市に所在する脇田韓人墓は墓石4基からなる周知の埋蔵文化財包蔵地であり、平成26年10月に確認調査を実施した。墓石下の主体部の有無及び周辺での近世墓の有無を目的にトレントを設定し、人力で掘り下げたが、墓石下には主体部は確認できなかった。また、韓人墓周辺からも近世墓やその他の遺構は確認できなかった。

この近世墓は地元の人々から韓人墓と呼ばれ、『脇田町誌』には古瓶屋の高麗人墓として記述されている。近世墓には元禄の年号がみられることから、元禄初期に、伊万里市真手野字多々良の窯から移り住んだ工人の墓地と記される。さらに、「お墓のたたり」として次のような逸話も記される。「窯場が廃窯され、この近世墓も荒れた頃、脇田川が氾濫し、橋が流されたため、その修復に、近世墓の墓石を用いたところ、再び大雨で田畠がながされ、コレラまで流行した。墓石を橋に用いた「たたり」と古い師から告げられたため、墓石をもとの場所に返し、丁重に弔ったところ、天変地異や病気も無くなかった。」古瓶屋窯跡には、このような来歴や逸話ものこっており、地元の方々の関心は高い。

この他、周辺の近世墓として、脇田町字漸高に周知の埋蔵文化財包蔵地になっている平山高麗人墓があり、この墓地近くには平山窯跡がある。さらに、周知の埋蔵文化財包蔵地になっていないが、2基からなる長谷の高麗人墓があり、墓石には延宝己未年（1679年）、元禄七甲戌年（1698年）の年号がみえる。

このように、脇田町内には窯跡と帰化人の墓と伝えられる墓石が遺存し、墓石に刻まれた年号は、窯場の操業時期を推定する一助になる。脇田韓人墓は古瓶屋下窯跡の歴史的意義を考える上でも、記録保存に値する埋蔵文化財であるため、石造文化財調査研究所の松原典明氏から脇田韓人墓と周辺の近世墓についても指導を受けた。本項では、確認調査結果と周辺の近世墓石や石碑について報告する。

(2) 立地と周辺の遺跡

脇田韓人墓の位置は本書の図III-1に示す。古瓶屋下窯跡が立地する同じ谷筋で、谷の中央を流れる小川を挟んで、北側の丘陵中腹に4基の近世墓石からなる脇田韓人墓がある。丘陵は南東向きの斜面で、現況は雑木林である。脇田韓人墓や古瓶屋下窯跡が立地する同じ谷筋で、脇田韓人墓から北東約200mの雑木林の中に古瓶屋下窯跡と板碑がある。板碑は砂岩製で、高さ161cm、厚さ24cmである。碑の中央から上下二つに折れている。頭部は山形（三角形）で、碑文は天照大神宮、元禄七年甲戌と蓮花文を線刻する。さらに、蓮花文の直上に、谷内、藤井、永屋、山口、原が名字の14名の名前を刻む。

この板碑は伊勢講の記念碑という。江戸時代に、伊勢神宮に参拝する目的で、仲間が集まり、一定の金を出し合い、くじ引きによって当たった人から数名づつ、そのお金を旅費にして伊勢神社に詣でるが、これを伊勢講と呼ぶ。さらに会員全員がお伊勢参りを終えたのち、参拝記念として天照大神宮の名を刻んだ石碑をたてるという風習によるものである（『脇田町史』47頁）。この板碑は、江戸時代に集落があったと思われる場所から古瓶屋下窯跡へ向かう小道沿いに建立されており、集落と窯跡と当時の風習を物語り、年号が刻まれていることに意義がある（図VI-6）。

また、古瓶屋下窯跡の東方約70mに古瓶屋下窯跡があるとされている。現状は、民家北側のなだら

かな丘陵斜面であるが、窯壁や陶磁器片は見られず、確認調査も実施されていないため詳細は不明である。

(3) 脇田韓人墓の確認調査

脇田韓人墓は伊万里市脇田町 971 に所在する。墓石 4 基からなる周知の埋蔵文化財包蔵地であり、平成 26 年 10 月 6 日～10 月 8 日の 3 日間の確認調査を実施した。調査主体は佐賀県教育委員会で、調査担当は小松 謙・梶山裕史・潤ノ上隆介の 3 名で、発掘作業員は久保田幸夫、久保田勝一、久保田正人、岩橋洋三、岩橋啓一郎、内海則義の 6 名である。

近世墓石 4 石が現存しており地元住民から韓人墓あるいは陶工の墓とよばれており、脇田韓人墓として周知の埋蔵文化財包蔵地になっている。遺跡は南西方向に延びる丘陵の東向き斜面で、標高は約 35m である。調査対象地の現況は雜木林であり、丘陵の東側は谷地形となり水田が広がる。

調査対象地の近世墓周辺と隣接地に計 6箇所のトレンチを設定し、人力により掘り下げを行った。特に 4 基の近世墓の埋蔵主体部の確認を主眼に調査を実施した。土層観察、壁面の精査を行い、記録は写真撮影及び平面図・土層略図を作成した。調査後は埋め戻しをおこなった。

近世墓石 4 基を A 墓～D 墓と呼称し、近世墓石の周囲にトレンチを設定した。図 VI-1 に脇田韓人墓 4 基の位置とトレンチ配置図を示す。A 墓周囲を No1 トレンチ、B 墓周囲を No2 トレンチ、C 墓周囲を No3 トレンチ、D 墓周囲を No4 トレンチとし、調査対象地の南端に No5 トレンチ、No4 トレンチと No5 トレンチの間に N o 6 トレンチを設定した。

4 基の近世墓石の周囲は、厚さ 10cm～20cm の表土の下層は地山（黄褐色土層）であり、埋葬主体部はなかった。No2 トレンチの B 墓は人頭大の転石の石組みの直上に墓台石を据えていた。地山は小礫を混入した土層であり、墓壙の可能性を考え約 110cm の深堀りを実施したが、遺物は出土せず、地山であるとの所見にいたった。

No6 トレンチは砂岩の扁平石材の周囲に設定した。扁平石材は人為的な浮彫り状の加工を施しており、墓石かと考えたが墓銘はなかった。

No5 トレンチでも遺構、遺物とも出土しなかった。

なお、4 基の近世墓に元禄、宝永の年号が刻まれており、A 墓は「俗名 藤井傳兵衛」が確認できた。また、A 墓、B 墓、D 墓の墓石に刻まれた「○」は円相と呼ばれ、禪宗でも曹洞宗に多くみられるものとご教示をえた（松原氏教示）。

表 VI-1 に脇田韓人墓の墓石計測値と墓誌などの一覧表を示す。

(4) 脇田韓人墓と周辺の近世墓石の考古学的調査

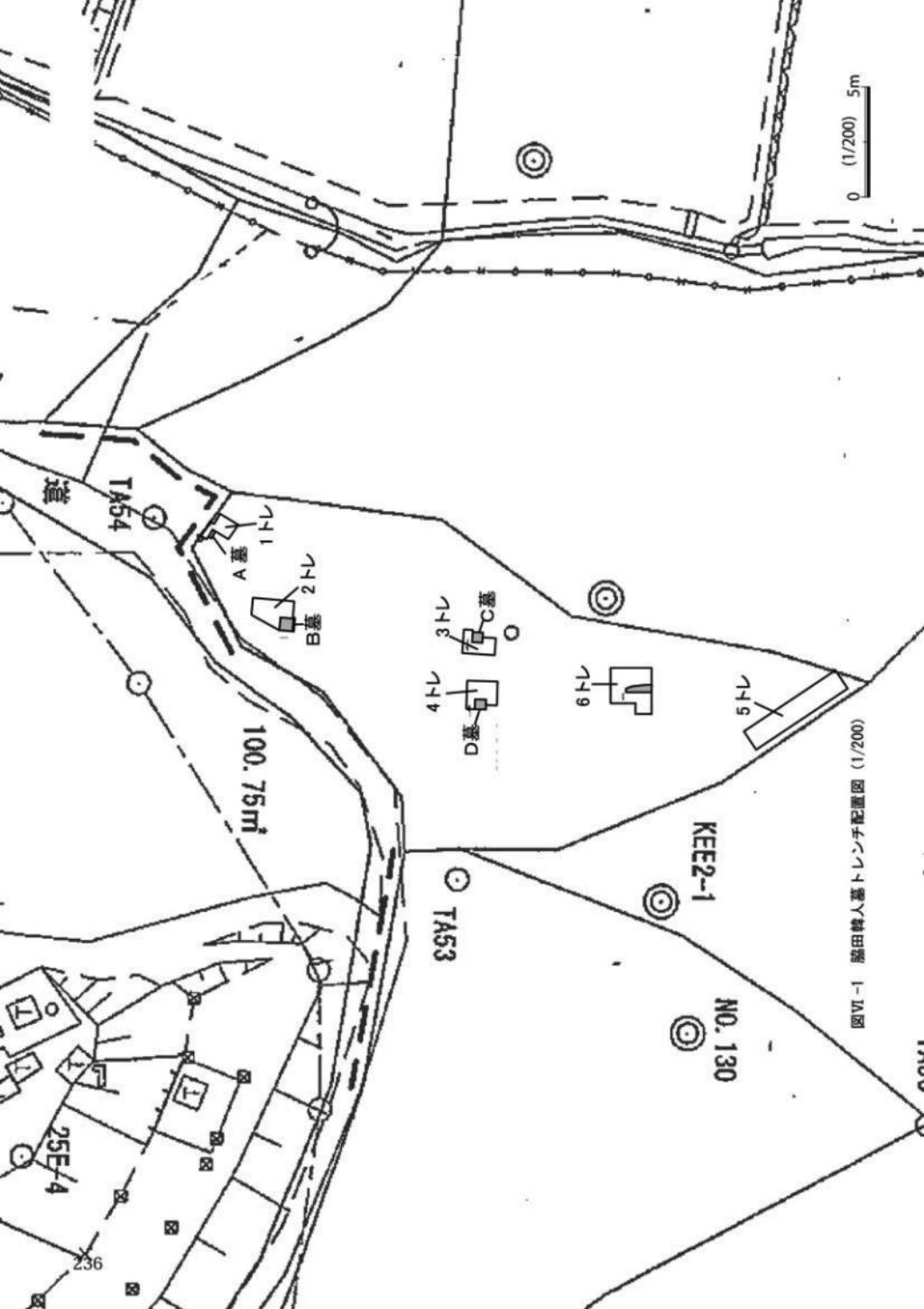
脇田韓人墓 4 基の墓石は江戸期の庶民の墓としては大きく、墓石頭部の形態に特徴がある。墓石の大きさや形態的な意義付けを行うためには周辺の江戸期の墓石との比較検討が必要であり、脇田町内の近世墓石について松原氏から墓石の各部位名称や観察ポイントをはじめとして、墓石の型式分類や変遷などのご教示を得た。

脇田韓人墓の年代は元禄～宝永年間（1690 年～1708 年）であり、墓石の大きさや形態的な意義付けを行うために特に、年号の入っている墓石を対象にして形態分類や墓石の計測を行った。表 VI-2 に墓石頭部形式と計測一覧を示す。

調査対象にした墓所は、脇田町内に所在する①脇田韓人墓付近の共同墓地、②長谷高麗人墓、③古瓶

1/200 5m

図11-1 濱田林業人基トレンチ配置図 (1/200)



表VI-1 脇田韓人墓一覧表

遺跡名墓石名	墓石部位	高さ	幅(正面)	厚さ(側面)	墓誌「戒名」	年号	() は遺存長 (c m)	その他	西暦
脇田韓人墓A墓	墓石	(157)	37	17	頭部欠損 「本覺良心信士」 俗名 藤井傳兵衛	元□三庚午年	円相		1690
脇田韓人墓B墓	墓石	93	30	19	「正山紹智信士」	元禄十六癸未	円相、台石直下に人頭大の転石石組あり。		1703
	台石	20	58	60					
脇田韓人墓C墓	墓石	(72)	30	21	頭部欠損 「樺露童子」	元禄六□□年	墓石下部に蓮花文		1693
	台石	25	47	54					
脇田韓人墓D墓	墓石	84	25	21	「一如童子盡」	宝永五年	円相		1708
	台石	27	45	50					

表VI-2 脇田町所在近世墓・墓石分類・計測一覧

所在地墓石名称	高さ	幅(正面)	厚さ(側面)	頭部形式	年号	西暦(年)	備考
脇田韓人墓B墓	93	30	19	A	元禄十六年	1703	円相あり
脇田韓人墓D墓	84	25	21	A	宝永五年	1708	円相あり
長谷高麗人墓A	88.5	29~30	18	B	元禄七年	1694	円相あり
長谷高麗人墓B	86	29	23.5	B	延宝已未	1674	円相あり
古瓶屋清水墓地内	105	35~36	23.5~25.5	B	元禄十四年	1701	墓石に蓮華文あり
塔の上共同墓地内	88	28	20	B	元□(元禄)	1688~1706	
脇田韓人墓付近の共同墓地	69	27	23	C	安永三	1774	
"	58	24.5	20.5	D	文化十五年	1818	
"	59	24.5	18	E	文久□□	1861~1863	

屋清水墓地、④塔の上共同墓地である。以上の墓所の中で年号のある墓石を対象とし、墓石の計測と分類を行いました。墓石は頭部に特徴がみられることから墓石頭部の形態から以下の5形式に分類できた。

頭部A形式：頭部両端は内彎しながら盛り上がる。頭部は茨状(いばじょう)とげ状(とげじょう)をなす。

頭部B形式：頭部は山形(三角形)をなす。

頭部C形式：頭部の正面観が半円弧状に盛り上がる。

頭部D形式：平坦な頭部上端面に平面円形球状の盛り上がりがみられる。

頭部E形式：頭部両側面は丸味をもち、頭頂部は平坦をなす。

以上の頭部形式と各墓石の写真を図VI-7~図VI-9に示す。

脇田韓人墓のB墓とD墓は頭部A形式である。C墓は頭部が欠損しているがA形式の可能性が高い。頭部A形式は他の墓所にはみられなかった。このような頭部形態は京都に多く散見でき、備者墓に採用される傾向がある(松原氏教示)。

B形式は長谷高麗人墓、古瓶屋清水墓地、塔の上共同墓地内など比較的多く散見できた。年代は延宝から元禄にかけてであり、頭部A形式と同時期にみられることが判る。墓石の大きさは高さ86cm~105cmと大きく、A形式と近値である。また、頭部A形式、B形式の墓石断面形は長方形気味である。唐津市和田多所在の唐津藩主大久保忠職碑の近くにある家臣の墓石4基はすべて頭部B形式であり、年号は明暦二年(1656年)、寛文(1661~1672年)がみえ、脇田町内に散見できる頭部B形式は明暦~寛文にはあったことが判る。また、頭部B形式は全国的に大名墓などに多くみられる形式であり(松原氏教示)、その墓石形態が流行し、庶民も墓石として使ったことが予想される。

頭部C形式とD形式は脇田韓人墓付近の共同墓地や塔の上共同墓地などで最も多くみられた墓石形式である。頭部C形式、D形式、E形式の墓石の高さは60cm内外であり、墓石断面形は正方形である。頭部C形式、D形式、E形式の墓石の大きさは規格性が高い。頭部C形式、D形式、E形式の墓石の年号を調査する時間的余裕がなかったが、C形式に安永三年（1774年）、D形式に文化十五年（1818年）の墓石がみられることや墓石の型式学的変遷からその出現時期はA形式、B形式より後出する可能性が高い。また、墓石で戒名や年号の入った面を觀面を呼ぶが、A形式、B形式は一觀面で、C形式、D形式、E形式になると二觀面以上になり、これは全国的な傾向である。さらに、墓石断面形態がA形式、B形式は長方形で、C形式、D形式、E形式は略方形であるが、このような墓石形態の変化も型式変化として捉えられる（松原氏教示）。

以上のことから、脇田韓人墓石4基の法量は、頭部B形式のそれと類似し、頭部C形式、D形式、E形式より大きいことが判った。また、頭部C形式、D形式、E形式より古い時期にあたることも予想できる。但し、頭部A形式の類例は今回の調査では確認できず、類例調査は今後の課題である。

脇田町内の近世墓石を対象に考古学的な調査を実施したが、近世墓石にも考古学的手法による分析が可能であることが判った。伊万里市内にみられる近世墓石は、ほぼすべてが砂岩製であるが、唐津市和多田の唐津藩主大久保忠職碑の近くにある家臣の墓石はすべて安山岩である。墓石石材は異なりながら、同じ墓石形態を採用していることは、生産地と石造物製作工人に係ることが予想され、このことは墓石をはじめとした肥前鳥居や神社の狛犬など石像物の生産と流通に係る問題であり研究の深化が望まれる。

【参考文献】

『脇田町誌』1993年 伊万里市脇田町誌編集委員会



遺跡遠景



第1トレンチ（A墓墓石）



第1トレンチ全景（A墓）



第1トレンチ（A墓 墓石根固め石状況）

図VI-2 遺跡遠景・第1トレンチ状況写真



第2トレンチ（B墓墓石）



第2トレンチ全景1



第2トレンチ全景2



第3トレンチ（C墓墓石）

図VI-3 第2トレンチ・第3トレンチ状況写真



第3トレンチ全景（C墓墓石）



第3トレンチ深堀状況（C墓墓石）



第4トレンチ（D墓墓石）



第4トレンチ全景（D墓墓石）

図VI-4 第3トレンチ・第4トレンチ状況写真



第4トレンチ土層（D墓墓石）



第5トレンチ全景



第5トレンチ土層



第6トレンチ全景1



第6トレンチ全景2

図VI-5 第4トレンチ・第5トレンチ・第6トレンチ状況写真



図VI-6 古瓶屋中窯跡近くの板碑



頭部A形式



頭部B形式



頭部C形式



頭部D形式

図VI-7 近世墓石頭部形式1



頭部E形式



長谷高麗人墓（頭部D形式）



古瓶屋清水墓地（頭部D形式）

圖VI-8 近世墓石頭部形式 2



脇田韓人墓付近の共同墓地
(頭部C形式)



脇田韓人墓付近の共同墓地
(頭部D形式)



脇田韓人墓付近の共同墓地
(頭部E形式)

図VI-9 近世墓石頭部形式 3



調査指導風景1



調査指導風景2



調査指導風景3

図VI-10 調査指導風景写真



1室1面検出状況（西より）



1室2面検出状況（西より）



1室1面遺物出土状況（北より）



1室遺物出土状況（南より）



2室検出状況（西より）



2室長軸トレンチ内遺物出土状況（西より）



2室遺物出土状況（北西より）



2室奥壁裏込め検出状況1（北西より）



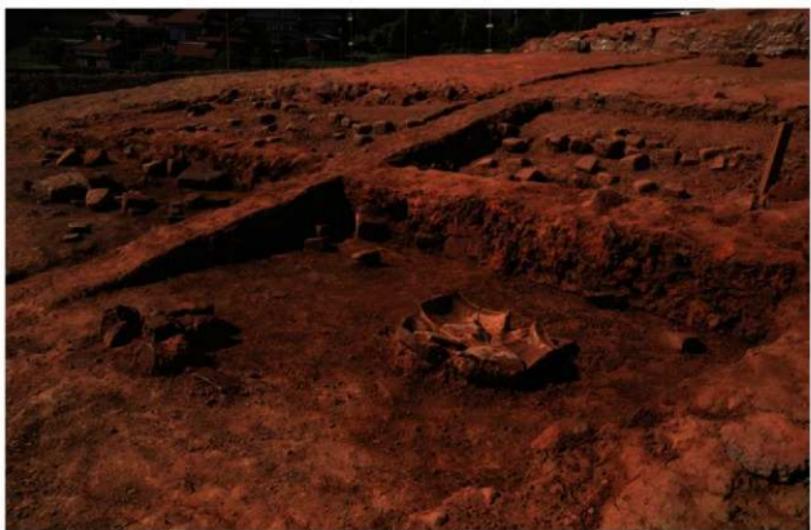
2室奥壁裏込め検出状況2（北西より）



3室1面検出状況1（西より）



3室1面検出状況2（北より）



3室土層観察状況（南西より）



3室2面検出状況（西より）



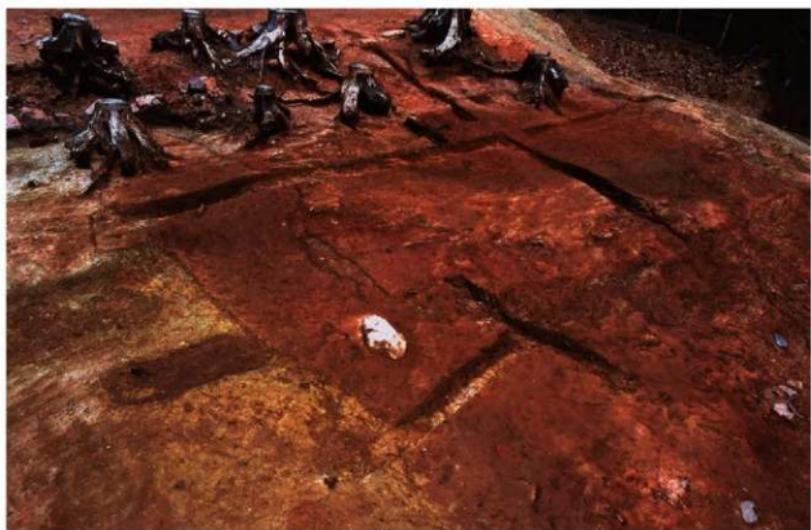
3室奥壁背面支え石検出状況1（西より）



3室奥壁背面支え石検出状況2（北より）



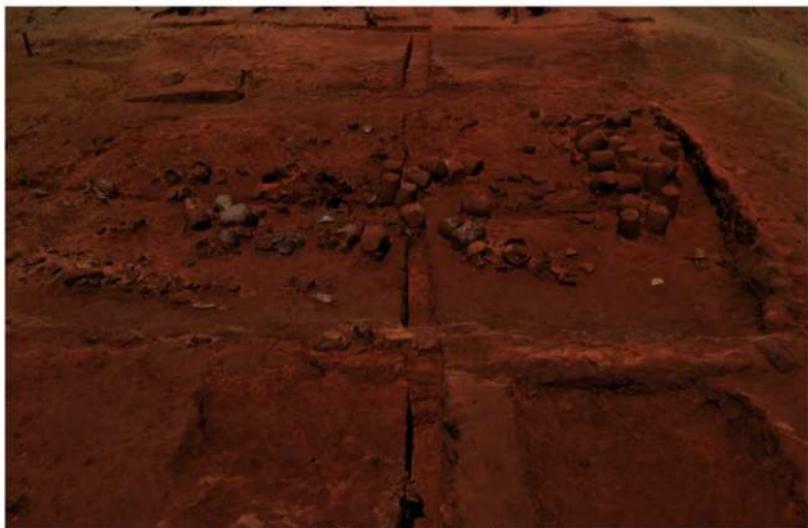
3室奥壁裏込め検出状況（西より）



4室検出状況（北西より）



4室土層観察状況（北西より）



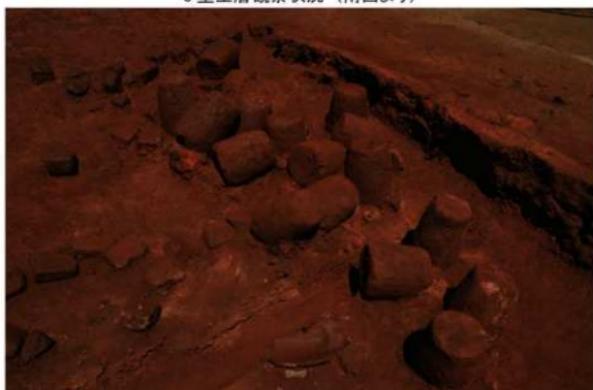
5室遺物出土状況1（西より）



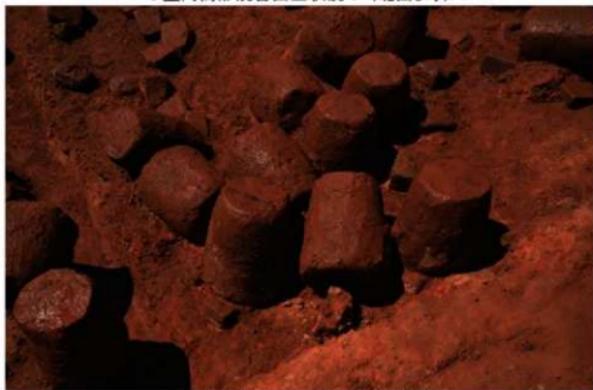
5室遺物出土状況2（北より）



5室土層観察状況（南西より）



5室円筒形焼台出土状況1（北西より）



5室円筒形焼台出土状況2（南より）



6室1面遺物出土状況1（西より）



6室1面遺物出土状況2（北より）



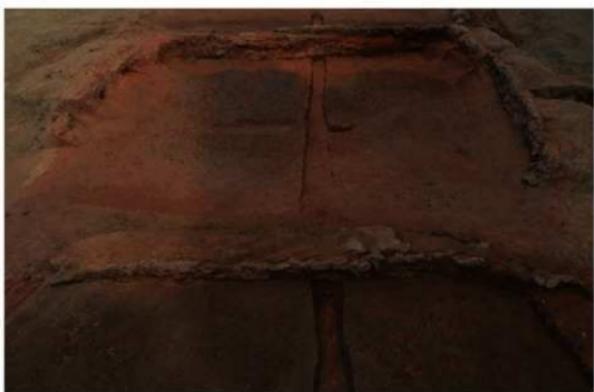
6室1面クサビ形ハマ出土状況1（南より）



6室1面クサビ形ハマ出土状況2（西より）



6室土層観察状況（南西より）



6室2面検出状況（西より）



6室2面奥壁検出状況（北西より）



6室2面側壁検出状況（北より）



7室1面遺物出土状況1（西より）



7室1面遺物出土状況2（北より）



7室土層観察状況（南西より）



7室2面検出状況（西より）



8室1段階遺物出土状況1（西より）



8室1段階遺物出土状況2（北より）



8室長軸トレンチ土層観察状況1（西より）



8室長軸トレンチ土層観察状況2（西より）



8室試掘第8トレンチ土層観察状況1（西より）



8室1段階小型窯出土状況（西より）



8室2段階検出状況（西より）



9室1段階検出状況1（西より）



9室1段階側壁・遺物出土状況（北より）



9室1段階小型壺出土状況（西より）



9室1段階焚口立石検出状況1（西より）



9室1段階焚口立石検出状況2（南より）



9室2段階遺物出土状況（西より）



9室2段階クサビ形ハマ出土状況（南より）



9室3段階検出状況（西より）



10室1段階検出状況（西より）



10室2段階1面検出状況（西より）



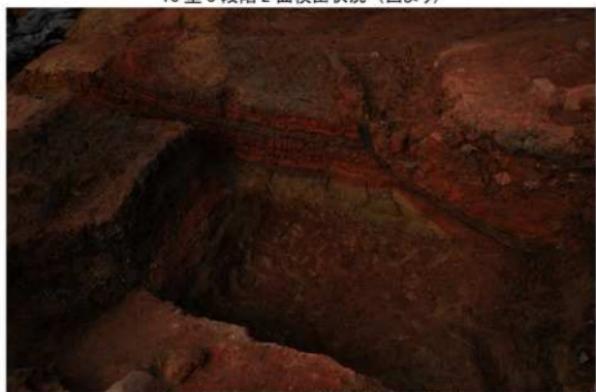
10室2段階2面検出状況（西より）



10室3段階1面検出状況（西より）



10室3段階2面検出状況（西より）



10室試掘トレンチ土層観察状況（西より）



11室 Aトレンチ土層観察状況（西より）



11室 Aトレンチ土層観察状況（西より）



11室左側壁検出状況（西より）



12室左側壁検出状況（東より）



調査区南壁 1・10 室付近（北より）



調査区南壁 2・11 室付近（北より）



調査区南壁 3・12 室付近（北より）



SJ02 検出状況（東より）



SJ02 完掘状況（東より）



SJ07 完掘状況（北より）



SJ08 完掘状況（北西より）



SD06 完掘状況（南西より）



SD06 土層観察状況（南東より）



SP04 土層観察状況（南西より）



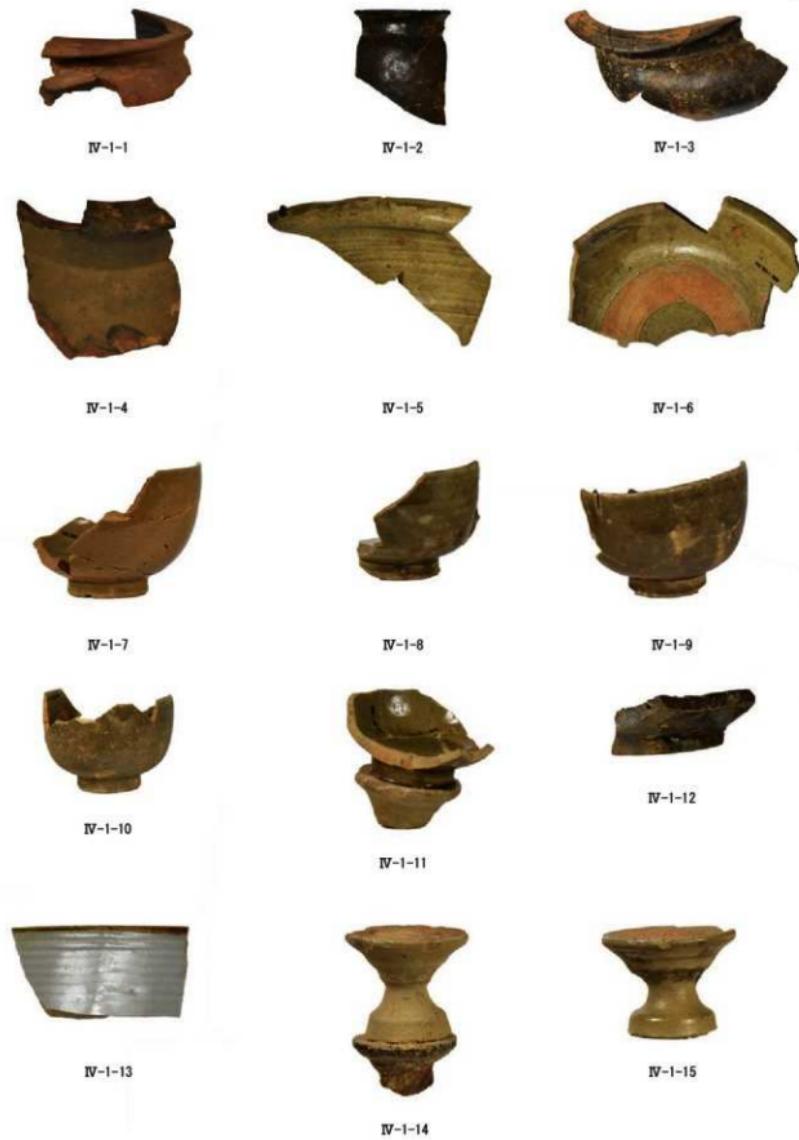
包含層 B 地点西壁土層観察状況（南東より）



包含層 C 地点第1トレンチ
北壁土層観察状況（西より）



包含層 C 地点第2トレンチ
南壁土層観察状況（東より）



1室出土遗物 1



IV-1-16



IV-1-17



IV-1-18



IV-1-19



IV-1-20



IV-2-1



IV-2-2



IV-2-3



IV-2-4



IV-2-5



IV-2-6



IV-2-7



IV-2-8



IV-2-9



IV-2-10

1室出土遗物 2



IV-2-11



IV-2-12



IV-2-13



IV-3-1



IV-3-2



IV-3-3



IV-3-4



IV-3-5



IV-3-6



IV-3-7



IV-3-8



IV-4-1

1室、2室出土遺物



IV-4-2



IV-4-3



IV-4-4



IV-4-5



IV-5-1



IV-5-2



IV-5-3



IV-5-4



IV-5-5



IV-5-6



IV-5-7



IV-5-8

2 室出土遺物 1



IV-5-9



IV-5-10



IV-5-11



IV-5-12



IV-5-13



IV-5-14



IV-5-15



IV-5-16



IV-5-17



IV-5-18



IV-5-19



IV-6-1



IV-6-2



IV-6-3



IV-6-4

2 室出土遺物 2



IV-6-5



IV-6-6



IV-6-7



IV-6-8



IV-6-9



IV-6-10



IV-6-11



IV-6-12



IV-7-1



IV-7-2



IV-7-4



IV-7-5



IV-7-3

2 室出土遺物 3



2室出土遺物 4



IV-8-4



IV-8-5



IV-8-6



IV-8-7



IV-8-8



IV-8-9



IV-8-10



IV-8-11



IV-8-12



IV-8-13



IV-8-14



IV-8-15



IV-8-16



IV-8-17



IV-8-18

2 室出土遺物 5



2室、3室出土遺物



IV-9-8



IV-10-1



IV-10-2



IV-10-3



IV-10-4



IV-10-5



IV-10-6



IV-10-7



IV-10-8



IV-10-9



IV-10-10



IV-11-1



IV-11-2



IV-11-3



IV-11-4

3 室出土遺物 1



3室出土遺物 2



3室、4室出土遺物



IV-14-4



IV-14-5



IV-14-6



IV-15-1



IV-14-7



IV-14-8



IV-15-2



IV-15-3



IV-15-4



IV-15-5



IV-15-6



IV-15-7



IV-15-8



IV-15-9

4室、5室出土遺物



IV-15-10



IV-15-11



IV-15-12



IV-15-13



IV-16-1



IV-16-2



IV-16-3



IV-16-4



IV-16-5



IV-16-6



IV-16-7



IV-16-8

5 室出土遗物 1



IV-16-9



IV-16-10



IV-16-11



IV-16-12



IV-17-1



IV-17-2



IV-17-3



IV-17-4



IV-17-5



IV-17-6



IV-17-7



IV-17-8



IV-17-9



IV-18-1

5 室出土遺物 2



5室、6室出土遺物



IV-19-9



IV-19-10



IV-19-11



IV-20-1



IV-20-2



IV-20-3



IV-20-4



IV-20-5



IV-20-6



IV-20-7



IV-20-8



IV-20-9



IV-21-1



IV-21-2



IV-21-3



IV-21-4



IV-21-5



IV-21-6



IV-21-7



IV-21-8



IV-21-9



IV-21-10



IV-21-11



IV-21-12



6室、7室出土遺物



IV-23-2



IV-23-3



IV-23-4



IV-23-5



IV-24-1



IV-24-2



IV-24-3



IV-24-4



IV-24-5



IV-24-6



IV-24-7



IV-24-8



IV-24-9

7室、8室出土遺物



8室、9室出土遺物



IV-25-11



IV-25-12



IV-25-13



IV-26-1



IV-26-2



IV-26-3



IV-26-4



IV-26-5



IV-26-6



IV-27-1



IV-27-2



IV-27-3



IV-27-4



9室、10室、11室、12室、SJ02出土遺物



IV-29-7



IV-30-1



IV-30-2



IV-30-3



IV-30-4



IV-30-5



IV-30-6



IV-31-1

SJ02、SJ08、SD03 出土遺物



IV-31-2



IV-31-3



IV-32-1



IV-32-2



IV-32-3



IV-32-4



IV-32-5

SD03、包含层 A 出土遗物



IV-32-6



IV-32-7



IV-32-8



IV-32-9



IV-33-1



IV-33-2



IV-33-3



IV-33-4



IV-33-5

包含層 A 出土遺物 1



IV-33-6



IV-33-7



IV-33-8



IV-33-9



IV-33-10



IV-33-11



IV-34-1



IV-34-2



IV-34-3



IV-34-4



IV-34-5



IV-34-6

包含層 A 出土遺物 2



IV-34-7



IV-34-8



IV-34-9



IV-35-1



IV-35-2



IV-35-3



IV-35-4



IV-35-5



IV-35-6



IV-35-7



IV-35-8



IV-35-9



IV-35-10



IV-35-11

包含層 A 出土遺物 3



IV-35-12



IV-35-13



IV-35-14



IV-35-15



IV-35-16



IV-36-1



IV-36-2



IV-36-3



IV-36-4



IV-36-5



IV-37-1



IV-37-2



IV-37-3



IV-37-4



IV-37-5

包含層 A 出土遺物 4



IV-37-6



IV-37-7



IV-38-1



IV-38-3



IV-38-4



IV-38-5



IV-38-2



IV-38-6



IV-38-7



IV-39-1



IV-39-2

包含層 A、包含層 B 出土遺物



IV-39-3



IV-39-4



IV-39-5



IV-39-6



IV-40-1



IV-40-2

包含層 B 出土遺物 1



IV-40-3



IV-40-4



IV-40-5



IV-40-6



IV-40-7



IV-40-8



IV-40-9



IV-41-1



IV-41-2

包含層 B 出土遺物 2



IV-41-3



IV-41-4



IV-41-5



IV-41-6



IV-41-7



IV-41-8



IV-41-9



IV-41-10



IV-41-11



IV-41-12



IV-41-13



IV-42-1

包含層 B 出土遺物 3



IV-42-2



IV-42-3



IV-42-4



IV-42-5



IV-42-6



IV-42-7



IV-42-8



IV-42-9



IV-42-10



IV-42-11



IV-42-12



IV-42-13

包含層 B 出土遺物 4



IV-42-14



IV-42-15



IV-43-1



IV-43-2



IV-43-3



IV-43-4



IV-43-5



IV-44-1



IV-44-2



IV-44-3



IV-44-4

包含層 B 出土遺物 5



IV-44-5



IV-45-1



IV-45-2



IV-45-3



IV-45-4



IV-45-5



IV-45-6



IV-45-7



IV-45-8



IV-45-9



IV-45-10



IV-45-11



IV-45-12

包含層 B 出土遺物 6



IV-45-13



IV-46-1



IV-46-2



IV-46-3



IV-46-4



IV-46-5



IV-46-6



IV-46-7



IV-46-8



IV-47-1



IV-47-2



IV-47-3



IV-47-4



IV-47-5



IV-47-6



IV-47-7



IV-47-8



IV-47-9

包含層 B 出土遺物 7



IV-47-10



IV-48-1



IV-48-2



IV-48-3



IV-48-4



IV-48-5



IV-48-6



IV-48-7



IV-48-8

包含層 B、包含層 C 出土遺物



IV-48-9



IV-49-1



IV-49-2



IV-49-3



IV-49-4



IV-49-5

包含層 C 出土遺物 1



IV-50-1



IV-50-2



IV-50-3



IV-50-4



IV-51-1



IV-51-2

包含層 C 出土遺物 2



IV-51-3



IV-51-4



IV-51-5



IV-51-6



IV-51-7



IV-51-8



IV-51-9



IV-51-10



IV-51-11



IV-51-12

包含層 C 出土遺物 3



IV-52-1



IV-52-2



IV-52-3



IV-52-4



IV-53-1



IV-52-5



IV-53-2



IV-53-3

包含層 C、包含層 D 出土遺物



IV-53-4



IV-53-5



IV-53-6



IV-53-7



IV-54-1



IV-54-2



IV-54-3



IV-54-4



IV-54-5



IV-54-6



IV-54-7



IV-54-8



IV-54-9



IV-54-10



IV-54-11

包含層 D 出土遺物 1



IV-55-1



IV-55-2



IV-55-3



IV-55-4



IV-55-5



IV-55-6



IV-56-1



IV-56-2

包含層 D、その他出土遺物



IV-56-3



IV-56-4



IV-56-5



IV-56-6

その他出土遺物 1



IV-57-1



IV-57-2



IV-57-3



IV-57-4



IV-57-5



IV-57-6



IV-57-7

その他出土遺物 2

報告書抄録

ふりがな	ふるかめやしもかまあと							
書名	古瓶屋下窯跡							
副書名	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書							
巻次	20							
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第230集							
編著者名	小松 譲							
編集機関	佐賀県							
所在地	〒840-8570 佐賀市城内1丁目1番59号 TEL(0952)25-7232							
発行年月日	西暦2022年2月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ふるかめやしもかまあと 古瓶屋下窯跡	伊万里市 脇田町 874,883-1他	412058	0361	33° 29' 07	129° 89' 90	平成30年5月 30日～平成30 年12月21日	1,140 m ²	西九州自 動車道建 設事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
古瓶屋下窯跡	窯跡	近世	階段状連房式登窯	陶器（甕、擂鉢、瓶 三耳壺ほか） 灰釉陶器（碗、高台付皿 ・高台付鉢） 建築部材（瓦、土管） 窯道具（トチン、ハマ チャツ、円筒形焼台、胎 土目）				窯跡は規模を縮小 しており、その変 遷がわかる。 陶器の甕、擂鉢を 多量に焼成してお り、特に中甕、小 甕や高台付擂鉢な どを生産していた。

あとがき

西九州自動車道文化財発掘調査事業は伊万里市内の調査に入った。伊万里市内の本調査としては打越遺跡につぐ2遺跡目である。本窯跡は、平成26年の脇田韓人墓の確認調査からはじまり、窯跡周辺の水田部の用地買収の進捗にあわせて、平成27年度から平成29年度に確認調査を実施した。窯跡のある丘陵斜面には多量の甕や擂鉢、胎土目が散乱しており、丘陵下の水田部からは工房跡が発見されるのではとヒヤヒヤしながら確認調査に着手したのを思い出す。

本調査は調査支援委託業務で実施するため、不慣れな設計書作成や入札事務に戸惑った。遺跡や作業員の管理は委託業者によるため安心感があったものの、土量管理や契約変更事務に苦労した。この委託業務のなかに、遺物水洗・注記・接合などの資料整理を入れていたため、発掘調査終了後も伊万里市内に通った。その後、遺物実測や遺物写真撮影、遺構・遺物図版作成などは委託で実施した。遺物は大形で、多量にあるため、実測図点検や遺物原稿執筆は収蔵庫でおこない、記録類の整理やその他原稿執筆などの報告書作成は文化財調査研究資料室で行った。

本事業は一時中断しながらも長崎県境までの路線内の発掘調査は継続する。成果があがることを期待する。(編者)

佐賀県文化財調査報告書第230集

古瓶屋下窯跡

—西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(20)—

令和4(2022)年2月17日

発行 佐賀県

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

印刷 大同印刷株式会社

〒849-0902 佐賀県佐賀市久保泉町大字上和泉1848-20

